



店貨百デツリフルセ敦倫

二氏共快く面談、柳田氏は近所のレストランで晝食を馳走してくれた。

以上六ヶ所餘りの用事を済ませ、シチイに居ること六時間、ゆつくり斯界の人々の意見を聞いて益するところ少くなかつた。その感想は、後に總括していふ。吉村氏に送られ、稍々西部の百貨店及び小賣商街に至つてその邊を歩き、また地下鐵に戻つて折柄ラッシュ・アワーの中をあちこち四五十分間乗廻し、乗客の服装や動作などを眺めたが、殊に女性の事務員・店員のきびきびした態度が目についた。次に再び商店街へ来て、セルフリツチ百貨店々内に二時間半を費し、閉店間際まで頑張つてその營業ぶりや裝飾法を觀察した。

倫敦も今夜限りと思へば、さすがに名残惜しく、二階のついたバスにも乗つてみた。二階は客も少く、そこから地圖をたよりにのんびり市中を眺めつつ、約一時間縦横に走つたが、走つたとは名ばかりで、股賑街ではタクシーや普通型のバスが混雑して、屢々停車と徐行を餘儀なくされる。その速度は、地下鐵の七八分の一、タクシーの四分一位に過ぎず、乗換も何度となく生じたりして、一時間かかつて四五哩しか

動けななかつたやうだ。尤もさういふ暢氣さは見物には却て都合よく、過日の大型バスによる團體見物よりも遙かに倫敦の空氣にぢかに觸れることができた。二階付きバスの二階は、詰めれば七八人も乗れる位だが、夫婦連れ・家族連れ・遠距離へ行く者しか乗らず、俺は乗換のため合計四臺の別の車に乗つたが、いつも空いてゐた。俺を土地不案内の旅行者と見て、乗合せの人々は乗換場所や街の名や著名の建物などを親切に教へてくれた。丁度夕刊の賣られる頃で、車中、五六人の人相のよからぬ労働者風な男達がこれを買つて讀みながら、ジャパンとかチャイナとか切りに論じてゐたのは、勿論日支問題に拘はるものであつたらうが、幸か不幸か俺には議論の内容がわからぬので平然としてゐた。彼等も別段俺の日本人であることを意識して大呼するといふわけでもなかつたやうだ。

夜七時半、ホテルの横でバスを降りて歸宿。倫敦は街路の不整から交通機關の煩雜さ實に極度なるものがあり、地下鐵は日本の三倍位の深部に敷設されてゐるので、上り下りにかの努力が要り、バスも乗換が頻繁でやりきれない。この

點、世界一不便な都會だと思ふ。

英國及び倫敦の印象

倫敦滞在中、自分で見たことと人から聞いたことを併せ、次に結論めいたことを記しておく。

英國及び英國人の富力は、何といつても絶大である。それが、保守・堅實の國民性によつて裏打されてゐる點は大いに頼もしい。眼前の利害に素早く對處するといふ俊敏さはないが、計劃は遠大であり、またやり出したら飽迄もやり遂げるといふ粘り強さを有つてゐる。彼等の富力は植民地の搾取に基くものだが、植民地獲得のための過去の努力は認めなければならぬ。商業・貿易業・金融業・倉庫業・船舶航海業等すべてに亘る國際的信用も、永い間の着實な傳統の然らしめたもので、決して偶然に成つたものではない。またいづれの仕事を問はず、業務に練達した人材の充満してゐることも特筆に値する。一業の經營に熟し切つた手腕家の多い點では、さすがビジネス第一の米國人でさへ一步を譲ららしい。この前の歐洲大戰の頃には、世界中の金が米國に集り、歐洲各國

共外債は紐育で募集する外手段はなかつた。當時の數年間、米人は世界の金融市場はもはや倫敦より紐育に移つたと豪語し、米國經濟界のバロメーターたるスチール株(百弗拂込)は二百六十弗まで暴騰した。これ即ち一九二八・二九年のフーヴァ大統領時代の好景氣で、一九二九年の春には、米國の繁榮は少くもここ十數年間持續し得られるものといはれたが、何たる皮肉か、同年秋から凋落の一路を辿つて踏み止まることを知らず、金融市場の中心は再び倫敦へ舞戻つた。尤もフーヴァ景氣の絶頂と雖も紐育での爲替尻決済は四五割程度を占めるに過ぎず、歐洲大戰前の英國がその八九割までも占めてゐたのに比較すればなほ完全な制覇とはなしたがたく、倫敦はやはり鬱然たる潜勢力を有つてゐたのであるから、これが奪還も大體自然の成行きといへるかもしれない。今日では倫敦七割・紐育二割五分、残りの五分が各國に分割されてゐるといふ實狀で、以ていかに英國がここ四五五年間に著しく富力を恢復したかが知れるであらう。將來のことはわからぬが、現在の英國の國力は相變らず老大國の面目を十分に保持し得てゐるのである。

英人の常識の發達は誰しもいふ通りである。言行に無駄がなく、萬事簡にして要を得てゐる。個人主義とはいつても、それが十分に發達してゐるせむか、却つて個人々々としては好印象を受ける。恰も日支事變がからみ、新聞の記事などにアチられて、一般に日本人に對して惡氣流の漂つてゐる最中であつたが、個人的に我々日本人に惡感情を露はにするといふやうな事態は見られなかつた。

英國は何といつても既に盛榮期を過ぎた國であり、いつまで現狀維持ができるかわからぬ國ではあるが、しかし一面、この國が有つ傳統的力量をあまりに過小に見くびることもまた謬りであらう。

日本からは綿布・人絹・生絲等が、重い海關税をくぐり、引續いて英國へ入つて来る。羽二重も相當入るが、これは一旦輸入後加工して南米や亞弗利加へ輸出する。毛織物も中以下の安物が一時大分輸入されたが、これも再輸出されるのだといふ。しかし、總じて日本の英國への輸出は前途見込薄である。

日支事變のために日本の纖維工業關係者は打撃を受けてゐる。

るが、英國の同種業者は、支那への輸出こそ減少したが、日本の輸出が船腹の減少その他の原因で減殺されてゐる際に乘じ、東洋を初め各地への積極的進出を企て、マンチエスター方面へもここ一二ヶ月來めつきり註文が輻輳して來たといふ。

倫敦東部の銀行・會社・貿易商・大問屋の櫛比する所謂ンチイは有名であるが、それと共に、テムズ河下流の所謂倫敦埠頭の景況もまた見逃してはならない。兩岸の造船所・ドック・倉庫・荷揚場、そして一二千噸から一二萬噸に至る船舶の密集は、他の土地ではあり得ない壯觀である。この倉庫には世界中の殆どあらゆる商品が詰まつてゐる。輸入品もあれば輸出品もあり、思惑品もあれば保管委託品もある。利息も倉敷料も安く、ここに商品を置いて「倫敦渡し」の商契約を結んだ方が便利なのである。倫敦が金融市場の中心なるに應じて、世界的商品の相場の標準も、また倫敦で立てられる。埠頭の商品群を見ると、成程倫敦は商品においても世界的中心地だと頷かせられる。

倫敦にある日本の銀行は、日銀監督局を初め、正金・朝鮮・臺灣・三井・三菱・住友の六大銀行各支店がその重なるも

ので、商事會社としては、三井物産・三菱商事・大倉商事・伊藤忠商店等約二十軒がある。これらの銀行・會社では、邦人と英人を併せ備ひ、例へば三井物産では邦人二十三名に英人百名、正金では邦人十五六名に英人七八十名といふやうなわけである。

倫敦の銀行は、平日、午前九時から正午まで、正午から一時間休んで午後一時から三時まで(三時半までのものもある)、土曜半日、會社・商店は普通午前九時から午後五時まで營業してゐる。

事務員・労働者の給料は、日本の三倍乃至五倍であるが、生活費もまたこれに準じてゐるから名目だけに驚くわけにいかない。これを邦貨に換算してみると、

- 普通のサラリーマン(一ヶ月)二百圓乃至五百圓
- 女會社員(一週六日間)二十圓乃至六十圓
- タイピスト(一週六日間)四十圓乃至六十圓
- 給仕・女中(一週六日間)十圓乃至十五圓
- 普通職工(一週六日間)二十圓乃至四十圓
- 熟練職工(一週六日間)五十圓乃至八十圓

労働者臨時雇(一週六日間)十八圓乃至二十五圓

女店員(一週六日間)十五圓乃至二十五圓

理髮料(一回)二圓八十錢乃至五圓

右の中、給仕・女中の週給は食事主人持である。また給仕・女中は、朝から夜八時までの契約で、八時以後の行動は自由である。

日本に較べては歐洲諸國の物價・給料・賃銀はいづれも高きにあるが、これを最も高きものから順々に挙げると、和蘭・瑞典・諾威・丁抹・獨逸・英吉利・白耳義・佛蘭西といふことになる。英と獨は著しく昂騰してゐないが、佛・白・瑞西は、フラン下落の影響から、昨年の今日對比三割方急騰してゐる。

歐洲諸國の百貨店は、大體日本のそれに較べて大いに見劣りがする。却て、日本の百貨店がいかによく發達してゐるかが納得できる。出發の前、西歐の百貨店はどういふ點についても参考にはならぬであらうと聞かされてゐたが、果してその通りである。倫敦・巴里・伯林を通じて、それらの地の百貨店は店舗の廣さでは相當のものがあるが、なほ三越本店だ

けの建坪を有たず、その上、商品が量的に見て非常に少く、賣場の坪數對商品の分量の比率は日本のその半分以下であらうと思ふ。賣上もまたこれに従つてゐるに相違ない。

倫敦のセルフリッツは大衆向中等品を扱ふ百貨店だが、客に對する設備(例へば日本の百貨店の屋上遊戯場の如き)などは何にもなく、商賣一方である。高級品を扱ふ百貨店などは一層サーヴィスを缺いてゐる。これは歐洲において専門店・普通小賣店が特殊に發達して實力を發揮し、依然百貨店の専横を許容しないせゐである。専門店・普通小賣店が百貨店のために打撃を受けるといふやうなことが未だ著しくなく、兩者並行して地盤を保つてゐるのである。

ネオンサインの廣告は、巴里が第一だが、次はコペンハーゲンが一部分ながら頗る發達してゐた。

旅中多忙で、我ながら纏りの悪いことばかり書いたが、とにかくこれで倫敦滞在中の日記を終る。若い頃いまま少し英語を勉強してゐたら、もつと見聞も廣まつたであらうにとつくづく後悔された。片言まじりでは一人歩きさへ難澁で、最後の一日などよく間違ひなくあちこち廻れたものだと思つた。

大西洋航海篇

〔第四十二信〕アキタニヤ號船 室にて認む

大西洋航海日誌

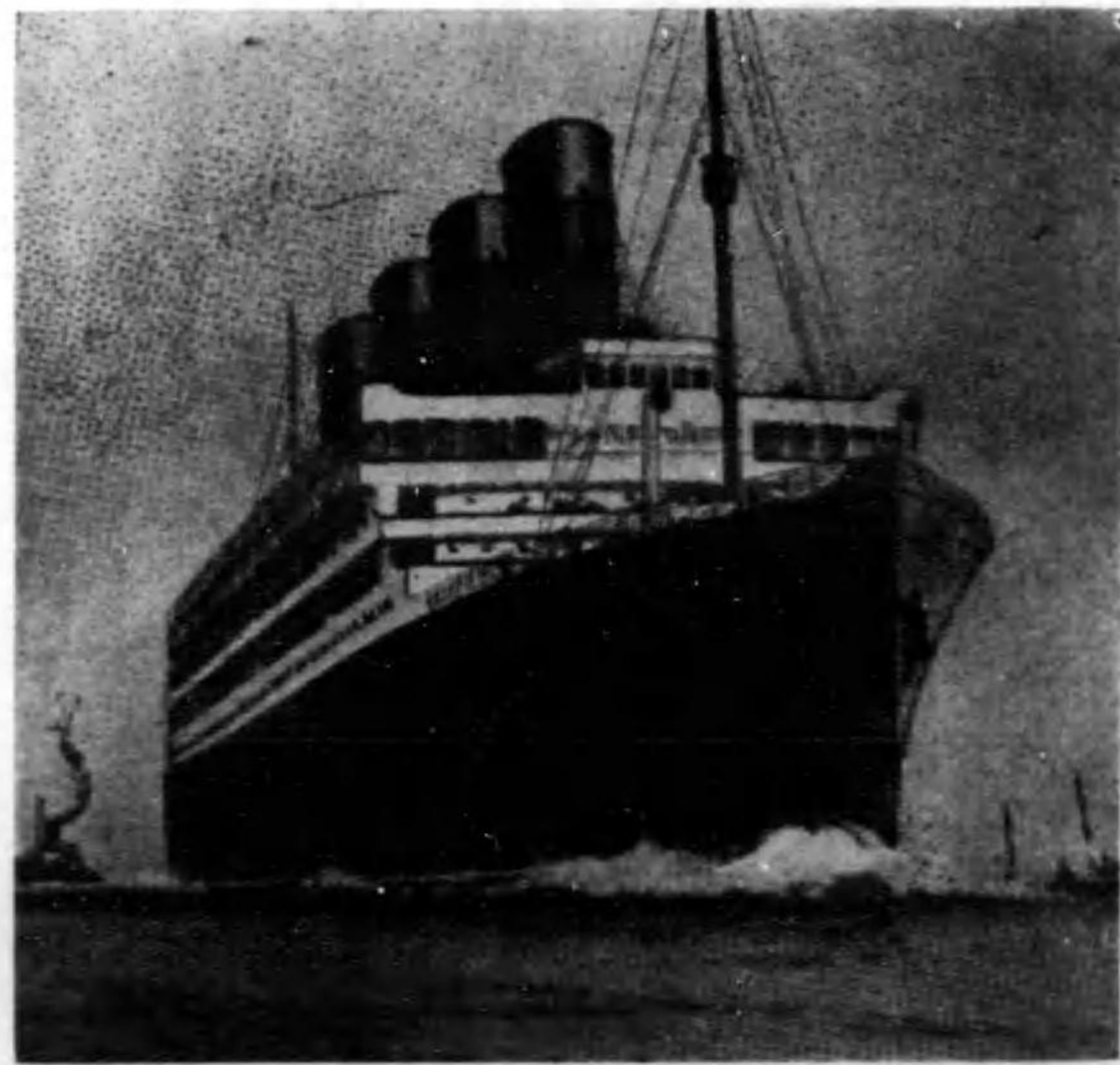
九月八日。晴。

あわただしい英國七日間の見物も終り、この日愈々紐育に向つて航海の途に上ることになつた。倫敦滞在中は、北部イングランドへの二日間の無理な旅もあり、知人や客先への通信も怠りがちであつたので、今朝はまだ暗いうちから起き出して繪葉書二十餘枚を認めた。

同行の西山老は、井上父子と共にこれから更に獨佛の紙工業・鐵鋼重工業を視察するといひ、三氏とはお互ひ長旅の無事を祈りつつ別れを告げ合つた。

九時半、ホテル・ラツセルを出てワートルロー驛に至る。

これは、ナポレオンの敗戦した白耳義の古戦場に因んで名づけた驛で、ヴィクトリヤ驛と共に米國行き旅客・貨物の始發驛となつてゐる。



大西洋上のアキタニヤ號

乗車して、西南サザンブトンに向ふ。雜沓する乗客の大部分が、我々と同じくアキタニヤ號によつて米國に渡ららし

昭和十二年九月八日より
九月十四日まで

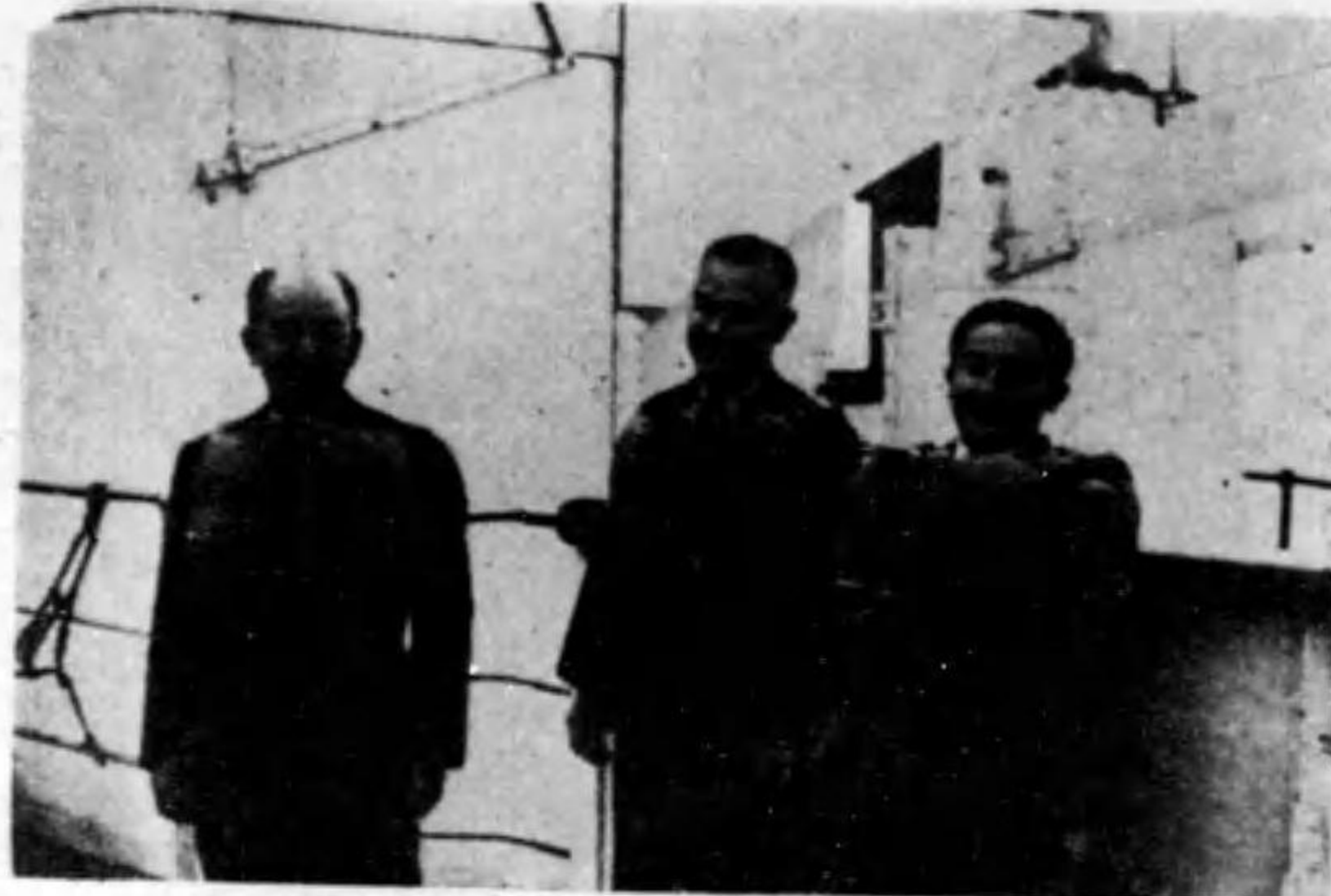
く、皆相當量の荷物を携へ、物々しい旅装を整へてゐる。見送り人も多數あつたが、しかしこれもし日本だつたら、この十倍にも達してゐるであらう。我々一行のためにも、日銀・正金・三井・三菱・住友等の諸銀行及び三菱商事・三井物産その他の商事會社の支配人や社員諸氏三十人ばかりが出勤の途次見送つてくれた。數日前大和屋ホテルで宴會を催してくれた住友銀行倫敦支店長前氏もわざわざ俺のために見送りに來られたが、これは時間の打合せを謬つて逢へず、後に船中へ届いたサザンブトン發の電報でそれとわかつた。

列車はポーツマス灣のカーヴをめぐる。同軍港は島の蔭で見えない。正午頃サザンブトンへ着く。旅行券と船の切符を示し、入國の時預けておいた寫眞機や保證金を受取る。

ついで、アキタニヤ號に乗込む。これは英國キューナード汽船會社の持船で、大正四五年の頃即ち歐洲大戰の最中に建造されたもの、四萬五六千の噸數といひ、船内の諸設備といひ、當時としては世界第一の豪華船と稱されたが、既に二十年以上使つても、その堅牢さにはさすがに英國式のところがあり、機關その他に修繕を加へる毎に次第に速力を増して

るといふ不思議な船である。大戰中一時停止された旅客船の建造は、平和恢復後急激に反動化して豪華船競争時代を現出し、今や七八萬噸級のものまででき上るといふ状態では、アキタニヤ號もはや舊式な一老朽船に相違なく、新型最優秀船の大西洋乗切最高レコードは四日間以内といはれ、アキタニヤ號のそれに比して二日間餘も早いことになつてゐるが、しかしながら、アキタニヤ號より五年も十年も後に建造された英國著名の船でさへ既に廢船になつたものもある中に、この船のみは四半世紀に近い間莫大な利益を汽船會社に致し、なほ且つ時速二十五ノットを以て大西洋の荒波を蹴立ててゐる點、生命なき船と雖もまた壯烈の感なしとせぬのである。

俺の居室はF六十號といふ二等船室で、ここに今氏と同居、ところが今氏は俺は、寝起きの時間がまるで逆で歩調が合はぬので、後に會の岡本理事と同居することにした。室は面積五平方米、高さ三米位、そこへ上下二人前のベッドと、洗面所や鏡臺あり、その狭苦しさは話にならない。往路神戸からゼノアまで乗つた獨逸船シャルンホルスト號は、ヒットラーが衰退しつゝあつた獨逸海運業復興のために、特に近代



科學の粹を蒐めて建造した豪華船だけあつて、一等室は風呂を加へ三十五平方米、二等室でさへ十五平方米の廣さはあり、アキタニヤ號の避難演習(中央著者・向つて左今は亡き佐多博士)

り、アキタニヤ號の五平方米の二等室とは比較にならない。そこで一行中には、一等へ變更の申込みをする者もできたが、俺は二等で我慢することにした。二等は賄付船賃十三磅餘(邦貨二百三十圓)だが、一等はその二倍以上の三十磅餘(邦貨五百三十圓)、一等室でもベッドが上下に重ならず並んでゐるといふのみ

で、廣さは八平方米位にしかすぎないので、結局値打ちがないからである。

十日ばかり前淺間丸の上海沖坐礁の噂あり、それが確實で且つ損害も甚大だとの報によつて、中には船旅を氣に病む人もあるが、船に乗つたら船まかせ、今更くよく考へてもはじまらぬではないかと俺は慰め役を買つてゐる。

午後一時半出帆。デッキの上からサザンブトンの全景を眺める。三四十平方哩の廣さの港内、まるで湖水のやうだ。三方平原と小丘に圍まれ、港は南方へ馬蹄形に延びてゐる。岸壁は一哩も續き、そこにはクレーンが數多置かれ、特に天に沖する巨大なのが一臺見える。碇船船には二三萬噸から三四萬噸のもの少からず、毎日ここから米國通ひの船が出てゆくといふ。この邊に紡績工場があると見え、倉庫の前に數十俵の米棉が積まれてゐた。西方には樹木鬱蒼たる丘陵連り、風景としても賞するに足りる。

Cデッキの大食堂で中食。六七百人の客集り、なかなか盛んなもの。食後Aデッキに出て、船の寫眞技師に記念の寫眞をとつて貰ふ。

夕四時、Aデッキで避難演習。金モールをつけた高級船員の説明あり、浮袋を帯びて指定の場所へ走る。これをやりながら、俺はふと三十年前のタイタニック沈没の悲惨事などを想ひ出した。「慰め役」もあてにはならない。

ポーツマス軍港の外海から、南へ南へと進み、夜七時半、佛蘭西ノルマンデー半島の尖端シェルブルに寄港。ここは巴里の西北百数十哩の地帯である。この港でも乗客多く、中に巴里博覧會見物の歸りらしい米國の富豪もゐて、自家用自動車數臺がクレインで軽々と上甲板へ運び込まれた。

八時半晚餐。十時半ベッドにもぐり込む。英國での一週間は、見物を慾張つたためあまりにも疲れた。この夜眠つてからも、疲労感の強い夢ばかり見た。甲板は涼しいが、船室は暑く寝苦しい。

九月九日。曇。

一時間遅らせた時計で五時半に起きる。波は稍と高いが、さすがは巨船だけにさほど動揺せず、船に弱い人も大體平氣である。

午前中、巴里や倫敦で世話になつた人々や、在歐の諸氏へ紹介の勞を執つてくれた故國の人々へ禮狀を書く。更に店の取引先き四十軒ばかりへも歐洲だよりを認めた。すべてライティング・ルームに備へつけのアクタニヤ號の繪葉書を使つたが、俺のやうな流儀の者が他にもあり、繪葉書遂に缺乏を來した。

船客中の日本人、我々の外にも十四五名をり、合計四十人位になるので、サーヴィスのつもりか、晝は紐川うどんと鶏肉の煮込み、夜は米飯と牛肉のすき焼きが出た。外に、福神漬・茄子の味噌漬・日本茶なども副へてあつた。米飯は、何しろ焚き方が下手で感心できない。外國へ來ては、やはりパンとバターがうまく、腹工合にもいいやうだ。

午前・午後二度、社交室で映畫の會あり、晚餐には總船客歓迎の宴が開かれた。乗船第一夜は船の方でも客の方でも荷物の整理などに多忙を極めるので、落付いた二晩目にこれをする習慣になつてゐる。我々は、大人にかぶれるやうに作つた子供の玩具の帽子をかぶり、太鼓や鉦や笛や雑多な樂器で囃し立てながら食卓に就く。その帽子は、メイド・イン・ジ

ヤパンのもので、南洋の黒人・アメリカインディアン・トルコ人・ベルシャ人・支那人等々何十何百の種類があり、これをあたまにのせただけで我々は自然に童心に還り無邪氣にふざけ合ふことができる。かういふ気分は一般の日本人には乏しく、最初はちよつとてれ臭い感じもないではないが、社交に慣れた西洋人にとつては、これがあたり前の愉快であるらしい。我々もいざその空氣の中へ入つてしまへば彼等同様に楽しいのであるから、日本の宴會などに應用してもいいことかもしれない。みんな朗らかに笑ひさざめき、酒類の賣行きも大分盛んだつたやうだ。

食事のあと、サロンで競馬をやつた。長さ半メートル、高さ三分の一メートル位の木馬に盛装した騎手人形が乗り、白・黒・赤・緑・黄の五頭、これが賽によつて筋目を進み、早く決勝點へ入れればいいのだが、行き過ぎてもだめだからなかなか勝負がもつれる。一口一志の馬券を賣り、マネージャーが身振り口上をかしく馬券の賣上高を報告して後競技にかかると。總賣上の一割を海員救濟會へ寄附し、九割は馬に賭けた人數に配分される。一志が四五志になり、穴が七八志になる。

五番の勝負に一時間半ばかりかかり、俺も二度加つたが、二度共負けた。

十時半、ベッドに就く。

九月十日。曇、小雨。

朝來の曇りやがて小雨を呼び、風を加へて甲板の上は稍と寒い位だ。

日中十六七度、往路の印度洋が毎日三十度以上だつたことが思ひ出される。

午前中船室にあり、別に記すこともない。午餐にライスカレー出る。

午後天氣幾分恢復。昨日の夕方右手一哩程のところを我々の船と同じ船路を同じ方角へ三本マストの巨船が快走を續けてゐるのを見たが、今日聞けば、それは佛蘭西の七萬噸汽船ノルマンデー號であつた。シェルブルを我々のアクタニヤ號より五時間後に出帆しながら、既に追越し、紐育へは二日間も早く到着する筈だといふ。彼は三十二ノット、我は二十五ノットではこの差も止むことを得ない。人生萬事優勝

劣敗、單に船足の話には止まらぬことを痛感する。

サロンへ行くと、廊下に一昨日撮つた寫眞と昨夜の歓迎會や競馬最中のプロマイドがいろいろ並んでゐる。一枚一志六片の由、一枚づつ焼増しを註文する。

この夜の食事もまたすき焼。恐しく赤い牛肉でそれを二寸に一寸位の長方形にきちんと切つてあるのは、何となく勝手が違つて味覺的でないが、食つてみれば柔くてうまい。葱・馬鈴薯・豆のやし・青菜・竹の子なども、よくこれだけ揃へたものだと思ふ。卓上にアルコール・ランプがあり、そこへ鍋をかけて煮るのである。米はラングーン産の上等だが蒸し方がよくないのが腰抜けになつてゐる。米の飯のまづい代りに、今夜は日本酒櫻正宗が一合餘り飲めた。歐洲では伯林・バリ・倫敦と羅馬の日本大使館とで、都合四回それぞれ一合づつ日本酒にありつけたが、今夜は五回目であり、少量ながら心の充ち足るを覺えた。

食後、隣室の映畫を覗く。漫畫・實寫など。映畫室の定員は二百人位。十時半就床。夜半、時計一時間遅らせる。これで三回三時

間遅らせたことになる。

この日、木下支配人から最近のニュースを聞いた。我々の念頭去らず憂慮する日支事變は愈々長引き、且つ重大化しつつあるといふ。それに對する俺自身の覺悟もこの際決めなければならぬ。歸朝後は、時局認識の上に立つて、更に一活動したいものだ。その氣持を以て、各所に數通の手紙を書いた。

九月十一日。晴。

時差による時刻の變化で、寝起きが兎角亂れがちになる。朝は益々早く目ざめ、髯剃や入浴や甲板の散歩で相當手間どつてもまだ餘裕がある。

今日の出航以來はじめての快晴。風少し出て寒い。故郷では二百二十日の厄日、軍國多事の際、農家のためにも國家のためにもどうか恙なかれかしと暫し祈念を籠めたが、その甲斐もなく夕方の來電に曰く、瀬戸内海から本州全體にかけて暴風雨襲ひ、被害相當多く、香川縣下・大阪府下あたりには人畜の被害もあり、船舶・漁師の行方不明もあるとのこと。夜、Aデッキで例の競馬。この前よりずつと賑はひ、三百

人も押しかけてゐる。十八九のヤンキー娘、臆面もなく中央へしやしやり出て賽を振る。唾へ煙草などして、ビールの一・二杯も飲んだかのやうな顔付きで、絶えず奇聲をあげてゐる。決して賞むべき健全な光景ではない。俺は最初の一番に五志とり、二番目にははづれ、それでやめてしまつた。七八日頃の月出で、星辰また美しい。故國のことをあれこれと案じながら寝につく。

九月十二日。快晴。

北緯四十五度を通る。海上のこととて暖かからず、既に冬服で丁度よい位だ。

午前中、日記を書き、更に繪葉書二十枚ばかりと東京店・高崎店宛の長文の手紙書く。また洋服入換への整理をする。故國の暴風雨被害狀況のニュースを聴く。中國・四國・日光方面のことなど報ぜらる。

午後暇にまかせてまた得意先きへ數十枚の便りを書く。三時から食堂で我々一行の總會を開く。當番團長佐多博士司會し、野上氏進行係となる。山崎氏からこれまでは會の役

員に對する不平不満の聲が高かつたが、今後の一ヶ月間は和氣藹々裡に過して、一同氣分よく横濱へ着きたいとの要望あり、その他にもいろいろの質問が出たりしたが、野上氏互讓の精神を説いて圓滿に解決、續いて木下支配人から、米國旅行上の諸注意・荷物取扱ひの手筈・米國諸都市の豫備知識等について一時間程説明あり、晚餐の時間も迫つたので閉會にした。

九月十三日。晴。

昨夜來急に溫度昇り、ネルのコンビネーション流汗に塗れて目覺む。寒暖計は二十六度に達してゐる。

荷物整理。日記と手紙書き。在紐育の三井物産支店長吉田氏へ書狀出す。

午後三時からAデッキで船員達の拳闘を見る。すべて三組のマッチあり、最後に汽罐部に働く禿頭の男のコミカル・ボクシングがあつた。これは餘程滑稽なもので、大喝采を博したが、先方もさる者、演技終つて我々にチツプを要求した。夕方、昨日の一行の總會を續開する。木下支配人から、日

本移民禁止の原因・ホテルの作法・食堂や自動車のチップ・
エレヴェーター内對婦人の脱帽儀禮等々の注意があり、また
紐育市の大要について説明があつた。

九月十四日。晴。

アキタニヤ號は大西洋の航海を終り、この朝六時、紐育ハ
ドソン河畔に着いた。

亞米利加東部篇

昭和十二年九月十四日より
九月二十三日まで

〔第四十三信〕紐育のホテルへ ンシルヴァニアにて認む

紐育の第一印象

九月十四日。晴。

我々の乗つて来たアキタニヤ號は、この朝六時、太陽の漸く東天に昇りそめる頃ハドソン灣頭に到着し、やがてベドロース島に聳え立つ例の自由の女神の銅製巨像が晴れ渡つた青空にくつきり浮び出したのを眺めた。これは、一八八四年佛蘭西の美術家バルトルデイの原型によつて築造されたもの由、御影石の臺座を加へて高さ二百六十呎、頭上には四十人、炬火の先には二十人の人が坐ることが出来るといふ。炬火の先には強力な電燈あり、燈臺の役目をも果してゐる。船はハドソン河を遡上する。この河は紐育州を南北に流れ、三四百哩の長さしかないが、太古の地層變化から生じたもので、非常に深いことと、兩岸も河底も全部花崗岩質から成つてゐることを特色とする。下流のみならず、上流まで

同様の岩層が続いてゐるといふ。紐育州の平野と海面との落差は殆どなく、海水はハドソン河を相當の遠距離まで侵入する。しかも兩岸・河底が堅緻であるから、土砂の流塞がなく、従つて河口浚渫の必要もない。川幅は出口で二哩位、五哩上流で一哩位、その五哩ばかり進んだ東岸に一號から二百號までの埠頭が並んで何百の船舶を繋ぎ、西岸にも貨物船が密集的に碇泊してゐる。この方面は重工業地帯で、林立する煙突は濛々と黒煙を吐いてゐる。

紐育は人口七百萬、世界第一の都會、西部はハドソン河に、東部はイースト河に臨み、一つの細長いマンハッタン島上に成立つてゐる。市の西北部には、ハドソン・イースト兩河を結ぶ運河が通り、マンハッタン島は遙かにその北部まで延びてゐるが、市の發展は最南部の現在のウォール街のあたりから初まり、北へ北へと擴大して行つた。マ島は南北十三哩、東西は廣いところで四哩狭いところで二キロ、この間を工場・銀行會社・商店・住宅が埋めてゐると思へば大體の觀念は得られよう。

船がハドソン河を遡るにつれて、右手ウォール街の彼方に

摩天樓群が見え出す。四五十階から六七十階の眞に雲表を抜く高層建築・巨大な四角のビル・屋上に尖塔を有つ美術的な建物、それらを見渡すと、巴里や倫敦とはまるで異つた新鮮な明朗な印象を受ける。正にここは新世界であり、新天地なのである。二十年以前、俺は米國旅行中の知人から五十五階のウルウォース・ビルの繪葉書を貰つたことがあるが、二十年後の今日、當時の最高建造物は最早順位二十七番目に落されてゐる。以ていかに空へ空へと延びいかねばやまぬ米國人の意志と欲望の熾烈なるかが判るであらう。なぜかういふ現象が発生するかといへば、それは第一にハドソン・イースト兩河にはさまる土地の狭小さ・地價の高價さによるのであるが、それと共に、ハドソン流域の一枚板式地盤のために地質學上殆ど地震がないことが斷定されてゐるからである。かうして、發達を遂げた高層建築は、

- 二十階以上 五〇〇
- 三十階以上 一〇〇



紐育の高層建築街(中央百二階のエンパイヤー・ステート・ビル)

五十階以上 七〇
七十階以上 四
百階以上 一
を數へるに至つたが、百階以上の唯一なる百二階の世界の最高摩天樓はエンパイヤー・ステート・ビルである。凡そ三百年前のウォール街附近といふものは、和蘭人がアメリカ・イ

ンデヤンから譲り受けた牧場の一部であつたが、その時マンハッタン全島の代價として與へられたものが何とたつた二十四弗の硝子と玩具であつた！それが今では何十億か何百億か全く計算を絶した價値に變化したのである。

ウォール街は、株式商品取引所・銀行・保險會社・信託會社・商會社の櫛比する世界的な金融・貿易・商業の中心地で、倫敦のバンク街と併稱されるものなることはいふまでもない。ウォール街から北へ向つてブロード・ウェイの大通りが貫き、これが大紐育中でも最も繁華な部分をなしてゐるが、そのブロード・ウェイに交叉する東西の街路もまた賑賑を極め、一丁目から二百四十何丁目にまで及んでゐる。十數年前までは、百貨店ジョン・ワナメーカーの店舗のある二十丁目の邊が紐育の中心であつたが、最近では四十二三丁目あたりが中心になつて來た。つまり、中心點は時代の變遷と共に、北へ北へと移りつつあるのだ。

九時、船は九十一號棧橋についた。その時八十八號棧橋にアキタニヤ號の二倍もありさうな巨船が見えたが、これが大西洋上で我々を追ひ越し、二日も早くここへ着いた佛蘭西船

ノルマンデー號であつた。この船は、獨逸のブレーメン號や英國のクキンメリー號などと共に、世界五大汽船に數へられるもので、これらは大西洋三千五百哩の間、いつも分秒を争ふレコード・レースをやつてゐるらしく、この時のノルマンデー號のスピードは、四晝夜と一時間何分とか報ぜられてゐた。それも、米國人の暑中休暇利用の巴里博覽會見物の戻り客五六千人を乗せて、超満員の盛況らしかつた。(その後一ヶ月半の後、我々が秩父丸によつて太平洋航海中、英國のクキンメリー號が、ノルマンデー號のレコードを破り、三晝夜二十三時間五十六分で大西洋を乗切つたことがニュースに入つた。そして彼等七八萬噸級の巨船が三十二三ノットの速力を誇るに比し、我が秩父丸が大きさでは四分の一に満たず、船脚では半分強に過ぎないことを我々は嘆き、やがて太平洋の覇權を握らねばならぬ日本の海運業の決して安閑としてはゐられぬことを深く感じた。)

埠頭の向うに、リプトン紅茶製造所の鐵柱廣告塔が目につく。市から對岸へ渡る幾十の渡船は、汽車も自動車も客を乗せたまま運んでゐる。何やかやあわただしい上陸氣分の中

に、我々は船の一等社交室で旅券と上陸券の査閲を受け、一人八弗の入國税を納めた。入國税は米國滞在六十日間以内ならそのまま返し、それ以上になると没收される規定である。二等船客だつた俺は、その時初めて一等の設備を見たが、さすがに嘗ては世界の豪華船を自慢しただけの貫祿はあると思つた。船室數各等合計千五百、二千五六百人の客を收容することができるといふ。

十時上陸。携帶品について税關の検査あり、數人の役人が鞆やトランクを一つ一つ開いて入念に調べあげ、これに約一時間を費した。

タクシー七臺に分乗してペンシルヴァニア・ステーションの前にそそり立つホテル・ペンシルヴァニアに至る。これは、三千五百室を有するホテル・ニューヨーカーに次ぐ紐育第二のホテルで、室數三千二百、五六千人を宿泊させることができる。

ホテルで晝食。午後二時半から、早速紐育見物に取りかかる。大紐育の地域は三百平方哩、人口七百二十五萬で、これは全米人口の十九分の一に當る。そして、この中紐育市在住

の外國人統計は次の如くだ。

ユダヤ人	一八二萬人
伊太利人	一二五萬人
英吉利人	八五萬人
黒人	五六萬人
獨逸人	四五萬人

これによつていかにユダヤ人の多いかが判然する。邦人の在住者は僅かに四千人、その中三井・三菱の社員が三四百人を占めてゐる。

紐育見物 A

以下、見物のノートを掲げておく。

(一)ペンシルヴァニア驛。ホテルの前にあり、一日の發車數八十回、平均四五萬の乗降客あり、近くのグランド・セントラル驛と共に紐育の二大驛といはれる。

(二)多數の毛皮問屋。主としてユダヤ人の經營にかかる。

(三)メトロポリタン生命保險會社。三十年前落成した五十階のビル。

(四)五十餘階の某ビルの電氣大時計。長針一千封度、短針七百五十封度の目方ありといふ。

(五)フリーラー・ビル。西洋駢斗に似た楔形の風變りな二十三階の建物。第五街にある。このあたり紳商軒を数ぶ。ここに日本領事館・日本海軍事務所あり。

(六)ジョン・ワナメーカー百貨店・ワシントン記念塔・ニューヨーク大學(學生男女計二萬人)・ワシントンパーク。

(七)五十五階のウルウォース・ビル。均一ストアなり。

(八)警察本部。二萬人の警官中、一萬二千人は女巡查。

(九)ラファエル街。機械類専門の卸店續く。

(十)刑事裁判所・刑務所・市廳舎。ブロード・ウェイの正金銀行支店に立寄り、信用状を示して金を引出す。

(十一)自動車の多さ。市の自動車數四百萬臺以上、人口一人半に一臺の割。

(十二)ハドソン河畔に出て河底トンネル。長さ二哩、三年前の完成、通行料は自動車一臺五十仙。

(十三)ウォール街の株式取引所・國際電信電話會社・モルガン商會事務所・その他あらゆる銀行會社。この通り的一部

に今から百六十年前の一七七六年にワシントンが食事したといふ小さなレストランが古色蒼然と残つてゐる。

(十四)海岸の税關・青物市場。自由の女神の像をまた眺める。水族館・和蘭人移住當時の建物・造幣局・紐育灣内を二弗で一周する水上遊覽飛行機の發着所。

(十五)毎日五百萬斤の取引ある魚市場。この邊から對岸のブルックリン市へ渡るイースト河上二哩の長橋あり。ブ市はマンハッタン島の東に連るロング島の西端に位し、人口二百五十萬人を數へる商工業都市である。

(十六)イースト河に添つて北部へ廻ると、ユダヤ人街・支那人街。支那人は六千人程ゐる。ユダヤ人街に、結婚衣裳の陳列販賣店・貸衣裳店あり。兩者共飾窓には人形に衣裳を着せて飾つてゐる。人絹物や交織物が多いが、スタイルは優秀である。貸衣裳は一揃一回の料金十弗乃至六十弗。この日恰もユダヤ人にとつて一年一回の大祭典、郊外の廣場には五六十萬人のユダヤ人が雲集して、今夜一晚中踊り狂ふといふ。

我々一行中にもこれを見物しに行つた者があるが、芝居・音楽・假裝行列等々で非常な賑はひ、故國を有たず世界中から

嫌はれてゐる彼等の團結心・熱情がよく窺はれたといふ。

(十七)エヂソン電気研究所・同電気工業會社・七十七階で米國第三位のクライスビル・紐育第一の乗降客のあるグラランド・セントラル驛。

(十八)エンバイヤー・ステート・ビル。さしもの紐育でもこれが最高のビルで、百二階、千二百五十呎。建築費五千五百萬弗。社長は紐育州の知事をしたこともあり、大統領候補にも出馬したことのあるアルフレッド・スミスだ。五六十階以下は大抵ふさがつてゐるが、それ以上は借手少く、殊に八十階以上は殆ど空室のままの由、そんなわけで毎年赤字だといふ。位置もいいエレヴェーターその他の設備も萬全を期してありながら、この不成績は蓋し計劃者の豫想外とするところであらう。スミス社長は八十八階の一室に頑張り、大いに宣傳に努めてゐるが、暴風雨になると、最上層は十七吋幅位に揺れて一寸氣味が悪いらしい。これを造るに要した鐵鋼は七萬三千噸、社長の月給は五萬弗、ビル入場料は一人一弗半、見物人一ヶ年二百萬人に達しその収入三百萬弗、二階以上全部貸事務所だが、寧ろ紐育名物としての存在價值の方が

大きいらしい。二階から上は全部貸室、階下は賑かな通りに面し、服飾・雜貨・寶石・骨董・家具・裝飾品等の何百といふ高級小賣商店が並んでゐる。ビルとしても、美しい商品を賣る店を調査銓衡の上貸すのだといふ。室内は柱も壁も大理石で鏡の如く磨きあげ、階下の廣さは丸ビルの四倍位あり、そこに七八つの商店街が形作られてゐる。

(十九)エンバイヤー・ステート・ビルの周圍には、ピーホントマン・デパートや高級デパートのルーランテーヤ、豪華な寶石商があり、また建物に三百萬弗を投じた、藏書百五十萬冊の紐育圖書館などがあり、日本總領事館のある六十三階のビルディングも聳えてゐる。ブロード・ウェイ四十丁目は最も股賑を極め、流行婦人服や裝飾品を賣る店多く、さすがは世界の尖端を行く弗の國亞米利加の臭ひが強い。

(二十)米國第一の富豪、石油成金のロツクフェラーが數年前建てた大きなビル十二。所謂ロツクフェラー・センター。何しろ二十五億弗といふ大財閥のことゆゑ、仕事は自由自在で、貸事務所目あてのビルの外に、學校・圖書館等の社會事業にも幾多の貢獻をしてゐるが、ここにあるのは多く營利的



群築建層高の育紐

なビルで、低きは三十階、高きは七十階、これは八百五十呎で紐育第四番目のもの。ビル群の中央廣場には、花壇あり、噴水あり、レストランあり、恰も高山の谷底にある樂園といった感じ。

(二十一)一八九七年に成つたといふゴシック風建築のセント・パトリックス・カセドラル。

(二十二)五十二丁目に世界的な祕密結社と稱せられるフリー・メイソンのクラブ。その近くに大阪の骨董商山中商店の支店。山中は關西きつての大骨董商で、東京・京都にも支店があり、海外にも進出することかくの如くである。

(二十三)ロツクフェラーの住宅。比較的質素。この邊は幾分閑靜、高級ホテルのアストリヤ・プラザ・ビマール等がある。これらのホテルは一室一日十弗乃至四十弗の室代、ホテル・ビマールには嘗て我が 秩父宮殿下が御用仰せつけられたことがある。

(二十四)セントラル公園。東西半哩、南北二哩半、自然美よりも人工美の公園で、やはり亞米利加の特色が出てゐる。今から二三十年前にはこの公園は市の最北端に當つてゐたの

に、北へ北へと飽くなき發展を續けた今日の紐育では、街衢は更に十哩も先きへ延び、公園は名前通り「中央」になつてしまつた。

(二十五)北へ進む。ユダヤ教ベゼル・テンプル。ミリオネーヤ・クラブ。歐洲大戰記念の軍人記念館。カーネーギーが六千萬弗を寄附して完成したメトロポリタン博物館。カーネーギー未亡人が三百万弗を投じて建てた寺。カーネーギー夫妻の信仰は頗る敦く、寺院ばかりでなく、生存中各種の社會事業・慈善事業に四億弗といふ莫大な寄與をなしたが、その遺産は二億弗あり、財團法人として引續き世の爲・人の爲に活躍してゐる。前にいつたロツクフェラーは一兩年前九十何歳の高齢で死去するまでに七億弗の金を社會施設に投出したといふが、なほ二十五億弗の殘餘あり、これも財團法人として相變らずその遺志を發揮してゐる。我々は亞米利加人の物質萬能主義を厭ふ反面に、富豪のかかるいさぎよき態度については大いに學ぶところがあらねばならぬと思ふ。

(二十六)國立博物館の北方に黒人街あり、ここに住する黒人三十五萬人。南北戦争までは奴隸として虐使された黒人

も、今では勿論市民權・選舉權を有ち、學問して智識の向上をはかり、財産も出來、地位も與へられ、一人前の紳士たらんと努めてゐる。全米の黒人數百萬人中、紐育には五十六萬人を數へ、その大半がこの一區劃に集團してゐる。黒人の生殖力は他民族に較べてずつと強烈で、その増加は驚異とされ、その勢威侮り難いものがあり、従つて黒人街の建物などもなかなか立派で、よく整つてゐる。この日街上に女子や子供ばかり見えたのは、素より男子が各々その職場で働いてゐるためである。

(二十七)公園の一隅に建築中の教會がある。四十八年前に千五百萬弗の豫算で工事を始め、今なほ未完成で、こつこつやつてゐる。こんなところも亞米利加氣質なのであらう。

(二十八)州立コロンビヤ大學。學生二萬人、毎年四千人の卒業生と四百人の博士を出すといふ。學生の多さではカリフォルニア大學・南カリフォルニア大學と共に米國でも有數のもの。附近一帯學校街で、コロンビヤ大學の外に、バーナー女子大學・ユニオン神學校等々あり、またロツクフェラー財團寄附の教會・國際會館などもある。間近にかの南北戦争

當時北軍を指揮し、後第十八代大統領の榮冠を獲たグラント將軍の墓地のあるのにも注意された。將軍は明治十二年東洋視察旅行の途次來朝、畏くも明治天皇の御下間に奉答した偉人で、當時上野公園に於て朝野を擧げて大歡迎會を開いたことは、俺の幼時の記憶にもかすかに残つてゐる。そんな想ひ出に耽りながら、俺はその墓地に立つグラント將軍の銅像を仰いだ。

(二十九)これから北方數哩の間に紐育の共同墓地がある。墓地とはいつても日本のそのやうに陰氣なものではなく、一種の公園であり、墓の町の觀がある。樹木は多いし、ところどころに家は立つてゐるし、清潔にして明朗である。我が醫學界の巨人野口博士の墓はここにある。博士がロツクフェラー研究所に入つて亞弗利加の黃熱病を研究し、その犠牲となつて倒れたことは世界人類のひとしく感謝するところである。また我が製藥界の傑物高峰博士の墓もここにあるが、野口博士の墓が小さなつましい天然石のものであるに比し、高峰博士の墓は米國富豪と同様の豪壯なものである。なほ餘談ながら、高峰博士未亡人たる米婦人はその後他の白人と

結婚して米國に住んでゐるさうであるが、立派な子供と相當の遺産があり、既に齡も傾いてゐながら、何故再婚したか、いかにも露骨な歐米婦人氣質ではないかと、在留邦人に非難されてゐるといふ。國民性の相違とはいへ、地下の高峰博士も恐らく安らかに眠りかねるであらう。

午後七時までに以上のコースを巡り終り、ホテル・ベンシルヴァニアに戻つた。晚餐の後、すぐベッドにもぐり込む。

「第四十四信」紐育のホテルへ ンシルヴァニアにて認む

紐育見物 B
ウォール街とブロード・ウェイ

九月十五日。晴。

商工業と物質文明では世界一を誇る大都市紐育に身を置く興奮を感じながら、七時離床、昨日の上陸第一日の日記を認める。

昨夜八時頃から夜半まで、約十哩離れた郊外にユダヤ人に

とつて一年一回の祭典が催されたので、會員の中二十人ばかり見物にいつた。俺も同行を奨められたが、今日の疲勞と日記の整理が懸念されるし、お祭りの馬鹿騒ぎ気分はあまり性に合はぬのとで止めにした。全米のユダヤ人は六七百萬人、紐育だけでも百八十萬人に達するといふ。普通はユダヤ人だけの区域内に居住してゐるが、概して富豪が多く、その勢力は堂々たるものがあるらしい。今朝、祭典の模様を聴くに、日本の正月や西洋のクリスマスのやうなもので、ユダヤ族の男女數十萬人相群がり、盛装したのも、假装したのも、みなおどけた身振りで踊り狂ひ、花や五色の紙を投げつけあひ、これを見物するヤンキーまた數十萬人、はてはユダヤもヤンキーも入混つて放歌亂舞して夜の更けるのも知らぬといふ底抜け騒ぎを演じ、乗り捨てた自動車だけでも何十萬臺といふ數であつたといふ。

九時、七階の事務所に至り、ガイドの上出氏外一人に會つて懇談し、住友・三菱を初め、この地で往訪すべき銀行・會社の所在地及び道順を確め、それから上海方面の戦況ニュースの詳細を知つた。皇軍の猛攻に堪へかねて、同地の支那軍

は遂に總崩れになつたといふ。さもあるべきことと喜んだ。邦人發行の週刊新聞は、紐育新報外一紙あり、體裁は整つてゐるが、報道の中には大分デマも混つてゐるやうだ。青柳といふ土産物店の主人來り、紐育在住の邦人は約三千人、日本人俱樂部員約千人ばかりで、會長は若杉總領事であることなどを聞く。

午前十時半一行二十六人勢揃ひ、見物に出かける。最初のとつかりがあまり近いので、歩くことにする。先づホテルから五六丁東方のエンバイヤー・ステート・ビルへ。このビルについては前に書いたが、今日は内部を詳しく見る。柱も床も大理石輝き、通路は一階で五間巾・三間巾、上へ行く程狭くなりするが、しかし東西南北數十條通じ、また上昇下降のエレヴエーターは百臺近くも動き、その立派さは、これまで眼にしたあらゆるエレヴエーターよりも勝つてゐる。いかにも金に絲目をつけずに造り上げたといふ感じだ。エレヴエーターには、七階までとか、十五階までとか、三十階までとか、いろいろ直通のものがあるが、我々は急行に乗り、僅か一分間で八十階に達し、そこで乗換へて八十六階に至り、

その階にあるレストランの窓から周圍を眺め、更に百二階の頂上まで昇つた。ビルの總高さは千二百五十呎、巴里のエツフェル塔は九百八十四呎だから、あれより二百六十六呎高く、しかも彼は鐵骨の塔に過ぎぬのにこれは巨大なビルだ。以てその異常さを知ることができよう。

八十六階以上は一種の裝飾的存在で、展望用以外の實用價値は乏しく、ただスミス社長のみ八十八階に頑張つてゐることだ。頂上ではガイドの上出氏が、眼下の市街の説明をしてくれた。塔やビルの高層建築、イースト・ハドソン兩河とこれに架する十數の大橋、それらみな雲の中から窺ふといつたやうな氣持である。この眺望料一人一弗、チップ十仙。十分ばかりして八十六階へ戻り、ここで土産品を買つたり、レストランで休んだりしたが、やがて俺は一人七階へ下り、三井物産紐育支店の重役室に、支店長吉田初次郎氏（その後間もなく常務取締役となる）を訪問、明夜七時より八時までの間ホテルで會談することを約して、一階の一行に追ひつき、そこから乗合バスで紐育有數の高層閣たる七十餘階の放送局（ロツタフェラー・センターの最高ビル）を見に行く。

(者著目人ニリよ右てつ向)てに臺望展階二百のルビ・トーテス・ーヤイバンエ



紐育は、既述の如くマンハッタンといふ長方形の島の南端から開け出した都會で、マ島は南北と雖も十三哩に過ぎず、東西に至つては廣いところで四哩、狭い部分は二キロしかないといふのだから、勢ひ北へ北へと伸びる外はなく、地價は文字通り土一升・金一升となつたのである。今いふ東西の横通りは一丁目から二百四十何丁目まであり、縦通りにも十數街あり、幾分不規則ながら大體碁盤の目型になつてゐる。紐育港に入つて先づ望む股賑街が最初の中心地ウォール街で、その向うがブロード・ウェイのビル街となり、ここは自動車・バス渦を巻き、銀座・新宿・淺草を混ぜ合せたやうな雰圍氣を呈してゐる。ブロード・ウェイの中心は今や四十二丁目あたりであり、それから北には高級品の商店軒を並び、このあたり縦十丁、横數街の間が一大歡樂境を繰りひろげ、特に第七街の夜のネオンサインなどは晴天の白晝よりも明るい程だ。

我々の乗つた二階付き乗合バスは、十六丁目間を七分で走り、しかも料金はたつた五仙(十七錢)で、第五街の五十丁目に達した。ここで放送局ビルを見物。これは紐育ツ兒がエンパイヤー・ステート・ビル以上に科學の精粹を蒐めたことを

誇るビルで、成程その設備はすばらしい。附近の三四十階・四五十階のいくつかのビル群と共にロツクフェラーが半ばは營利的に、半ばは社會的に建てたものである。米國のラヂオ放送では廣告が自由なので、これを利用する商工業者とその費用は莫大な數字に達するらしい。またここでは目下テレビジョンの研究が極めて大仕掛けに行はれてゐる。

ビル群の中央に當る谷底のやうな小遊園地にプロムナードといふレストランあり、美しき花園や噴水や大理石彫刻を眺めつつ晝食。中には大きな日傘の下でビールのコップをあげる者もゐる。いつも思ふが、日本人位食事の早い國民はないやうだ。氣早なのか何か知らんが、二十分かそこいらで忽ち済んでしまふ。俺など十五分もあれば足りる。歐洲の人々は我々の何倍もかき悠々と食事を樂しむ。米國人は歐洲人よりは早い、それでも我々よりはすつとゆつくりしてゐる。勘定の時、チップの外に數仙の市税を納めた。

紐育の百貨店 歐米の百貨店と日本の百貨店

次に一行と別れて俺一人二三の百貨店を視察する。

先づブロード・ウェイ二十丁目にあるジョン・ワナメーカ百貨店へ行く。この店はワイラデルファイヤに本店あり、現經營者の祖父の創業以來驚異的成功を謳はれたもの。本店は世界最初の百貨店であり、また多くの支店中、紐育支店は世界最大の販賣面積を有するといふ。建物は二十米位の街路を距てて兩側に並び立ち、地下道によつて連結され、各々十數階、延坪目算二萬五千坪もあらうか。上部の三階ばかりは事務室に當て、他は日本の百貨店内の様子と別に變りはない。ただ多少異なるのは家具類部門が實に廣い場所を占めてゐること、子供の玩具・文房具などの賣場が狭いこと、服飾品のところに布地の陳列が割合少くて既製品の數量が大半を占めてゐることなどである。家具の多いのは歐洲の百貨店でもさうであつたが、これは別個の生活様式から來る當然の結果であらう。服飾部門に既製品の多いのは、大體日本の既製品の概念とは違つて贅澤品の既製品の混つてゐるためである。ドレス・夜會服には銀糸や硝子糸を應用した五百弗・千弗のものがいくらでも陳べてある。レースの少くないのは時節がまだ

九月だからであらう。一方初秋向きのビロードも相當あり、殊に地紋ビロードには優秀品あり、また毛皮製衣類も目ざましいばかりだ。

家具部の大廣間には床に絨氈が敷きつめてある。それらにも五十弗から五百弗・千弗までいろいろの値段の正札がついてゐるので、俺は遠慮して一尺ばかりの隙間を拾つて歩いてゐたら、女店員がやつて來て俺の手を引き、この上を歩けといふ。蓋し絨氈は手を觸れるものでなく、靴を穿いた足で踏みつけた感覺によつて良否を判断すべきものだからである。

五階の文房具賣場で、東京の孫から手紙で頼んで來てある水彩繪具を買ふ。正札は五弗なのに、五弗十仙とつたので、不審に思つて女店員に訊くと、十仙はタツキスだといふ。即ち販賣税は客から徴收するのである。後にあらまし判つたが、紐育では五十仙以上の買物にはすべて百分の二の税金をとらしく、州によつては百分の三のところもあり、甚しきは百分の六まであるが、格別苦情も生じてをらぬと聞く。日本にも以前賣上税があり、これは商人の負擔であつたため悪税と評されて、廢止されたが、客から徴收するなら大した問

題にはならぬと思ふ。紐育の小賣販賣税だけでも一年恐らく何億弗に達する有力な財源をなしてゐるのであらう。課税の方法は、週末なり月末なりに税務署の査定と帳簿の検査を以て行ふらしい。

ワナメーカー百貨店で一番強く感じたのは、客数は日本における程混んでゐないが、客の大部分が實際買物をしに來てゐること、客の七八割は婦人だが、日本のやうに幼児を連れ來た者が殆どゐないこと、従つて子供の遊戯場を始め、あらゆるサーヴィスの施設を缺いてゐることなどだ。つまり、日本の百貨店には遊び客が少くないが、米國(または歐洲)の百貨店では専ら買物のための客だけが行くところとなつてゐるのである。

販賣面積に比すれば商品の豊富でないこと、販賣員が多からぬことも目についた。後者は、給料が高いので人員を減らして能率を上げようとするためであるが、その結果買物に非常に手間のとれるのは缺點とせねばならない。服飾品部門はまるで男子禁制で、婦人客ばかりである。俺はそこに何十分間もゐたが、しまひには少々恥しくなつた程である。

ワナメーカー百貨店のある二十丁目は十五年前にはブロード・ウェイの中心であつたが、今では四十丁目より更に北寄りのところが中心となり、その邊に相接してギンベルやマールなどの新進百貨店が繁昌してゐる。これらも後に視察したが、各々延坪一萬坪位で、ワナメーカーの大きさには及びもつかぬが、何しろ位置に恵まれてゐるのが絶対の強味である。ワナメーカーなども、新しい中心地を追ひかけて移轉することが敷地難その他から不可能なので、二十丁目に頑張つてゐるわけだが、環境の變化はいづこの百貨店にとつても大きな悩みとなつてゐる。しかし、ワナメーカーが多年の信用と資本の偉力を以て、依然紐育第一の賣上を示してゐるのは經營者の手腕の非凡さを證するものである。

歐米の百貨店と日本の百貨店とを比較してみると、東京三越本店と同級の店は、伯林・巴里・倫敦を通じて各々一つか二つしかなく、大抵の店は面積・設備・販賣高すべてに亘つて三越に比肩し難いやうに見えた。ただ、建物と設備といふ點で三越に勝るのは紐育のワナメーカー、フィラデルフィアのワナメーカー本店、それからシカゴのマーシャル・フィー

ルド、この三店だけしかない。この中、シヨール・ウキンドの最も上品で效果的だつたのはマーシャル・フィールド、次がワナメーカー本店。販賣高はどうなつてゐるか、秘密もあらうし、一切不明であるが、決算面の成績などは、或ひは三越の方が上位にあるかもしれない。

歐米百貨店の苦惱は店員の給料その他の待遇が年々嵩む一方だといふ點にある。來客になどサーヴィスしたくも事實上できない位人件費が増加するのである。これは勢ひ販賣利益にも影響せざるを得ぬが、大體日本の二倍の率を掛けてゐることだ。國によつては百貨店に特殊税を課してゐるところもあり、就中獨逸では百貨店の經營者にユダヤ系の資本家が多いので、これを排斥するために高率の税を課してゐる。そこで百貨店は他の専門店より平均五パーセントは高く賣らねばならず、追々衰微の傾向を辿ることを餘儀なくされてゐるといふ。

夕方、ホテル・ペンシルヴァニアに歸り、楽しき晚餐の後、紐育第二夜の夢路に入る。

「第四十五信」紐育のホテル・ペンシルヴァニアにて認む

銀行・會社往訪記

九月十六日。晴。

朝、昨日の日記をつけ、また吉野藤五店や得意先へ海外便りを書く。呉服の商家はあまり外國と交渉なく、外國からの手紙を喜んでくれるだらうと思ひ、幾分勞苦は加はるが、紐育からシカゴまでの間に出さぬと、あとはもう俺の方が一足先きに歸朝してしまふことになる。歐洲にゐても何百枚の便りを書いたが、いよいよこれが最後だ。一市で二十枚づつ書くとして、紐育・ポストン・フィラデルフィア・ワシントン・デトロイト・ナイヤガラ・シカゴの七市で百四十枚、一日四十分の努力で済んでしまふ。いま出す手紙は丁度故國の惠比須講賣出し前後に届くであらう。これも店のためである。八時から木下支配人の室で、同氏を主とする數人の座談會を開く。木下氏は米國で苦學し、米國で仕事もし、貿易振興

會へ入つてからも幾度も渡米して日米間の諸問題を研究、この國の事情は底の底まで知り抜いてゐる。例へば日本人移民が今日カリフォルニアにおいてハワイにおいても餘り増加せず、寧ろ減退しつつある原因はどこにあるか、それは無論主として米國側の非常識な政策によるものではあるが、我々の側にも省みて矯むべきところが絶無とはいへないといふやうな問題について詳しい説明があつた。

十時、ブロード・ウェイのエクイタブル・ビルなる正金銀行紐育支店に赴き、シカゴまでのポケット・マネーとして、三百八十弗の信用状から百八十弗を引出す。このビルは一九〇八年の建築で高さ三十八階、ブロード・ウェイの樞要地點に立ち、落成以來三十年経てはゐるが、その内部は贅澤で華麗で、最近のビルと何等の遜色もない。高層建築としてはその後五十階代ができ、更に多數のものができて現在では紐育で十七番目に落ちたが、嘗ては二番目を誇つてゐたといふ。同じウォール街やブロード・ウェイでも、位置のよくない通りにあるビルは半分以上も空家のままで、赤字に苦しめられてゐるが、このビルだけは九分通りふさがり、相當の配當を

行つてゐると聞く。

正金銀行はエクイタブル・ビルの四階にあり、三菱銀行は九階に、三菱商事は十一階に、日銀監督局は二十五階にある。扱てその監督局を訪ねようとすると、正金では親切にも米人ボーイを案内につけてくれ、刺を通ずれば、折よく監督官新木榮吉氏が在局され、鄭重に迎へてくれた。新木氏は群馬大同銀行前頭取齋藤虎五郎氏が日銀勤務時代の知人であり、俺は齋藤氏の紹介状を持つていつたのだが、新木氏には別に齋藤氏から依頼状が来てゐるとのことであつた。監督官の任務・権限は、正金銀行支店の業務監督と、紐育における世界的金融勢の大局を高所から觀察し、これを大藏省及び日本銀行へ報告するにあり、裏面では米國要路の大官・名士と交際し、いはゆる國民外交の實を擧げるにある。新木氏は最近のウォール街の景況や米國金融界の事情や、日支事變の米國に及ぼす影響などを熱心に語つた。それから邦人事務員に案内されて十一階の千百五十五號室の三菱商事紐育支店に、支店長高橋五郎氏を訪問。支店長室に入るや我々一行の菅谷氏兄弟も来てをり、日米貿易の問題について話がはずむ。三菱

商事の重要取扱品の中、米國から出すものは鐵・鋼鐵・銅・錫等が多く、殊に古鐵は巨額に達する。重油・ガソリン・棉花は戦時禁制品に加へぬといふ大統領の方針で、武器・飛行機などの直接戦争に使用されるものだけが禁制品になつてゐるといふ。

高橋氏の厚意で、俺は菅谷氏兄弟と共にこのビルの頂上のレストランで晝食をもてなされた。ブロード・ウェイの一角から東・西・北三方面に亘り、全紐育の七割まで俯瞰できるこの展望のすばらしさ。昨日昇つたロツクフェラー・センターの放送局ビルは約四哩の北方に聳え、その少し手前にエンパイヤー・ステート・ビルが、他のビル群に妨げられながらも、なほ純白の化粧煉瓦をきらきら光らせてゐる。いまだき上つたばかりといふやうな清新さと、三哩離れてゐながらすぐそこにそり立つ威容、さすがに大したもののである。

食堂は五分の隙もない紳士・紳商の客に満ちてゐる。ここは、會社・銀行・保險・信託や、株式・商品の取引所などの揃比する紐育財界の心臓部に當り、東京なら兜町・蠟燭町、大阪なら北濱・堂島あたりの相場師といつたやうな心意氣の

人々が集まるらしく、婦人客が一人も見えず、中老のスマートな人々の多いのが特色である。食事も通人好みといつたところらしく、牡蠣の酢の物・小鳥のロースト・カリフォルニアのメロンなどいづれも珍味であつた。高橋氏から三菱商事生絲部の杉山氏へ紹介の電話を掛けて貰ひ、高橋氏に謝辭を述べ、菅谷氏兄弟とも別れ、九階に降り、九百三十九號室に三菱銀行紐育支店長千金良宗二郎氏を訪問して二三十分間交談。次に向ひ側のシンガー・ビル四階四百十四號室なる住友銀行紐育支店に支店長山内直元氏を訪問。こもかねて東京・京都の住友から通知があつた由で、心からなる歓迎の意を表してくれ、晚餐にも招待したいとのことであつたが、今夜は三井物産の吉田氏と會はねばならぬので辭退した。山内氏は、切りに日支事變の長びく場合の我が財界の前途を憂慮し、官民協力、衆智を蒐めて難局の打開に努めねばならぬことを力説してゐた。

對米生絲の問題と米國機業地の推移 について杉山氏と語る

ブロード・ウエーでの往訪プログラムを終り、住友支店の配慮でその社員に案内され、三十三丁目なる某ビル内の三菱商事生絲部に、杉山部長を訪ふ。

杉山氏は三菱商事生絲部創設以来の先覚者で、繭から産れ絲と共に生きて来たかの如き斯界の博識である。曰く、「日本生絲の將來性について考へてみるに、現在以上の増産を望んではならない。今日の農家の生活程度で繭が一貫目四五圓に賣れるとみて、米國向けD格七八百圓に賣ればいいと覺悟しなければならぬ。一方、五十萬依といふ輸出の數量は變らぬとしても、米國の機屋の希望に副ふやうに品質の改良を心掛けなければならぬ。何分消費地が日米の二國だけなのだから、將來これ以上に伸展していくことは期し難いが、しかし人絹が生絲に近い強力・弾力を有し得るやうな劃期的發明があるとか、ナイロンが普く實用商品化するとかいふ時期が來ればとも角、現在のところでは將來性も乏しい代り、また必ずしも悲觀するには及ばない。昨年春生絲の製造家・問屋・直輸出商等が協議して、全米に亘る生絲の宣傳費を一躍五倍——一依一圓を五圓——にし、今春來宣傳部の活躍め

ざましいものがあるが、その方法は、これまで需要者のみ目標に置いてゐたのを、今度は更に製織工場・染色工場・百貨店・服飾専門店・織物問屋・裁縫所・裝飾請負業者等あらゆる方面に向つて、繪畫・寫眞・實物・人形・マネキン・照明などを用ひ、また化學的實驗も試みさせ、人絹その他の生絲の強敵と生絲とがいかにも眞價を異にするかを證明するにあつた。これは今秋も行ふ筈である。全米生絲消費量の六割五分乃至七割までストッキングになることはいふまでもないが、近年は益々細き撚絲製の薄地が喜ばれるやうになり、色彩も一旦白く織り上げて後染めるやうになり、それも濃淡の變化のあるものが流行してゐる。ストッキングはパタソンでは一向作られず、フライデルフイア附近とか、コンネチカット州とか、或ひは南方フロリダ州とかまで産地が擴つてゐるが、五十萬依の中三十五萬依までがヤンキー・ガールの脚線美を増す唯一の材料となる。日本娘は額に汗して米國娘の虚榮心を満足させてゐるわけだが、これも立派な國民外交、作らず、賣らず、買はず、穿かずとなつては双方の娘さんに恐慌を來すといふのも面白いではないか。パタソンは機業の先

進地ではあるが、織機や設備は古いものが多く、一九二九年來の不況に大いに痛手を蒙り、寧ろ東海岸數州に跨る新興の各地が近年勢威を示してゐる。織機が年々進歩し、設備が年々改善されることは日本も米國も同じことで、恰も桐生の廣巾帯が京都西陣の舊式な小規模なものに打勝ち得るやうに、パタソンなどでも儲かる時にはどんな新施設もできるがいざ不況となるとさうはいかず、結局は紐育の織物問屋や生絲問屋の下働きとして甘んじなければならぬといふ惱みに逢著してしまふ。ストッキングは大量に生産でき、大量に消費されるので十分工場經營も成立つが、これに反して婦人服は色彩も模様も流行の變化烈しく、とても大量には作れない。日本同様に二三百臺の織機を限度とし、それ以上の大工場はすべて失敗する。最も安全なのは家庭工業で、主人夫婦に娘・忝・老婆まで働く五臺か十臺の小工場は利益も確保され、且つ念入りの精巧なものができる。パタソンあたりの何百・何千臺といふ大工場で破綻を生じたものは、十臺・二十臺と分けて賃貸し、甚しきは一つの工場を幾つにも分け、鶏小屋のやうに金網で仕切り、これを何人か共同で借りてやつてるとこ

ろもあるが、それでさへ資金の不足から紐育の織物商・生絲商に製品を納め原絲の供給を受けるやうになつてゐる。さういふ小規模の工場から三百臺・五百臺の大工場に擴張して行くのもあるが、大きくなると却て危険多く、色柄・流行の變遷と絲値の變動によつて製品の相場絶えず上下し、到底安心して業に従ふことを許されない。人絹にしる本絹にしる、柄物の一大ストツクが紐育にあり、殊に人絹製品は最盛期を過ぎて期末になると大量の投資が始められる。本絹は原絲相場近來大體平穩であるに拘らず、製品にはやはり激變あり、殆ど當初の發表値が最高で、以下デリ安一方ときまつたやうなものである。何をいふにも不況続きで、機業家の實力減退し、電機科學工業の如く極端に人手を省いて機械そのものがどしどし能率を上げるといふ仕事に較べれば、織維工業の經營は全く時代後れの感があり、中でも色柄のついた婦人服地の工場經營は至難中の至難である。云々。又曰く、「撚絲業は米國でも最も安全な工業で、常に仕事に追はれてゐる。技術も進んで變つた撚絲もできてゐる。伊太利の撚絲業が最も優秀だつた時代は過ぎて、既に米國全盛の時代に移つてゐる。

日本の熟絲は近年生絲と共にブラジルに輸出されるが、南米の絹織物業は逐次發達し、近く五萬俵位の原絲を消化できるやうになるかと思ふ。かういふ風に各國が原絲を輸入して絹織物業を興し、而して北米・佛・獨・英等の織物を關稅障壁で喰止めることになれば、勢ひそれだけの生絲が日本から中南米・加奈陀あたりの國々へ賣れることになり、米國の消費量は多少減つてもなほ五十萬俵前後の輸出は保持できるのではなからうか。しかし、要するに人絹・ナイロン等が生絲の領分を侵して、將來どれだけストッキングとして用ゐられるかによつて生絲の將來性は決せられるといふの外はなからう。云々。杉山氏は約一時間に亘つて熱心に語ることに以上の如くであつた。夕六時辭去する。

夜の紐育・吉田氏と語る

夜七時、三井物産紐育支店長吉田初次郎氏からホテルへ電話あり、やがて自動車で迎へを受けた。今夜は一つ紐育気分を満喫して戴きたいといふので、グリーンニッチ・ヴィレイヂのサリヴァン・ストリートなるジミー・ケリーウオードのキ

ヤバレーへ
行き、レヴ
ユーや小唄
育
マジヤズや
ダンスや寸
劇などの、
景
さすがは本
場だけある
粹なショー
を觀且つ聽
きながら食
事する。天
井の低い八
九十坪の部
屋で一方の
一段高いと
ころに十人
ばかりの樂



士が並び、中央の二十坪ばかりの空處で次から次へと演藝が行はれる。四方にテーブル・椅子が置かれ、そこで酒を飲み料理を食ふのだが、何しろ場所が狭いので、隣人とも踊り子や歌手とも、屢々相觸れ合ふ。そこが特色なのであらう。二時間ばかりの間に十二の番組が演ぜられたが、歌は歌劇物もあればユーモラスな流行唄もあり、踊りも十七八歳から二十三四歳の艶麗無比なのが現はれては妙技を發揮する。藝人はみな舞臺着のまま自動車でやつて来て五六分間勤めると、すうつと自動車で歸つていく。合間々々には客がダンサー相手に踊り狂ひ、飽くまでも歡樂をやり盡さうといふ寸法である。我々は十時にここを出たが、この社會ではこれはまだ宵の口で、十二時に一回、二時に一回あり、毎夜のひけ時は三時・四時になるといふ。

米國の紳士・紳商連はこんな按配に強い酒をのみ、若い女と踊りぬき、それで翌朝は九時までに、たとひ重役級でも十時までは、郊外から一時間も自動車に揺られて勤務先きに馳せつけ、その上勤務に従ふのであるが、それでゐて毫も疲れを知らぬことは吉田氏も驚いてゐた。この料理も小料理

屋風の粹な贅澤なもので、さすがは食通や道樂者の集まることと頷かれた。恐らく一人三十弗以上かかるのであらうが、それでも日本の待合の四疊半式遊興に較べたら安いと吉田氏はいふ。

ショーを觀ながら、吉田氏はぼつぼつ身邊のことを語つた。去年の今頃妻の死に逢ひ、いまは二人の子供と三人暮しをしてゐる。父性愛から子供達だけを日本へ遣るに忍びぬ。子供達と一緒に故國へ歸りたいのはやまやまだが、本社の命でなほ一兩年は紐育に止まり、時局重大の折柄、三井を背景に背負つて國民外交・貿易外交に努力せねばならない。云々。吉田氏は紐育の日本商業會議所會頭その他重要な地位に居られるが、日米貿易に關して更に語を繼いで曰く、「兵器は最近輸出禁止になつたが、兵器以外の軍需品の買入れには益々盡力せねばならない。ワシントンの外交なり商取引なり、表向きは若杉領事や井上商務官がやるが、自分はその内面工作として、或ひは料理屋で、または日本人俱樂部やゴルフ場で、紐育の官民有力者と私的な懇親を結び、輿論を探つたり、交際相手の腹の底を敲いたりで寧日なく活動してゐる。

今日もちよつとした催しがあつたのだが、その方を断つてあなたを招待したやうな次第だ。」云々。それから、日支事變を繞る英米との外交問題や戦勝後の財政經濟問題についても有益な見透しを語つたが、更に最後に吉田氏は曰く、「これから富豪は社會政策の上から次第に制限を受け、財産を子孫に傳へてその安全を圖るといふ東洋流の家族制度本位の考方は追々薄れていくのではあるまいか。人間は各自一代のために大いに働き、儲けた財力は社會・國家のために提供するなり、自分の有益と信ずる方面に遣ひ、子女は努めてつづのきくやうに質實剛健に訓育する。子は子として、孫は孫として、父祖の遺産に頼ることなく、自ら働き自ら生計を立てるやうになるのではなからうか。少くもこれからの富豪たる者、この位の覺悟がなくてはならぬと思ふ。」云々。

吉田氏にホテルまで送られ、明日の再會を約しつつ、氏はグラランド・セントラル驛から十時五十分發の列車で歸路につかれた。自宅まで五十分の行程だとのこと。家では母なき二人の愛兒が、獨逸婦人に教育されてゐるといふ。吉田氏は毎日店の仕事の外に諸會社その他から面會を求める者一日必ず

十數人あり、面會時間を一人十分づつと定めても、なほ十日も先きの面會約束までメモしてある位が多忙さ、寧ろ三井の仕事半分、國民私的の外交半分、といふ状態であるらしい。

ホテルへ歸ると、三百坪もあるサロンの椅子・卓子が全部片附けられ、そこへ數百人の軍人らしい連中が乗込んでゐる。あまり不思議なので七階の事務所にも木下支配人を訪ねて訊くと、今日から數日間全米の在郷軍人代表二十五萬人が紐育に集つて記念祭を催すとかで、それがめいめい妻子を連れ、中には兩親まで帶同といふのもあり、關係者を合せて實に一百萬人が押寄せて來たので、さてはこのホテルのサロンも二千二百の室もびつしり満員になり、他のホテルでも同様の盛況だといふ。

十一時、寢に就く。

「第四十六信」紐育のホテルへ ンシルヴァニアにて認む

亞米利加のホテル

九月十七日。晴。

ホテル・ベンシルヴァニアはベンシルヴァニア驛にも最般賑街にも近いところに立つ二十二階の建物で、地坪は約七十四間四方、周圍をめぐると五丁位ある。客室二千二百、各室に風呂と便所、シートやナプキンの洗濯一日二十噸、冷暖房パイプの長さ百十哩、毎日客の食ふパンは七百臺の手押車で運んでその數一萬六千本、アイスクリームが三百ガロン(八石)、調理場の瓦斯の消費量五萬立方フィート、大食堂は一度に六百五十人の收容力あり、外にバー・カフェー・小食堂等がある。ここから四五丁先の四十何階の近代建築美を誇るホテル・ニューヨーカーには及ばないが、しかしなほ堂々たるもの、廣間は三百坪のを最大としていくつもあり、裝飾もなかなか凝つたものである。

日本人俱樂部における歓迎會

午後三時から紐育日本人俱樂部において、若杉總領事・井上商務官・昨夜招待を受けた紐育日本商業會議所會頭吉田氏等主催の宴會があり、出席する。

席上、井上商務官は「日米貿易について」と題し、次の如く語つた。

「日本の對米貿易は、全貿易高の三分の一を占め、且つ貿易の増減は國民經濟上多くの影響を齎すことはいふまでもない。一九三二年頃までは輸出入が大した差違なく平均してゐたが、一九三三年この方日本から見ての輸入超過が始まり、近年は三四百萬圓の入超となつてゐる。輸入品の主なるものは、石油・屑鐵・小工業用機械・重工業用機械・銅・鉛・パルプ・牛皮等。輸出品は生絲が全體の六割を占めて主體をなし、外に罐詰・玩具・植物性油・薄荷・藥・除蟲菊・陶器・綿布・冷凍水産物・鉛筆等で、この外に少量ながらミシンと自動車の部分品が米國へ來てゐることは不思議である。またそれら輸出品の中、米國の婦女子が家庭で用ゐるものが多いのも一種奇妙な現象である。

日本の生絲は、人絹絲に精巧なものであるため、今後相場騰る見込は立たない。生絲の生産コストの標準を引下げられるか否かによつて生絲對人絹の勝負は決せられるであらう。つまりは頭の問題であり、漫然としてゐてはならぬので

ある。實際、日本の商品は米人の家庭における日常生活に深く入り込んでゐる。米國で子供が生れば、赤ん坊の帽子も着物も日本製であるし、娘時代になれば、靴下もドレスも日本品である。日本の製絲工場や織物工場で眞黒になつて働いてゐる女工さんが、米國婦人の美を増し、家庭生活に大いに貢獻してゐるのである。生絲の七割が靴下工場で消化される點から考へると、日本の女工さんの手と米國の婦人の足とは密接に結ばれてゐるわけである。魚介類の罐詰や陶器についてもその關係は同じことである。

一九三二年以降、爲替安に乗じて我が雜貨が猛烈な勢ひで米國に輸出されたが、その後日本品に對する關稅引上げの暴壓があつて大分悩んだ。しかし近時は日本品の長所をよく認識するやうになり、昔に變らず輸出の盛んになつたことは喜ばしい。云々。

續いて若杉總領事は次のやうなテーブル・スピーチを試みた。

「日支事變に關する米國政府及び紐育市民の態度は今のところ冷靜である。少くも滿洲事變・第一次上海事變當時とは雲

泥の相違である。當時の國務長官スチュムソンは、對日強硬聲明を發して米國民を煽動したので、その結果國際聯盟の態度を悪化させ、支那側の興奮を驅り同時に日本にとつて甚だ不利な形勢を招いたが、今回の事變に際しては案外落着きを見せてゐる。しかし、一部の評論家・政治家は相變らず支那を擁護し、日本を排撃する言説をなしてゐる。米國人の國民性には、事の是非曲直を問はず、構はず弱者に同情するといふところがあるから、今後何かの動機で日本に敵性を示し出すことにならぬとは限らない。滿洲事變の折には、日本商品のボイコットが行はれたが、今度はまだそこまではいつてゐない。政府當局は、歐洲大戰の渦中に巻き込まれて甚大な損失を受けたのに鑑みて、外國の抗爭に一役買ふことをひどく恐れてゐる。だが若し事變が長期に亘つてゐるうちに、何かのきっかけで或ひは米國々民がいきり立つやうなことを生ずるかもしれない。歐洲大戰の當時でも、十中八九まで參戰すまいと解せられてゐたが、ルシタニヤ號の撃沈から急轉直下參戰してしまつたのである。ウオア・サイコロジイは一種別なものだといふことがこれによつてわかるのである。しかし、

目下のところ、少數の軍人を別にすれば、日本を敵として立向はうなどといふ氣配は見えない。

諸君が中部・西部へ旅行し、各州の新聞を御覽になると、いかに地方々々に複雑した事態と相容れない分子とがあり、言論も州毎に異るといふ現象に氣づかれるであらうが、これは國が廣く、とても統一しきれないためであるから、個々の雜音には決して左右されることが望ましい。一體米國はデモクラシーが立前の、議論の頗るうるさい國柄であるが、それは専ら内政問題についてであつて、對外問題については根本的には現政府に反抗しないといふ主義で一貫して來てゐるといつてよい。云々。

兩氏演説の後宴會に入り、親睦を結び歡を盡し、夜に入つてホテルに戻つた。

在郷軍人記念祭參加の百萬人の團體、相變らず賑かなことだ。ホテル・ニューヨークには本部が設けられてゐるらしい。このホテル・ペンシルヴァニアの宿泊軍人連も、朝九時頃出ていつては夜遅く歸つて來る。演習のやうなものもあるとみえて、砲聲が殷々と夜空に轟く。それに今日はどこかの

廣場に憲法制定記念大會が催され、これに因んだ在郷軍人の集合もあつたらしい。紐育は全くお祭騒ぎである。

「第四十七信」紐育のホテルへ ンシルヴァニアにて認む

ホストンへの飛行旅行

九月十八日。晴。

朝六時半、佐多・今兩氏と共にホテル・ニューヨークにある航空輸送會社の出張所に至る。この間五丁程のところを、地下鐵に並行して作つた地下道を通る。これは地上の交通を緩和し自動車のスピード・アップが可能なやう開鑿したものだ、歩行にも差支へない。

輸送會社出張所で飛行機塔乗券をもとめる。往復二十五弗で、同距離の一等寢臺列車賃金と同様である。外に傷害保險料二弗。朝食の後、七時過ぎ自動車で飛行場へ向ふ。途中、紐育の西部を流れるハドソン河の河底トンネルをくぐる。十日
前英國のリヴァプールでもマーシー河のトンネルを見たが、

これはあれよりも長く且つ完全である。幅員三十米、數臺の自動車が出で疾走でき、三哩ばかりを七八分で通過する。最近竣工した紐育名物の一つで、今朝はまだ早かつたからいくつも自動車の影は見えなかつたが、晝間はわざわざドライブしに来る者が随分混み合ふと運轉手が話す。

三十分で飛行場に着いた。伯林の飛行場に較べたら、事務所などは簡単なものだ。尤も今のは假建築らしく、附近に鐵筋コンクリートの大工事が行はれてゐる。伯林の飛行場では事務所の屋上に見物人のための露臺があつたが、ここにはないのかと訊くと、紐育には飛行機の發着を珍しがつて眺めてゐられるやうな閑人は一人もゐないと運轉手答へる。成程、それもさうかもしれない。

AANC一七三三五號機に乗込む。二十一人乗りで、座席は三側あり、通路を挟んで、一方は一人、他方は二人坐れる。伯林からチェコ・塊・洪へ飛んだ飛行機に較べると、裝飾こそ少いが、簡素で明朗な點はなかなかいい。

離陸すると、先づブロード・ウェイのビル群が見える。右手に一昨日登つたエンパイヤー・ステート・ビルやロックフ

エラー・センター・ビルの林立。目の下にはハドソン河に架る長橋二三、殊に近頃落成したジョージ・ワシントン橋が最も大きく最も美しい。これは釣橋で汽船が通過する場合には橋が眞二つに割れ、廻轉して通路を作る。北の方の森林中に公園のやうなものがある。前に書いた共同墓地だ。

機上から眺める紐育の郊外は、人家密集していかにも大都會周囲の面目を保つてゐる。俺はその時慮らずも、二十數年前讀んだ岡本米藏といふ神戸高商出身の實業家の書いた「牛」といふ本の中であつたかに、紐育の大發展を豫言した文章のあつたことを思ひ出した。當時はウォール街が中心であつたが、これを中點としてコンパスでいくつかの圓を描き、そこにそれぞれの地價が記入され、將來大いに金儲けしようとする者は須く紐育近郊の土地を買へ、銀行預金よりも商品よりも何よりもこれが一番だとそこには論じられてゐたが、當時の紐育の人口は三百萬、今や實にその二倍以上に達し、豫言はそのまま的中したのである。紐育の富豪としては、ロックフェラー・モルガン・カーネギーなど世界的であるが、彼等が株式の賣買と金融事業とで儲けたのに反し、アスターとい

ふ男は土地の賣買・土地への投資によつて何億の財を積んだと聞いてゐる。

大紐育の立つマンハッタン島は、今から三百十數年前和蘭人の牧場主が土人から買取つた時には僅かに廿四弗だつたといふ。全く夢のやうな話ではないか。飛行十分、マンハッタン島とロングアイランド島の間にあるイースト河現はれ、白砂・綠樹が陽に映えてゐる。このあたり、入江・湖水・小島など變化多く、鬱蒼たる森林やビロードのやうな青芝の牧場の隙々に小村落が點綴する。紐育に近い關係から果樹園・蔬菜畑が多く、温室も少からず、いかにも文化村といった感じで一種の美觀を呈してゐる。一抹の雲影もない初秋の麗日なので、機上の快適ひとしほである。

ポストン見物

午前十時ポストン着。昨日紐育のガイド上出氏の斡旋でポストンの案内を下山といふ人に頼んでおいたが、下山氏はハーバード大學を三年前に卒業、現在同大學で日本の歴史・文學・美術を講義してゐるといふ。約束通り下山氏は飛行場へ

出迎へてくれ、初對面の名刺を交換したところ、氏は群馬縣太田中學の出身、東京遊學の後渡米した由、俺と同郷であることをお互ひに奇縁とした。三十歳位の濃厚篤實な學徒であり、また物腰の洗練された紳士であり、殊にこの市に十年近くも住み、米國の地理・歴史に精通するこの人によつて案内される幸運を喜んだ。

飛行場からミステイク河の河底を開鑿した幅員二十米、長さ二哩ばかりの河底トンネルを自動車一臺十五仙の通行税を拂つて通り、ポストン市に至つて、それからタクシーを備つて見物を始めたが、以下そのノートを掲げておく。

(一)魚港ポストン。ポストン港は漁業の中心地であり、魚介の大集散地である。その大市場を見る。附近に約三百數十年前マサチューセツツ州植民の初期に建てられた公館あり。

(二)酋長の家。一六二〇年に作られた赤煉瓦の家。

(三)ポストン概觀。ポストン市はニューヨークランドの中心地として繁榮した古い都會で、漁業の外にも製革・紡織・機械等の工業があり、石炭・肉類・穀物の輸出も盛んであるが、大體は文學・美術等學藝の都で、附近にはハーバード大



ボストン・コンモン・ウエスル通り

學あり、出版業なども行はれてゐる。人口は七十萬、郊外を併せた大ボストンとしては百萬、嘗ては米國最大の都市であつたが、今では人口九番目に落ちた。中央平原との交通不便のため、すべてを紐育に奪はれたのである。その代り、我が京都のやうに古雅な趣きに恵まれてゐる。織物はレーヨン・木綿の精巧なものが少しできるが、大抵は紐育から移入される。高關税の課せられる以前には、日本の織物が入つてゐたが、現在では殆どその影を見ない。日本と直接交渉の乏しい土地だけに、在留邦人も、支那人三千人の一割たる三百人しかゐない。その中、學生が三十人だといふ。南部・西部の、棉花を日本へ送る諸州などは事情を異にし、親日家がないのみか、ややもすれば日本に反抗しようとする空氣が濃厚である。

(四)メイン・ストリート。相當賑かで建物も立派だが、百貨店はジョルダン・フロイドの二軒だけで、それも特記すべきやうなものではなかつた。

(五)公園。コンモン公園には由緒ある舊北教會の白い高い塔が聳えてゐる。三百年前の建築といふが、優雅で美しい。

小高いところに市廳舎あり、昨日憲法發布百五十年祭が行はれたといふ。道路を距ててパブリック公園がある。昔、大衆はコンモン公園で、特權階級はパブリック公園で散歩したものだといふが、今日では勿論何の差別もない。

(六)ボストン大學。市の交通には電車・バス・地下鐵があるが、地下鐵は二三哩間に過ぎない。ボストン大學の周圍をめぐり、工科・商科の間を通る。この工科は程度の高さ世界有數ださうだが、規模は大したこともない。近くに 高松宮殿下の御宿泊あらせられた旅館や大學圖書館がある。エルムの並木道を一哩走り、チャールズ河の橋を渡る。橋上から海岸方面の税關の高塔を眺む。左手のバンカー丘の上に獨立戰爭の記念塔が立つ。

(七)ハーヴァード大學。河岸に倉庫が立並んでゐる。毛皮に蟲のつかぬやうここに保管しておくのだといふ。ボストンの中央街から數哩でケンブリッジの町へ出る。ここにハーヴァード大學がある。綜合大學で、八千人の學生に對して千六百人の教授がゐるとか。學生五人に教授一人といふ贅澤さ、科目も七百からあり、米國最高級の大學である。創立者はジョン

・ハーヴァード、彼は宗教家・哲學者であり、大人格者であつたので、その傳統は今日の教授・學生にも受繼がれてゐる。財的にはマサチューセツツ州やボストン市の特志家の寄附に負ふところが多い。河向うに商科大學があり、これが改築に當つて卒業生に普く寄附を募集したところ、中の一人のジョージ・ペーカーといふ人が、何百萬弗といふ全部の寄附を投出してしまつたといふ。米人のかういふ氣風は、尊重すべく學ぶべきである。

(八)詩人ロングフェローの家。彼もハーヴァード大學の出身者。公開されてゐる住家は、間口八間、奥行七八間の質素な二階建てで、今ロングフェローの孫が住んでゐる。家の前に立つ胸像には彼が一八〇七年に生れ一八八二年に死んだと刻されてゐる。その邊にはライラックの木が繁つてゐた。

(九)大學正門の廣場にハーヴァードの銅像あり、その向うに圖書館あり。昨年三百年記念祭の行はれた時、支那人卒業生は龜の背に立つ二丈もある花崗岩の記念碑を打建てたのに對し、邦人卒業生は一丈程の春日燈籠を寄附したが、これが甚だ見すばらしく、支那人の宣傳上手にはかなはぬといふ氣が

する。

(十)哲人エマソンの家。ケンブリッジから十五哩離れたコンコルドの町へ行く。ここに法科大学があり、図書館も世界一流のもの。エマソンの住宅は記念物保存協會の保護の下に、小さな博物館として一般に解放されてゐる。エマソンの書齋には英のカーライルから贈られた記念品や座右愛用の時計などが飾られ、往時のカレンダーが「四月二十七日」といふ彼の没した日を示してゐた。エマソンは一八〇三年に生れ一八八二年に七十五歳で世を去つたのである。なほここには小説家ホーソンや、政治家・外交家フランクリンの遺品なども陳列され、貧しい鉛筆工の小説家ソローのためにも一室があてがはれてゐた。

(十一)コンコルド。百六十年前の米國獨立戦争の古戦場。ジョージ・ワシントンやベンジヤミン・フランクリン等の英雄が決然起つて劃策をめぐらし、最後の一戦は實にこのコンコルド河の橋上で行はれ、遂に英軍を撃破して獨立の旗を高く翻すことができた。ワシントンのことはここにいふまでもない。フランクリンは電氣學者の一面もあるが、元來は傑れた政治家・外交家で、財政の苦境に際しては遣佛大使となつて國債を募集し、遂に米佛同盟を結ばしめ、ワシントンを助けて祖國の急を救つた功績眞に偉大なるものがある。この地方はまことに閑寂な田園で、林檎や南瓜の名産地である。

た政治家・外交家で、財政の苦境に際しては遣佛大使となつて國債を募集し、遂に米佛同盟を結ばしめ、ワシントンを助けて祖國の急を救つた功績眞に偉大なるものがある。この地方はまことに閑寂な田園で、林檎や南瓜の名産地である。

(十二)昔のホテル。コンコルドの村の眞中にコロニヤと稱する一七七〇年に造られた小さな宿屋があり、開店當時の看板までそのまま掲げられて人目を惹いてゐる。米國の獨立戦争は一七七五年に始まり翌年ファイデルフイヤで獨立の宣言を發したのであるが、この宿屋はこれに先立つこと六年といふ頃の創業であり、いはば國家と共に歩みをつづけて來た名物ホテル、従つてこの村を訪ふ者は大抵この宿で想ひ出の飲食をする慣はしになつてゐる由で、我々三人と運轉手もまた筋書通りここで中餐をとつた。一人一弗で、田舎としては安からぬが、料理は案外悪くない。米人運轉手は四十歳位、體格の堂々たる男で、食事するためにわざわざ服装を改め、舉作も紳士的で雅味あり、俺のやうな野人は却て氣恥しくなつた。この地英人の見物客多く、地方的氣風としても英國流のところが大分残つてをり、そのためかくは禮儀正しいので

あらう。

(十三)フランコホルト。ここは古く政治・文化の發達した地で、落着きのある卑しからぬ町である。近くのコンコルド河に架する五十米ばかりの橋が、前述の獨立戦争の古戦場で、これを守備して英軍を撃退した時の米軍の一勇士の銅像と記念碑が立つてゐる。小さな丘の上の墓地にはエマソンの自然石の墓あり、またソローの墓やホーソンの墓もある。この地は古來文藝家輩出し居住したので、今以て米國青年男女の憧憬強く、文豪の墓にはいづれも花が飾られてゐる。それにこの墓地には楓が多く、そろそろ紅葉しようといふ風情は我々にいたく懐しまれた。

(十四)ケンブリッジ市。ポストンへ引返す途中に人口十萬のケンブリッジ市あり、工業殊に石鹼工業の盛んなところ。市の高臺からポストン市を展望する快濶な氣持はまた格別であつた。ポストンへ入る手前のアンダーソン橋の西側にポストン大學の商科と圖書館がある。アンダーソンといふ人の寄附によつて立てられたものといふ。

(十五)場末の百貨店。かくしてケンブリッジから十八哩の

道を約四十分でポストンに着いた。入口に公園が見えて、その反対側に公會堂たる建物があり、何百臺も自動車が並んでゐる。憲法發布の記念式でもあらうかと運轉手に訊ねると、それは公會堂ではなく、シーヤス・ローバックといふ百貨店だといふ。こんな場末になぜ百貨店があるのかと不思議な氣がしたが、前に紐育のところをいつたやうに、一體米國の百貨店では家具・寢臺などの嵩張つた商品の部門が非常に多くの場所をとるが、さういふものは何も中心街でなくても郊外住宅地に近い場末の、土地も建築も安く、營業費もかかるぬところで取扱つた方が相互に便利であることと、百貨店へ買出しに出る人々が大抵自動車で行くので中心街ではこれが置場と整理に悩まされるが、場末ならこの問題もおのづから解決される、そこで近頃の米國では、百貨店は須く郊外へ設けよといふ説が有力になつて來てゐるといふ。尤もこの種の百貨店は米國にもまだ二つしかない由で、そのトップを切つて生れたのがこのローバックの店、通稱パーク・デパートであるといふ。建物は五階位、客はかなり混んでゐるし、先づ成功といへるとのことだ。

(十六)ボストン美術館。市の南部へ出る。パブリック公園にはワシントンの銅像あり、また博物館と美術館が並び立つてゐる。閉館までに一時間あるので入場する。これは紐育のメトロポリタン博物館と共に米國における二大美術博物館と稱せられる。素より西洋美術においても希臘・羅馬以後近代に至るまでの繪畫・彫刻・工藝品等多數を藏してはゐるが、殊に有名なのは東洋古美術に優秀なもののあることで、唐代の列帝圖とか、平治物語繪卷とかいふものは日本に留まらなかつたのを甚だ遺憾とされてゐる。岡倉天心の師フェノロサのコレクション、明治初年來朝の博物學者モールズのコレクションなどみな驚くべき質と量を併せ有つてゐるが、浮世繪などは五萬枚からの蒐集を誇つてゐる。日本以外の東洋古美術の寶庫としたら、恐らく世界第一に位するのであらう。館はボストンの大富豪數名の寄附金によつて建てられ、赤煉瓦と石で疊まれたルネッサンス式二階建、その輪奐の美も相當のものだ。館のために保存會が設けられ、市がこれを維持してゐる。

(十七)マサチューセッツ州廳。ここは前日憲法發布百五十



ボストン最初の州廳舎

年祭の行はれた式場。同じ廣場にボストン市廳あり。またアダム・スミスの銅像が立つてゐた。

(十八)ボストン市中の書店街。學藝の都・出版の都だけに、大書店が軒を連ねてゐる。その中の一軒へ立寄り、フィラデルフィヤから出るサータデー・イヴニング・ポストとい

ふ雑誌を求める。日本なら一部二圓もしさうな大冊がたつた五仙である。週刊で三百五十萬部も發行され、廣告料など一回何千弗といふのがあり、實費は一部二十五仙かかるのを五仙で賣れるのはつまり廣告料金の收入莫大のためだといふ。以上によつてボストン見物を終り、朝の道を逆に河底トンネルを抜けて飛行場に戻る。この飛行場は我が羽田飛行場の二倍大、エーヤ・ラインは五本あり、紐育行きのが飛行機も大きく十六人乗から三十二人乗まである。近場を遊覽するのは二人乗から六人乗位で、翼が色とりどりに美しく塗られ、空の散歩といつたあなばいに市民が子供連れで乗つたりしてゐる。

夕五時半、下山氏の勞を深く謝しつつ飛行機で出發。下山氏は本年末にはハーブード大學の講師を辭任して歸朝、内務省都市計劃課へ勤務する由で、故國での再會を約して別れを告げた。

機は二三百米の低空を飛ぶ。ロングアイランドがまるで我が四國位ありさうな感じに見渡される。六時四十分、紐育飛行場着。今朝はほの暗くてよく分らなかつたが、いま見ると

この飛行場は二百萬坪もありさうな廣大なもの、しかもなほ擴張工事が續けられてゐる。

往復の飛行機共デトロイトで製作された最新式優秀機で、時速二百四十哩、即ち東京・高崎間を十六分、東京・大阪間を一時間半、東京・福岡間を三時間半で翔破できるといふ性能をもつてゐる。

今日のボストン行きは、合計六百哩、満一日の十三時間を要し、三十弗の金を費した。汽車なら運賃は安い、その代りボストンに一泊しなければならぬ。夜行列車で待つて夜行列車で歸るのが一番安上りだが、それでは身體がたまらぬ。やはり飛行機を選んでよかつたと思ふ。飛行會社の自動車ホテルへ戻る。時に七時半。いささか疲勞の態であつた。

「第四十八信」 **フィラデルフィヤのホテル・ベンジャミン・フランクリンにて認む**

在郷軍人大會のソロバン

九月十九日。晴。

朝目覚めると先づ己れ異郷にあることに氣付き、次に身心健全であることを感謝する。朝食前に日記・通信を認めるのがこの頃の日課である。

今日は日曜なので煙草屋もレストランもバーも皆休業、しかし倫敦の日曜のやうな淋しさではない。市民もかなり歩いてゐるし、それに例の在郷軍人が家族や關係者を合せて百萬人も乗込んでゐるせいで、どことなく活氣を呈してゐる。今朝のニューヨーク・タイムスに在郷軍人大會の様子が描かれてゐるが、前後一週間のお祭騒ぎの中、明日の日曜には演習と市中行進が行はれるらしい。從來全米のいくつかの大都市が廻り持ちで主催地に當つてゐたが、今後は紐育に一定しようぢやないかといふ案が出て、可決を見たいらしい。それについて紐育市廳から五百萬弗の寄附金が出るといふ。五百萬弗といへば途方もない金のやうだが、大會開催の権利金としてはずいぶん安いものといはねばならぬ。ここに集合する在郷軍人は二十五萬人だが、彼等は或ひは父母・妻子を連れ、また戀人を引具して來るのが習慣、そこで合計百萬人に

もなつてしまふのだが、これが一人平均二十五弗づつ遣へば二千五百萬弗、五十弗づつ遣へば五千萬弗の金が紐育に落ちることになる。ばらまかれた金はホテル・百貨店・小賣店・飲食店等へ納り、二割の儲けをあげるとしても全紐育の利得はすばらしい。何年もこんな状態が続けば、五百萬弗位ただ同様になつてしまふ。だから安いといふのである。さすがは弗の國亞米利加ではないか。

タイムスによると、明日我が秩父宮殿下紐育へお成りにならせられるため、特に數千の警官を隣州から招集して御警戒申しあげる由、各國の皇族訪紐されても今度のやうに嚴重なことは例がないと報じてゐる。紐育には六千人の支那人居住し、その中には共產黨の徒もあると聞き、我々はひたすらに、殿下の御旅行の御安泰にましまさんことを祈願し奉つた。會の本部で雑談、タイムスやサータデー・イヴニング・ポストを家へ送る。タイムスは平日二仙、日曜増刊十仙、これが大判百四五十頁もある。

フライラデルファイヤに向ふ

午後二時半、出發準備。この時社交室で盛装したる在郷軍人を見て驚いた。日本ならカーキ一色の服装であるべきに、ここではカウボーイのやうなものあれば、農夫・牧童のやうなものもあり、何の統一もない。それらが同伴の細君や戀人と接吻したり、腕を組んで歩いたり、これでも軍籍に身を置く者かと腹が立つ位だらない。

三時半ペンシルヴァニア驛に至る。この驛は、ペンシルヴァニア・レールウェイ會社の經營で、同社はグラント・セントラル會社と並び稱されてゐるもの、内部の感じは、伊太利邊の大きな博物館か教會みたいに落着きがある。一體このペンシルヴァニア・レールウェイ會社は、米國東部の最も早く開け、文化と工業の發達し、人口の稠密な數州に鐵道を敷設して、北東はボストン方面へ、南西は華盛頓方面へ、西はシカゴ方面へと、各方面の石油・石炭・鐵鋼・穀物等をどしどし産出する廣汎な地域に利權を得て列車を運轉してゐるもので、おのづから莫大な利益を得、その軌道の延長は一萬哩以上、日本の省線哩數に近い數字に達してゐる。但し、同會社の經營は軌條と貨車及び客車で、寢臺車とか、食堂車とか、

今日我々の乗る特別車とかいふものは、同系統子會社の經營になつてゐる。大統領などの高官や大富豪連は、みな自分だけの室を持ち、長途の旅行になると、調理・食事・喫煙の別室までつけるといふ。どうも米人のやり口はすばぬけてゐる。

扱て、特別仕立の一室に乗つて西南フライラデルファイヤに向ふ。その客室といふのは、一等ホテルのサロンに見るやうな回轉式安樂椅子百六十脚を備へた豪華なもので、隣りに喫煙室が付き、またアヴェック用の二人室にはダブル・ベッドが備へてある。元來會の豫定では亞米利加旅行は二等といふことになつてゐたのだが、香西日本人會理事の盡力で特に會社から便宜を受けたらしい。そこが私設會社のいいところ、驛長の手加減でどうにもなるわけで、いはば會社が國民外交の一役を買つて出た形である。これだけの特別車は歐洲では一度も経験しなかつただけに、我々は大いに満足した。

途中、車窓からニューアークやトレントンの工業都市を眺めた。郊外の光景はボストン方面と同じく未耕作の草原や森林が多い。百八九十里を急行一時間四十分で走り、五時十五分フライラデルファイヤに着いた。この時間は歐洲大戰當時以來

の習慣たる一時間進んだ方のもので、鐵道の時間が本當の時間のままに残されてゐるのは、我々にとつてちよつと不便である。だから五時十五分といつてもまだ暮れるには早く、依つて約一時間半自動車で市中を見廻つた。

フィラデルフィヤ概観

フィラデルフィヤ驛は、その天井八九十尺もあり、これを石で疊みあげ、歩道も石で張りつめ、びかびかに磨き込んである。これは紐育のペンシルヴァニア驛とはまた別個な印象で、美術的・文化的であり、歴史的に優雅な都市フィラデルフィヤの玄關口としてまことにふさはしいもの、これだけ建築美に富んだ驛は丁抹のコペンハーゲンの中央驛以外にはなかつたやうに思ふ。

フィラデルフィヤは、十七世紀の初め瑞典人によつて創められた町で、後ペンシルヴァニア植民地の首都となり、フィラデルフィヤ(「兄弟愛」の意)と名づけられ、一七七六年の合衆國獨立宣言もこゝで行はれ、有名な獨立會堂の鐘を打鳴らしたのであつた。十八世紀の末には合衆國の首都となり、

一時は米國第一の大都會を誇つたが、やがて紐育に凌駕され、更に新興のシカゴにも追越されたが、しかもなほ人口二百二十萬を算して米國第三の威容を持ち、文藝・出版等の中心地であり、後背地に石油・石炭の大産地を控へて機械・機關車・造船等の機械工業や、綿・毛等の織維工業や、皮革・製靴・藥品等の諸工業が榮え、且つ幅二哩もあるデラウエヤ河を利用して貿易も亦頗る旺盛、殊に石油の取引は世界有數といはれてゐる。

今日は日曜のせいで、市街はうら淋しく、自動車だけが動いてゐる。しかし、そこにおのづから宗教心に敦い市民の傳統が感じられ、さすがに三百年來の風格を帯びた都會であることがわかる。

夜に入つてホテル・ペンジャミン・フランクリンに投じ、明日の見物を楽しみつつ寢に就く。ホテルの名は、フランクリンがこの町に居住し、獨立戰爭前後の民心に大なる影響を與へたことによつて名づけられたものなることはいふまでもない。ホテルの前にフランクリンの椅子にかけた姿の銅像がある。

「第四十九信」華盛頓のホテル・ワシントンにて認む

フィラデルフィヤ見物

九月二十日。晴。

今日はフィラデルフィヤを見物する。こゝはフランクリンの市であり、またジョン・ワナメーカー百貨店やカーチス出版會社の町でもある。

朝、ホテルの前から大型バスで出發、以下ノートをとつておく。

(一) 壯大な郵便局。ウエスチングハウスの電機工場。フランクリンの創立に係るペンシルヴァニア綜合大學。この市には二つの大學と三十のハイスクールがある由。ペンシルヴァニア大學は地域廣大で運動場などもよくできてゐるが、ハーバード大學のやうな靜閑と風致には恵まれてゐない。醫科大學の附屬病院の建物見ゆ。

(二) 學校にも公園にも市中の要所にも、到るところフラン

クリンの銅像立つ。また古い町だけに、英國風の赤煉瓦の家がかなり目につく。フランクリンに對する尊敬といひ、質朴な住宅といひ、どことなく奥ゆかしき宗教的な雰圍氣あり、事實この邊の人間には禁酒家が多いとのことだ。

(三) フェアマウント公園。公園に向ふ道路は二十米から三四十米、公園は紐育のセントラル公園の五倍もある大きなもの。ここにもフランクリンの銅像、またリンコルンの銅像や佛蘭西の寄附したジャン・ダークの銅像や日本から寄贈した櫻樹などあり。櫻はまだ小さいが、川を挟んで植ゑられ、なかなか趣きがある。この川で大學のボート・レースが行はれる由、ボート俱樂部が何十軒も並んでゐる。

(四) 博物館。小丘の上に四方から眺められるやうに建てられた、間口百間、奥行六十間ばかりの美しい建物。およそ一萬坪の前庭には大噴水あり、斜めに吹出す水に技巧がこらしてある。またワシントン馬上姿の五十尺の大銅像あり、臺石の周圍には獨立戰爭當時の戰死將兵や七八種の動物の像があり、米國の彫刻としては美術的にも優秀なものと評されてゐるとか。

(五)インデペンデンス・フランクリン・ワシントン等の盛り場通り。リンカーン博物館。市教育館。天文學研究所。憲法發布記念閣。古いカトリックの教會。ブロード・ウェイ驛。

(六)ジョン・ワナメーカー百貨店。前の紐育のところで書いた世界第一のワナメーカー百貨店の本店はこのフィラデルフィヤにある。紐育支店の建坪二萬五千坪に對し、フィラデルフィヤ本店の建坪は一萬五千坪で、彼には遙かに劣るが、しかしこれもまた十階建の堂々たるもの、九階・十階は事務室に當て、八階までを賣場に用ゐてゐる。先づエレヴェーターで八階に登り、順々に視察する。



フィラデルフィヤのホテル・ベンジャミン・フランクリンのマーク

八階——食堂、中央は二十間に三十間で六百坪の室、左右は各々十間に二十間で二百坪づつの室、合計で一、千坪、二千人の客を收容できる。調理室には黒人が混つて立働いてゐる。食堂の三分の一に、銀行・郵便局・保險會社等の出張所あり。

七階——半分は絨氈専門、半分は



ホテル・ベンジャミン・フラクリンとフランクリンの銅像

樂器・樂譜等。

六階——ガラス器・陶器・家具・玩具等。

五階——大型家具・寢臺・ストーヴ（九月でも實際に焚いて陳列）・寫眞・油繪・日本畫（深水や清方の美人畫あり）等。

四階——電氣器具・金物・臺所用具等。

三階——服飾品・附屬品・子供服・靴・帽子・毛絲製品等。

二階——裝身具・靴・トランク・毛布等。

一階——化粧品・ハンドバック等。

家具の販賣面積、殊に絨氈のそれが實に廣いことは紐育のワナメーカーと同様。服飾部は既成品も多いがまた誂へも少なく、客を別室に導き、鏡を張りめぐらしたところでスタイル見本を着せてみて註文をとる。ゆつくり客の氣嫌をとり、つとめて似合つたスタイルのものを見立てる。その點、日本より悠長且つ親切である。

ワナメーカーの現社長は三代目の人、フィラデルフィヤ本店は紐育支店の半分位しかないが、しかし高級品の多い點ではさすがに特色がある。東京・大阪の一流百貨店を著しく凌駕できる店は歐洲には乏しかつたが米國へ來てはじめて三ヶ所存在することを知つた。即ちワナメーカーの本支二店と、後にいふシカゴのマーシヤル・フィールドである。ただかういふ店でも、客の數少く、子供連れがをらず、また店員が十分でないことは日本の百貨店に比して印象を異にする。客の少ないのは本當に買物をする人だけが來るため、子供連れのみ

ないのは決してデパートを遊び場と思はぬ習慣のせみだが、店員の配置がまばらなのは、給料の高きに因るとはいへ、買物の手間どれる點は、不便不快といはねばならない。

米國では女學校卒業の十八九歳の者で六日間勤務の週給八弗乃至十弗、一日平均邦貨五圓前後に相當する。入社早々でもこんな有様の上に、進級が極めて早いから、人件費は日本での七倍から八倍を要し、これが、所在地の四圍の狀況の變遷・盛衰と共に、米國百貨店の二つの大きな悩みの種である。歐米百貨店の販賣利益は大體五割以上が普通で、さうしないことには、到底三分・四分の配當はできない。専門小賣店でも同じことだから、百貨店だけが高いといふ聲は聞かない。しかし歐米を通じて百貨店には百貨店税といふ特別税があるし、最近どこでも成績香しくなく、世界的にいへば行詰つてゐる。それは、百貨店の數の増加と、月賦通信販賣・均一店の發展と、専門小賣店の勢力加増等のためで、日本とは事情を異にする。

(七)ギンベル百貨店。ワナメーカーの附近にギンベルがあり、これは紐育にも連鎖店を有つ百貨店だが、ワナメーカー

に較べれば、半分もない店で特筆する程のこともない。

(八)カーチス出版會社。市の中心から稍と離れたところにあり、サータデー・イヴニング・ポスト以下三大雑誌を發行する世界第一の出版會社である。間口五十間、高さ七八階位の質實堅牢な建物。入口は事務所、その奥に應接室、正面に縦三四間、横十間もあらうかといふ大きな油繪懸り、米國文化の急激な發展をシムボライズした畫面を見せてゐる。前庭に噴水、その向うに部門別の編輯室並び、また社員や職工の娛室樂・談話室・食堂・會議室・圖書室・表紙及び廣告圖案陳列室等がある。三大雑誌の表紙畫は懸賞募集により、巧拙よりも先づいきなり目立つことを第一條件としてゐる。

感心なのは、重役も職工も全く同一の食堂や休憩室を共用し、料理も同一のものを食ひ、そこに何等の階級的差別のないことだ。また調理場などの清潔で衛生的な點も敬服に堪へない。

イヴニング・ポストは週刊で三百五十萬部發行する。廣告料は發行部數によつて割出すが、一頁で七八千弗もするのがある。外に月刊で三百萬部刷るレーディス・ホーム・チャー

ナルと月刊で百六十萬部刷るカントリー・ジェントルマンと

があるが、いづれも菊判倍大以上の大きさで數百頁のもの。それでゐて、イヴニング・ポストは五仙、他は十仙といふ唯同様の安さ。しかも發行日には全米の讀者が、ここから汽車・自動車で何晝夜もかかるやうな遠隔の地にあつても一時に手にできるやうに異常な苦心が拂はれてゐる。

工場を視察。建物は古いが輪轉機の數は大したもので何階までも輪轉機で埋まつてゐる。印刷・製本・發送の諸工程を見る。荷造りが濟むと、郵便局・鐵道會社・飛行會社等からどしどし受取りに來る。

この三大雑誌は古い歴史を有つてゐるが、二十年前には破綻を生じて一時經營難に陥つたことがある。それを現在の支配人の努力で更生させたのだといふ。資本金は何千萬弗といふのであらう。労働時間は八時間制で、一晝夜二交替を以てのべつ幕なしに仕事をやつてゐる。

(九)獨立閣。一七七六年七月四日合衆國の獨立宣言の行はれた記念會堂である。これに數十坪の質素な建物が附屬し、ワシントンの日常使つた机・椅子等の家具や幕僚と會議した



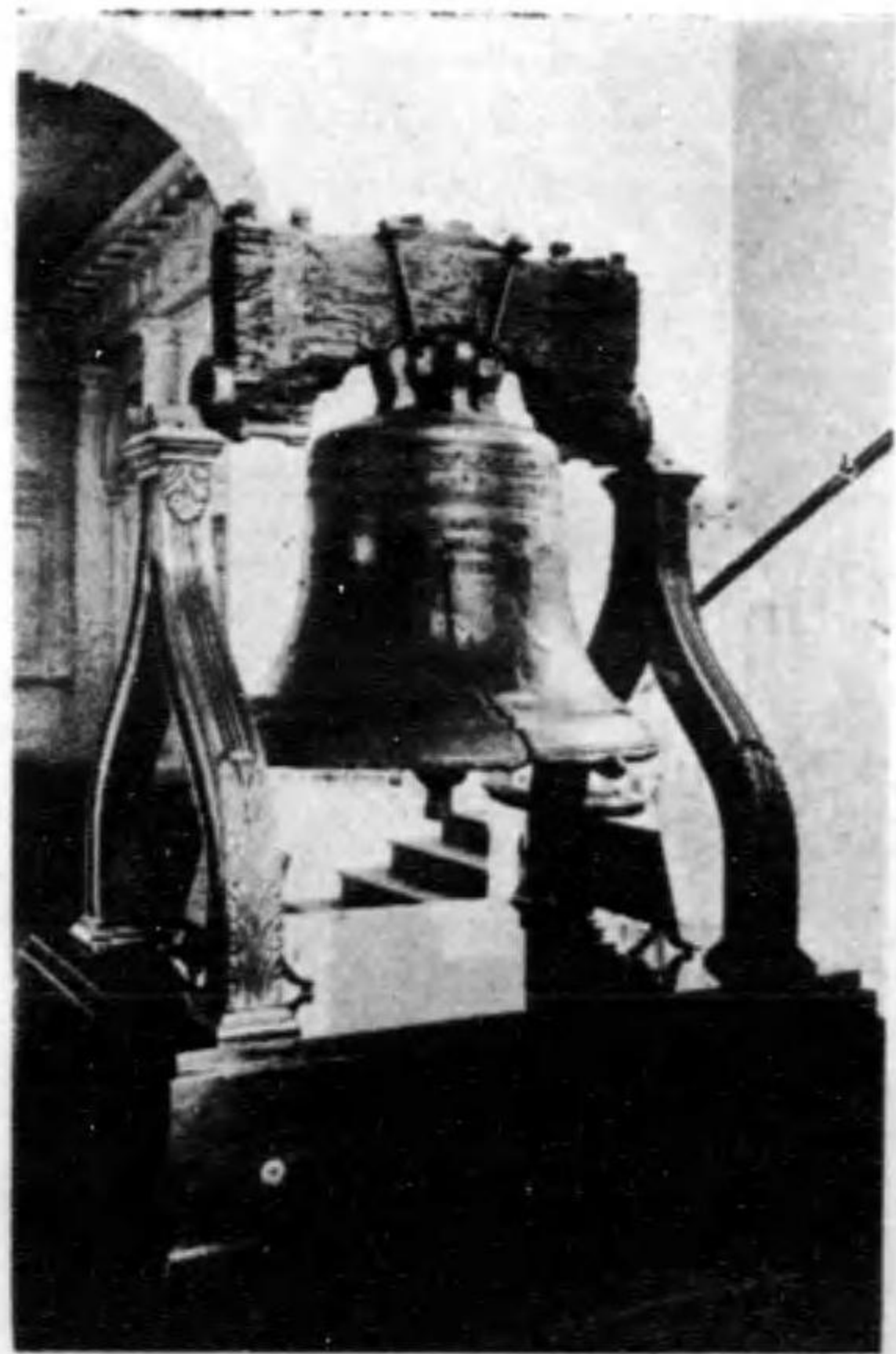
フィラデルフィアの獨立閣

大テーブルが、多くの書類と共にそのまま保存陳列されてゐる。廊下の中央に有名な「自由の鐘」が置かれてある。當時は無論鐘樓に釣つて鳴らしたのであらう。高さ約一米半、形は日本の釣鐘に類似し、また何のために生じたのか大きな裂傷がついてゐる。

かくしてフィラデルフィアの見物を終つたが、同市八體の印象をいへば、人口二百二十萬を擁する傳統的・歴史的な落

着きある一面と、米國第一流の貿易港としての、重工業・電機工業の殷賑を極める反面とを併せ有し、しかも資本力充實せるため、都市そのものの生活力も堅實に伸展しつつある大都だといふことになる。在留邦人は案外少く、機械工業關係の技術員が日本の各會社から派遣されてゐる位のものでこのことである。

華盛頓に至る

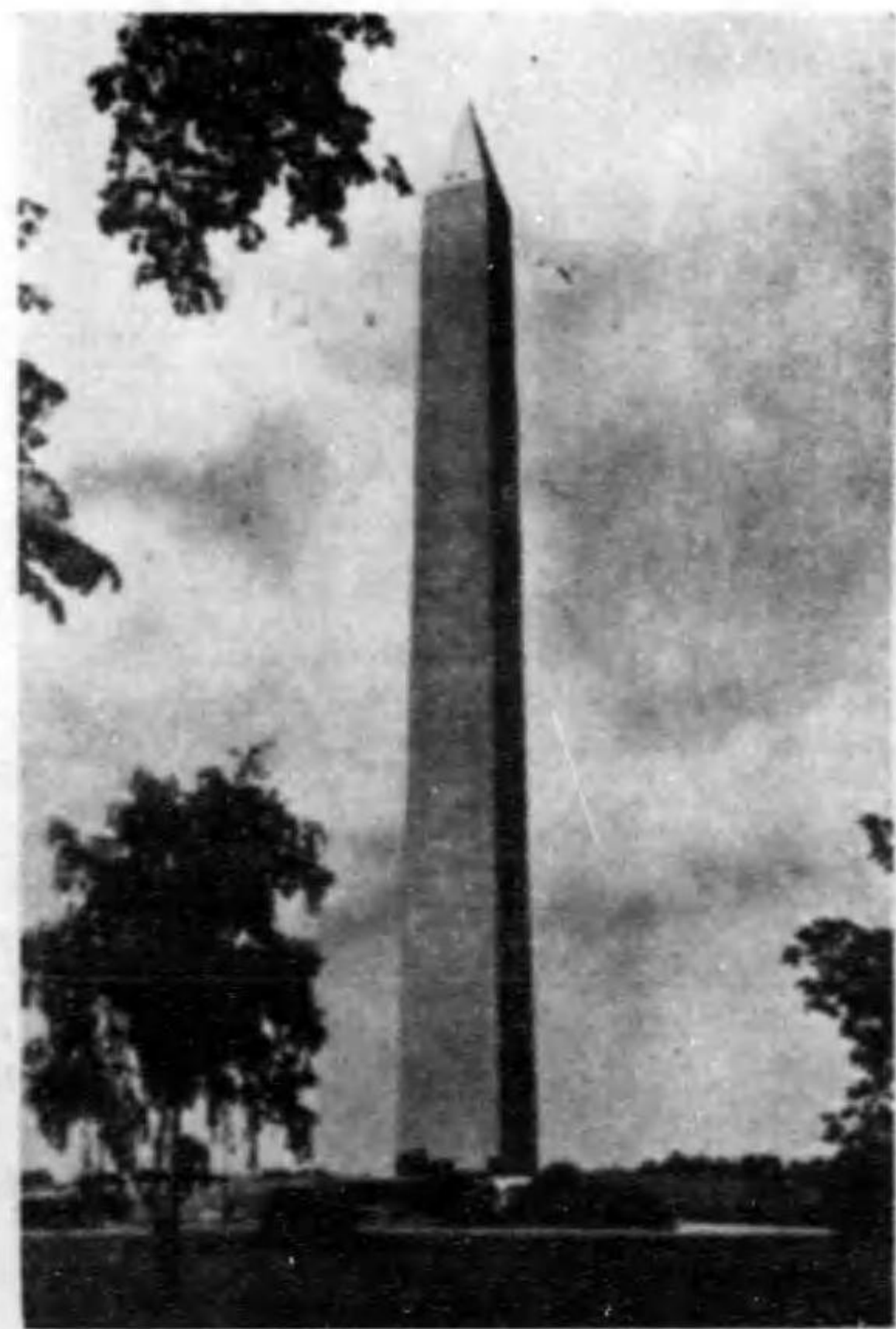


獨立閣の「自由の鐘」

夕四時二十分、急行列車でフィラデルフィア發ボルチモアを経て華盛頓に向ふ。この間約九十哩を二時間二十五分で走り、六時四十五分華盛頓着。日本の列車に比して二割増以上のスピードである。

華盛頓のユニオン驛は、大合衆國の首都の玄関口だけあつて、歐洲各地でも嘗て見受けなかつた位廣大なもの。間口八十間、奥行五十間、およそ四千坪もあらうか。高さはフィラデルフィア驛には及ばぬが、なほ六七尺位はあらう。邦人敷人と米人ガイドの出迎へを受け、三十四人乗りの大型バスでホテル・ジョージ・ワシントンに至る。途中、キャピトルの丘の國會議事堂を望んで、亞米利加政治の根幹をなすものはこれなるかと領いた。ホテルは二流ではあるが、新様式の建物でなかなか羽振りがいいらしい。中心街ベンシルヴァニア大通りにも近く、大統領官邸ホワイト・ハウスにも遠くない。

九階の食堂で晚餐の後、佐多・金の兩氏と折柄の十五夜の満月を賞しつつ散歩。夜氣乾燥し、且つ既に冷爽なるを覺える。マールといふ遊歩場の一部の楡や檜の並木道を通り、ホ



華盛頓・ワシントン記念塔

ワイト・ハウスの四萬坪もあらうかと思はれる楕圓形の庭苑の周圍を巡り、芝生の廣場を横切つて、小丘の上に聳えるワシントン記念碑に至る。高さ百八十餘米の巨大なオペリスクの塔で、頂上十數米はピラミッド狀に尖つてゐる。内部は空洞で石段またはエレヴェーターで頂上近くまで登り得るといふ。明日時間があつたら、これを攀ちて全市・郊外・ボトマツク河の流域などを眺める豫定である。この塔は、東方キャ

九月二十一日。晴。

ピトールの議事堂に、北方はホワイト・ハウスに、西方はリンカーン記念館・無名戦士の墓・ボトマツク河に對し、附近は官衙街や名所舊蹟に埋まつてゐるといふ好位置にあり、それにもまた四方の官廳の屋上から強力なサーチライトをこれに向つて集中させ、且つ塔自体が土臺脇の二間餘りの長方形の穴から上空に電光を放射してゐるので、塔も塔のめぐりも白晝の如くである。塔の工費は約五十年前の創設當時百數十萬弗を費した由で、粗質ながら大理石で疊まれてゐるので、その夜景は全くすばらしい。材料の石は各州から寸法をきめて蒐めたとか、大體は西部山岳地方の産出らしい。鐵筋コンクリートの塔などに見られぬ趣味が感じられる。

午後九時ホテルに戻り明日の見物を樂しみつつ寢に就く。

〔第五十信〕華盛頓巡覽中及び 華盛頓・バツファアロ間車中にて 認む

華盛頓見物 A

ホテル・ジョージ・ワシントンは、好位置に恵まれ且つ營業振りも懇切を旨とするせむか、近來上下兩院議員や官吏・紳商の宿泊・飲食する者次第に多きを加へてゐる。客室は白茶に塗つて上品な感じを漂はせ、九階の食堂も極めて居心地がいい。食堂の隣りの幅四間、長さ二十五間位の日除・雨除のついたサロンも特色がある。サロンの三方の窓からは華盛頓の三分の二が展望でき、冬季を除いては春秋の眺めに夏の涼みに常に旅客を喜ばしてゐる。西方は大藏省を隔ててホワイト・ハウスを眼下に見降し、ワシントン・リンカーン兩記念館から西南のボトマツク河や郊外の幾多名所舊蹟に富む丘陵を望み、東方にはキャピトルの丘に大議事堂が聳えてゐる。昨夜も今朝も九階の食堂で食事をとり、而してこのサロンからあくまで夜景・朝景を愉しんだ。食事は朝一弗、晝夜二弗。

午前十時半、三十四人乗りの大型バスで出發、紐育以來の香西氏と、ホテルのガイドと、通譯の渡邊氏等附添ふ。先づ日本大使館官邸に齋藤大使を訪問することにす。途上の觸

目次の如し。

(一)ペンシルヴァニア街。キャピトールと大蔵省を結ぶ幅員五十米の大通り。大小の商店・レストラン・映畫館等軒を並ぶ。街上、青く塗つた流線型の電車走る。この電車各國の都市にその比を見ぬ位美しい。

(二)大蔵省。ギリシヤ風の大建築、百億弗豫算の總元締たるにふさはしい。附近に獨立戦争當時の諸將軍の銅像あり。

(三)出征軍人記念會館。歐洲大戰出征者を記念するもので、十五年前に建てられた由。商工會議所聯合會館。これは全米の商工會議所を統轄するといふ。

(四)高級品の小賣店街。市の股賑街からかけ離れた住宅地・官衙區域に近いところに、特にかういふ一劃がある。これが「レデーの天國、男子の失望する街」と評されてゐるのも無理はない。

(五)デュボンド將軍の銅像。歐洲大戰に際し、武器・彈藥に幾多の發明改良を施した海軍大將。この人の息子がやはり海軍士官で、先頃ルーズヴェルト大統領の愛嬢と結婚して全米の青年男女の心臓を躍らせたとか。

(六)マサチューセツツ・アヴェニユを経て、各國の大公使館街に入る。日本大使館はその中の比較的好位置にあり、建物も悪くはない。事務室は平屋で通路の兩側に數室づつあり、館員が働いてゐる。大使館官邸は前面に三百坪餘りの芝生を有つ三階建の建物で、平坪三百坪位の廣さ、應接室・談話室・茶之間・喫煙室等よく整ひ、歐羅巴の大使館と同様に帝展あたりに出品されたと覺しき日本畫がどの部屋にも飾られてある。政府の買上用品を利用するのであらうか。

名刺を通ずる。何か取込みのある様子なので問質すと、葉山といふ前途有爲の青年二等書記官が、この朝腎臟炎で急死したといふ。我々も十弗の花輪を靈前に贈つて哀悼の意を表した。

齋藤大使夫妻及び館員玄關に現れ、一同揃つて新聞社の寫眞班の寫眞に納まる。次に大使と懇談したが、事務相當に多忙に見受けられたので三十分間で辭去した。大使は五十五六歳か、瘦形の好男子で、いかにも齒切れよく、頭の冴えた人といふ印象を受けた。そして大使は、杉村佛蘭西大使と共に、我々が會つた駐外々交官十數名中最も傑物であることを

俺は直覺したのである。

齋藤駐米大使の談話

次に齋藤大使の時局談を少し筆記しておく。

「逐年歐米視察家の數が増え、各國の長所・短所を十分に研究して歸朝する人の多くなつていくことは何より愉快な現象である。日支の紛糾は日本帝國の進展に伴ふ止むを得ざる一階梯で、眞の東洋平和・東洋文化の樹立のためにはいかなる困難にも打克つの覺悟を要する。個人にしる國家にしる、一つの大理想を具現するには、一直線に簡單容易に行くわけはない。時には遠く迂回したり、或ひは流線型に進んだりせねばならない。諸君も旅行中上海電報あたりのデマなどに迷はされることなく、あくまで政府の決意と軍部の實力を信じて貰ひたい。

滿洲事變・上海事變當時の米國々内には二つの政治的潮流があつた。即ち純理派と功利派がこれであるが、スチムソンは前者の代表として屢々對日強硬聲明を放ち、輿論を引ずらうと試みた。然るに日本は堂々と信念を披瀝し、たとひ米國

(者著端右てつ向列前・妻夫使大藤齋央中列前)影撮念記るけおに館使大本日・頓盛華



の經濟封鎖あるとも屁とも思はぬといふ態度を示したので、先方はたちたちとなつた。その後も純理派は國際聯盟や九ヶ國條約を楯にとつて理窟責めにしようとかかつたが、やがて民主黨の世となり、政策も次第に功利的方向に轉換して來た。ルーズヴェルト大統領は先づ國內の秩序を整へ財政や産業を更生させることを主眼とし、中南米や比律賓等自國に多大の影響のある外交上の問題については勿論積極的に關心を有つが、支那については領土的野心は皆無だし、投資も貿易も英國の如く密接ではないし、今の分では支那から頼まれ英國から煽られても日支事變の渦中に飛び込まうなどとはしてゐない。持たざる國日本が決死の覺悟を以て事に當つてゐる際、敢てこれに抗議することは却つて自らに不利を招くものだといふことを辨へてゐる。それよりも、モンロー主義を根幹として功利の方法を擇んだ方が賢明だといふ風になつて來た。そのために、支那在住米人の撤退も早く、南京駐在米大使館の引上げ意見も列國に魁けてゐるのである。つまりルーズヴェルトはスチムソンの對日強硬論の失敗を知つてゐるのだから、日米關係は事變勃發當時よりも寧ろ親和を増してゐる

るといつてよい。東洋の問題は日本に一任して、我々は世界の大局から利害を打算しようぢやないか、その方が餘程伶俐だといふのが目下の米國外交策の主流である。米國をしてそれだけの認識をさせたのは、素より日本の實力のためであるが、一面また、南京空爆や米人の引上げについて不慮の過失の生ぜぬことを自分はひたすら祈る者である。云々。

木下支配人から二三の質問あり、野上當番團長の謝辭があつて、我々は大使館を立去つたが、齋藤大使のいかにも朗快に腹中一物も剩さずにはちまけるといふ天空快瀾な心意氣には全く感服させられ、これでこそ日米間のピンチは切抜られるであらう、外交官はすべてかくありたきものとお互ひに賞し合つた。

華盛頓見物 B

午後更に市中見物を續ける。

(七)華盛頓の歴史。再び市の外交街を通り、その整備せるを見るにつけてそぞろに建設當初のことが偲ばれて來る。この市は一七九一年佛人ピエール・ランファンといふ人の綿密



スウハ・トイワホ・頓盛華

な設計によつて成つたもので、一七九三年九月十八日大統領自ら聯邦議事堂の礎石を据ゑ、一八〇〇年合衆國政府がファイラデルフィヤからこの地に移轉し、爾來米國の首府として今日に至つたのである。市はキャピトールの丘を中心として東西南北に碁盤目形に街路を造り、キャピトールを中心に、八本の幅廣き對角線狀の街路を交叉せしめた。そして後者は美しい邸宅を以て縁どり、所々の廣場を横切るやうにし、その廣場には建國以來の歴史に輝く偉人傑士の記念碑を建設した。ピエール・ランファン

のプランは、その後の改良進歩のプランをも併せて、なほ完成中途にあると稱すべきであらう。百四十年の昔、ワシントンやフランクリンは、今日米國が人口一億七八千萬の世

界の富強國となり、華盛頓が人口六十萬の大都となることを果して想像し得たらうか。眇たる十三州の、しかも異人種を混へた結合からここまで歩みを續けて來た努力については、我々と雖も瞠目し刮目せざることを得ない。米國建國當時の開拓者の孜々たる姿はこの國美術の絶好の畫題で、博物館・美術館・百貨店等至るところ壁畫や大額面として描かれてゐるが、一抹の不安を藏しながらもなほ明朗な希望に燃えて農・鑛・牧の勞働に従ふ男女の果敢な面持を窺ふにつけ、往時のアングロサクソン民族の冒險進取の氣象に感嘆させられ、東部から中部へ、中部から西部へと北米大陸の開発をどしどし成就したこともさこそと偲ばれ、それにしても國父ワシントンの「志は須く遠大なるべし」を實踐した功績を讃へずにはゐられない。

(八)ホワイト・ハウス。楡の並木の間各國大使館が隱見するが、日本大使館に較べると大抵小さく粗末なので、「カウシて見るとタイシた建物もない。」などとくだらぬ洒落を飛ばしながら進めば、やがてホワイト・ハウスに至る。全米人憧憬の的たる白聖館！これは一七九二年に建てられた



華盛頓・キャピトル（議事堂）夜景

が、二回目の對英戦争の際に焼かれて石造の周圍まで黒焦げとなり、それを修理する目的で全體を白く塗り替へて以來ホワイト・ハウスの名を得たといはれる。表玄関を入れれば大廣間あり、廊下の兩側に各國使臣・外交官控室や大統領接見室などいろいろあり、至るところの壁間にワシントンを始め歴代大統領の等身大の肖像油繪掲げられ、中には夫人と一緒に描かれたものもある。また日露戦争の結末を告げるポーツマス

條約成立の油繪あり、當時用いた椅子・テーブル類も陳列され、それから米西戦争講和調印の畫面もあつたが、マツキンレー大統領の昂然と勝利を誇る姿に對し、西班牙公使は意氣銷沈の態を示してゐる。

ホワイト・ハウスの建物は壯大でないが、庭園の廣く美しいのには驚かされる。大統領は別に政務を執る役所を有ち、また私邸でも仕事をするが、公的な會見や儀式になると、ホワイト・ハウスを使ふ。毎年クリスマスには、地方の農民が手作りの野菜・果物・織物などを携へて押しかけて來る慣はしがあり、ルーズヴェルトは彼等に一々握手するといふ。

(九)諸官廳。ホワイト・ハウスの間近くの東側に希臘風建築の大藏省あり、また紙幣局・印刷局あり。西側には國務省・陸軍省・海軍省あり。更に商務省・華盛頓市廳・農務省・逓信省・所得税收納局・司法省・警視廳・公文書々庫等々あり。このあたり自動車の大洪水である。

(十)兩院議事堂。キャピトルの丘の六百米四方の公園中に立つ。當初の建物は一八一四年兵火に焼け、今のは一八二七年の再建と一八六二年の増築とを合せたもの。中央の本館

と南北の兩翼から成り、長さ二百米に亙る。青銅の自由の像の眞下に圓形の大廣間あり、そこには建國の歴史に因んだ繪畫・彫刻が飾られてゐる。南翼には下院、北翼には上院の議場あり、共に大理石造である。

下院への通路に金門灣頭の光景と初期移民の姿を現はした油繪の額面あり。下院議事堂を最上部の傍聽人席より見下す。議席は四百三十五、その中婦人席五。傍聽席は八九百人分位、ここには看守人はつかぬさうである。目下の政黨分野は、民主黨絶對多數を占め、同黨のバンクヘッド氏が名議長振りを發揮してゐる由。毎年一月の第一月曜に開會、八月末に閉會、この間幾度か休會があるといふ。

上院への通路の溜り場にはベルリ提督の兄に當る海軍の將軍が獨立戦争の小戦争に際して小さな軍用船に乗り敵地へ偵察に赴くところを描いた勇壯な油繪が掲げてある。上院議事堂の傍聽席も八九百人を收容できる。議員數は四十八州の各州二名平均、任期は六ケ年、三ケ年毎に半數が改選される由。上院に限り、辯論終結の動議を出すことができず、小數派の議員の辯論を壓迫することなからしめてゐる。そのため

三日や五日期間を延長させることも珍らしくないといふ。議事堂表玄関の數十階の石階を登りつめたところに、石疊の室あり、新任大統領が大僧正の前に宣誓式を行ふところである。

東側の南に議員圖書館あり、ルネッサンス式の壯麗な建物で、議員の研究所たると共に一般にも公開されてゐる。全米の新刊出版物は必ず二部づつここへ寄贈する習慣あり、新舊藏書五百萬部を超えるとのことだ。東北隅には眞白な大審院法廷あり、國家の大事はすべてここで決せられる。

(十一)黒人街。大西洋船中ではじめて黒人を見、異様な感に打たれたが、紐育・フィラデルフィアの黒人街の旺んなるには更に驚いた。全米の黒人は全人口の一角に當る千四百五萬人に達してゐるから、大都市に黒人の多いのは當然であるが、この優雅な華盛頓にも全人口の一角たる六萬人以上の黒人の居住する街がある。彼等は勤勉に働くので、食堂・列車のボーイを初めあらゆる職業に従つて重寶がられてゐるし、米人にとつては慣れつこになつてゐるのでもあらうが、我々の眼には何となく氣持悪く、醜惡な印象を受けることを否め

ない。

(十二)植物園・動物園。女性大臣のゐる労働省。兵器廠・健康保険省。

(十三)ジョージ・タウン。華盛頓市發祥の地で、百五十年前に作られた煉瓦造りの家屋が多く、その一角に黄色に塗られた古い家があるが、これこそ米國建設の母胎とも稱すべき紀念物で、即ち一七九〇年フィラデルフィアで獨立宣言が行はれて約十年の後、國府を華盛頓に移すべく、ワシントンやフランクリンがこのささやかな家に集つて大都市計畫のプランを樹てたのだといふ。

(十四)ポトマック河。東海岸でも有數な河川の一つで、華盛頓から河口まではなほ百七八十哩あるが、この邊でも相當の川幅を有ち、隅田川以上の水量を湛へてゐる。二三十哩下れば隅田川の三倍大位になり、汽船の通航も相當自由がきくといふ。一帯大平原で、河川の落差が殆どなく、流れは極めてゆるやか、海潮は實に二百哩も逆流するので、これを防ぐために巨大な堤防や人工湖沼が設けられ、そこに一種大陸的な風致を醸してゐる。

ポトマック河上の三四の大橋は例の開閉式のもので、河岸の鬱蒼たる樹木や小丘と共に、一幅の名畫に接する思ひがある。橋を西へ渡れば良質煙草の産地ヴァージニア州になる。

(十五)騎兵・砲兵の兵營。士官の住宅・未婚士官のアパート・各種娛樂設備など見るにつけ、亞米利加軍人の日常の氣分といふものが察せられる。

(十六)丘上から全市を俯瞰する。瑞典のストックホルムを偲ばせる位美しい都である。

(十七)國立墓地。近代式な設計によつたもの、陣歿將兵四萬六千人の墓がある。無名戰士の靈は一括して記念塔に合葬してあるが、その他は大小雜多で、弗の國らしい贅澤な墓も見える。無名戰士の墓には、我々も國民外交の一助として花輪を捧げて冥福を祈念した。墓地の森の中には記念館や二三の教會堂も建つてゐる。

(十八)造幣局・印刷局。フーヴァの不況時代から、ルーズヴェルトのニュー・デイル時代へかけて、これらの役所は貨幣や公債の發行についてさまざまな役割を演じたことであらう。幾たびか恐慌に見舞はれても結局破綻を生ぜしめぬと

ころはさすがに金權の國だけのことはあるなどと思ふ。

かくして四時間餘りの視察を終り、午後二時、ホテルに戻り、遅い午餐をとる。そこへ紐育で厄介になり、ボストン行きにも幹旋の勞をとつてくれた上出氏が邦人の新妻同伴で突然やつて來た。上出氏は米國史その他の研究家で、著述の傍ら日本人旅行者の案内などをしてゐる人、二年前前夫人に死別、最近今の夫人と結婚、ホネー・ムーミン旁と出掛けて來たのだといふ。

マウント・ヴァノンにワシントンの故家を訪ふ

上出氏の勧めにより、ジョージ・ワシントンの隱棲・終焉の地、マウント・ヴァノンを訪ふことにし、同氏夫妻と佐多氏・松田氏・俺の計五人、午後三時半出發、數時間の餘裕を利用して米國第一の聖地を、しかも上出氏の専門史家としての説明を聞きながら廻り得たことを幸ひとした。華盛頓・ヴァノン間は約二十哩、車賃一人往復三弗五十仙。

上出氏夫妻はインフラワーとかいふ我々のホテルよりも一

格上等のホテルに泊つてゐて、我々の乗込んだ高級大型のクライスラーもそのホテルで心配してくれたものだといふ。車中上出氏曰く、「米國での旅行は一流ホテルに限る。團體では止むを得ないが、夫婦連れなら一流ホテルに投宿してあらゆるの我儘勝手なならべ、しかも無駄遣ひをせぬことを心得てゐなければならぬ。米國では自分の正しいと信ずることを遺憾なく主張するのが常識で、遠慮や尻込みは愚の骨頂。そんな消極的態度でゐたら、どしどし人に追越され、ひどい目にあつてしまふ。對人的には、婦人に對してだけは深甚の注意を要するが、しかし大體は失禮なことをせぬ限り、寧ろ天真爛漫に振舞つた方がいい。こんな上等の車をよこしてくれるのも一流のホテルだからこそで、二流のホテルではとてもかうはいかない。」云々。

車は今日午前中視察した官廳街を抜けて郊外に出で、ポトマック河に沿うて南下する。以下、車上觸目のままに記しておく。

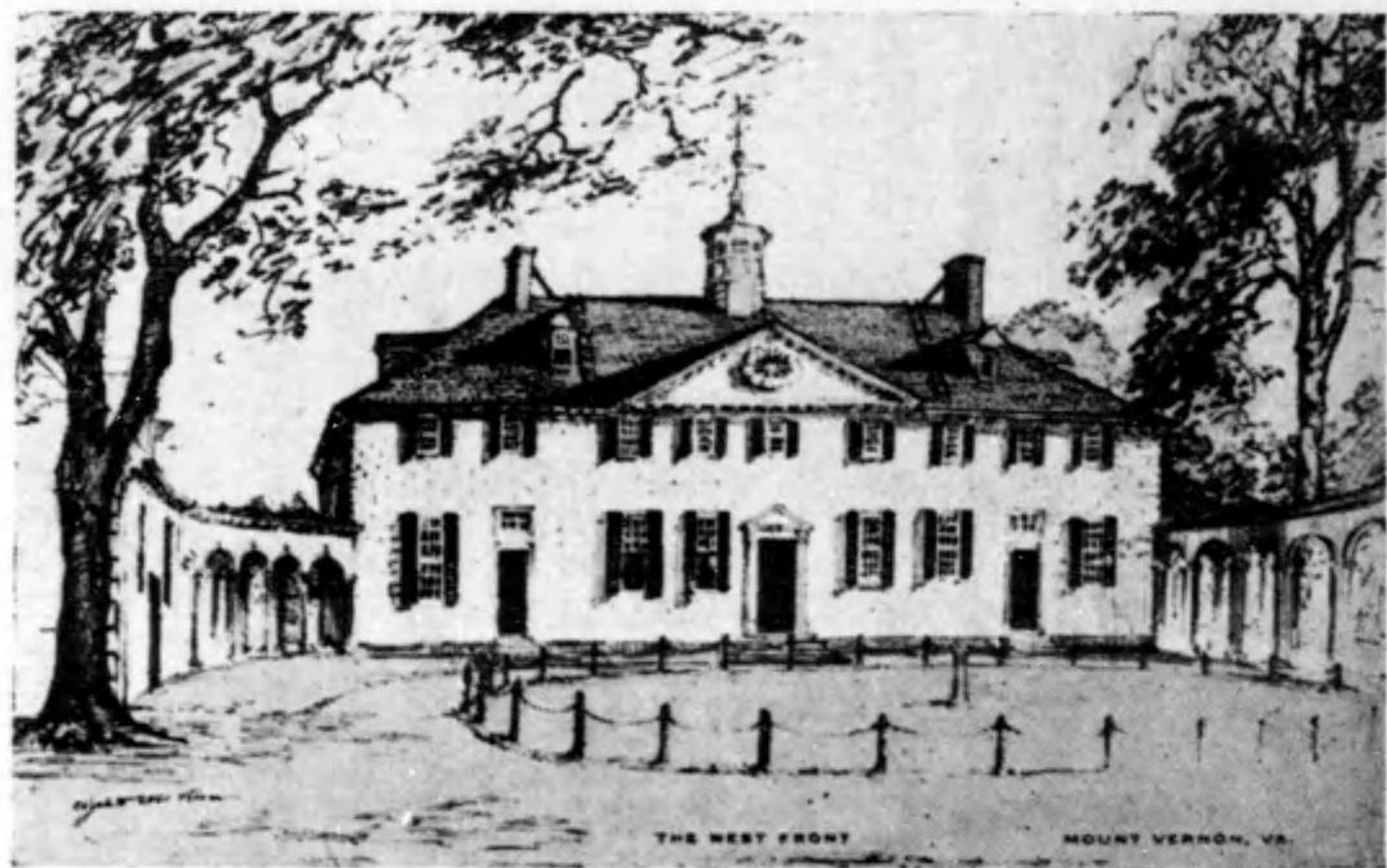
(一)ポトマック橋。第十四街橋、長さ十分の八哩、開閉式。左岸の街道を南へ進む。この大道はマウント・ヴァノン

巡拜者の便をはかつて華盛頓府政廳の特設したもの。
 (二)フリー・メーソンの記念館。世界的に魔手を弄するとかいふ有名な秘密結社。日本でも屢々問題になつたことがある。これが創案者はワシントンだといふ説もあるが、眞偽果して如何。建築は一九二七年の竣工。
 ポトマック河は、このあたりから河口まではなほ百哩近くもある。

(三)百五十年前に出来たヴァージニア州最初の州廳。次にワシントンが青年時代にいつも通つて修養に努めたといふ教會。當時の牧師の人格がワシントンの上に大分感化を及ぼしてゐるといふ。一七三八年の建築、それより三十數年後に獨立戦争が始まつたのである。

(四)アレクサンドリヤ町。今は人口二三萬の町に過ぎないが、百五十年前にはこれがヴァージニア州第一の都會であつた由。ワシントンの創立したワシントン・スクールがある。

(五)マウント・ヴァノンを訪ふには、自動車による外に、ポトマック河をモーター船で下つてもよい。船の方は毎年四月一日から九月十日まで營業してゐるといふ。



家の焉終樓隱ントンシワ・ンノアヴ・トンウマ

乞うてゐる。中には新婚旅行風の一組も見えらる。そこへ上出氏が割り込んで、「我々は日本人であるが、千里を遠しとせず、ワシントンの高風を敬慕するのあまり

車中期せずして南北戦争の話が出て、南軍のリー、北軍のリンカーンやグラントなどの人物評に花が咲いたが、リー將軍は非常な徳望家でしかも豪快味を有つたなかなかの大人物で、グラント將軍よりも寧ろ一枚上手の男だつたらしい。勝てば官軍敗れば賊軍、彼程の英傑も戦ひ利あらずしては如何ともし難く、これに反してグラントは後大統領となり、日本へも來朝したことがある。グラント・リーの二將軍は、平和恢復の後一堂に會し、お互ひに手を握り合つてこれから共に米國の發展に盡瘁しようと思つたさうだが、この會見は我が西郷・勝のそれに酷似するので、リーを勝に比した歴史家もあつたといふ。南北戦争の大勢決したのは我が慶應元年のことであり、西郷・勝と同時代だつたことも興味が深い。ヤンキーとしては最傑作の佳話であらう。

午後四時、マウント・ヴァノンに着く。低い丘に質素な門が立ち、門前の廣場には數十臺の自動車が屯する。今正に門限にならうとしてゐるらしく、多くの者は門を出て、タクシーなりバスなり徒歩なりで、三々五々歸路に就かうとし、また時間一杯に駆けつけた何組かの者はしきりに門番に入場を

今日わざわざここへやつて來た。規定には五分間遅れたが、何とか入れてくれ。」としきりに雄辯を振つたので、門番氏もこれを諒とし、我々をも他の洋人等をも入場を許可してくれた。

(一)ジョージ・ワシントンは、一七九七年再度の大統領の任期満了と共に三選を辭してこの地マウント・ヴァノンに隱退したのであつて、翌一七九八年佛蘭西との國交危殆に瀕するや、アダムス大統領の懇請によつて再び軍司令官の地位に就いて難局の打開に當つたが、結局一七九九年十二月十四日マウント・ヴァノンに歿したといふ。ワシントンはヴァージニア州ウエストモアランド郡の生れだが、マウント・ヴァノンは義兄の領地でもあり、ワシントン自らも青年時代ここに住んだといふゆかりがあつたらしい。

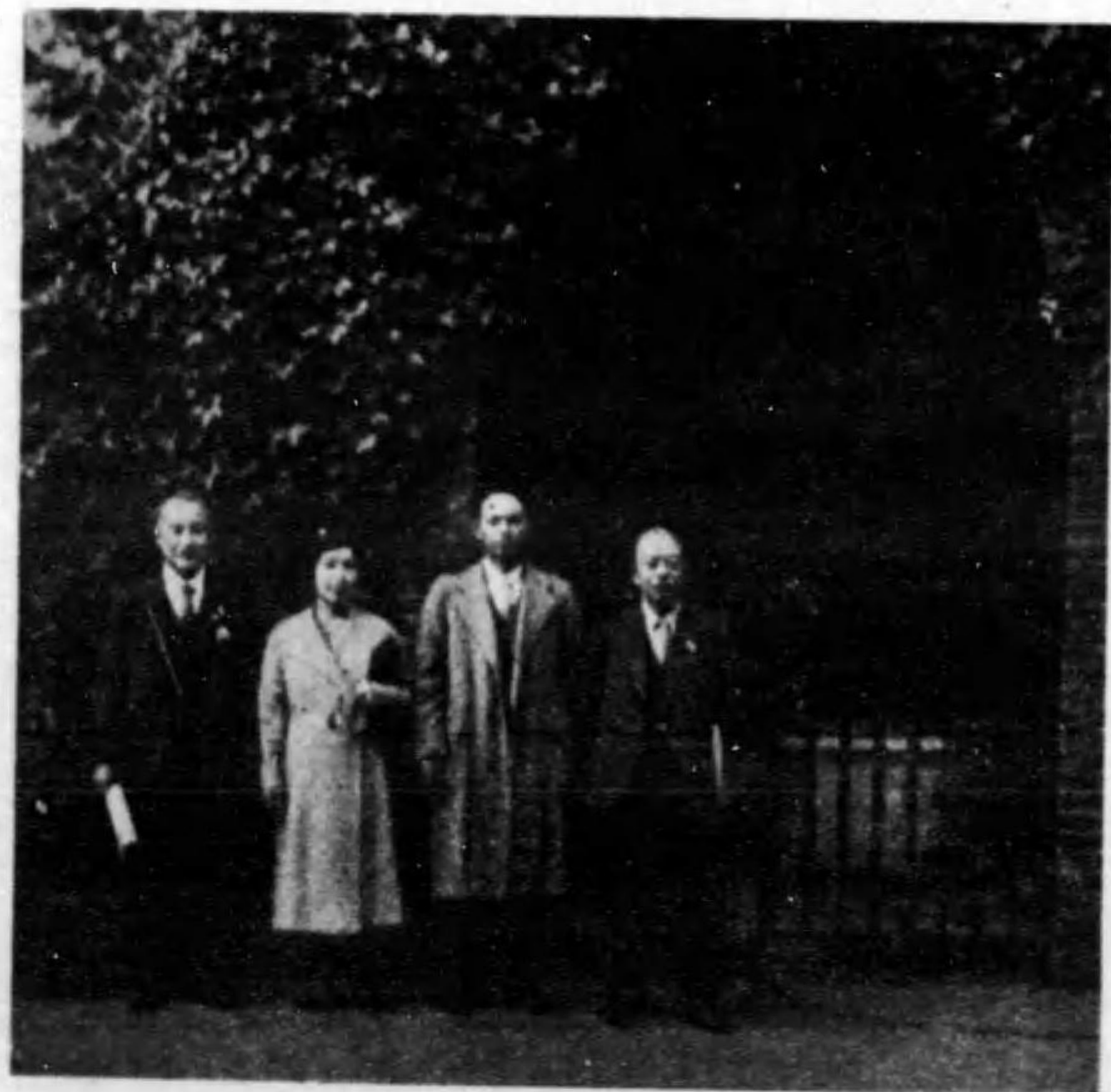
獨立戦争以前の米國はどんな風であつたか？ マウント・ヴァノンで買つた寫眞帖に要領のいい簡単な歴史が書いてあつたのを次に書いてみれば、——コロンプスの大陸發見が一四九二年、その後歐洲列國の東海岸各地に於ける探險的・冒險的移民は逐次増加し、皆思ひ思ひに自分に適する氣候風土の地を選んで割據した結果、西班牙・佛蘭西・和蘭・葡萄牙

・瑞西等の人種が入亂れて争鬪を續けたが、結局は後に及んで入國した英吉利が漁夫の利を占めることになつた。英吉利に次では佛蘭西と西班牙が優勢で、これら三國はなほしばらく人種的軋轢を反復したが、しかし十六世紀の末葉以來は、斷然英吉利の勢力強大となつて、他民族を追拂ひ、または買収し、一方土人は極力手なづけて権力下に收めてしまつた。……それから獨立戦争の時代に入るのである。

(二)ワシントンが自ら作つた花壇がかなり廣く残され、今なほ園丁が手入れしてゐる。ワシントンはここで農事もやつたといふが、畑の方は残つてゐない。

(三)ワシントンの家は、間口二十間、奥行八間位の低い二階建、木造ベッキ塗り極めて質素なもの。内部には、應接室・寢室・食堂・讀書室・子供の遊戯室・臺所等あり、それらにはワシントンの使つた用度品が生前のまま備へられてゐたが、華々しいその一生涯に比して、すべてただ簡素の二字に盡きてゐた。

ワシントンの家はヴァージニア州の郷士のやうな家柄で、祖父の時代にはここに五千エーカーの土地を有ち、父の時代



マウント・ヴァノン・ポトマック河畔のワシントンの墓
前にて(向つて左端著者・中央上田氏夫妻・右端佐多氏)

になつて半減したが、それを義兄が莊園として所有、それが今日記念館の立つ地面である。ワシントンは五十八歳で初代

大統領となり、二期八年の任期を終へて、六十六歳で故山マウント・ヴァノンに歸臥し、閑日月を送り、六十八歳を以て歿したのである。二十八歳の時若き寡婦マルタと結婚したが、實子はなく、マルタの連れ子に夫人を迎へ、その孫を愛育してゐた。姪の遺産を繼いで、物質的にも恵まれてゐたといふが、こんなことは勿論英傑の心事には直接の関係はない。

本邸の傍に厩がある。乃木大將邸の厩の立派なことを思ひ出させるやうななかなか美事なもので、生活は質素でも馬は大切にするといふ氣持、東西變らぬ將軍の心境をゆかしく思つた。

(四)ワシントンの家からだらだら下りに、ポトマック河畔に出る。その途中にワシントンの墓があるのを一拜した。

かうして、マウント・ヴァノンの見物を終り、華盛頓へ戻つたのは最早黄昏時であつたが、まだ出發時間まで少し間がある。この塔のことは前日書いた通りで、高さ百八十餘米、これをエレヴェーターで登つて、四圍を大觀した。別に階段もあるがその數八百九十六、これによれば、伯林の凱旋記念塔

の三倍以上の高さであらう。我が 秩父宮殿下がここへ御成りにならせられた時には、御下降の際特に階段をおひろひ遊されたと承る。

夕六時半、ホテル・ワシントン着。休む暇なく荷造りにかかり、七時半華盛頓發の列車に乗込んで北々西バツファロに向ふ。上出氏夫妻には厚く謝意を述べて別れた。バルチモアを経てより、愈々大陸を驀進するといふ感深し。

「第五十一信」ナイヤガラ・フオ ールスのホテル・ナイヤガラに て認む

バツファロー 瞥

九月二十二日。晴。

昨夜七時半華盛頓を發し、夜もすがら疾走しつづけた北行列車は、この朝七時半、バツファロに着いた。

驛から直ちに三十六人乗の大型バスにより、通りがかりの序を以て同市を見物する。

バツファロは十九世紀の初頭、和蘭系米人の開發によつて出来た町で、今人口六十萬を算へる米國第十三位の都市。ベシルヴァニアの石炭はここから水運を利用して各地に運搬され、チユルース附近の鐵礦は豊富な石炭によつてここで製鐵・製鋼されるもの少からず、その他織詰・皮革・車輛・織物・石鹼・澱粉・醸造・石油精製等の諸工業また盛大に、市街はために眞ツ黒けになつてゐる。

市中で見るとべきものは、マツキンレー記念館、これは米西戦争當時の大統領(第二十五代)で、一九〇一年バツファロで演説中、無政府主義者のために暗殺された。當時傷の手當を受けた家は今もなほ残つてゐる。

マツキンレーの銅像・大學・公立圖書館・學生俱樂部等の外観を見、四四二エーカーの壯大な公園に入る。至るところ、重工業・電機工業の工場が目につく。

バツファロはエリー湖岸にあるが、ここからナイヤガラにかけて十一軒の間に波止場が作られ、スーペリオ・ミシガン・ヒューロン・エリー・オンタリオの五大湖水運の中心をなしてゐる。一方紐育方面へは、東方トロイまでエリー運河

あり、トロイからはハドソン河によつて南方紐育に連結してゐる。

ナイヤガラ瀑布とナイヤガラ・フォールス市見物

九時半、バスはナイヤガラ・フォールスの町に着き、一旦ナイヤガラ・ホテルに入つて休憩の後、この世界的な瀑布を見物する。

ナイヤガラの瀧は、一六七八年ヘンネピンの發見にかかるといふが、既に一六五七年出版のカナダ圖にオンチャラ瀧の名で出てゐるといふ。エリー湖からオンタリオ湖に流れるナイヤガラ河の流路中に懸る大瀑布で、ゴート・アイランドで二分され、加奈陀瀧・亞米利加瀧となる。前者はその形の類似から馬蹄瀧ともいはれる。加奈陀瀧は幅八百米、高さ四十八米、亞米利加瀧は幅五百米、高さ五十米だといふ。水量は非常なもので、毎秒二十萬立方呎だとか。百雷落下、萬虎咆哮といふの外は形容のしてみようもなく、殊に加奈陀瀧の方が壯觀である。瀧を中心として米領も加領もナイヤガラ瀑布

公園になつてをり、ナイヤガラ河(これがオンタリオ湖に注ぎ、オンタリオ湖からは東北に向つてセントローレンス河を派する)に架る二つの橋によつて往來自由であり、俺も渡つてみたが、ただ加奈陀へ入る度に旅券を呈せねばならない。

公園は一面の青芝、そこに松・檜・樺・楡等が繁茂して、實に氣持よい。瀑布の大觀を撞にするにはモーター船で瀧壺を回航する方法もあるが、我々は時間の關係で、亞米利加瀧の瀧壺へ一回三十人位乗れるエレヴェーターで降りてみた。それから先きは觀瀑會社の經營となり、合羽を借りて着る。更衣室があつて下着から靴下まですつかり着替へる。脱いだ服は箱に納め、鍵をかける。ボーイが親切に世話する。一丁ばかりいくと棧橋にかかる。二人位通れる狭い棧橋を幾つも幾つも通る。五六丁位あつたらうか。さうして瀧を下から見上げる。何しろ十數軒の彼方からさへ望めるといふ大した水煙、そのまつただ中へ入り込んだのだから、我々は勿論濡れ鼠。尤もそのために錢を出して合羽を借りたんぢやあるが。そこで、濛々轟々たるやつを見上げたのだが、その感銘たるや、凄絶といふか豪壯といふか、正に世界一の名聲以上であ

(瀧加利米亞と瀧奈加)景全布瀑ラガヤイナ





(者著目人二りよ右てつ向)行一たしを度仕の物見壺瀧布瀑ラガヤイナ

つた。次に、數丁の地下道を抜けて、今度は加奈陀瀧の方を、花崗岩の峡谷と瀑身との間にゐて裏から眺めたが、こいつもはや大變なもので、大自然の前に畏怖を感じざるを得なかつた。これらの觀瀑料二ヶ所各々一弗づつだつたかと記憶する。

高所からの展望は、亞米利加側から、加奈陀側から、或ひは橋上からを問はず、少くも瀧の高さについてはさ程にも思はなかつたが、瀧壺へ降りてはじめて、その偉大さが呑みこめた。殊に最も驚いたのは水量の豊富さで、オンタリオ湖から先のセントローレンス河が、加奈陀東南部に幾多の便利を與へて工業を勃興させ、モントリオール・オタワ・ケベック等の諸都市を形成させてゐること、洵に理の當然であると知つた。

書き忘れたが、ナイヤガラの瀧には、天氣さへよければ、いつも虹が出てゐる。今日も出てゐる。この虹がまたナイヤガラの一名物である。

米領ナイヤガラ・フォールズ市は、素々觀光地として出來た町であつたが、水力發電所が起つて以來、電力低廉のため、



ナイヤガラ瀑布落下の成功者ジャン・ラツシャート彼の用いた革製の樽

電気瓦斯器具・アルミニウム・車輛等の工業盛んになり、人口は二十年前一萬位だつたのが、今や十倍以上に達した。しかも現在の發電力は十萬馬力位のもの、將來どの位伸びるものか、相手があの瀑布では、無盡蔵ではないかといふ氣がする。加奈陀側でも發電事業は盛大に赴きつつあるやうだ。

ナイヤガラ瀑布の豪快美を満喫すべく、世界各国から雲集する觀光客を吸収すべく、ナイヤガラ河を隔てて、亞米利加と加奈陀はしきりに競争してゐる。その様子は、道路・展望

豪・娛樂設備等々何かにつけて窺はれるが、公平にいつて、觀瀑の位置も、公園の美しさも、加奈陀側の方が優れてゐる。ただ何分米國は大國であるだけに、ホテル・レストラン等は遙かに亞米利加側の方が混み合つてゐた。

ホテル・ナイヤガラに戻り、附近の土産物屋へ立寄る。これは約十年前、樽へ入つて加奈陀側馬蹄瀧を落下し一躍名を馳せたジャン・ラツシャートかいふ男の經營する店だ。彼は牛の皮で楕圓型の樽を作り、一哩ばかり上流から流れて來て瀧へ落ち込み、下流で救はれたのだといふ。奇を好むこと疾めるが如き米國人のこととて、これまでこれと同様の冒險をやつた者既に三十一名の多きに達し、内二十八名は樽が激流に揉まれて木葉微塵となつてあへなく瀧の藻屑と消え去り、僅か三名だけが生命を全うしたといふが、その一人が即ちこの土産物屋の主人公である。彼の冒險に對する懸賞金は十七萬七千弗であつたが、彼が實際に手に入れたのは僅か二萬七千弗で、あとはすべていろいろな名目でかすり取られてしまつたとか。彼の用いた皮製の楕圓型の樽は店頭陳列され、これが金看板で土産物もよく賣れてゐる。

ナイヤガラ・フォールズ市には、焼素麵(シユレツデツド・ホキート)を作るナショナル・ビスケット會社があり、これを訪うて見物したが、小麦と玉蜀黍の蔦色の粉に、鹽と砂糖で味をつけ、強力な電力で素麵状に乾燥したもので、一食分づつに丸めて賣り出す。これまでの旅行中、各地でちよいちよい食卓に現れ、ミルクと砂糖をかけて食ひ、その實物は知つてゐたが、それがここで出来るとは思はなかつた。尤も全米に十數ヶ所の分工場あり、歐洲方面へも輸出するといふ。なかなか盛んな工場だが、男女工數僅かに六百人で足りてゐるのは、勿論機械力の高度化によるので、製品を一箱づつに入れ、三十六箱をまた一箱に詰め、それぞれにペーパーを貼付けたりする工程は、謂ゆるコンベヤ・システムであつて、どしどし能率を擧げてゐる。

ホテルに歸つて晚餐、再び瀧の夜景を眺めに出て、國境の橋上に佇立、晝間にもまさる大自然の神秘感を味はつた。ベッドの枕には夜つびて遠雷の殷々たる如き落水奔湍の響き通ひ來り、それが四萬か鹽原の溪瀨を聯想させたものか、しきりに故郷の夢をみた。

「第五十二信」シカゴ行車中に て認む

加奈陀領の印象

九月二十三日。晴。

朝八時半、ホテル・ナイヤガラを大型バスにて出發、國境の橋の亞米利加側・加奈陀側双方の袂で旅券の査閲を受け、加奈陀領内に入る。

暫く進むと大きな運河があり、いくつもの架橋は電力による開閉式で、大汽船の通航に便ならしめてゐる。五大湖の水運おほむねかくの如くなのであらう。我々の疾走するウエランドまで三十哩の道は、別に自動車専用道路ではないが、殆ど歩行する人影を見ない。六間幅の道の中央には白線が引かれ、これに接した左右を自動車が行くことになつてゐる。亞米利加でも加奈陀でも、自動車が汽車・電車の踏切へかかる時、運轉手は必ず停車して三十秒位休む。これは歐米の運轉手の常識らしい。それが習慣になつてゐるので、踏切番は

ないでも事故は殆ど起らない。

この地方は氣候溫和・土地肥沃、水利の便がいいので、亞米利加東部地方に劣らず農業・工業が旺んで、農園も立派だし、どんな小都市にも大小の工場が見えた。

小一時間でウエランドに着き、九時半同地發の列車に乗込んで、自動車都市デトロイトに向ふ。途中、東北方八十哩のトロントに至る線の分岐點あり、トロントは加奈陀大工業地帯の一中心をなし、パルプ工業と農具製造が盛大で、人口百萬に近く、モントリオールに次いで加奈陀第二の大都と稱せられる。

車中、加奈陀の新聞により、皇軍荒鷲の南京空襲のことを知る。また我々が一昨夜華盛頓からバツファロへやつて來た列車の二時間後の列車に、ギヤング三名現れ、一二等車乗客をホールド・アップさせて金品を強奪し、一名は捕へられ二名は逃亡したといふニュースがあつた。二時間違ひでくだらぬ災難に遭はずに済んだことをよろこんだ。

デトロイト巡覽

正午亞米利加領デトロイト着。晝飯の後市中巡覽に出かける。

デトロイトは全く自動車工業を以て繁榮する町で、フォードの大工場を初め、ゼネラル・モーターズの工場もシボレー・パツカードの工場も皆ここにある。この地に自動車工業の發達した原因は、

(一)デ市はセントクレイヤ湖畔に位し、エリー湖に近く、ヒューロン湖にも遠からず、これらすべて運河によつて連結され、鐵道また集中して交通至便の上に、水力發電所多く、電力は豊富且つ低廉である。

(二)鐵工業・機械工業が盛んな上に、附近から良質の木材を産し、製材工業もまた盛んである。

といふ點にあるといへよう。

デトロイトの人口がいかに膨脹したかは、次の數字によつて一目瞭然である。

百三十年前	たつた七百人
九十年前	やつと二萬人
五十年前	とに角二十萬人

今日では 實に百七十萬人

かくして今やファイラデルフィアを凌いで米國第三位の大都市にのし上らうとしてゐるのだ。

デトロイトは自動車の本場だけに極めて安く手に入る。それは各家庭から、學生・労働者にまで利用され、全米では四人半に一臺の割合なのが、デトロイトでは、紐育に於けると同じく、一人半につき一臺といふ比率になつてゐるといふから驚嘆する外はない。さればこの市のどんな横町にも自動車が乗り捨ててあり、自動車の置場に困つてゐる程だといふ。デトロイトの大學生は、暑中休暇になると新型自動車を一臺買ひ、サンフランシスコ・シヤトル・ロサンゼルスなどへ何千里もドライブし、最後に自動車を最初の買値で賣飛ばして汽車で歸つて来る、結局ガソリン代だけで大旅行をすると聞くが、決して嘘ではあるまい。

先づ、三十二階のデトロイト・ホテルや、工業學校・託兒所などを見る。託兒所は場所柄からいくつもあるが、預り料一週七弗(邦貨二十四圓五十錢)はなかなか安からぬものだ。次に、五仙乃至五十仙均一小賣店・秘密結社フリーメイソン

會館・市立綜合大學・圖書館・博物館・放送局等を巡り、またデトロイト發展の基礎をなした運河を見る。

労働者本位の町だけに、均一店など非常に多い。ジャクソンといふ間口六十間、奥行三十間、十五階建のデパートなども、フォードの投資により、労働者の生活必需品を主眼にしてゐる。至るところに小公園のあるのも労働者の保健施設だし、さうかと思ふと、二十四時間ぶつ通しの映畫館もあり、六千人も入れる劇場などもある。

デトロイト市役所・二十五階のデトロイト銀行・四十七階の貸事務所ビル・ストロヴ製造で世界一のミシガン・ストロヴ商會・五十エーカーの廣さを有つタイヤ工場等々を巡つて、次にデトロイト河々畔に出づれば、同河の川幅はこの邊で數軒あり、ヒューロン湖を出でてエリー湖に至る水量のいかに豊富なるかがわかる。對岸は即ち加奈陀領で三分毎に汽船が通ひ、またセントクレイヤ湖の水運も至便である。

デトロイト河の環流する中島にベレ・アイル公園あり、廣さ七八平方哩もあらうか、面積では世界一と稱せられてゐる。園内にデトロイト市建設の功勞者ジエイムス・スコット

の記念碑あり、この公園も同氏の遺言により、その全財産の投下によつて造られたのだといふ。

附近一帯檜・楡・柳等繁茂して大森林をなし、一方、十萬坪のスポーツ競技場や、十分間五弗で公園の上空を飛ぶ遊覧飛行の發着所や、エチソンの寄附した電氣化學研究所や、ヨット俱樂部・動物園などがある。ヨット俱樂部には最新型のヨット輕快美を競ひ、動物園では亞米利加の野牛バツファロを珍しく思つた。前日見物した工業都市バツファロの名は、往昔あの附近にこの野牛が群棲してゐたのに因むといふ。

ベレ・アイルからは、遙かにクライスラーの工場も見えたが、我々はデトロイト河の橋を渡つて先づバツカードの工場に二萬五千人の職工の活動するの狀を觀、次にフォードの工場を見學した。橋の向うは一面の自動車工業地帯で、大工場と大工場の間には、兩側に部分品工場がぎつしり詰まつてゐる。フォードの工場は廣さ六平方哩、實に九萬人の職工を使傭、事務所なども二十二階の堂々たるもの、事務所としては世界で二番目の巨大さを誇つてゐる。案内人の語るのを聞けば、フォード工場には、數百哩の鐵路が縦横に敷設され、大

規模な運河も掘鑿されてゐる、また木材・金屬等を入れる十數棟の倉庫もあれば、ドツクの設備もあり、鋼鐵・ゴム・安全ガラス・エポナイト等すべての材料は一貫作業によつて製造されるとか。全米に亙る分工場を合せて、フォードの従業員、何と十八萬人、一日の自動車製造高六千臺、全世界に擴がつてゐる組立工場の製品を合せれば、一日二萬臺以上作られるといふのだから、唯々驚嘆、煙に巻かれてしまふ。副産物だけでも一ヶ年二千萬弗の收入を擧げてゐるといふ。

目下一九三七年型の製作中、一九三八年型は十月一日から着手する由。組立工場は視察しなかつたが、一臺の組立に三十三分間しかかからず、一度に何百臺と出來上るのを、片つ端からガソリンを詰めて試運轉を行ふのだといふ。

職工賃銀は一日最低三弗、普通熟練工は七弗半、特殊技能者は八弗乃至十弗、一週四十時間労働に制限され、日曜の外にも休日がある。

フォードの主義主張は、一日八時間の労働時間内には、頭も身體も一毫の弛みもなく仕事に集中させ、極度の能率を擧げさせる、その結果は労働時間が少くても賃銀が多くな

る、是勞資兩方面を利益する所以だといふにある。日本のやうに勤務時間が長くてだらだらしてゐるのは全然正反對であり、そこには我々も大いに考へてみねばならぬ教訓を含んでゐると思ふ。

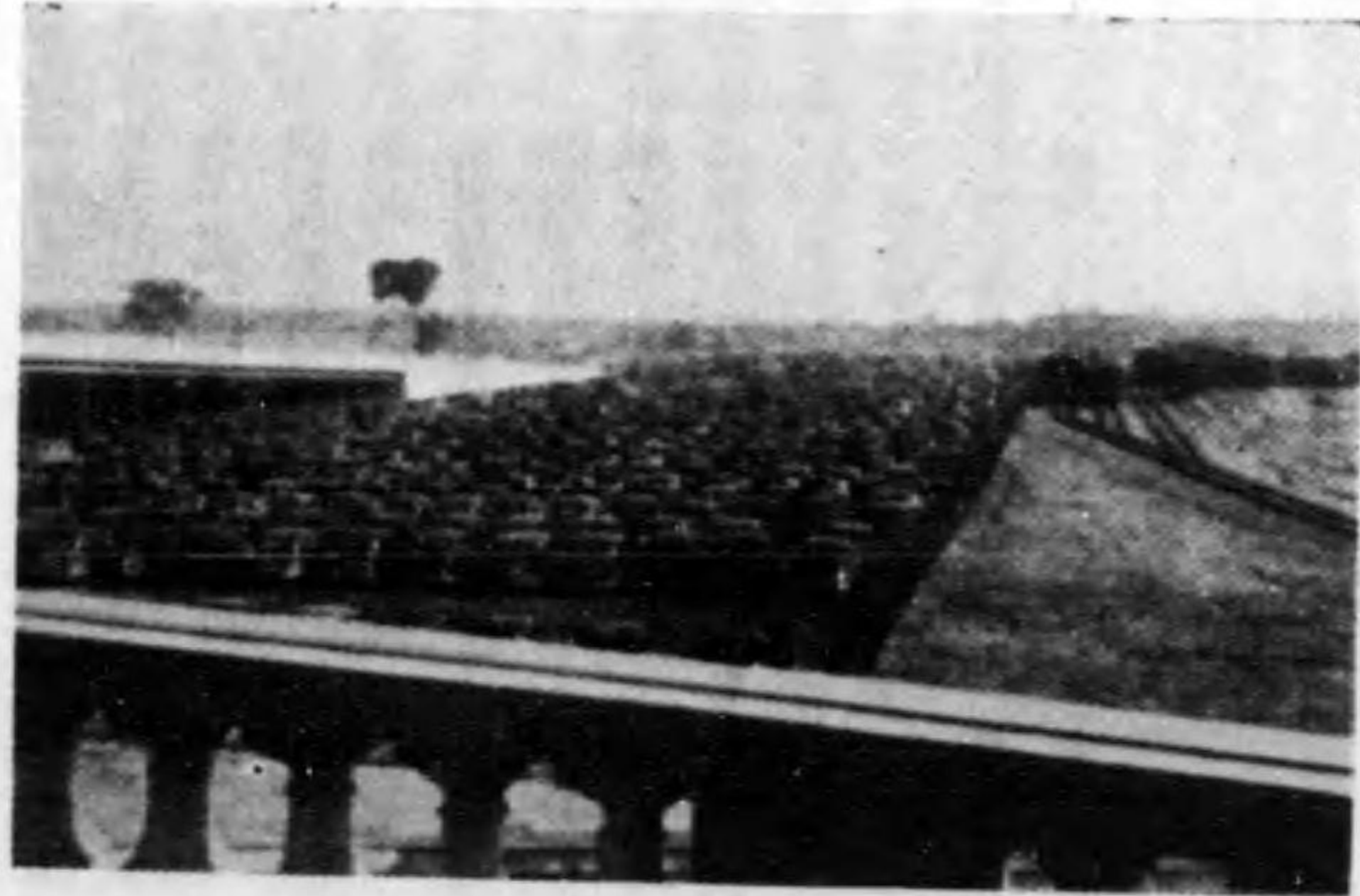
資本金は、利益を加算するため常に不定だが、今では二十億弗以上の出資になつてゐることだ。

コークス工場を最後に観て歸路についたが、途中の陸橋から眺めれば、職工の通勤用自動車置場の四五ヶ所には、それぞれ二千臺から一萬臺の最新流線型の車體が密集し、向うの端は實際雲か霞かといふ按配になつてゐるのに、嘩然としてしまつた。さすがは世界一の自動車王國、職工が優秀な自家用自動車を携ふること、我が國で我々が自轉車を持つに均しい。

フォードの工場に相對してゼネラル・モーターズの工場あり、またフォード附屬の病院あり、この病院は職工のみならず、一般市民にも開放されてゐる。フォードの姉妹會社リンカーンの工場では、部分品の製作状況を見たが、これも大規模なもの、數年前の博覽會に造つた半永久的な記念館をここに移して参考品の陳列所にしてゐた。リンカーンでは參觀人

全部サインを求められ、また參觀中不幸負傷するやうなことが生じても會社は責任を負はぬといふ一札を徴された。以上、僅か四時間のデトロイト見物、あわただしい中にも特に印象の深かつたことだけを、走り書きしておいた。

群車動自用勤通工職の場工ドーフ・トイロトデ



夕四時四十五分デトロイト發の列車でシカゴに向ふ。

亞米利加中部篇

昭和十二年九月廿四日より
九月二十八日まで

〔第五十三信〕シカゴのホテル・ステイヴンスにて認む

シカゴ見物 A

九月二十四日。晴。

昨夜八時半シカゴ着、ホテル・ステイヴンスに投宿。このホテルはミシガン・セントラル驛附近にあり、市の中央より稍々南寄りに當つてはゐるが、金融街・商店街に出づるに便あり、ミシガン湖にも接してゐるといふ好位置に恵まれ、地坪千坪で二十五階、室數三千、泊客と使用人平均八千人といふ途方もない大きさ、「世界最大のホテル」と自慢するのも無理はない。設備は飛切り贅澤とはいへぬが、實用的なホテルとしては先づ申分ないものであらう。これは十年前前大統領フーヴァが、「地球上の黄金の二分の一以上は米國がこれを保有してゐる、米國財界の景氣は衰退を知らぬであらう。」と豪語した頃ほひ、ステイヴンス三人兄弟が二十萬弗を投資して押つ建てたホテルであるが、長兄ステイヴンスの保險業界に

於ける失敗から信用地に墜ち、一九三一年・三二年の恐慌に際して、三人中二人までピストル自殺を遂げたといふ因縁あり、その後、債権者たる金融業者の手に歸し、今は破産管財人の處置で、別に經營者を立てて營業を繼續してゐる由。フーヴァ景氣のはかなくも雲散霧消したあとのフーヴァ恐慌の打撃は、無論紐育が最も烈しかつたが、シカゴもまたステイヴンス兄弟の悲劇を筆頭に、やはり大波瀾の影響を免れなかつたのだ。

朝八時半より木下支配人の東西文化研究座談會開かる。曰く、「カリフォルニアに邦人移民の盛んに行はれるやうになつてから四五十年になるが、當初の開拓者が三千・五千の小金を握り小成に甘んじて歸國することの多かつたのは今から考へて實に遺憾事であつた。一旦歸國してから再び渡米した者もないではなかつたが、大抵は自ら寶庫を捨て去つたのである。その時分は、五年間内に耕作した四十英町（我が十六町歩）は自己の所有に歸するといふ特權があつたが、その地面が都市近郊の宅地化されてどしどし高騰した實例はいくらも見られる。一英町千弗としても四萬弗、二千弗とすれば八萬

弗にもなる。もしそれが市街地ともなれば、何十萬弗・何百

シカゴ・ホテル・ステイヴンス(世界最大のホテル)



萬弗にもなつてゐたであらう。邦人にも金子・長澤兩氏のやうな達見に富んだ人物あり、その餘慶二代・三代に輝いてゐるが大部分の人々が目の前の小利

に安んじてこの幸運を見逃したことは惜しみても餘りあることだ。邦人が米國から排斥されるのは、勿論米國側の無理もあるが、我々の方にも責任皆無とはいへない。それは公德心の缺如と、利己主義的な生活の遺方が米國人の大陸的な氣持にびつたり來ないせみである。これからカリフォルニア方面を視察すれば誰にもわかることだが、我々は米國側の排斥を糾弾すると同時に、更に謙虚に、更に深切に、邦人側の缺陷を認識しなければならず、かくして楯の両面から問題を認識し、將來に資せねばならぬと思ふ。云々。

午前十時半、ホテル前に集合、三十人乗りの大型バスによつて、市中見物に出る。

STEVENS
CHICAGO
America's Grand Hotel

ステイヴンスのラベル

シカゴは米國第二の大都會で、人口三百九十萬、百七十年前にはたつた七十人の住民だつたのが、八九十年前から三萬・五萬位になり、三十七年前の一九〇〇年には百七十萬になり、それが今日更に二倍以上に激増したのである。生粋の北亞米利加人は六分の一に過ぎず、獨逸人の三分の一を初め、愛蘭人・英蘭及び蘇蘭人・スカンデナヴィヤ人・黑人等々がゐて、宛然人種展覽會の觀がある。その市容、大紐育には遜色があるとしても、中央西部の一大經濟中心をなし、小麥・木材・家畜・貯藏肉では世界最大の市場となつてゐる。

ホテルを出ると高層建築立並ぶ金融街あり、ステート・ストリートに入れば、百貨店・専門店・小賣店・均一店・映畫館・カフェー・レストラン等櫛比、この股賑街を高架電氣鐵道線が取巻いてゐる。シカゴは鐵路交通の上でも北米内部に於て極めて重要な位置にあり、十四州百八十の港に向つて日々ここを發する直通貨車二千五百本に及ぶといふ。

以下例の箇條書きノートを作つておかう。

(一)シヤスロバツクの經營に係る世界一の通信販賣店の現金販賣部を見る。これはマーシャルフィールドやワナメーカ

いと共に謂はばデパート業の元祖。ショール・ウキンドの陳列方法いかにも瀟洒、高級品の飾附けとしては殆ど最高の技術を示してゐる。

(二)この附近に均一店甚だ多し。五仙・十仙・二十五仙・五十仙・一弗等いろいろあるが、就中ウルウオースの均一店はすばらしい繁昌で、これもシカゴ名物の「世界一」的發達ぶりを示してゐる。歡樂境の劇場・映畫館等の旺んることはいふまでもない。

(三)マーチャングイス・マーケット。これは卸賣りの百貨店、或ひは常設國際見本市々場とでもいふべきものか。マーシャルフィールドの經營により、千軒以上の卸商がここに集合し、サンプルと現物で常時不斷に商賣、一ケ年の取引高數十億弗に達するといふ。建物は世界一の大建築といはれ、地坪四十萬平方米、塔の高さ百四米、工費三千五百萬弗を要した由、たまげたしるものである。

(四)シカゴは、シカゴ河とカルメット河によつて水利を得、更にこの市が三十五軒以上も接觸してゐるミシガン湖を合せて五大湖水上交通の一中心をなす。シカゴ河は百米位の



(A) 貌面のゴカシ

小さなものだが、これに架するに五十三の開閉橋を以てし、餘程重要視されてゐるらしい様子である。なほ聞くところによると、シカゴから現に西方ミシシッピ河の中流に通じてゐる小運河を擴大して、南方墨西哥灣岸の同河々ロニユーオ

ルリヤンスとの間に直接物資輸送路を開かうとする新計畫が立てられてゐるとか。シカゴの前途一層刮目すべきであらう。
 (五)チウインガム・ビル
 (五)チウインガム・ビルは青空に屹立するを望みつつ、それに相對する二十七階の一偉觀トリビューン・タワーに至り、このビル内にある日本領事館を訪ふ。榎谷領事は五十前の温顔の紳士、我々に次の如く語つた。
 「シカゴは米國中部の大都會で、紐育・桑港の中間にあり、我がシカゴ領事館の管轄區域は中部十三州に跨る。米國は、御承知のやうに、東部から西部に向つて文明の開けていつた國であるが、中部十三州は農産品・牧産品・鑛産品及びこれを原料とする工業によつて堂々たる實力を發揮してゐる。産業の實際から觀察すれば、紐育を中心とする東部海岸地方に決して劣るものではない。
 シカゴは交通の要衝である。鐵道では百數十線、幹線だけでも二十五線がこの市の八大驛に集中する。操車場百二十、貨物驛百八十以上もある。水運は五大湖の連絡を主とし、ミシシッピ河に向つては小さいながら運河があつて墨西哥灣頭に連り、この市の面するミシガン湖は、周圍千數百哩といふ



(B) 貌面のゴカシ

まるで内海の如く大きなもので、湖水と河川傳ひに大西洋と相通じてゐる。これらに航空路の發達を加へ、交通の重大性は愈々顯著になつて來た。
 西南部・西

炭等の鑛物を出して機械・農業用具・鐵道車輛等の諸工業榮え、木材無盡藏にして木工家具・樂器の製造行はれ、殊に近來はパルプ業に見るべき躍進を示してゐる。その他、製絲・織物業や出版業も相當の域に達してゐる。農業・工業の實力は全く米國第一といつても過言ではなく、對外輸出入と内地貿易の取引高を合算すれば、全米の五十パーセントに近いものありといはれてゐる。
 今やシカゴの人口四百萬に垂んとし、近郊都市のそれを合せば五百萬以上にも及ばうとしてゐる。街衢はミシガン湖岸に添うて北方に展開し、四五十哩先きまで人家續きである。
 シカゴは日本と直接交渉の少いせむか、邦人の居住者はやうやく二三百人に過ぎず、中部十三州の移民を加へても八九百人といふ程度で、將來も大して増加する傾向を見せない。かやうに邦人の少數な關係からか、日支事變勃發以後の邦人に對する感情も別段悪くはなく、この前の滿洲・上海兩事變當時よりは、寧ろすつとよくなり、消極的ながら邦人に好感を寄せてゐるふしもないではない。大統領の、米國は外國紛争の渦中に入りたくないといふ主義方針が市民にも十分徹底

してゐるやうである。七年前のステムソンの對日強硬聲明が結局無意味になつてしまつたことも、日本近年の國力がどの邊のところまで充實してゐるかといふことも、彼等自身よく承知してゐるのである。

それにつけても、諸君が米國內を旅行しつつ親しく米國人に接して、國民外交の實を揚げられんことを衷心から希望する。云々。

榭谷領事の談話は、大要右の如くであつた。折柄新聞記者來つて、一同トリビューン・タワーの頂上で記念の撮影をなし、零時領事館を辭去した。

午後、更に市中見物を續ける。

(六) ミシガン・アヴェニューの某ビルに日本郵船會社々旗の飄るを見て若干の感傷を覚え、次に圖書館・美術館等の建物を見る。美術館は明日内部を參觀するつもり、日本關係のコレクションではボストンに次ぐといふ。蓋し、二東三文で買ひとられてしまつたものが多いのであらう。

(七) ミシガン湖畔に出る。大防波堤といひ、大埠頭といひ、海港と何等變らない。風波烈しき時は交通を中止するこ

ともある。湖上には一萬五千噸の巨船さへ浮んでゐる。三四哩の彼方にシカゴ水道の湖水汲りの大建造物が見える。即ちミシガン湖の水を濾過して飲用水に供してゐるのだが、完全に清澄でないのが惜しまれてゐる。

(八) 市の南方に黒人街がある。黒人の數は人口の約一割、生殖力旺盛でどんどん増えていく由。市中至るところ目につき、やはり氣味が悪い。政府や市では、南方の一割に多數のアパートを作つて、これを黒人に安く貸し、社會問題の解決に努力してゐる。黒人が白人に對してどんな敵意を有つてゐるかはわからぬが、アール・カボネ以來のシカゴ名物のギャングには黒人はあまりならぬらしく、却て猶太人や伊太利人などに親分株があるといふ。

(九) シカゴは市制が布かれてから今年で百四年になる。四年前に百年祝祭が行はれたといふ。前記の如く百七年前にはたつた七十人だつたのが、三年後には一躍して三千五百人になり、そこでとも角町としての體裁が整つたらしい。それから更に八年経つと五千七百人になつてゐるが、いづれにもせよ、往時の寒村ぶり想像の外であつたのであらう。

(十) シカゴには公園頗る多く、ガーデン・シテイの異名がある。ミシガン湖に添うては、リンカーン・グラント・ジャクソン、市中ではワシントン・シカゴドライブイング・ダグラス・カーフィールド・フンボルト等の公園があるが、就中、グラントとリンカーンの二公園は自然美・人口美の兼ね備へる立派なものである。

(十一) シカゴ大學。北米屈指の大學、一八五七年の創設でバプテイスト派教徒とは深い關聯を保つ。一時閉鎖されたのを十九世紀の末に再興、この時ロツクフェラーは大枚二百萬弗を寄附して校基を鞏固ならしめた。現在は法・文・醫・商・教育・社會事業等諸科の綜合大學で、醫科の附屬病院や理科の研究實驗所なども規模壯大である。校内にロツクフェラー財團寄附のインタナショナル・ハウスあり、外國大學生のスポーツ遠征などに來るあらば、ここに宿泊させるといふやうな仕組みになつてゐる。

このハウス内の食堂で晝飯を食つたが、實費食堂といふ別名もある通り、非常に安く、しかもうまく、食卓などの設備も最新式だし、何よりも清潔なのがうれしい。「實費」といへ

ば、日本にはろくなものはないが、この實費食堂にはいたく感心した。

校内にスタークといふ有名なスポーツマンの創案になる室内運動競技場あり、間口三十間、奥行五十間、高さ三十間位の大スタヂアム。さすがはスポーツ國だけのことはある。

(十二) ミシガン湖畔の工業博物館。左右兩翼を有つ間口百五十間位の宏壯な建物。目下一部開館。地下の炭坑採掘の模型は、實物と少しも變りなく精妙に作られ、地階の石油・鑛物・電気・瓦斯・水力發電等重要工業に關するあらゆる機械・器具・雛型・標本等が陳列されてゐるが、中でも世界一の發電所と稱せられるボルダー・ダム、即ち西部ロツキー山中に源を發し、西南流してカリフォルニア灣に注ぐコロラド河の中流を堰止めて、恐るべきコロラドの水害を防止すると共に、一面田圃の灌漑を便にし且つ巨量の電力を獲得しようとするダムの大模型はなかなか立派なものであり、我々二十八日には、ロサンゼルスに向ふ道中、自動車を驅つてそのダムを實地に見學するつもりなので、特に興味深く感じた。

この博物館は、かの世界一の通信販賣業者猶太人シヤスロ

バックの五百萬弗の寄附を基礎として成つたもので、落成式の當日市長以下各代表者が彼に稱讚の辭を呈したところ、シヤスロバックは外套をかかへて氣まり悪さうに逃げ出したといふ逸話があり、ジェスチュアたつぶりの米國人としては稀に見る不言實行流の男であつたが、惜しいことに昨年死亡したと聞く。

(十三)ジャクソン公園の中に、四十四年前のシカゴ萬國博覽會に出陳された日本の鳥居や燈籠が保存され、四年前ミシガン湖畔埋立地に開かれた博覽會に造つた日本の茶室もここに移されてをり、故國が偲ばれてややしばし佇んだ。

ワシントン公園へもドライブした。道路の兩側に一段凹んだ芝生の廣場あり、平時は野球場、冬は水を張つて凍結させ、スケート場に用ゐるといふ。米國人はスポーツのためにはいろいろ工夫を凝してゐる。園内には理想的なゴルフ場があるが、シカゴのゴルフ熱はすばらしいもので、ゴルフ場が五十ニヶ所もあるといふ。

(十四)附近にタフトといふ人の作つた彫刻あり、光陰は矢の如しとは嘘で、矢の如きものは人生そのものに外ならぬと

いふ意味を現はしてゐる。

(十五)西方五哩の飛行場に至る。シカゴは内陸飛行の中心地で、數十の航空路を派し、一日二百二十臺の飛行機が發着してゐる。飛行機はいづれも最新型で、三十人乗り・四十人乗りのものもあり、四大航空路の終點に至るまでの所要時間は、

ロサンゼルスへ十三時間

サンフランシスコへ十二時間

紐育へ三時間

ニューオルリヤンスへ十四時間

である。

(十六)ウイルソン・カンパニーといふ肉類罐詰工場を視察。次にそれよりもつと大規模なフキフト・カンパニーに至れば、これは世界一の屠殺・罐詰會社で、スキフト・コンビーの製造元、全米に十數ヶ所の支工場を有ち、労働者合計四萬人、この一工場だけで一萬人が働き、その上千八百人の事務員を使ひ、社長は非常な努力家で、自ら陣頭に立つて活躍してゐる。事務員・労働者用の自動車置場には、やはり何

百・何千といふ自動車が見渡された。

工場は大體舊式のものだが、中に新しいところや修繕されたところもある。製品は家畜類獸肉の罐詰を主とし、廢物利用の副産物として數種の油脂類や、ホルモン以下十四種の藥品を作り、殊にホルモンについては目下盛んに化學的研究が續けられてゐる。毎日の屠殺數は、

- 豚 七五〇頭
- 牛 一八〇頭
- 羊 四五〇頭
- 犢 若干頭

で、これを一分間二十五頭で瞬く間に屠り、そしてどしどしこなしてしまふ。この會社も一九三〇年以後數年前までは不況を啣つたが、近來大分成績をあげ、配當も行つてゐるらしい。家畜は特別に牧場があつて飼育するのではなく、周圍十數州に互つて買付け、或ひは値段によつてはもつと遠距離の地方とも取引する。何しろ大手筋のこととて、殆ど獸肉市場の相場を左右する力量があるとか。製品は、コンビーフ・ハム・ベーコン・ソーセイヂ等の罐詰の外に、石鹼・油

脂・藥品

等を副産物とするが、頭・足・皮を除いた骨付の生肉も多量に賣出す。

今日も官廳の検査濟の刻印を押した三四十頭の牛が釣してあつたが、仲買人らし

社會トフキス・ゴカシ



い男が七八人、肉眼で肉の良否を目利きしつつ仕入れをやつてゐた。

この社長以下従業員には猶太人が多く、労働者には黒人もかなりゐる。

屠殺場は黙別に數ヶ所あり、公開禁止の部分もあるが、高いところから牛の屠殺場の内部を窺ふと、間口二十間、奥行三十間ばかりの薄暗い工場の一隅から牛の断末魔のうめき聲が聞えて来る。いかにも物哀しく、到底君子人の見聞すべきものではなく、參觀人中には往々卒倒者を出すといふ。牛が狭い通路を追はれながら歩いて来ると、そこに數人の黒人が、真木割か鐵槌のやうな得物を携へて控へ、いきなり牛の頭部に一撃を浴せる。それが急所をそれたら、次の者が再撃を加へる。屠られた牛は、板圍ひの下部數尺の穴から放り出されると、そこにはこなし手が竝んでゐて、直ちに皮を剥ぎ、脚を切り、臟腑を取除け、洗滌して検査の刻印を捺して貰ひ、そのまま賣捌く部門へ出すなり、工場へ加工に廻すなりする。斃牛の處置には二十五分しか要せぬ由。豚や羊の屠殺には心臟を突刺す手段もあるといふが、その方は見なかつ

た。

屠殺場から罐詰部へ巡る途中、この会社が一八六一年の創立當時用ゐた幼稚素樸な器具二三と、一時間に二萬個の罐詰を作り且つ殺菌する廻轉式の機械を見た。

屠殺場の使備人は、屠殺人よりも皮剥職の方が給料高く、一時間一弗位だとのこと。食堂は五百人位づつ收容できるのがいくつもあり、かういふ會社に似もやらす極めて清潔である。ただ仕事の仕事だけに、臭氣は異常なるものあり、これは附近數哩間につき纏つて消えることがないといふ。肉食は人間の生活に缺くべからぬものであるが、その反面には地獄圖繪の如き場面が現實に繰返されるのだ。事業として人の嫌がることだけに、餘り競争者もなく、相當の利益があげられるので、這般の理窟は日本も歐米も少しも變りはない。

(十七)リグリーのチューインガム社は、折柄雨模様で暑さで内部を観る元氣出す、外廻りだけを眺めた。社長リグリーが、大してうまもないものを作つて、世界中の人間に嘖ませ、今日の成功を収めた才能は偉とするに足りる。この人は、圖書館や研究所を建て、社會的にも相當貢獻してゐる。



シカゴ・マーシャル・フィールド百貨店

(十八)グラント公園に近く四十三階の摩天樓聳え、この中に穀物取引所あり、屋上には穀物の神が祀つてある。附近に世界博覽會々場跡あり、今は二十萬人を收容できる世界第二のスポーツ競技場となつてゐる。

(十九)マーシャル・フィールド(後にいふ同名百貨店の社長)の寄附した博物館に續いて、ミシガン湖畔にジョン・シ

エフト寄贈の水族館がある。花崗岩で疊んだ立派な建物で、淡水魚の種類の高さでは名高いものだ。

(二十)天文觀測所には巨大な天體望遠鏡あり、太陽の實體を覗かせる。プラネタリウムや天體模型館もある。この屋上からミシガン湖を隔ててシカゴの心臟部を望む眺めは、紐育灣から紐育ブロード・ウェイ方面を見渡すのに酷似し、高層建築群林立して微妙なスカイ・ラインを描いてゐる。

マーシャル・フィールド百貨店内部



(二十一)リンカーン公園には大規模の動物園あり、地球上のあらゆる珍動物を網羅してゐる。六十年前のシカゴ大火に焼残つた高塔がここに保存されてゐる。

(二十二)シカゴ市廳舎の附近に、マーシャル・フィールド百貨店あり、その販賣面積約二萬坪、紐育のジョン・ワナメーカーよりは狭いが、ショー・ウインドの設備と裝飾では、米國三大百貨店中でも最高位にあるといへよう。上品にしかもチャームングにといふこの種技術の極點を、ここに始めて知り得た感があつた。店内の商品もよく整頓され、すがすがしく潑刺たる印象を受けた。建物は地上十二階建てで、九階以上が事務室、地下一階、地坪は五十間四方。外に街路を隔てた向う側に、男子部の建物がある。

(二十三)次にウルウオース均一店を見る。五仙・十仙・廿五仙・五十仙の均一店で、紐育のウルウオース・ビルの同店を本部とし、全米に支店がある。シカゴの店は、紐育の店に次ぐ大規模のもので、建物は地上二階、地下一階、地坪五十間四方位あらうか。商品種目は實に驚くべき多數で、日本の金魚まで賣つてゐる。今日は土曜のせみもあり、來客雜沓し

てゐた。

以上で今日の視察を終り、ホテル・ステイヴンスに戻る。そこへ前橋出身の多賀谷氏が訪ねて來た。シカゴ自由行動の日の案内をして貰ふつもりで、これより先き紐育から依頼状を出しておいたからだ。明日は多賀谷氏と共に、今日見残したところを廻るつもり。

多賀谷氏の話によると、シカゴ市長は猶太系、イリノイス州知事も猶太人の由。市長はなかなかの手腕家で、市民に徳望深く、市の自治に貢獻するところ少からぬものがあるといふ。

シカゴ見物 B

九月二十五日。晴。

昨夜打合せた多賀谷氏、朝九時ホテルへ來る。多賀谷氏は、前橋市桑町の呉服商荒木良三氏の従弟で、今年五十四歳だといふが、打見たところ四十五六としか思へぬ若々しい好紳士。三十年前に渡米して、一時は果樹園など經營してゐたが、今ではトローベイといふ法律家——既に退職隠居して、讀

書三昧に耽つてゐるさうだが——の世話人として、勤勉に働いてゐるとか。トローベイは、嘗てシカゴ有数の事業家だつたシーピックといふ快男兒の法律顧問をやり、お互ひに親友の間柄であつたが、かのホテル・ステイヴンスの創設者ステイヴンス兄弟の没落悲劇の如く、同じフーヴァア恐慌の煽りによつて資産一億弗以上と稱されたのが権花一朝の夢と化したのださうで、米國財界の變轉の目まぐるしさ、この一挿話によつても察知するに難くない。

多賀谷氏の自動車でホテルを出發、シカゴ二日目の見物を遂ぐ。

(一)商品取引所。米國のみならず、世界的にも有名な大取引所。商品には、小麦・棉花・燕麥・玉蜀黍・ラードその他多數あり、建物も巨大なもの。立合場は六十間に四十間位の一室で、周圍には紐育・倫敦・リヴァプール・アムステルダム・ハンブルク等の各取引所の相場報告を無電或ひは電話で受けて刻々揭示するやうになつてゐる。その下に仲買人が出張して事務を扱ふテーブルが數十並び、商品別に馬蹄形の區別があり、恰も立合の眞最中であつたが、日本におけるやう

に手を振ることはないが、値を競り合ひ、それが出合ふ毎に握手するかに見受けられた。總元締の支配人は一段高いところ控へ、その下に記録係がゐてメモをとつてゐる。電話室・タイプライター室には大勢の係員が忙しく働いてゐた。

(二)マーシャル・フィールド百貨店・ウルウオース均一店の内部を再び視察。次にシカゴ美術館を観たが、ここには東洋美術部と稱する一室あり、支那・朝鮮の書畫骨董、日本の古美術品、わけても浮世繪の類が相當數陳列されてあつた。

(三)多賀谷氏の事務所立寄る。市の東端ミシガン湖畔に建てられたビルの七階全部十一室の中、主人のトローベイが七室を、多賀谷氏が四室を借り、外に調理場・風呂場・器具置場等が附屬してゐる。トローベイはシーピックの全盛時代、法律顧問として年々受けた報酬が莫大なものだつたらしく、今や六十五歳に及び、讀書を唯一の友とする市井の逸民であるが、從來正義のためには一步も退かず、強く正しく生き抜いて來た人物、彼も無妻主義なら多賀谷氏も獨身主義、變り者同志で意氣投合するに至つたので、邦人仲間でも評判のコンピラしい。

トーベイは数日前から東部海岸・加奈陀地方を旅行中で不在であつたが、室内裝飾・器具調度に八萬弗をかけたさうで、應接室・讀書室・食堂など善美を盡し、殊に多賀谷氏の奨めにより、數年前から日本趣味に轉換、屏風・掛軸・骨董などを集めてゐる。ビルへ支拂ふ室代一ヶ年五萬弗の由。多賀谷氏の數室もなかなか立派であつた。

そこで多賀谷氏に晝飯を出された。二十分ばかりでいろいろな料理を自ら調理してくれたのだが、中でも亞米利加土人の收穫する野生の米——粒の細かい稗に似た米——を巧みに炊いたのがうまかつた。開けば高級料理用の珍物だとのことである。

(四)シヤスロバツクの通信販賣店。これはシカゴの西部の工業地帯——といつても、一種の閑寂味漂ふ——の中心に位し、通信販賣では世界一と稱せられてゐる。その内部、商品は部門別に秩序正しく整理され、事務室の面積も莫大なものである。この建物の附近に、工業地帯向き大衆品の百貨店あり、そこにはシヤスロバツクの商品が陳列してある。建物は六十間四方、七階建の木造で、米國としては奇異な程粗末な

バラツク式のものだが、營業費の節約によつて、大衆用品はいやが上にも安く、シカゴ市民は續々自動車でここへ買物にやつて來るといふ。現に目前の廣場には數百臺の自動車が乗り捨ててあり、店内も満員の盛況を呈してゐた。シカゴ市中にも三ヶ所に連鎖店を有ち、全米及び世界各國に通信販賣の連鎖店何百とあり、純粹の百貨店を恐怖せしめてゐるとか。小賣業の成績優秀なるものとしては、これもシカゴ名物の「世界一」だといふ。

大工業の理想的經營法として一貫作業の語があるが、この店は資本の充實によつて商品の製造を行ひ、生産業者より直接消費者への標語を實行し、薄利多賣によつて今日の成功を収めたのである。

(五)市中へ戻り、エヂソン・エレクトリック・カンパニーの電気機械器具販賣所を見る。ラヂオやスタンドには美術的に精巧なものも多く、五百弗・七百弗・千弗といふやうな贅澤な品が積まれてゐる。

(六)イリノイス國立銀行。これは途方もない巨大な建物で、總坪數一萬坪もあらうか。一階の預金部では、通帳の番

號によつて受附の窓口が別になつてをり、それが四五十もある程だ。二階は普通の銀行營業場になつてゐる。シカゴは、人口では東京に劣るが、穀物その他の農産品や、周囲の廣汎な工業地帯の生産品の力量は大したもの、蓋し東京に數倍する經濟活動を續けてゐる事實は、この銀行を見ても十分推察することができた。

(七)映畫館で映畫とボードビルを見る。ニュース映畫に、十日程前紐育で出遭つた在郷軍人大會の模様現れ、二十五萬人の市中行進や假裝行列の見えたのは興味深かつた。ボードビルは、手品・喜劇・小唄・道化等。

(八)日本人街の料理屋で、多賀谷氏からすき焼の馳走になる。ここで鍋をつつきながら、多賀谷氏はステイヴンス兄弟やシービツクの没落悲劇を話してくれたのであつた。事業の手廣さと堅實を誇る亞米利加鋼鐵會社の所謂スチール株の如きでさへ、一九二九年の最高値二百六十五弗(百弗拂込)までいつたのが、七八年前の恐慌時代には二十弗に暴落、今春は百二十弗まで恢復したが、その後また亂調子に陥り、俺が紐育滞在中にも毎日三弗・五弗の下げを演じてゐた。いかに米

國財界の着實な發展が至難であるかは、スチール株相場の變動をバロメーターとして瞭然たるものがあらう。多賀谷氏に送られて、ホテルに歸る。

「第五十四信」大陸横斷列車中 にて認む

大陸西走

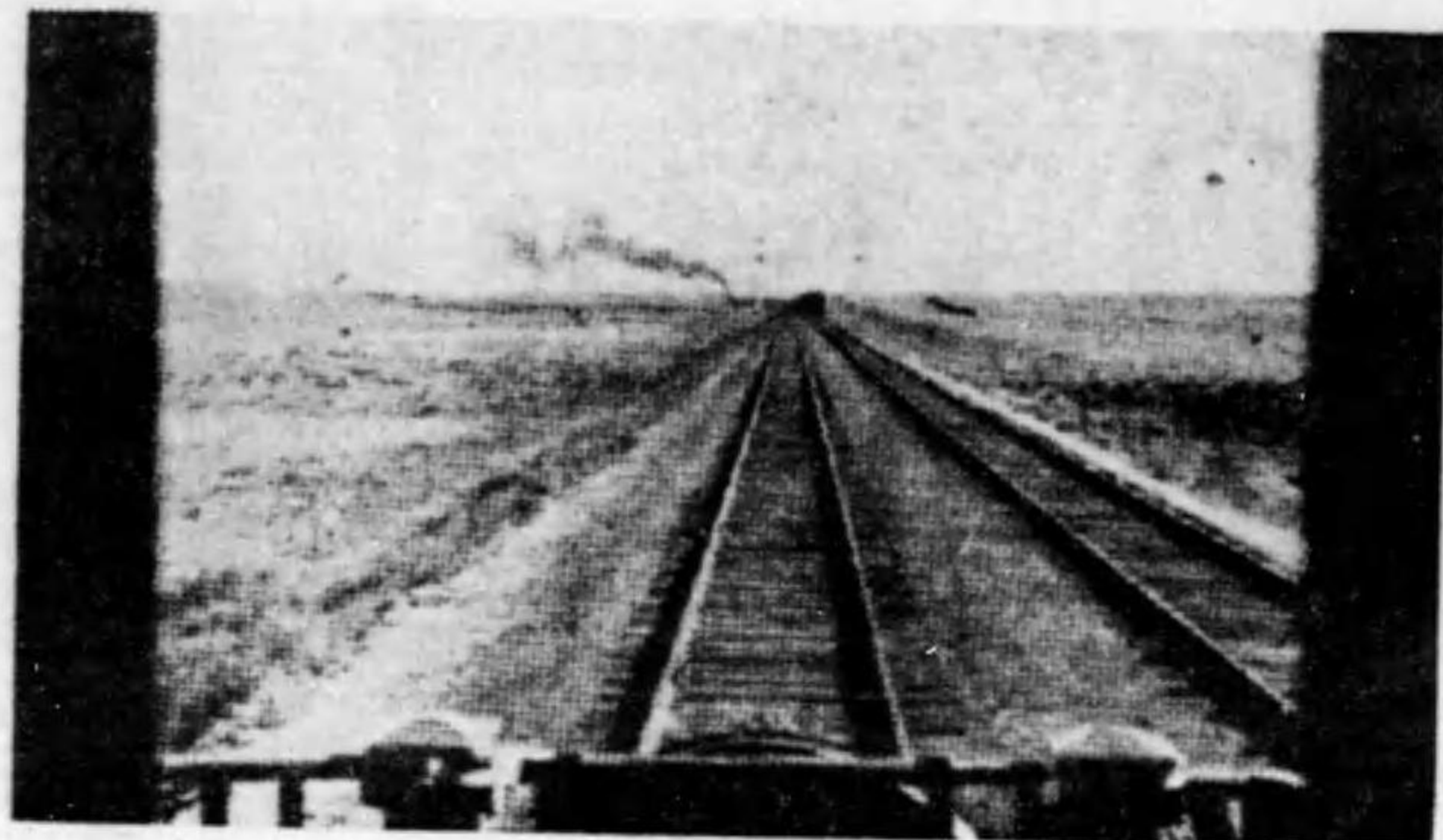
九月二十六日。晴。

朝九時、ユニオン・セントラル驛に至る。多賀谷氏も一緒。氏から前橋の荒木良三氏への贈物を託され、歸朝の上届けることを約す。

ユニオン・セントラル驛は、シカゴ西部最大の驛で、南部のミシガン・セントラル驛と共に、シカゴ着發の支關口をなす。十時半、ガイドの船山氏その他十數名の邦人に送られて發車。

この路線はユニオン・パシフィック鐵道の經營、列車は寢臺付き一等急行で、大陸横斷といふ長途の運轉に堪へるため

車房の設備は申分なくできてゐる。食堂車・喫煙室は勿論、



野荒の限無・部西の脈山ーキツロ

展望車・ライティングルーム・社交室まであり、新聞・雑誌・書籍の備付けも豊富である。途中、ミシシッピ及びミズーリ両河を渡る。世界有数の大河も、この邊の上流若しくは中流では、さほどの大河とも思へない。ミシシッピに沿ふセントルイス、ミズーリに臨むカンサスシティーは、鐵路

より遙かに南方に當り、またミズーリ河西岸のオマハは、夜中のこととて皆目様子がわからなかつた。要するにイリノイス・アイオワ・ネブラスカの一部等は、米國中部の小麥・玉蜀黍その他の穀物を産する大農業地帯で、實によく耕作されてゐる。これらの農産品の大部分はシカゴにおいて集散されるのである。

列車は、ひた向きに大陸を西走する。

ロッキーマウンテンを中心とする荒蕪地帯

九月二十七日。晴。

大陸横断急行列車は、今日も疾驅を続ける。

アイオワ州は、日曜日だけの禁酒國。列車中と雖も、この州通過が日曜日に當れば、法律に従はねばならない。

ネブラスカ州の中部あたりから次第に登りになり、ワイオミング州に入つてシヤイヤン驛附近になると既にロッキーマウンテンにかかつたのであつて、しばらく海拔七八千呎の高原を走るが、再び下り坂となり、列車の乗心地もよくなる。この邊は無雨高原地帯で、時に小川が流れ、ぼつぼつ人家も見える

が、大體は住民稀少らしく、赤褐色の土、岩石の累塊、砂丘の起伏等の連続で、物淋しい平凡な風景である。

シヤイヤンの町から約三時間半、即ち百五十哩も来たところに、小さな湖水あり、そこから流れ出す川の岸に汚れた雪のやうな白いものが見えた。それが鹽で、即ちその湖水は鹹湖であつた。このあたりには岩鹽も出るといふ。

やがて一夫多妻主義を以て有名なモルモン教大本山のあるソルトレーキを過ぎ、またグリーンリヴァを過ぎた。七時半、大陸はやうやく黄昏れて来た。食堂でビールを飲み、一弗の定食を食ひながら靄然たる窓外を眺める。

亞米利加にも沙漠があるとは、子供の頃から聞かされてゐたが、この日午前八時頃から走り續けたロッキーマウンテンを中心とする東西千哩以上に亙る高原が、殆ど未耕作の土地で、中には一木一草も生えず、岩山と砂原ばかりの本物の沙漠もあり、即ち總じて、沙漠といへばいひ得る廣大なる地域であつた。この地方から西南部方面へかけては極めて雨の少いところだが、しかし氣候は必ずしも悪くなく、灌漑の設備さへあれば十分農作物が穫られるといふ立前から、米國政府は各州

政府と協力し、ロッキーマウンテンの積雪が溶けて水嵩を高めるコロラド河その他の河川を堰き止めてダムを作り、灌漑用水とする一方、大水力電氣事業を起さうとする工事が數ヶ所に分れて行はれてゐる。殊にユター・アリゾナ・ネバタの三州に跨るコロラド峽谷のボルダー・ダムは代表的なもので、我々は明日これを視察しようとしてゐる。

食堂で一杯氣嫌になつた中老連の話題が、大抵歐洲美人の征服談であるのも、長旅やうやく倦怠を加へたるの證か。午後九時、寢臺にもぐる。

ボルダー・ダム見物

九月二十八日。晴。

列車中に目覺む。少し雲は出てゐるが、やはり晴れ。南へ向ふせぬか温度も一昨日より高く、朝十八度、晝二十度。

午前七時起床、日記・繪葉書など書いて、八時朝食。秃山と薄赤き岩石。低きは五十呎、高きは二百三十呎。その間を縫つて列車は走る。驛々にポブラやアカシヤの綠樹の見えるのが珍しい。カリーブ驛で十五分間停車。繪葉書などを

買ふ。

ユタ州からネバダ州に入る。モーバ驛の邊から西北方に一萬呎位の連峰を望む。

午後零時二十分、豫定より十五分遅れてラスヴェガス驛着。シカゴを發してから正に五十時間、約二千五百哩を突破したことになる。この間約千哩の沙漠地帯・山岳地帯が横はつてゐたわけだが、俺の想像に反したのは、ロッキーマン山中に、川らしい川も高山らしい高山もなく、更にトンネルらしいトンネルさへなかつたことである。南北兩太平洋鐵道の沿線には、この中央路線とは違つて山も川もトンネルも多く、もつと峻険な感の迫るものがあるといふ。

アリゾナ州北部のコロラド峽谷には、グランド・キャニオン國立公園がある。これは亞米利加三大公園の一つで、周圍の各州——北のユタ州、西のネバダ州、東のニュー・メキシコ州等——から入り込めるが、ネバダ州南端のラスヴェガスからはなほ東方二百哩も奥地へ行かぬと眞の大溪谷美に接することができず、この行少くも二日間を要するといふので、残念ながら中止した。しかし、それはボルダー・ダム附

近の溪谷に比すれば、五倍・十倍の規模を有するものの、森林の美しさにおいては後に見るヨセミテ公園には遠く及ばぬといふ。後に知つたのだが、ラスヴェガスからグランド・キャニオンへは、完全なドライブ・ウェイの外に、飛行機上から溪谷美を探る方法もあり、その費用三四十弗、所要時間五六時間だとのこと。これがあるなら、試みればよかつたと思つた。

ラスヴェガスは僅かに戸數二千、人口二萬ばかりの町で、一九二九年ボルダー・ダムを築造するに際して新設されたもの。當時は諸材料運搬のためダムまで支線を派してゐたが、今は廢止されてゐる。

我々は、南太平洋鐵道會社の經營に係る四十人乗り最新式のバスによつてボルダー・ダムに向つた。この時ロサンゼルスから男女六七十人のダム見物團來り、これもバス二臺に分乗して同時に出發した。彼等はロサンゼルスから三百哩の間自動車専用道路を疾走して來たものの由。かういふ團體は冬季以外毎日の如く押寄せるといふ。

時速五十哩で、二十五哩の直線道路を走り、ボルダーの町

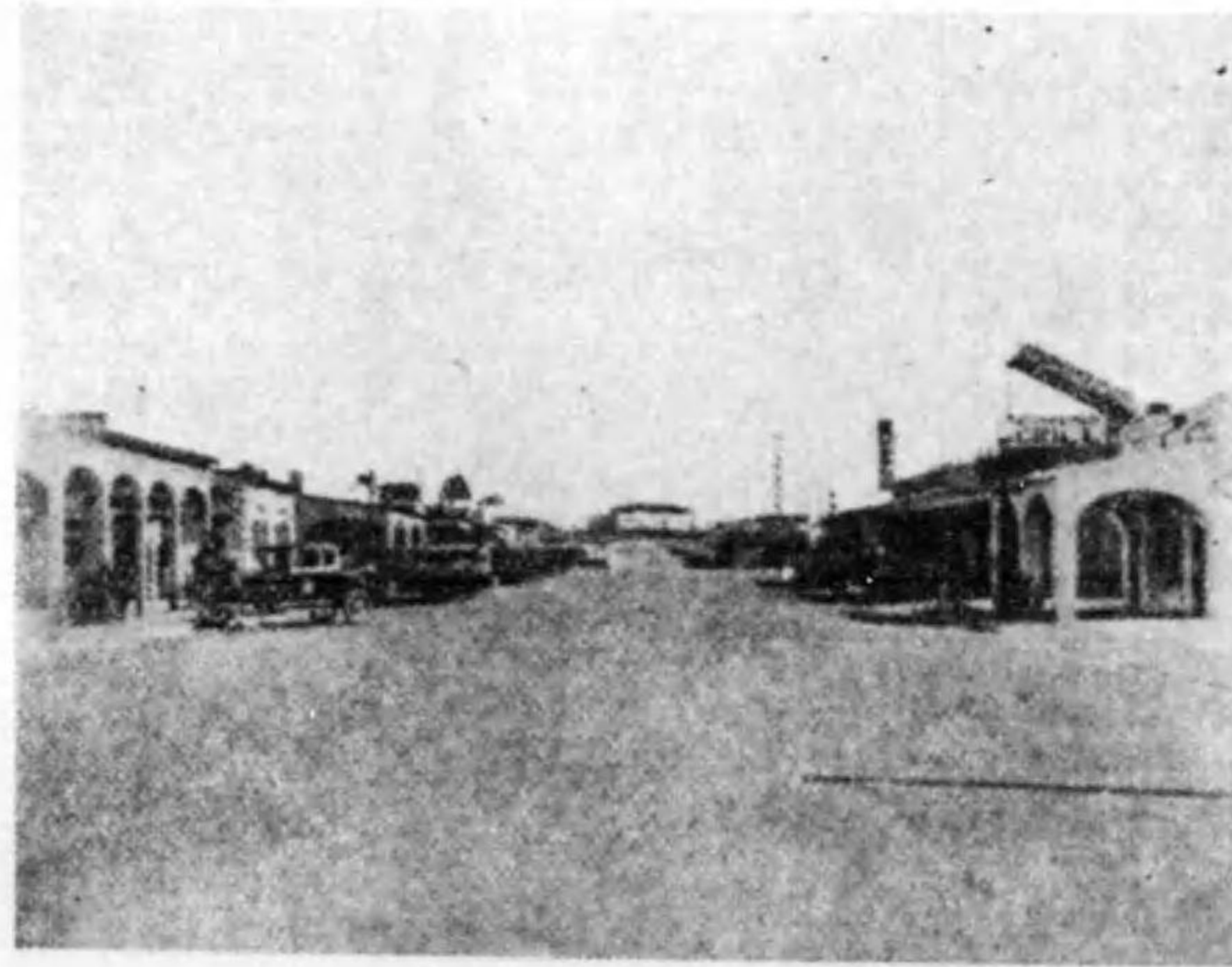
に着く。途中は三四千呎から七八千呎の高原だが、氣温は二十數度といふ高きにあつた。——昨日の沙漠地帯といひ、この高原といひ、氣候に恵まれてゐることは何よりの強味だが、ただ無雨性と風化作用によつて淡黄色または茶褐色に變じた岩と砂の大原野が、今後灌漑の便益だけで、果して耕作地になり得るものかどうかは我々にはなほ信じ難く、とに角大問題であらうと思ふ。

ボルダーもまたダム工事によつて發展した町で、戸數四千に過ぎぬが、都市計劃の道路は縦横に完成し、水道貯水池・病院・學校等遺憾なく建設され、市中にはホテル・レストラン・カフェー・映畫館等多く、職工の家庭を五十組から二百組位まで收容できるアパートも至るところに見受けられる。こんな小さな町のために毎年二百萬弗づつ數年間支出され、現在なほ都市計劃進捗中だとのことである。

ボルダーから道路は次第に登りになり、約二哩でダムと發電所の工事の中心地に達した。ここでバスを捨てて見物にかか

かる。

客殺到、それらの自動車と工事の技師・職工の自動車のために、數百臺も置ける自動車置場ができてゐる。このあたりは、例へば村山貯水池の如き平坦なところと異り、見渡す限り薄茶褐色の岩山で、所々鐵鑛を出すによつても知れる通り、鐵の成分を含んだ堅緻な火山岩の累積には一點の綠もなく、一鳥の囀りすら聞えぬ



ボルダー市街

無味乾燥な土地である。

長大な堰堤の附近に工事事務所あり、ここでダムの寫眞・設計圖・工事沿革等の載つた印刷物を貰ひ、事務員から説明を聴く。

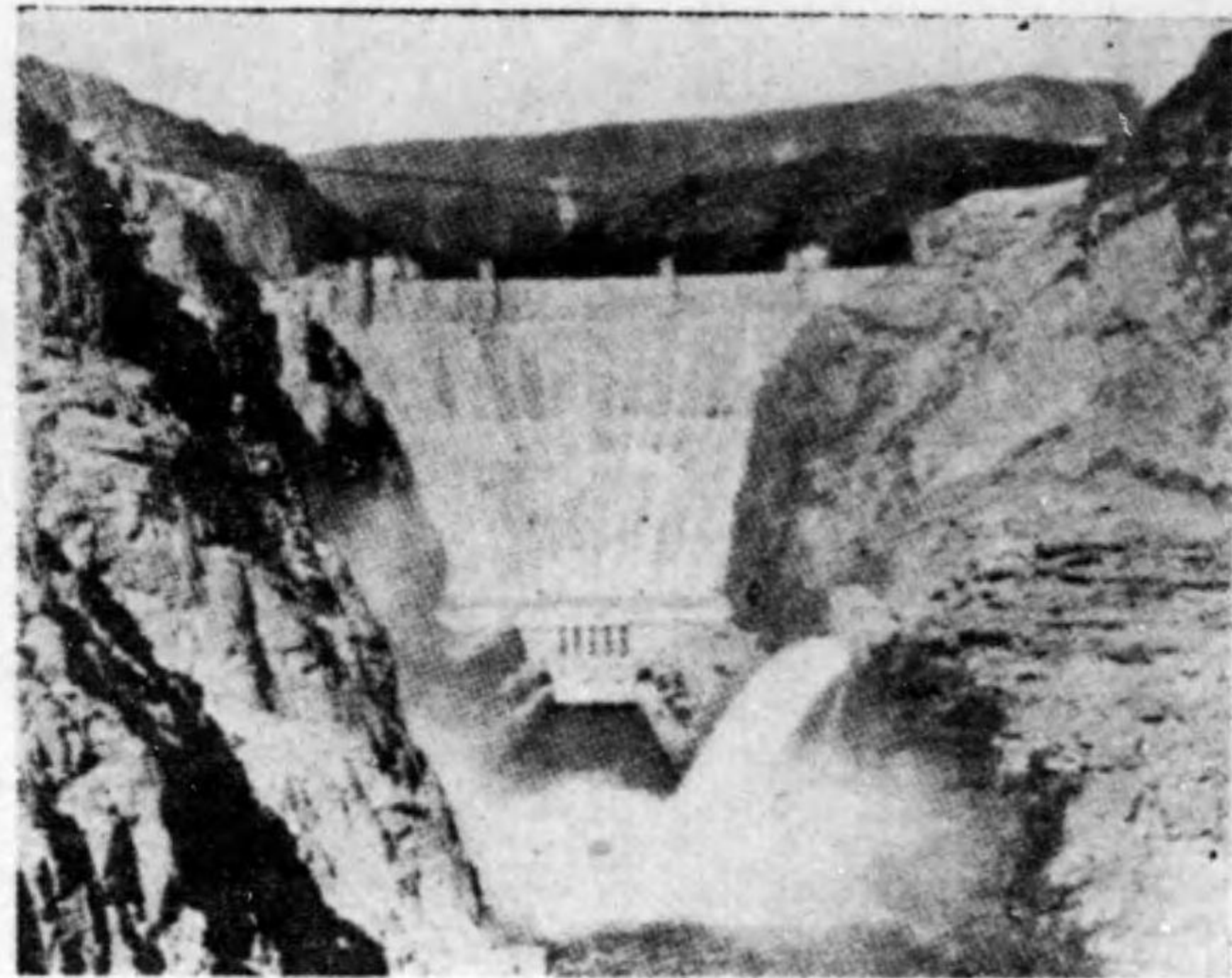
一九三〇年、フーヴァ大統領の任期中に米國の景氣は俄かに悪化して失業者續出、その翌年には全米で七百萬人からの失業者を生じてゆゆしき社會問題と化し、おのづから失業者救済の聲が朝野に満ちたので、そこで政府はその要望に應じ、アリゾナ・ネバダ・カリフォルニア三州の雨量最も少き地方を灌漑すると同時に巨量の水力電氣を獲得すべく、このボルダー・ダムの工事を起したのである。工費約二億弗、五六年間繼續の國營事業で、これに使備した従業者の延人員は一千萬人、今では大半の竣功を見てゐる。

ダムの水面は長さ百八十哩、幅は狭いところで一哩、廣いところは八哩、結局面積二百二十五平方哩、實に十四萬五千エーカーに及ぶ。位置は海拔千三百呎のところにあり、人工湖として世界一の廣さなることは當然である。なほセメントを用ゐること五百萬樽、工事中の死亡者八十九名といふ。

ダムの水は勿論コロラド河の中流を堰止めたもので、この川はロツキー山中に出でて南流するが、夏秋は比較的水量少く、冬春は雪解水のために水嵩大いに増し、殊に四月・五月頃は最高度に達する。現在、大電動機十二個の中四個据付けであるが、十二個の發電力は六十萬キロワット。最初の設計通り今後三年間にダムの水量を三十呎深め得れば、更に電動機十八臺を据付けて七十萬キロワットを發電し、合計百三十萬キロワットの電力を確保することができるといふ。

電力は大體カリフォルニア方面へ送られるが、ロサンゼルスに至る三百五十哩間の送電線は、三吋半の太さあり、送電力二十八萬七千五百ボルトだといふ。

ボルダー・ダムの一面の目標たる灌漑工事の方はどうかといふと、フーヴァに代つてルーズヴェルト大統領の時代となるや、その謂ゆるニュー・デイルは、農作物の價格を人為的に引上げて農家の收入を増加し、依て以て景氣恢復の一方策たらしめようと企てるに至つたので、水利によつて荒野を田園化するどころか、却て各州の生産過剩地に減反制を布くといつたやうな形勢を導き、ユター・アリゾナ・カリフォル



ボルダー・ダム(下部)

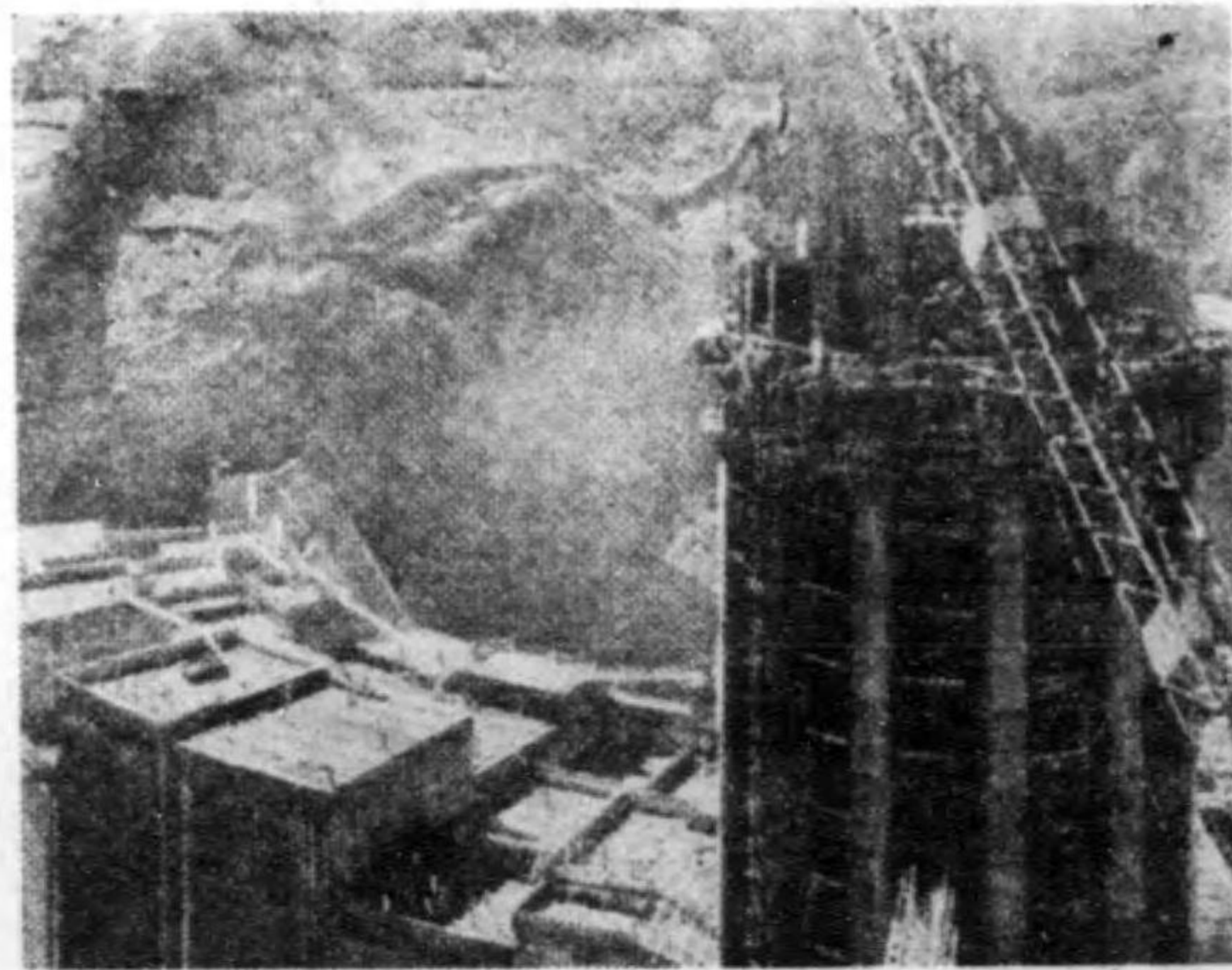
ある。この人がフーヴァの命を受けてこの大事業完遂の衝に當つた第一の功勞者らしい。その邊に立つて西方を望むと、

ニヤ三州に跨る開鑿には猛烈な反對の叫びが舉り、ために全く停頓状態となり、剩水はすべて徒らに放流されてゐる。

事務所の前に、内務長官エルウツド・ミードの銅像がある。

遙かにシエラネバダ山脈が見える。ロサンゼルスは同山脈の南端にあり、ここから西南三百五十哩、サンフランシスコは同山脈の西部にあり、ここから西北七百里、昨日通過したソルトレイキへは、ここから東北四百五十哩あるといふ。

ボルダー・ダムは計劃者フーヴァ大統領の名をとつて



ボルダー・ダム(工事中)

最初フーヴァ・ダムと稱せられてゐたが、次代のルーズヴェルト大統領はその名を快しとせず、遂に露骨にこれを葬り去つてボルダー・ダムと改稱してしまつた。この邊のことは日本人には理解し難い不人情さであるが、また謂はば、米國流のやり方をまことによく發揮したものともいへるであらう。

次に我々は地下の發電所を見るべく、エレヴェーターで約六百呎下降し、最底部の電動機のあるところに達し、そこから段々上層部へ登つてみたが、これは高さ五十三階もある複雑な建物で、各階に幅一米半位のコンクリートの通路が數キロづつあり、内部には種々な發電設備がぎつしり詰まり、門外漢の我々はただただ驚異的也として引込むより外に術なきを感じた。

一旦室外へ出て、ダムから發電所への水路を見たが、一時間三十哩の速度で流れるその水量の豊富さもやはり豫想以上であつた。直接發電所へ水を落下させる鋼鐵パイプは、上部周圍五十呎、下部八十呎もあらうかと思はれる巨大なもので、水量が標準以上になつた場合餘水を排除する装置も巧みに造られてあつた。

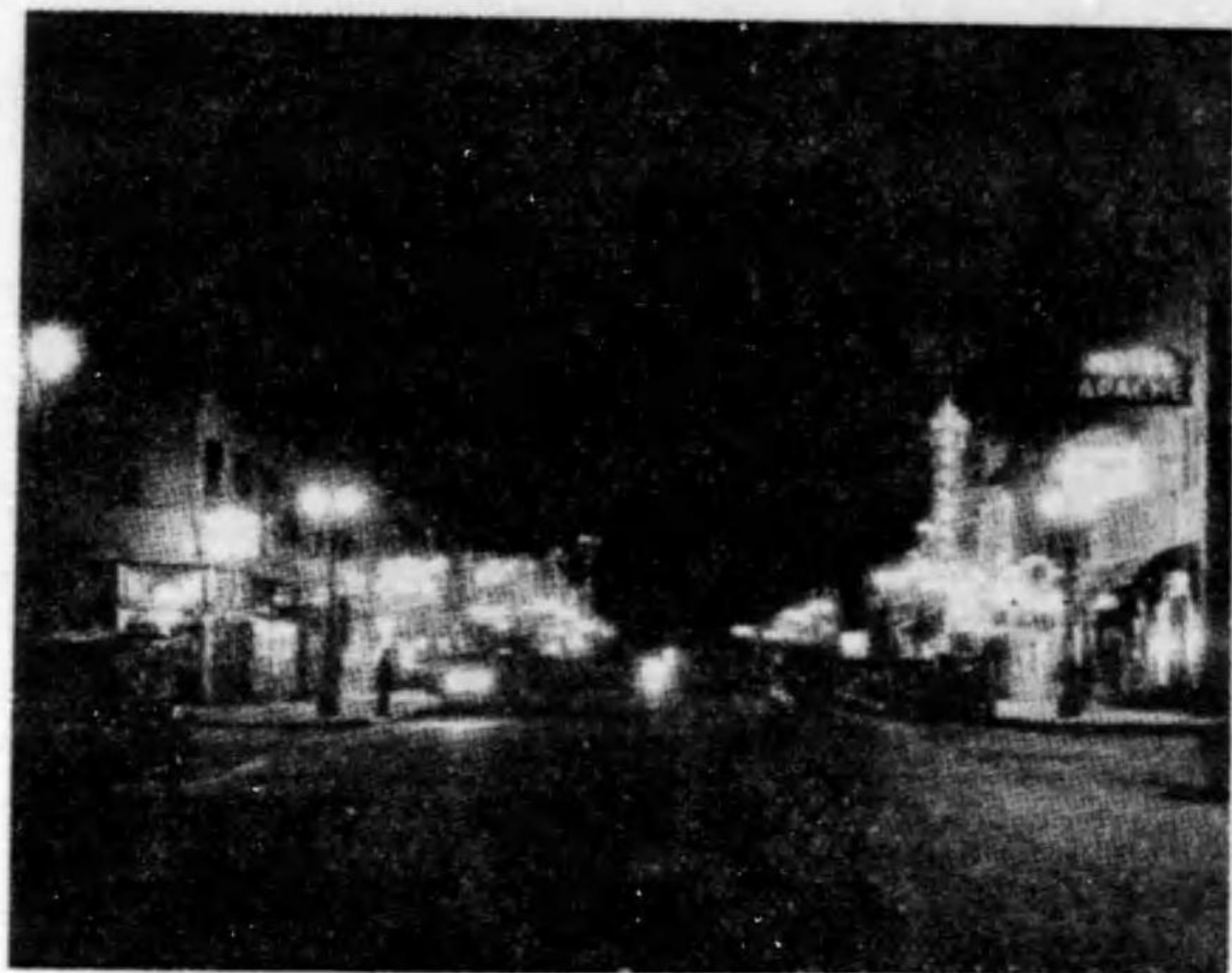
發電所のみので従業員は現在やつと五百人位、この日既に三時半頃となつたので、彼等は既に一日の仕事を終り、エレヴェーターやケーブル・カーで歸路に就くところであつた。ボルダー・ダムと日本の發電事業との比較を示すと、大略左の如くであらうか。

ボルダー・ダム 百三十萬キロワット
日本水力(黒部川數ヶ所) 三十萬キロワット
國營信濃電力 三十萬キロワット
朝鮮水力 四十萬キロワット

以てその規模を窺ふことができよう。

堰堤から約三哩程迂回して、午後四時頃、人工湖の岸邊に着き、それから遊覧船に乗つて一時間ばかり水面を走つた。前面に、例の熔岩で成つたやうな茶褐色の山が望まれ、風光は至つて原始的で寂寥感が漲つてゐる。一キロばかりの水路の兩側にも同様の山々が續き、いかにも人間の智慧が大自然のただ中に肉迫してゐるといふ氣持がする。石垣や水門も大仕掛けな堅牢なものであつた。

五時半、ダムを出發、ボルダーの市街に自動車を止め、映



景夜のスガエヴスラ

野の、
しい原
漠に均
何分沙
たが、
くきい
望もよ
つて展

畫館でダムの設計及び大工事中の實寫を見る。これは、建設事務局の特別の厚意によつたのである。
七時、ボルダーを出發、往路と同じ直線道二十五哩間を走

スヴェガスの人家の燈火が僅か五六哩先のものであるかのやうに錯覺された。

七時半、ラスヴェガス驛着。この町は前にいふ通り戸數二千の人口二萬しかなく、往きには大したところとも思はなかつたが、電力の供給豊富のため、夜は全く見違へるばかりの燦然たる明るさで、特に夥しい數のバーやカフェーのネオンサインの美しさすばらしく、實際のところ、紐育以外にこんな煌々たる夜の町が他にあらうかと思はれた。同時に、いかにも新開地らしい活氣を呈し、ダムで働く労働者連は景氣よく酔つて徘徊し、町中が酒と煙草と女の香ひに満ち満ちてゐるのを感じた。

夜九時發の急行列車でラスヴェガス發、ロサンゼルスに向ふ。

亞米利加西部篇

「第五十五信」ロサンゼルス ニウ・ロスリン・ホテルにて認む

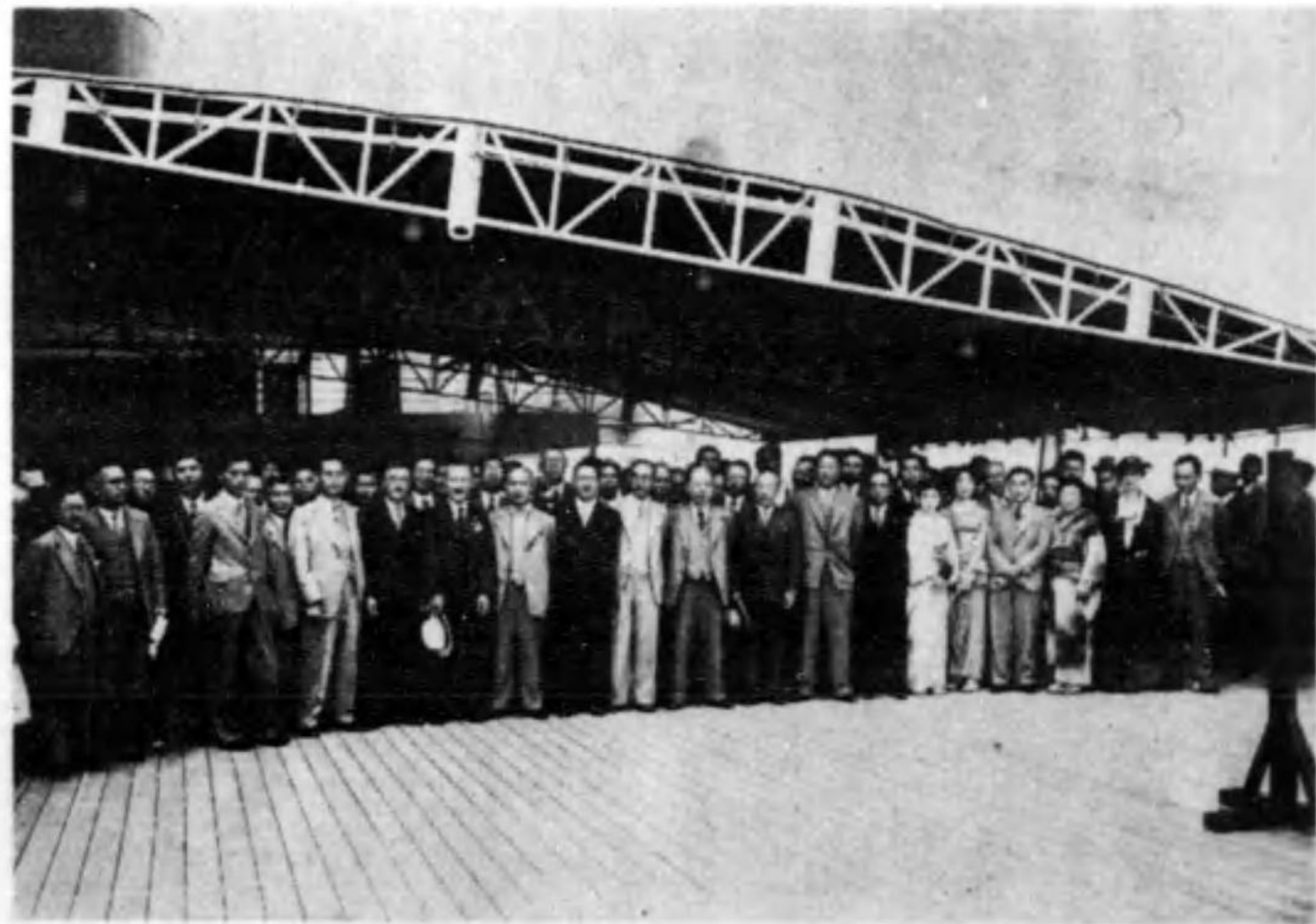
ロサンゼルス見物 A
ハリウッド瞥見

九月二十九日。晴。

朝八時過ぎ、列車はロサンゼルス郊外の某驛に五分間停車、この時左手三四哩彼方の丘に、杉の密林のやうなものが見えたが、どうも異様な樹態なので木下支配人に訊ねると、それは南部カリフォルニア大油田の槽が無数に林立してゐるのであつた。

八時半、ロサンゼルス驛着。この地方には六萬人の邦人が居住するだけに、驛頭へ日本の領事館員・商業會議所関係者・會社員・商店員・新聞記者等數十名の人々が出迎へてくれた。今度の旅行中、かかる多數の人士の歓迎を受けたことは勿論他に例がなく、フォームで各新聞社の寫眞・映畫の撮影あり、英字新聞記者からは旅行團の感想や日支事變に關する

(者著がるせに手を子頼い白列前)てに頭驛のスルゼンサロ



昭和十二年九月廿九日より
十月十三日まで

質問あり、そんなこんなで三十分ばかり手間どれ、九時過ぎ、この市中心街なるニウ・ロズリン・ホテルに投じた。

ロサンゼルスは最初西班牙人の植民地として起り、一八三〇年の人口僅か七百人、一八八〇年にすら一萬人に過ぎなかつたのが、一九〇〇年には十萬人を算し、一九二〇年には五十七萬人に達し、今や百四十萬人に激増して、米大陸太平洋岸最大の大都と化した。その發展の急速なること、シカゴ及びデトロイトと共に世界にも類例がないと稱される。加ふるに市域の廣さは正に世界一で、東西二十四五哩、南北二十哩に亘り、映畫都市のハリウッドもまた市中に編入されてゐる。

一九三六年のハリウッド製作映畫の輸出高は一億五千萬弗。附近の油田から出る石油八千萬弗。南カリフォルニア州の平野に産するオレンジ・レモン・葡萄等の果實五種類で三千万弗、野菜・穀物・草花等を合すれば二億弗に及び、それら皆ロサンゼルスなる十數ヶ所の大取引所で集散されるのである。

自動車の數五十萬臺、個人の乗用車四十二萬臺、後者だけ

でも人口三人に一臺の割となる。電話使用數四十萬臺、これも三人強に一臺である。

すべてがこんな調子で、ロサンゼルスの發展力は奥底の知れぬ感があり、十年後には人口二百萬人を突破するであらうと噂されてゐる。

我々は先づ日本人商業會議所に至つてロサンゼルスの大勢と日支問題についての市民間の輿論を聴き、議員諸氏と晝餐を共にし、それから市中見物に出掛ける。

(一)小賣店・百貨店の賑ふブロード・ウェイ。スタンダード石油の二十階のビルが目立ち、銀行街には各國の銀行が支店を並べ、附近のウエストレック公園には熱帯植物が繁茂し、この中に立派な實業家クラブが見えた。大小の公園、市中に八十七ヶ所あるといふ。ブラックス・ロビンソンの二つの代表的百貨店を視察、場所柄だけに流行衣裳などは華美を競つてゐる。到るところ善美を盡した映畫館あり、その數八百、内有名なものだけで二百以上あるとか。嘘みないものだ。

(二)市の西北部に出ると、高級住宅地帯となる。すべて垣



ハリウッド市街

外凝つては思案に及ばぬ底のものもないではない。日本の石燈籠が、この邊の庭にちよいちよい用ゐられてゐることも始

根などなく、入口

の數十坪・數百坪の花壇・庭園に作られ、恰も一大公園の中に住宅が點在してゐるかの如くに見える。サンタモニカ山麓のハリウッド近くともなれば、映畫スター連の住宅は愈と出でて愈と奇巧縦横、美術的に、趣味的に、或ひは濃厚に、又は瀟洒に、中には奇想天

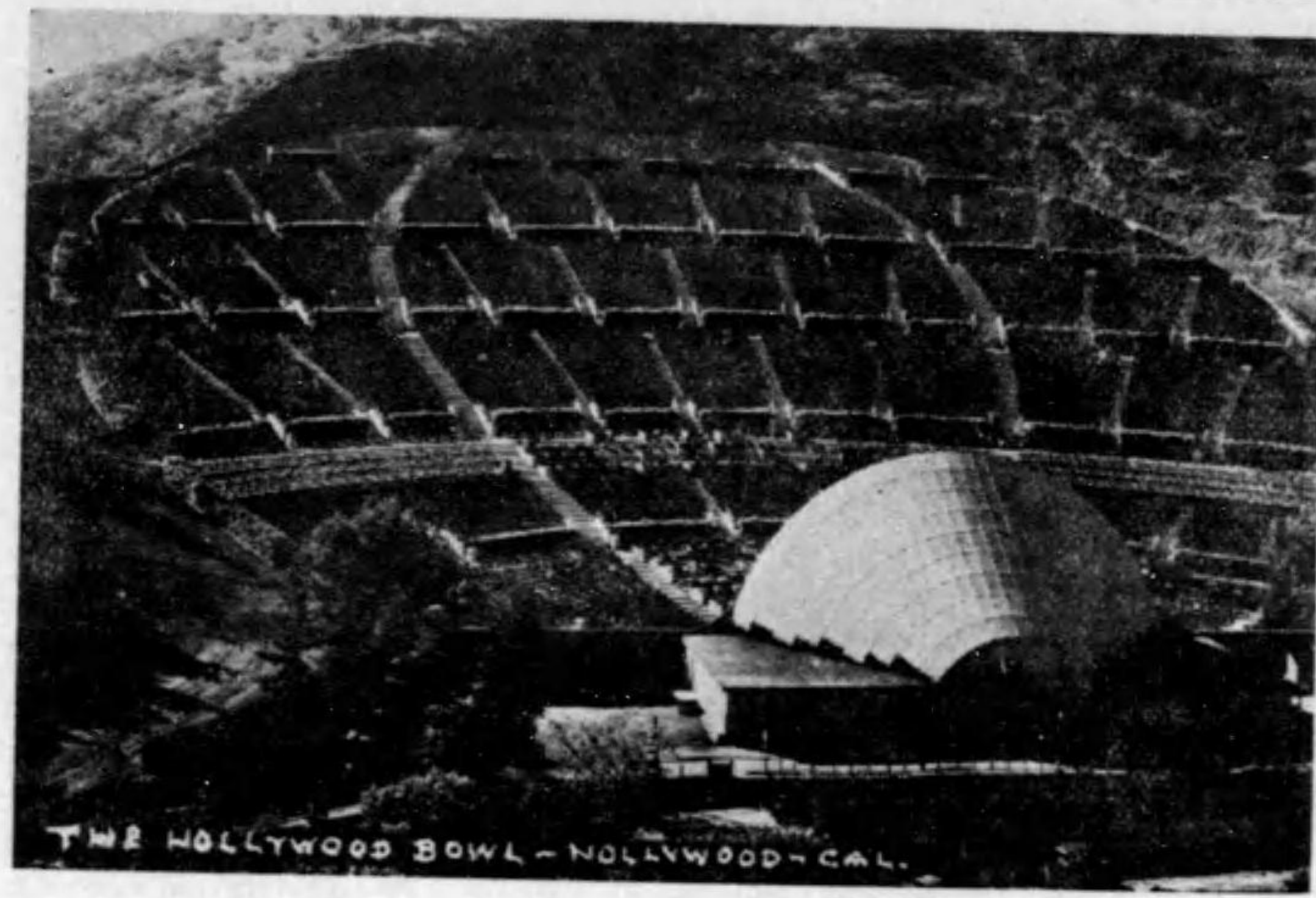
めて知つた。悪い氣持はしない。

(三)ハリウ

ッド。亞米利加の映畫製作所は全部で七十、その中四十以上のものがロサンゼルス地方に存在し、ハリウッドには三十に近い大撮影所が相競ひ、八十五の大スタヂオが、鎌倉や逗子あたりの地形に似た谷間のあつちこつちに建てられてゐる。パラマ



R K O 撮影所



場奏演外野・ドツウーリハ

ウント
 ・ワイ
 ナー
 ラザ
 ス・コ
 ロンビ
 ヤ・ユ
 ーナ
 テツト
 アーテ
 イスト
 ・メト
 ロゴ
 ルドウ
 キンメ
 イヤー
 ・RK
 O・フ

アストナショナル・フォックス等の諸社皆ここにあり、鋼鐵業・自動車製造業に次で今日映畫事業が米國産業の第三位に昇り、悠々世界映畫企業中の王座を占めてゐるのも、無論ハリウッドであるがためである。斯業の投資額全米では二十億弗、ハリウッドだけで十五億弗、關係者四萬人、週給二百萬弗。

RKOとコロンビヤのトーキー・スタヂオを見る。セツトヤトリツク用具數々あり。大海の怒濤も池の水で撮れ、高層建築群も玩具同様である。

ハリウッドのメイン・ストリートに出れば、東京の銀座より立派で賑やか、自動車の多いのにも驚く。ここに映畫俳優のための特殊圖書館などもあり。

丘陵を越えると、野外大演奏場たるハリウッド・パウルあり、百五十間に百間で一萬五千坪もあらうか、四萬の座席が、自然の傾斜を利用して階段式に設へられ、音響の洩れぬやうに念入りに工夫してあり、階段や椅子の間に植ゑた綠樹も風趣を添へてゐる。嘗て近衛秀磨氏指揮のシムフォニーがここで開演された時には、超満員の盛況で、二三萬人の聴衆

が座席外で立聴きしたとか。照明装置完全で、演奏會の夜には燦々たる星空の下にしかも不夜城を現出するといふ。

サンタモニカの山頂に近いところから太平洋を見渡す。ピヴァレイ・ヒルの山腹程よきところに、ピツクフォード・デイトリツヒ・チャツプリン・テンブル等々大スターの家二十軒點在する。

(四)以下、少し追記する。映畫會社ではワーナー・ブラザーズの内部を一時間はかり案内されたが、鐵筋コンクリートのスタヂオ一號から十九號まであり、更衣室や食堂なども堂々たるもので、日本の映畫事業のいかに幼稚極まるかが省みられた。生憎どのスタヂオも作業中ではなく、男女優の活躍の見られなかつたのは遺憾であつたが、トリツク用の紐育市の中の一部が實物と寸分違はぬのや、地下鐵・百貨店のウキンド・支那人街・ハドソン河・紐育中央ステーション等の巧みなセツト、更に北歐の風物や諾威の捕鯨のシーンなどの大仕掛のセツトを興味深く見た。ワーナー・ブラザーズの敷地は十七萬坪に及び、道路は鋪裝され、スタヂオ及び大小の附屬建築物の外に、木材倉庫・木工場・ペンキ工場・小道具製作場等

あり、この一會社だけからでも、ハリウッド全体の盛大さが推察できるといふものであつた。

ハリウッドの歴史を訊くに、大工のアンナ・クリスチといふ男が一九〇九年映畫の製作を思ひ立つてやつて来て、翌々年から撮影にかかつたのが濫觴だとのこと、まだ今から二十七八年しかならぬのだ。なぜ映畫事業が榮えたかといふと、この地方は空氣清純で極めて雨少く湿度の低いといふ氣候風土的關係が與つて力あるらしい。

チャツプリン等大スターの各々華麗な住居のあるピヴァレイ・ヒルの上からロサンゼルス全市を鳥瞰したが、その廣さ名古屋の數倍もあるかと思はれた。そのあたりには石油の槽もぼつぼつ見えた。また大街道兩脇なる乗馬専用路をスマートな乗馬服に身を包んだ美男美女の俳優共が、颯爽と馬を驅つたりしてゐた。

サンタモニカの海岸は、南方サン・ペドロ灣のロング・ビーチと共に有名な海水浴場で、夏の避暑客の雜沓期には、ハリウッド女優が尖端風俗を競ふといふ。なほサンタモニカの海岸にはダグラス飛行機の製作所があつた。

夕六時半、ホテルに戻り、晚餐の後入浴して疲れを醫す。ロサンゼルスは、即ち「天使の町」といふ意味で、雨量甚少、春から秋までは晴天続き、僅かに冬季に限り多少の雨あるのみ、そのため天気よく乾燥して夏は海風涼しく、北方には「花園の町」パサデナがあるといふ工合で、南國情趣ゆたかなまことに Angeles 的樂土である。

「第五十六信」ロサンゼルスの ニウ・ロスリン・ホテルにて認む

ロサンゼルス郊外の油田

九月三十日。晴

今日は午前十一時から、油田見物に出かける。案内は清原氏、この人は熊本縣人で、亞米利加の大學では松岡洋右氏と同窓であつたが、關係事業に失敗して後、今では日本人會の理事として移民の斡旋に努め、日本人會の發展に盡力してゐる。前に石油事業に携つたこともあるので、今日は無理に案内役を買つて貰つたのである。

我々は先づ南カリフォルニア大學の近くなる清原氏の家を訪うたが、これは米國中流家庭の模様を知る上に意義があつた。またその時、清原氏から聞いた話には、こんなことがあつた。

「南カリフォルニア州の石油脈は、十七年前に發見されたが、範圍が廣いので今日でも盛んに採油されてゐる。テキサス州の石油には及ばぬが、全米第二位の産額を示し、重要産業となつてゐる。

ロサンゼルスは新興都市であるため、勞銀が非常に高い。一日八時間労働で、普通労働者が四弗乃至八弗、大工・左官・ベンキ屋の如き技術労働者は八弗乃至十弗、鐵工・電機工の如き特殊技能者は十弗乃至十六弗の高給をとる。百貨店の女店員でも二弗から四弗、初給すら一弗五十仙である。云々。清原氏に導かれて、南カリフォルニア大學を見る。東部の大學よりも敷地廣く、建造物も多いやうだ。二萬人といふ學生數と大學圖書館の完璧さでは、米國有數のものだといふ。

附近に一九三二年に舉行された第十一回オリンピックの競技場がある。フィールドの中央に、長方形一萬五千坪もあら

うかと思はれる芝生が美しく敷かれてゐる。伯林のオリンピック會場も豪壯なものだつたが、ロサンゼルスのそれもいかにも金のかかつた感じで、殊に建物が堅牢で堂々としてゐるのが特色。スタンドには十萬人の觀衆を容るるに足りる由。日本の選手が水泳に優勝し、三段跳や乗馬に氣を吐いたことは、今尙我々の忘れ難い興奮である。

郊外へ出ると、アスパラガスその他の蔬菜の栽培が目立つ。さういふ田園の中を東方へ三十哩ばかり進むと油田に達する。それは高さ數十米の極めてなだらかな山にかかつて展げ、山上・山腹・山下、あたり一面に石油槽の林立、その數千以上もあらうか。この邊十七年前までは日本人がトマト・オレンヂ等を作つてゐたのが今はすっかり油田となり、どこを掘つても石油が湧出するさうである。

槽はロータリー式で、高さ十五間乃至二十間、大體鐵材で作られ、中にはオーク材のものもある。清原氏の話によると、一井の掘鑿費十萬弗から十五萬弗といふ。地盤が岩石なので、噴水のやうには迸出せぬが、自然に流れ出すものも相當あり、その力のないのは發動機ポンプで揚げてゐた。井戸

は三間置き・五間置きに掘られ、その中間の僅かな空地にすら、盛んに掘りつつある。我々は清原氏の知人が經營する油田の掘鑿作業を見たが、堅い地層にぶつかると一日に半米しか掘れない由。従業員は數人しかをらず、工場主自ら監督して掘鑿機を運轉させてゐる。

一帯の油田の一井の湧出量は、一ケ年一萬バレル乃至二萬バレル、最も優秀なのは三萬五千バレルを産し、井戸一つ持つてゐるだけでも既に立派な有望な事業であるといふ。

山中最初に掘つた油井は、今日十間幅道路の真中に残つてなほ湧出を續けてゐる。十七年前これを試験した技師は、自らこの地産油の有望性を熟知しつつ、土地の高騰を恐れ且つ世間からカモフラージュするため、一旦掘つた井戸を埋めてこの地の不適當なることを社會に聲明し、そして二年後、附近の土地を單なる耕作地の値段で一手に買収し、始めて大仕掛けな油田の開發に着手して大金儲けをしたといふ。作業員の口止めなどには餘程骨折つたことであらう。ここいらのハツタリの呼吸のうま味は米國獨特のものである。

油田の丘上からロサンゼルスとその向うの煙波縹渺たる太平洋を遠望し、西南方へドライブする。途中邦人經營の農場及び果樹園が到るところに見え、この方面で日本人の相當活動してゐることが察せられた。

サン・ペドロの海岸へ出る。これはロサンゼルスの門戸をなす人工港で、長大な防波堤が突出してゐる。屢々軍艦の入港もあるといふ。夏季は海水浴場として賑はひ、ホテル・レストランその他の歡樂設備がよく整つてゐる。

次にロング・ビーチやウイルミントンの町を見る。この方面にも最近石油脈が発見され、槽が各所に立てられてゐる。またフォードの自動車組立工場もあつたが、數年前この工場が用水井戸を二つ三つ掘つたところ、そこから偶然石油が流れ出したので、會社でもこれを一事業とし、また周囲の土地を買収して莫大な利益を得たとか。爾後頗る投機熱を煽り、鑛業家を血眼にさせてゐるといふ。

サン・ペドロから北方ロサンゼルスに至る道中にも邦人の農園多く、車上これを眺めながら、夕刻、ロサンゼルスのホテルに戻つた。

「第五十七信」ロサンゼルスの ニウ・ロスリン・ホテルにて認む

加州の移民の現況と加州の産業

十月一日。晴。

故國にあらば、今日の朔日には高崎神社に參拜する慣はしであるが、異國の旅にある身は、遠く日出づる國の宮城を遙拜して何よりも御皇室の御安泰を祈願申しあげ、邦家の隆盛と日支事變の皇軍大勝利を冀念するのである。

朝、事務室で事變の戦況その他のニュースを聴き、それから住友銀行支店に至る。支店長村田氏は不在で、熊巳和夫氏が代理として會つてくれた。

住友の米國西部における支店は、サンフランシスコ・シヤトル・ロサンゼルス・サクラメント、これにホノルルを合せて五ヶ所があり、預金高は、ロサンゼルス・ホノルル・サンフランシスコ・シヤトル・サクラメントの順位だといふ。日本の銀行支店は、米國各州の法規により、大體預金・貸付は

出來ず、單に爲替とか信用狀の支拂とか内地送金とかだけを行ふことになつてゐるが、公然の秘密として一般銀行業務をやり得る方法があるらしい。されば見てゐてもなかなか忙しさうである。熊巳氏の話の要次の如し。

「カリフォルニア州の人口七百萬人の中、邦人は南加に六萬人、北加に五萬人、これは、滿支は別にして、ハワイの二十萬人、ブラジルの十五萬人に次ぐの移民數である。南加の六萬人は、ロサンゼルスに一萬人、郊外の農場に散在して四萬人、いくつかの小都市に合せて一萬人といふ内譯、そして南加移民は密集的なることを特色とし、この點ではハワイに次ぐのである。カリフォルニア州以外にも、オレゴン州・ワシントン州に二萬人近くの移民あり、全米の移民數は、ハワイを合せると三十數萬人になるであらう。若し米國の移民法が改まらなかつたなら、——南加の移民増加率から推して、——今頃は全米百萬人に達し、ロサンゼルス附近のみでも五十萬人を算してゐたことであらう。思へば惜しいことをしたものである。因みに南加移民の出身縣別數をいへば、廣島の二萬人、和歌山の一萬人餘、熊本の一萬人弱、あとは山口

・福岡等々である。

米國における石油事業は極めて有望で、一九二二年・二三年の最高額は四億六千萬バーレルに及んだので、かく亂掘することは相場の下落と將來油源の涸渴を招くであらうといふ理由から統制政策が採られ今日では世界の需要を満足だけを産出しようといふ方針から約六割の二億六千萬バーレルに制限してゐる。カリフォルニア州の油田は、この中の五千萬バーレル、即ち約五分の一の産額を示し、テキサス州の次位にある。全米の石油採取量は、日本の二百倍に相當し、カリフォルニア州で二十日かかれば、日本の一ヶ年分の石油が得られると聞いては、日本が支那あたりの石油鑛開發を念願して止まぬのも當然すぎる程當然であると思ふ。

邦人移民は六割以上農場で働いてゐる。地主もあれば小作人もあり、仕事は、穀物・果實・植木・盆栽・球根・切花等いろいろな農作・栽培に分れてゐる。外國移民としては支那人・墨西哥人・比律賓人もあるが、その數少く、また邦人中半島人も稀である。穀物や花卉の市場は數十ヶ所あり、大規模のものが七八ヶ所ある。邦人の市場も組合組織・株式組織

で設立され、中には五六十万弗の資本を有するものもある。これらは米人がその半額を投資してゐるが、営業権は邦人に属し、實際働くのも邦人である。

南加は石油・農産物に次で棉花も相當の産出あり、それも良質として許されてゐる。東洋方面へ輸出される外はこの州で消化されるが、綿絲紡績業の發達甚だ遅れ、且つ一般に織物工業振はず、東部から本絹・人絹を移入して間に合せる状態である。サンフランシスコあたりに較べると、このロサンゼルス地方は生活程度が稍と低い、人口において彼の二倍を有し、近傍に小都市が点在してゐるので、大衆品の賣行きは良好である。一面、世界の流行界に刺戟を與へ、どしどし新奇のスタイルを創成するハリウッドがあるため、特種高級衣裳の捌け方のすばらしさも見逃し得ない。それかあらぬか、ロサンゼルスの百貨店・専門店には、巴里や紐育にさへあまりないやうなドレス・夜會服の千弗から千五百弗もするのや、毛皮の七八百弗から千二百弗もするのがあり、刺繡の織物は一ヤール五弗から數十弗もするのが並んでゐるといふ次第である。尤もハリウッドの女優共でも、一流のスター

になる。ロサンゼルスなどではめつた買物しない。彼女等はパトロンを連れて、シカゴや紐育に至つて好き勝手な注文を出し、或ひは遠く巴里まで出かけて尖端衣裳を作り、世人や世間をあつといはせることのみ腐心してゐる。しかしハリウッドには何萬といふ俳優がをり、デイトリツヒやピクタフオードばかりではないのだから、そこでやはりハリウッドとロサンゼルスの高級品との關係が成立つのである。

ロサンゼルスの百貨店

以上のやうな熊巳氏の話を聞いて後、行員莊司英雄氏を紹介され、この人の案内により且つ銀行の自動車を提供されて二二三の百貨店を視察することができた。莊司氏は二十八九歳の瀟灑の青年で、五年前住友に入るややがてロサンゼルス勤務となつて今日に及んだが、この度任期満ちて本店歸任を命ぜられ、十四日發航の秩父丸で歸朝の由、船中再び會へるかもしれない。

それから、ブラツクス・ロビンソンの兩百貨店々内を約二時間巡覽したが、これらは紐育・シカゴの百貨店に比すれば



街市スルゼンサロ

一弗以上買物した客の車は無料で預り、買物せぬ客からは若干の料金を徴収してゐるのを知つた。車には一々鍵をかけ、盜難を防止してゐる。

右の二店は高級品本位だが、この外に猶太人の經營する大衆品一方のメイといふ百貨店あり、この繁昌ぶりは、これまでの各地百貨店中でもその比稀なるものであつた。

三店共各と約十階建の建物で、賣場は八階までを用ひ、その延坪一萬二三千坪位。高級品ではロビンソンが圖抜けてゐるが、それよりも大衆品本位の多客多賣を以て鳴るメイが非常に特色を發揮してゐる。賣場には處狭きまでに商品を滿載し、潑刺たる活氣が漲つてゐるが、商品中には中古品があり、値段も新品の半分から三分

規模は小さいが、例のハリウッド關係者の趣味を反映してか、服飾品・装身具等にはかなり贅澤なものがあり、自動車置場のために広い空地が用意されてゐるによつても客種が想像されるのであつた。そして自動車置場には監視人がゐて、

のいで、ここにお客の立混んでゐるのがおもしろい。百貨店で中古品を賣るとは、多分他に決して例のないことであらう。これは不自然でもあり信用にもかかはるやうに感じられるが、それをこの店で敢然断行してゐる點は、いかにも猶太人式ではないか。營業費の節約も合理的らしく、例へば受領證や傳票の末まで、間に合ひさへすれば何でもいいといふ質素なものであつた。この店の十階なる幹部事務室や通信販賣部をも覗いてみたが、遂に尖り鼻の猶太老婦人に追ひ出されてしまつたのは滑稽。蓋し、店の機密を探りに來たとでも思つたのであらう。

親日米人訪問

午後三時半、ホテルに歸り、一行の代表として會の役員三名と團員中の五名が親日米人ベルシニヤ氏を訪問することになり、俺もこれに加はつた。日支事變に對する米人の感情が十日程以前から悪化し、紐育滞在中の樂觀說から次第に悲觀的傾向に轉じつあるのは寒心に堪へず、この際、大地主・大牧場主で實業界の有力者兼親日國民外交家たるベルシニヤ

氏を訪ふのは、決して無意義ではなかつた。

自動車三臺に分乗してロサンゼルスの方十五哩の小丘上なるべ氏の邸宅に向ふ。その丘麓に牧場及び數棟の牛舎があり、乳牛八百頭と、米國でも類稀な良質種牛が飼育されてゐる。種牛の牛舎には蠅や蟲を驅除するため、銅線の網に強力な電氣を通じた装置があり、蠅や蟲はどしどしこれに觸れて電氣に焼け、その臭臭に誘はれて更に飛びついては焼けていく。さすがは科學の國亞米利加だけのことはあると感心した。また十棟ばかりの牛舎は極めて清潔で、勾配のついたコンクリートの床は常に水洗され、些かの臭ひもなく、衛生を重んずることかくの如きかと驚いた。それだけに使用人夫も多く、人件費も嵩むのであらう。糶秣は、細かく切刻む装置を備へた工場があり、切刻まれた飼料は、直徑六米、長さ二十五米ばかりの大圓筒の上部まで壓搾空氣で吹上げてバクテリアを消毒し、これを更に粉碎して一つの穴から盛んに落下させ、それから各牛舎へ通風管で配附する。材料は、大麥・燕麥・秣の外に、黍や玉蜀黍の實をとつた後の廢物を混ぜたもので、時期によつては青草や枯草も食はせる。

牧場の廣さ四五萬坪、牛舎の間口四十間、奥行二十間で八百坪、これが約十棟あつて總建坪八千坪、一棟に七八十頭が飼育され、一頭につき六坪乃至八坪の面積が與へられてゐる。毎日二回の搾乳で一頭から平均一日十ガロンの乳がとれるとして一年三千六百ガロンの産乳があることになる。中には一度に十三ガロン絞れるものもある。その規模といひ内容といひ、米國は勿論、世界的にも有數な牧場だとのことだ。この地が牧畜業に適するのは、氣候の溫和と飼料の豊富とのため、他の土地では一頭一日の搾乳量六ガロンか七ガロンのものだといふ。種牛は昔の和蘭植民時代から著名なホルスタインの尤物で、黒白の斑點美しく光澤が實によろしい。犏牛の取引は、マニラ・上海・シンガポール等までにも及んでゐるといふ。

ベルシニヤ氏は、かやうな牧場の外に五千英町の大地主で、その農園には甘蔗やオレンジを大規模に栽培してゐる。丘上から眺めるとオレンジ畑の向うに石油槽が林立し、ベルシニヤ氏の地内からも石油が湧くが、氏は頑固に採掘を拒否しつづけて來た。その理由は、土地一帯が油田化すれば、地

價高騰してオレンジ畑の小作人が失業してしまふことに堪へ難いからであるといふ。この點、日本の地主や事業家にとつて一服の清涼劑になるであらう。

ベルシニヤ氏邸で、主人に會ふ。齡七十、瘦軀鶴の如き人物。夫人は六十餘歳の肥滿型。息子は相撲取の如き元氣な四十男。若夫人は三十五六才。外に十七八歳の妹娘と孫二人。大富豪にも似ず、家屋は質素。一部が二階なだけで、大部分が平屋。全體として日本趣味を取入れた風雅な氣分が漂つてゐる。器具・調度・裝飾もいかにも親日家らしく日本産の品々が多く、日本畫や日本の骨董も少くない。日本の知友の寫眞や手紙も堆高く積まれてある。應接室などは、建築それ自體が日本の古社寺か何かの古材を手斧削りにして造つたもので、老主人の氣持を十分に語つてゐた。

庭園の芝生で記念撮影をし、記念帖にサインを求められたりして後、食堂で日本酒・海老の天麩羅・煮しめなど純日本風の饗應を受け、一家七人の人々と歡談したが、終始明朗で笑聲堂に満ちた。老主人は無口の方だが、若夫婦はなかなかの社交家でよく話しよくつとめた。老夫人は嘗て渡日の際三

越へ注文して拵へたといふ錦紗の羽織を着てゐたが、俺は歸朝の上、妹娘に羽織を一枚贈呈しようと思へた。
かくして夕六時、記念の品などを贈られ、一家の人々の厚意を感謝しつつ歸路についた。

この夜七時半からロサンゼルス日本人街なる一富士亭で我々一行の懇談會を開く。これは木下支配人以下會の役員の長い間の慰勞をも兼ねたもので、一流の料亭ではあり、美女も少からぬし、遠慮會釋拔きの楽しい一會であつた。當番團長野上氏の挨拶と木下支配人の謝辭あり、忽ち宴に移つて呑む程に酔ふ程に、踊る者、歌ふ者、隠し藝續出、遂にエロ唄まで現れるといふはしやぎ方で一同満悦、會の萬歳を唱へて九時半終宴、徒歩でホテルに歸つた。

昨朝、日本人小學校で十三四才の二少年が、支那人小學生數十名に包圍され打傷を受けたといふニュースを聞き、猛憤を覺ゆ。この地の有力英字新聞が妙に支那人の肩を有つた記事を掲げることの影響であらうが、まことに困つた問題である。近頃は全米の新聞の論評が益々日本に酷なやうになつて來てゐる。

「第五十八信」ロサンゼルスの ニウ・ロスリン・ホテルにて認む

ロサンゼルス見物 B

十月二日。晴。

今日は青物市場會社を観るべく、前以て同社重役に交渉して許可を受け、朝四時半から二時間代表的な一市場を視察した。これは日本人街から程遠からぬところにあり、木造ながら巨大な建物群で、一つの建物に三十軒位の問屋が集まり、これが數十棟並んでゐる。問屋一軒の間口は五間乃至十數間で、主人は大部分邦人である。されば青物市場組合は、ロサンゼルス日本人商業會議所及び日本人會の一大勢力をなしてゐる。資本金は三十萬弗で、株式の半數は邦人が持ち、残り半數は米人が持つてゐるが、營業權は邦人の手にある。邦人が株式の半數以上を持つて得ないのは、カリフォルニア州々法によつて然るのである。

亞米利加・伊太利・獨逸系の市場も數多あるが、代表的な

のは邦人を主體とするこの市場であり、取引高は年二億弗の

ロサンゼルス郊外・邦人經營の農園



巨額に達してゐる。而してその取引先き左の如し。

(一)ロサンゼルス
の青物屋。
これはいふまでもなく常に買出しに來る。

(二)南カリフォルニア各都市の青物屋が買出しに來る。

(三)東部大西洋岸の人口稠密地へ冷蔵車で野菜を仕向ける。

(四)中部のシカゴ・セントルイス方面へ輸送する。

(五)太平洋岸北部のシヤトル方面へ供給する。

青果・蔬菜類は、附近の農場から夜中の十二時頃運搬され來り、午前二時頃開市、夜明け前に終了する。我々が四時半に行つた時は、既に取引の大部分を終り、取引品を荷造りしてトラックで運び去るところであつた。

一旦ホテルに戻り、朝

食の後、八時半ロサンゼルス郊外の四五百平方哩に亘る邦人經營の農場を見たが、作物は果實・青物・草花などで、日本人がこの地方でいかに顯著な發展を遂げてゐるかがよくわか



ロサンゼルス郊外住宅地



君イゲるナ御をンオイラ

つた。前にも書いた通り、南カリフォルニア州のロサンゼルスを中心とする邦人移民は六萬人に達し、最初の移民地たる北カリフォルニアのサンフランシスコ中心の五萬人よりも多く、ハワイの二十萬人に次ぐものがあり、ここで稍々集團的に農園事業に當つてゐるのである。

我々は十數ヶ所の農園を巡つたが、中で面白く思つたのは、熊本縣出身の某氏が經營する日本風の植木・草花の栽培で、數百株の日本種の椿は大きな花をつけ、皐月は無數に挿木がしてあり、盆栽にも珍らしいもの多く、日本趣味が米人間に愛好されてゐる事實を實物によつて知らされた。

この地方にも例の石油槽林立、油脈の無盡藏なるにはほとほと驚異させられる。

次に、ゲイといふ人のライオン専門の動物園を見る。これは營利本位の個人經營で、ライオンを増殖し、飼養し、藝を仕込んで世界中のサーカスや映畫撮影用に賣出さうといふ商賣で、現に二百八十頭のライオンを育ててゐる。ライオン遣ひが生後二三十日ばかりのライオンの仔を抱いて牛乳を與へてゐたが、ライオンもこの位の時は、ほんとに可愛いらし

い。かうして生れたてから人に馴れさせ、半歳または一年の後藝を教へ始めるので、その實況は愉快なものであつた。世の中には變つた商賣があればあるものである。

「第五十九信」南太平洋鐵道列車中にて認む

ウイルソン山天文研究所參觀

十月三日。曇。

ロサンゼルス滞在の最終日。今夜七時半發の列車でヨセミテ公園に向ふまで自由の時間があるので、有名なウイルソン天文研究所を參觀すべく前々日來同行者を誘つたが、映畫見物やロサンゼルス情緒の魅力多いのか一人も賛成者なく、遂に俺一人で行くことにした。

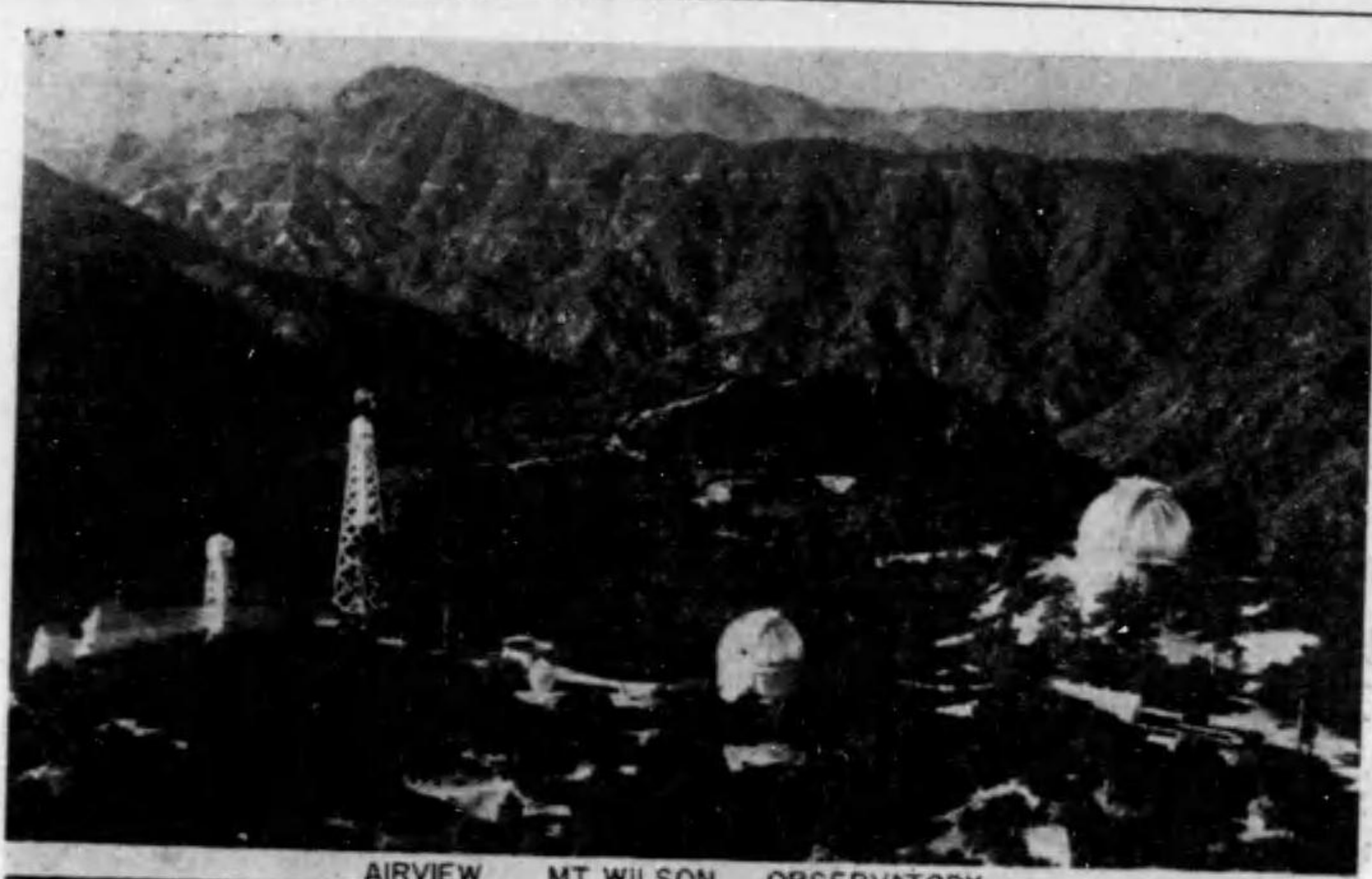
午前九時半發のバスで出發、ロサンゼルスの東北方マウン・ト・ウイルソンの頂上なる天文研究所まで往復百三十哩あるのをこの乗車賃一弗五十仙とは甚だ安い。これは學術獎勵のため政府がバス會社に補助金を與へてゐるからである。それ

にも拘らず、自家用車の發達によつてバスの利用者は極めて少いらしく、始めは俺一人、途中で二人乗つて合計三人、たつた三人で二十四人乗りのバスを走らせた。

坂道多く動搖がはげしい。揺られ揺られて十時十五分、花園の町「バサデナ」に到着、ここは平地ながら海拔は高きにあり、ロサンゼルス市民の避暑地として立派な別荘や高級住宅あり、街も清潔でよく整頓され、道路は三十米幅に舗装され、左右にはヒマラヤ杉・椰子・花壇など美しく、遙かに六千呎のウイルソン連峰を望む風光もまた明朗であつた。

十時半、谷合に入り、次第に山深くなり、溪谷に沿つて走る。日曜日のこととて自家用車を驅る登山者がなかなか多い。十一時半、頂上に達した。場所が高いのと曇天のせいで、異常な寒氣を覺えたので、先づマウン・ト・ウイルソン・ホテルに入り、休憩室の大きなストーヴで暖をとる。松の木らしい丸太をどんどんくべてサーヴィスに努めてくれる。

ホテルで晝食、買物。それから山中約十ヶ所の天文臺を見たが、附近一帯自然の公園をなし、檜・松・梅などの大樹の密茂した間にそれぞれの研究室が獨立の別棟として存在、二



AIRVIEW MT WILSON OBSERVATORY

百呎位の
鐵柱が二
本聳え立
つ。觀測
レンズは
二十吋・
五十吋・
百吋と大
小種々あ
り、百吋
望遠鏡は
高さ百五
十呎、直
徑百呎、
周圍三百
五十呎程
の丸形の
建物内に



Wilson天文臺、百吋の天體望遠鏡

あり、一般に公開してゐる。俺は二百人ばかりの見物人の中に混り、エレヴェーターでレンズの近くに至り、所員の説明を聞いたが、これは残念ながら俺には通じない。ただしきりにカーネギーといふ語をいつたことから判すると、彼の寄附によつて設けられたものらしく、今更ながら亞米利加大富豪の社會的貢獻の偉力をゆかしく感じた。
なほここでは二百吋のレンズを研磨中であるといふ。
公園内には鹿が放ち飼ひにしてあり、人にも馴れてゐる。

花崗岩に六千百呎と刻まれてゐたのは、この地の最高標識であらうか。時は既に十月、この高さではうすら寒さも當然である。

ホテルに戻り、地圖を見ると、マウント・ウィルソンを起點として、北方にはモハーベ沙漠ひらけ、これを突破して一萬呎の高原地帯までドライブができるらしく、七八月の暑中には、天文臺は二の次として壯快な自動車旅行にさぞ賑はふことだらうと思つた。中秋の今日でもホテルの窓から二三百臺の自動車が見えた。ホテルは一軒しかないが、貸別荘は數十棟點在してゐる。

三時半、バスで山を下る。雲霧晴れて始めて遠望がきいたが、北方にも東方にも相當險峻な山脈の連るを見た。また、西方遙かに太平洋の海面を認めた時は、忽ち故國を懐ふの感傷に襲はれた。

歸途のバスは乗客俺一人で、五時半ロサンゼルスのホテルに歸る。出立準備、晚餐、七時ロサンゼルス驛集合、サウザン・パシフィック鐵道によつて七時半出發、北方ヨセミテ公園を志す。

「第六十信」ヨセミテのアワニ ー山莊にて及びサンフランシ スコのヤマト・ホテルにて認む

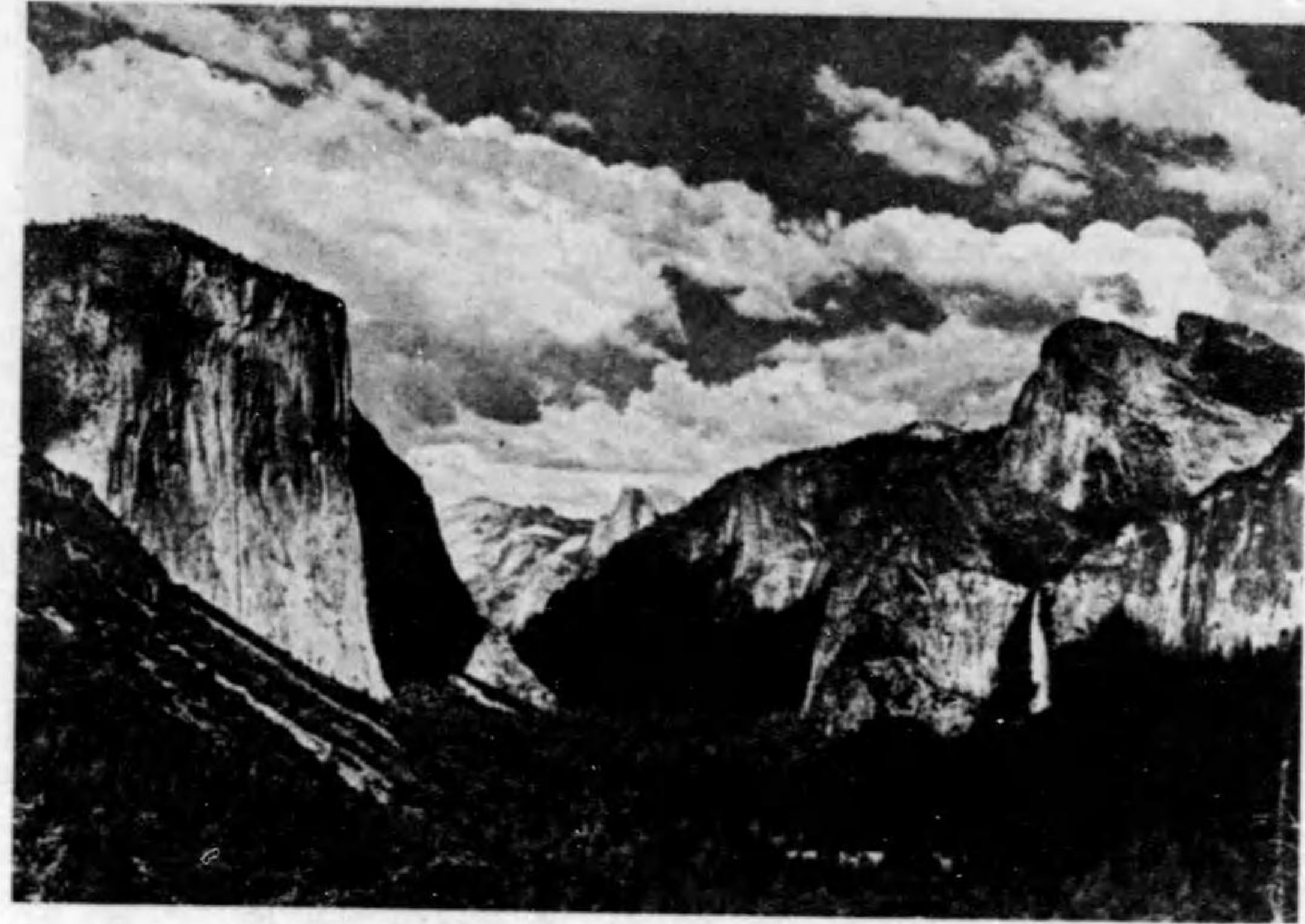
ヨセミテ公園の大自然美

十月四日。晴。

ヨセミテ公園見物は十六名の一行、残りはロサンゼルスから汽車または汽船で今日直接サンフランシスコへ向ふ筈。

この朝六時、我々はマーセド驛に下車。マーセドは戸數三千の小さな町だが、カリフォルニア平原の農業的小都市、且つ東北方ヨセミテ溪谷へ入る關門をなす。ちよつと市街や公園を見たが、なかなか美しい町だ。驛附近のトラガ・ホテルで朝食。トラガとは變な名だが、昔のインディアン語の名残だといふ。

八時、中型バスで出發、案内後には會の岡本理事とサウザン・パシフィック會社各員の栗原益夫氏が當つてくれたが、車中栗原氏の説明によれば、この地方は地味肥沃だが降雨量



谷溪テミセヨ

乏しく、六十五年前マーセド河を利用して灌漑用水を作つて以来やうやく田園拓け、米・無花果・桃・オリヴ・葡萄等を産するに至つた。

途中、五千英町の桃畑を眺める。また葡萄園にも大きなものがある。果物の罐詰工場も立つてゐる。カリフォルニア大學に學ぶ日本の學生には、暑中休暇を利用してかういふ果樹園へ働きに来る者が少なくなく、邦人は手先きが器用なので經營者から歓迎されるといふ。

右手に廣々とした牧場現れ、羊七八百頭もくもくと歩き、三匹の犬がこれを護り、牧人は後から歩いて来る。そのままミレーの繪のなごやかさである。

このあたり、數十哩一直線の道路、いかに大平原であるかが知れよう。稍と登りとなつて海拔一千呎の標高あり。次第にヨセミテの溪谷に近づく。マリポリといふ小さな町でバスを止めて休む。ここはインデヤン居住當時から砂金を産し、白人の砂金採掘によつてできたところといふ。バスは東へ東へと進む。馬三百頭ばかり連れたカウボーイ二名に遭ふ。金を與へて彼等の得意とする投繩術をやらせたが、映畫の西部

劇のそれのやうなわけにはいかなかつた。

マーセドから二時間、約六十哩来たところで標高は二千呎となる。ここから約三十哩を溪谷に添うて進む。沿道の兩側は既に巨岩重疊である。一旦標高千五百呎の地點まで下ると、マーセド河横はり、川床には三四十疊敷位の花崗岩がごろごろ轉がつてゐる。左手にヨセミテ登山鐵道あり、また砂金鑛山やセメント會社見ゆ。

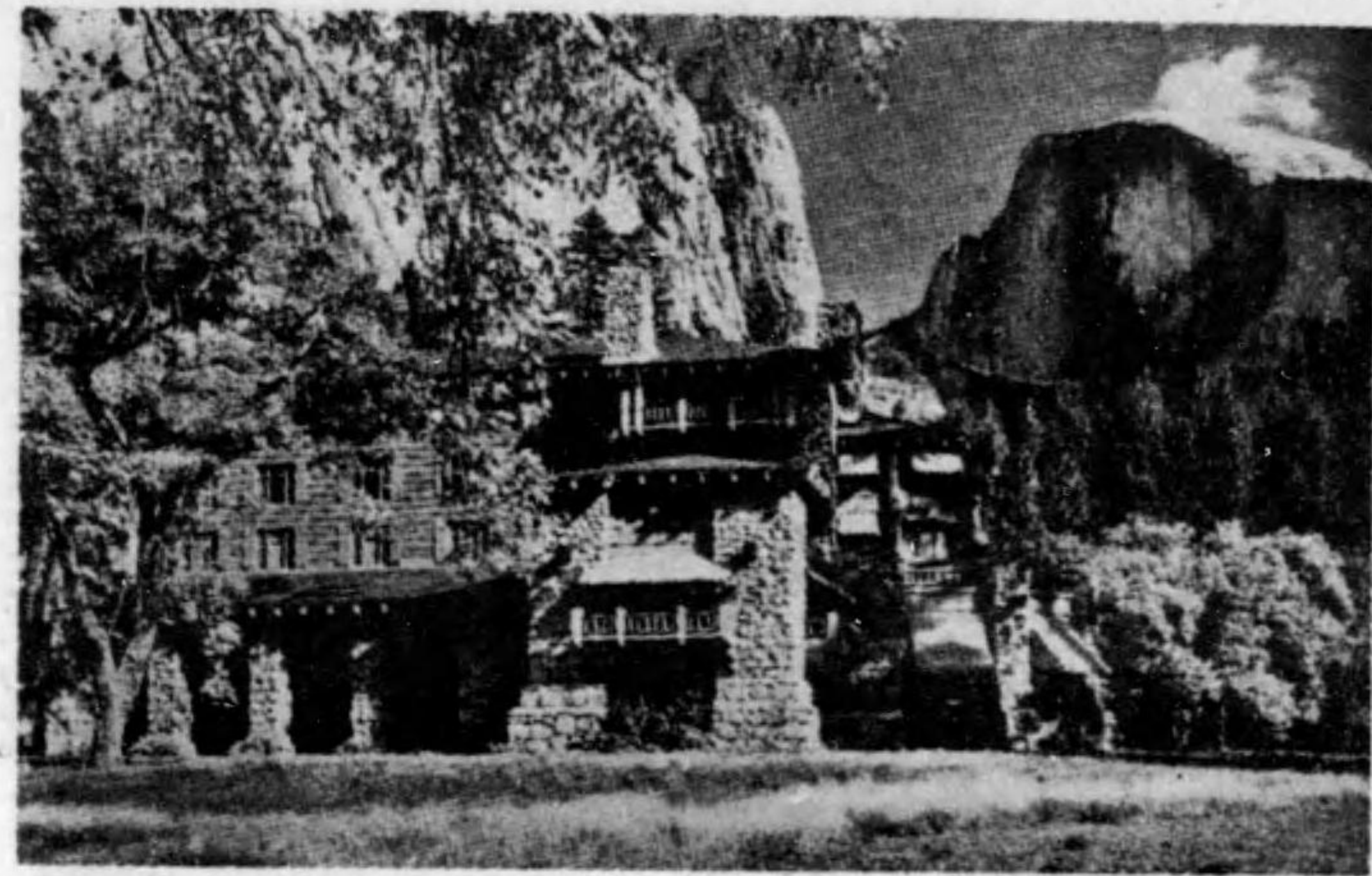
愈々公園地帯にかかる。ここはカリフォルニア州の中部、シエラネバダ山脈中にある國立公園で、ヨセミテ峡谷とヘツチヘツチ峡谷を取入れて面積二千八百七十平方呎に達す。扱てその入口には入園の自動車數・訪客數などの統計を取るところあり、次にアーチ・ロックあり、檜・杉特にパイン・トウリー繁茂し、これらの樹間に眞青な秋空が澄み切つてゐる。

やや登つて標高三千五百呎の地點になると、兩側の花崗岩谷壁は、三四千呎の高さに聳立す



ヨセミテ公園・ヨセミテ瀑布

る。これ即ちヨセミテ・ゲートだ、中心地帯に入る左手にシエラネバダ山脈の七千呎から一萬呎の連山が續き亘り、大自



ヨセミテ公園・アワニー山荘

然の中に更に大自然を蔵する雄大な風光美を満喫しつ少憩をとる。マーセド河を隔てて、三人兄弟山あり、インデヤンの三人兄弟が各々一つの山に立籠つ

て押し寄せる白人と闘つたと傳説されてゐる。

次に左方にヨセミテ瀑布がある。これは三段となつて落下し、上段が千四百三十呎、中段が八百十五呎、下段が三百二十呎、合せて二千五百六十五呎といふ世界の瀑布でも珍しい長さになる。

山中一つの廣場あり、ホテルの支店など見ゆ。黒や赤褐の熊が何十頭となく放たれ、よく人になつてゐる。仔を連れたいもゐる。いかにも深山らしく、また亞米利加好ましい。

アワニー山荘に着く。このホテルは、「山の家」流の外観だが、内部は頗る凝つた感じで、その設備の完全さは、この種のものとしては、世界的だといふ。周囲には花崗岩を積みあげ、その上に直徑二呎半程の丸柱を立て、二十五呎乃至三十呎の複雑な建物を構成してゐる。壁の代りに丸太を組み、防風・防寒の用とするのは、樺太邊の露人の住宅様式に酷似する。どこか閑寂味漂ひ、何か古寺の内陣にゐるやうな親しみが湧く。社交室・讀書室・食堂等は別棟になつてをり、規模は大きからず、收容人員五百名に過ぎぬが、その小ぢんまりしたところが身上である。アワニーの經營する宿舎は附近に



ヨセミテ公園・グレシヤ・ポイント

も一二あり、八千呎の山頂にもあり、合せば四千人位の客を容れるに足りるが、夏の避暑、冬のスキー・スケートの混雑時期にも、これらが満員になることはめつたなく、従つて缺損續きではあるが、世界各国の旅客を迎へる國立公園の國家的施設として頑張つてゐるのである。なほ山中には、アワ

ニの外の外にも、ワオナ・グレシヤの二ホテルがある。

アワニー山荘で晝食の後、午後一時半再び自動車を驅つて、マーセド河の東南方に當る、往路とは別のドライヴ・ウェイを探索することにする。象の鼻岩とかインデヤン・ヘッド岩とか、奇岩いろいろあり。ブライダル・ヴェール瀧は、その名の通り花嫁の面紗のやうな白布を數百呎も垂らしてゐる。數年前貫通したトンネルを抜けてグレシヤ・ポイントに出る。ここは標高四千呎、眺望豪壯である。案内の栗原氏曰く、「米國の國立公園は二十五ヶ所あるが、その中三大公園と稱せられるのは、イエロー・ストーンとグランド・キャニオンとこのヨセミテである。ヨセミテは一九三五

た。それから海拔七八千呎の高原に、太古以来斧鉞を加へたことのない大森林を通つたが、老衰して倒れた直径十呎から十五呎の巨木の所々に横はるのを認めた。倒木を處理する木樵の仕事場などもある。

頂上にはアワニー山莊の支店があり、そのバンガローから眼下を見下し、次に數丁隔つた花崗巨岩の見晴臺に立つと、四千呎の脚下に、先き程晝食したアワニー山莊の本店が玩具のやうに眼に映つた。山道を五十哩もぐるぐる廻つたのに、頂上から見下せば、かくの如きことになるのを不思議に感じた。

あたりの樹々は色づいてゐる。それは日本の楓樹のやうには燃えぬが、ゆたかな濃黄の秋色もまた捨てがたい。

山頂に近く石造りの小屋あり、松皮とガソリンが澤山藏されてゐたので栗原氏に訊ねると、夜の九時を期して、ガソリンを松皮にそそいで火を點じ、これをどつと谷間へ落してアワニー山莊の旅客の眼を慰めるのだといふ。これをファイヤ・フォール(火瀧)と呼んでゐる由。

山頂にあること一時間、重疊たる山岳大觀の身に迫る無限

感は、到底味はひ盡すを得ぬものだが、寒氣漸くきびしくなつて來たので、さらばとお互ひに我に返つて、歸路に就いた。

山頂からアワニ

一山莊までの二十

五哩のコースは、

ヨセミテでも代表

的な原始密林で、

その幽寂言語に絶

してゐるが、林間

の舗装道路は、實

に四五百哩に達

し、自在にドライ

ヴを娛しむことが

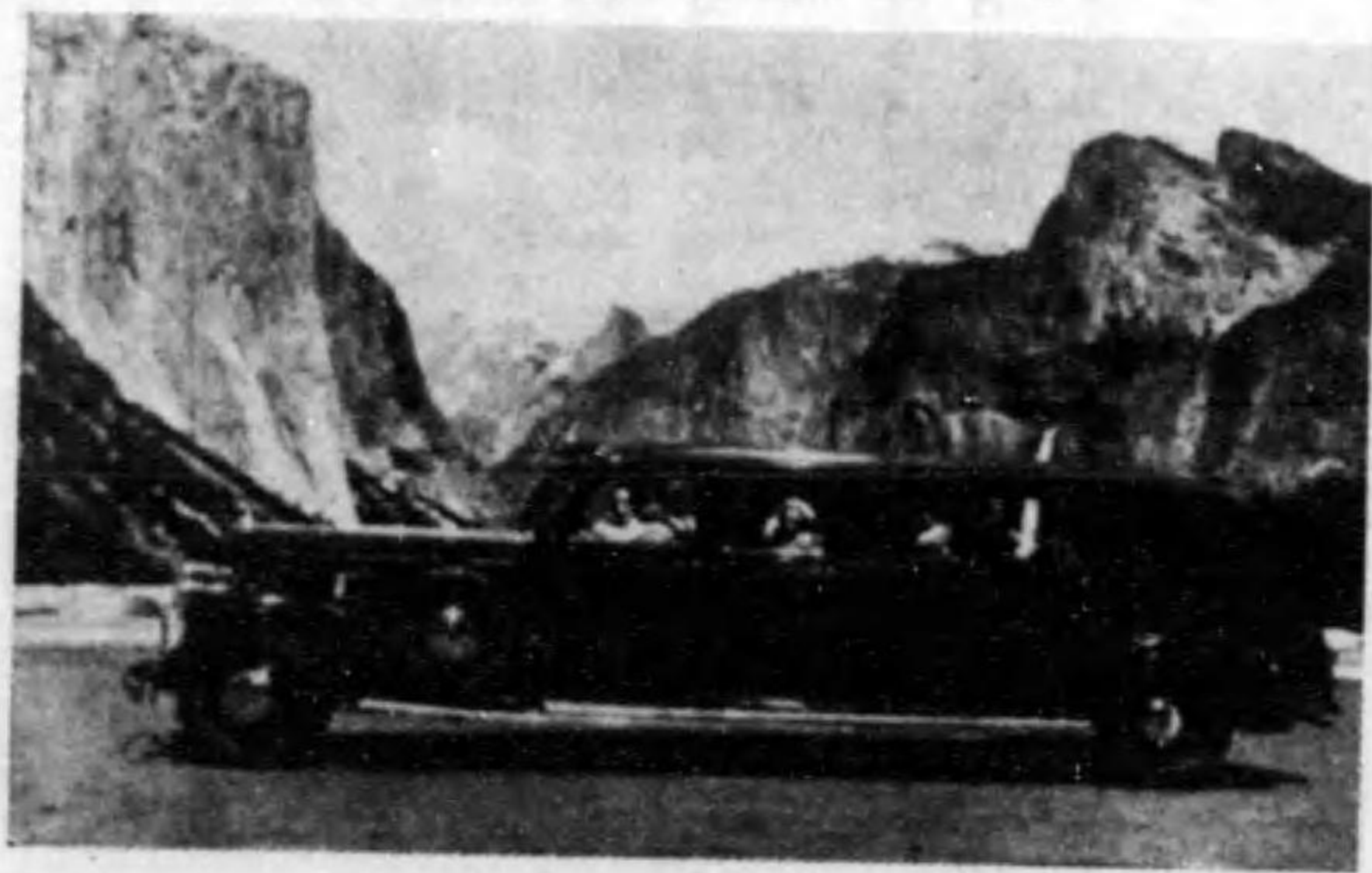
できる。この道路

築造費だけでも數

千萬弗乃至一億弗

を要したことであ

らう。政府の觀光事業に對する力の入れ方は我々の想像に數



ヨセミテ公園の舗装道路

倍するものがある。ただ、目下アワニー山莊から直接四千呎の展望臺上に達するケーブル・カー設置の計劃が進められてゐることだが、これなどは寧ろ米國式文明の濫用といふべきで、完成の曉に却て眞の山の趣味が失ははれないかを我々は恐れる者だ。

山莊へ戻つて早速ストーヴに暖をとつた。集り來る白人四五十名の中に邦人二名の顔も見えた。

九時、前述のファイヤ・フォールの實況を見る。黒闇の中に落下する數千呎の火焰は、正に奇觀中の奇觀であつた。五月から十月まで、毎夜數分間づつこれを行つて、ヨセミテ名物とし、山莊の旅客吸引策としてゐるのである。

十時、靜かな眠りに入る。

同じ州に、一方には不夜城を誇る大都有るかと思へば、他方には幽邃無比の仙境のあるあり、兩者まことに面白い對照ではないか。尤もカリフォルニア州は、米國四十八州中에서도有數の大州で、山脈もあれば平原もあり、沙漠さへあるといふ工合で、一州の耕作面積についていへば日本の本州のそれよりも廣いといふのだから、どうやら規模が根本から違ふ

やうだ。土地肥沃で、穀物・果物を多産し、金銀・石油鑛に富み、今後資源を開發すれば二三千萬人の人間を樂に住ませ得るといふのに、現在では人口僅か六七百萬人に過ぎず、この一事によつても、「持てる國」米國と、「持たざる國」日本との差違を認識するに難くないであらう。

十月五日。晴。

今日も快晴で、故國でいふ小春日和。すがすがしい靈氣の中に目覺めて朝かけ匂ふ山容を眺めれば、命の延びるやうな氣持。

八時、自動車で山莊を發し、昨日と同じコースをキンクワピンに至り、それからワオナ道路を疾走して巨木地帯のマリボサ・グローヴに向ふ。このあたり、夏期にはキャンピング生活する者集り、寢臺・談話室・臺所附きの自動車を驅つて來る者も多いといふ。さすがに大森林だけに往々熊や鹿が出沒し、一行中にも野生の鹿をカメラに収めた人があつた。

マリボサ・グローヴには樹齡三千年から五千年の巨木十本ばかりあり、就中ワオナ・タンネル・トウリーやグリズリー



ヨセミテ公園・ワオナの巨木林(樹間の人物と比較乞ふ)

・ジャイヤントなどは著しきもので、高さ三百呎から五百呎、直径二十呎から三十數呎、根方の穴を自動車に樂に通れるものもある。自然に倒れた木もあるが、倒木の方が一層大きく見え、俺はその一本に攀ち登つてみて、かくも巨大かとた

まげた。樹種は杉・檜・松等、樹間を散歩しながら、俺は松種の直径一呎半もあるのをいくつか記念に拾つた。海拔六千八百呎の高地で、空気が飽迄も清澄であり、冷徹である。
ヨセミテ溪谷には、未だインデヤンが住み、避暑シーズンには踊りや唄で訪客の旅情を慰めてゐる由。政府がインデヤンを保護すること、恰も日本のアイヌにおけるが如くであるが、やはり皮肉にも年々減少する一方だといふ。
マリボサ・グロウヴから四十哩の道をフル・スピードで山莊に戻り、晝餐の後、二時過ぎバスで出發、前日のコースを逆に進んでマーセドに歸着、夕五時十八分發の列車でサンフランシスコへ發つた。

サンフランシスコに向ふ

マーセド驛から乗込んだ列車は、全米に亘つて寢臺車・一等車連結の利権を有つてゐるブルマン會社の謂ゆるブルマン

・カーで、廣やかな車房に二十四席しかないので、頗る快適である。車中我々はなほヨセミテ公園の幻影を追ふのであつたが、栗原氏の説明によると、ヨセミテは一八五一年三月二十五日白人の探検家によつて發見され、一八九〇年國立公園編入決定、一九一六年内務省の所轄となり、今なほ奥地の開發に努めてゐることである。

夜九時、オークランド驛着。下車して、渡船で對岸のサンフランシスコへ渡る。乗客千名に近く、門司・下關間の連絡船よりは船がすつと大きい。甲板上から最近完成されたサンフランシスコ・オークランド・ベイ・ブリツヂの長さ八哩四分の一といふ偉容を眺めたが、橋いづばいについた電燈の光は、晝を欺く美觀であつた。

九時半、サンフランシスコ着、ヤマト・ホテルに入り、ロサンゼルスから直接サンフランシスコへ来た一行と合體する。

ホテルは三十年前に建築された純日本式のもので、規模は小さく、室數五六十しかないが、それはとに角、八疊二間をぶつ通した青疊の上に四ヶ月ぶりで寢られるうれしさは、何に譬へようもなかつた。

「第六十一信」南太平洋鐵道シヤスター線列車中にて認む

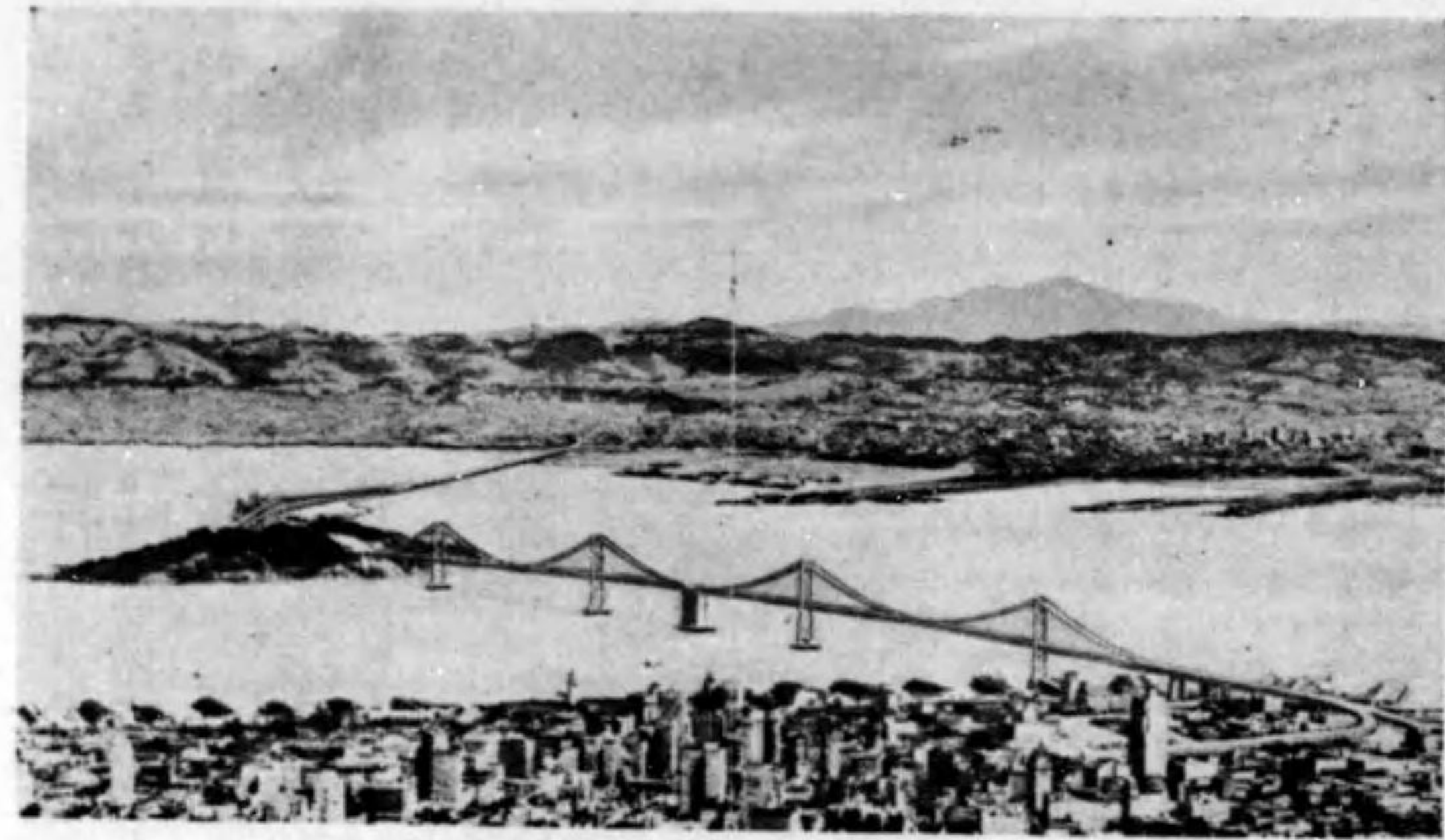
サンフランシスコ巡覽

十月六日。晴。

昨夜はヤマト・ホテルへ投宿。洋室が満員で日本間へ通された時は、ちよつと見すばらしく感じたが、床の間や秩父編の座布團・煎茶の道具などが眼に映るとむらむらと故國戀しさの情を禁じ得ず、青疊の上の夜具にくつすり寢込んで、今朝目ざめた時は、もう日本へ歸つたのかと暫し錯覺に陥つた程であつた。

食堂で朝食中、今・岡田兩氏と相談、今夜々行でシヤトルに向ひ、ヴィクトリヤ・ヴァンクラーヴァ・タコマ・ポートルンド等を巡訪して十一日中には再びサンフランシスコへ歸着するプランを決定、直ちにブルマン會社の寢臺車券を買入れた。

九時、タクシーで金門灣埠頭の日本郵船汽船發着所に至

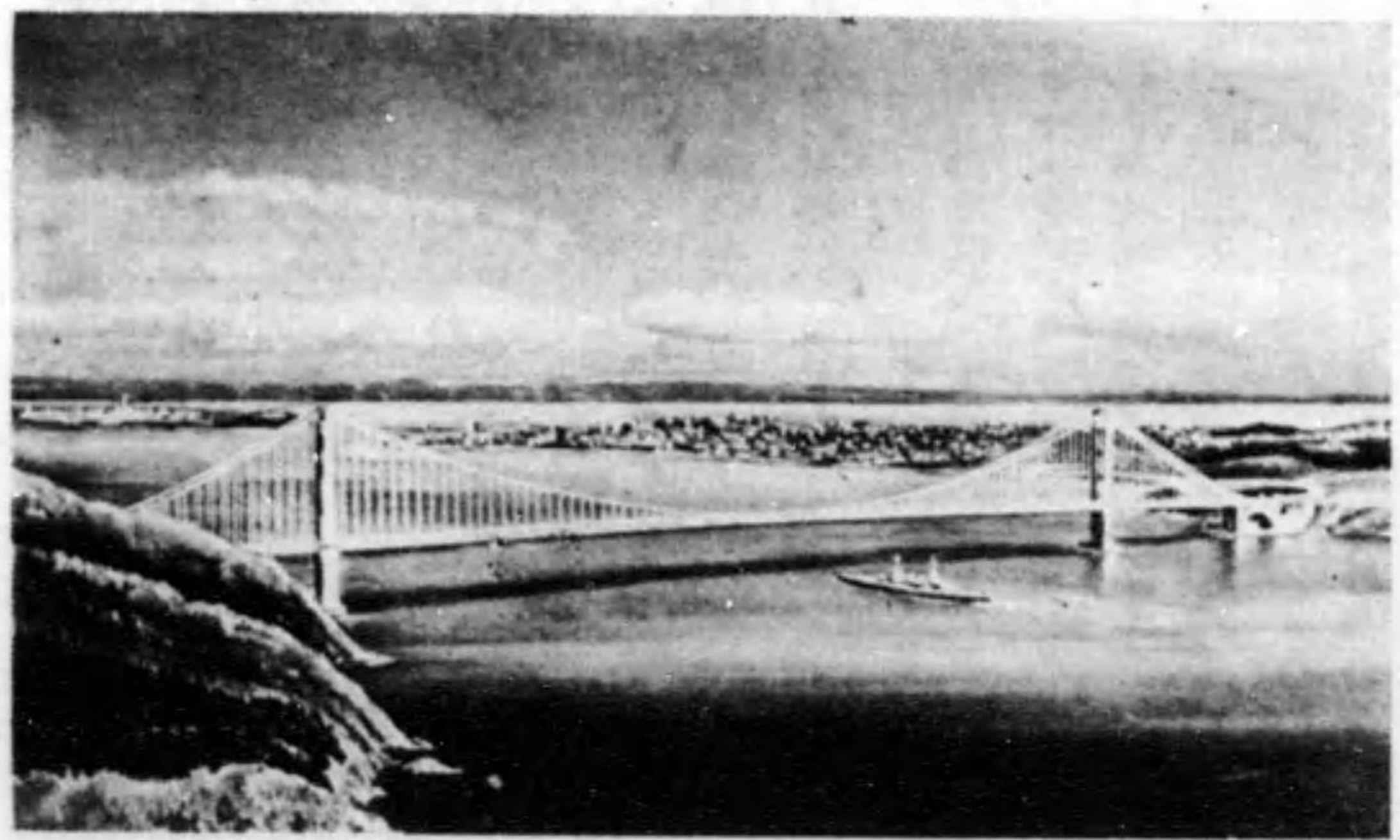


チツリブ・イベ・ドンラターオ・コスシンラフンサ

り、第二十
五號岸壁に
繋留中の一
萬四千噸の
大洋丸内部
を見る。我
々北部行き
以外の一行
二十五名は
この船によ
つて歸朝の
途に就くの
で、木下支
配人以下會
の役員にも
團員諸氏に
も、過ぐる
百日間の交

誼に對し
厚く謝辭
を述べ、
今後も末
永く親睦
を續けよ
うと誓ひ
合つてい
ざ袂を分
たうとし
たが、大
洋丸は明
日午前十
時の出帆
なので、
なほ今日
一日だけ
團體行動

チツリブ・トーゲ・ンデルーゴのコスシンラフンサ



をとつてサンフランシスコを見物しようではないかといふことになり、大型バスを備つて出發、午後一時まで市中見物、これに十三日北部の歸途再度この地を見物した時の印象をも加へて、以下大要をノートしておく。

(一)一九三三年起工、一九三六年竣成した世界一の名橋サンフランシスコ・オークランド・ベイ・ブリッジを眺む。昨夜渡船で渡つたサンフランシスコ灣上に架設されたもので、中央にゴート島を挟んだ二橋の長さ合計八哩四分の一、川幅は四哩半位だが、兩端が人家の上へ跨つてゐるので凡そ二倍の長さに達する。橋の幅員は約三十五米、橋路は上下二段あり、下橋はタクシーや人馬が用ゐ、上橋は大型バスなどの重量嵩むものを通り、電車を走らせる計画も進められてゐる。サンフランシスコの人口六十萬、對岸のオークランド・パークレイ・アラメダ等の近接補助市の人口六十萬、大サンフランシスコとしての總人口百二十萬、かくては自動車交通の頻繁なるは當然で、遂にかくの如き大橋を成さしめたのだ。この建造費七千七百二十萬弗といふ。なほこの外にサンフランシスコの北端から金門海峡を隔てて對岸の要塞地帯に至るゴ

ールデン・ゲート・ブリッジあり、この方は長さ一哩四分の一、一九三三年着手、一九三七年落成、架設費三千三百五十萬弗といふ。サンフランシスコは商業港であると共に、太平洋艦隊の根據地として名高く、港内の深さ東京港の二倍といはれ、時に大觀艦式の行はれることもあり、二大橋は釣橋であるから何萬噸の軍艦でも通航することができ。

二大橋の建設は國營事業で、一半の目的は失業者救済にあつたが、もとあれ、合計一億一千七十萬弗の工事と聞いては、亞米利加の富力の大なるに驚嘆せざることを得ない。橋の通行料は、自動車一臺につき五十仙、乗客一人につき五仙。橋上に車を止めて眺めれば、東北方遙かにシエラネバダの雄渾な山脈が蜿々と連つてゐる。

サンフランシスコ・オークランド・ベイ・ブリッジの中央なるゴート・アイランド及びこれに續く數萬坪の埋立地は、一九三九年開催の世界大博覽會の敷地となる筈で、これが終了後は國際飛行場にする豫定の由。

(二)サンフランシスコは、南方から突出する一半島上に位置し、西は太平洋、東はサンフランシスコ灣、北は金門海峡に



望遠コスシラフンサのリよ島ズラロカロア

面す。一七
七六年西班
牙の宣教師
の來住した
のが歐洲人
定住の初ま
りで、當時
イエルバ・
ブエナと呼
ばれたが、
一八四七年
サンフラン
シスコと改
稱され、や
がてカリフ
オルニヤ州
に金鑛の發
見されるや

各國の移民競つて入混み、一八六〇年には五萬六千人、一九〇〇年には三十四萬二千人、一九二〇年には五十萬人に人口増加し、今日六十萬人を算するに至つた。

(三)橋を渡つてオークランドに入る。サンフランシスコは市街の高低横濱などよりも甚しいが、オークランドは大體平地で、ただ東方のみ山地となつてゐる。ここはサンフランシスコには及ばぬが、なほ工業都市・文化都市として榮え、北接するバークレイにはカリフォルニア大學が所在する。サンフランシスコのブロード・ウェイは非常な賑はひを呈し、また十五階建の市役所やロツクフェラー財團寄贈の圖書館などが目についた。

(四)ゴールデン・ゲート・ブリツヂを見る。この橋の向ひ側は要塞地帯なので通行少く、殆ど軍用橋と稱して差支ない。

(五)サンフランシスコ市中に、最新様式の郵便局・カリフォルニア州廳・市役所・市公會堂・オペラハウス・出征軍人記念會館等の代表的高層建築を眺め、小高い丘の上の造幣局も見た。高臺には高級住宅多く、そこを通り抜けて自動車は當市最大のゴールデン・ゲート公園に入つた。氣候溫和で冬

季にも降霜稀なるため、ここには殆ど世界中の樹木が生長繁茂し、日本の松・檜葉などがあるかと思へば、熱帯・亞熱帯各地の植物も尠からず、それが幅二・四軒、長さ五・六軒の園内の大半を占め、一方廣大なる花壇には百花燎亂と咲き盛り、自然美と人工美の配合いひ難き妙味を醸す。その一部に約三千坪の日本庭園と茶店あり、園内には櫻樹多く、松・檜・楓も移植され、石の太鼓橋・赤い鳥居・神社・御堂・五重塔・日暮らし門・東屋・數寄屋等々點在して日本の風雅の何たるやを示してゐる。これは山梨縣人荻原氏が一八九三年の當市博覽會の折に築造したもので、この人は既に故人となつたが、二代目の未亡人と孫夫婦がこれを守つて我々旅人を慰めてくれる。サンフランシスコのジャパニーズ・テイ・ガーデンといへば、米國でも著名で、この日も數十人の白人がここを訪れてゐた。日米親善と日本文化の紹介とに努めた功勞は大したものといふべきである。茶亭で日本の綠茶を飲み餅菓子を食ひ、辻占入りの煎餅に興じて去つた。茶代一人十五仙。ゴールデン・ゲート公園の樹花の美しさは、氣候のよろしきこと以外に給水設備の完全なためもある。この地四時

霧は
多い
が雨
量は
極め
て少
く、
従つ
て水
道の
水を
樹木
・芝
生・
花卉
に常
に注
ぎか

象印のドンラクーオ





塔念記と街市コスシラフンサ

けねばならぬが、その施設はすばらしいものである。(六)サンフランシスコは十九世紀中葉の開港といひ當時の人口僅か二千人に過ぎなかつた。然るに一九〇

六年(明治三十九年)の大震災の時には既に四十萬人を擁してゐたが、三日間に亙る大火は十五平方料の地域を烏有に歸せしめた。しかし、やがて復興して、オークランドと共に大サンフランシスコ今日の偉容を整へたのであるといふ。

(七)西方太平洋に面するオーシャン・ビーチは風光明媚で、贅澤な別荘が多い。夏季海水浴に賑ふところだ。その北にロボス岬あり、海豹岩が望まれる。

(八)美術館。ロダンの名作が多い。カリフォルニア開發記念塔。高さ百三十米、エレヴエーターで頂上まで登り、全市を俯瞰する。港内には大洋丸の姿も認められた。海岸に近い部分には高層建築群が、小紐育の觀を呈してゐる。全體としての印象は、いかにも美都だといふことである。歸りにはエレヴエーターによらずに階段を降りたが、通路にはカリフォルニア州及びサンフランシスコ發展の壁畫が描かれてあつた。これは懸賞で全米に互つて募集し、當選したのは無名の貧乏畫家だつた由、しかし、亞米利加の美術は高の知れた低級なもので、俺が見てもまづさのはつきりした畫面もないではない。ここで邦人二世のサラリーマンに逢つて數語を交

したが、この數日來、サンフランシスコ灣内は日支事變の關係から晝夜緊張の色を漲らせ、警戒嚴重を極めてゐるといふ。以上で團體としての行動を打切り、單獨で視察を續けることにする。

諸會社・銀行往訪
對米輸出纖維品事情

先づ住友銀行サンフランシスコ支店を訪ひ、支店長村田嘉久郎氏から當市の實情及び最近の金融狀況について聴く。氏は、日本移民禁止後のサンフランシスコの邦人數は幾分減少を來し、二世再渡米の希望も意の如く實現せず、活動力の殺がれつつあるのは遺憾であるなどと語つた。

次に三井物産サンフランシスコ支店を訪うたが、事務多忙の様子なので纖維工業部に至り、その部長(姓名失念)から次のやうな談話を聞いた。「米國の輸入する日本生絲は、値段さへ高からずば、決して將來を悲觀するには及ばない。日本生絲三四十萬依の消費はさう困難なことでもなく、供給超過になるやうな憂はなからうと思ふ。綿布は以前相當量輸入され

たこともあつたが、その後輸入統制當法と高率關稅とのため、今や見る影もなくなつた。それでも日本機業家のコスト引下げと柄行きの研究によつて時にはかなりの手合せをみることもある。殊に最近では鐘紡・東洋紡、その他福井・石川・大阪府下あたりの大工場で大量の注文に應じ得る設備を有するやうになつたので、大いに働き甲斐がある。米國の注文は、多量なものと期限の嚴重なことを特色とするが、なほ納入時の検査は甚だ綿密なもので、織斑・織疵は勿論、我々の想像し得ぬやうな微細な缺點があつても破約返還されてしまふ。(この時部長は實物を俺に示しつつ)現にこの品も佛蘭西や亞米利加のピロードを日本で摸倣して製織させた品であるが、ほんのかすかな疵のために返品されたのである。日本製ピロードは、十割に近い關稅を支拂ひながらも米國製品と競争し、サンフランシスコやロサンゼルスに賣れてゐるが、ちよつと肉眼ではわからぬやうな斑や疵でも、夜會の煌々たる電燈の下では發見され易いので、これがあると忽ち突き返される。業者として、この點はよくよく注意が肝要である。

人絹の更紗や友禪も、鐘紡の淀川工場などでなかなか立派

なものが出来るし、大阪府下・和歌山あたりの人絹布や綿布の加工品も輸入されてはゐるが、人絹・綿布・交織を通じて、製造能力と斑や疵の有無から見た品質に關する限り、日本製品は到底米國製品の敵ではない。米國では生地・織方・染色の全く同じ品を何萬反でも約東期限に間に合わせるだけの設備を有してゐる。そして例へば、綿布なら一弗か一弗半、人絹なら二弗か三弗の婦人簡單服を製造するについても、何萬反といふものを、胴は胴、袖は袖と裁断するので、その時斑や疵があると、それだけ生地が不足する。日本なら缺點があれば、返品するとか見切つて處理するとかの方法を採るが、米國では何しろ人件費が高いので、一々そんな無駄骨を折つてゐられず、そんなことで損失を招いては事業が成立たぬので、そこで生地の缺點を極度に嫌ふといふことになり、織物工場・染織工場・整理工場自らが細心の検査を行つて、然る後はじめて市場へ出すといふ段取りになる。

この點から考へてみると、日本品はどうも半開地向きで、質よりは柄と色と値に物をいはせるといふ工合である。一體歐米人の生産及び需要の觀念は我々と少し違ふところがあ

り、問屋・専門店・百貨店を問はず、十分に口錢をとつてゐる代りには品物の完全なことを欲し、見本通り、契約通りのものを提供しない製造家なり問屋なりは斷じて信頼しない。サンプルと現品が少し喰違つても、そんな位なら、五分や一割高くとも自國東部の製品の方がましだといふことになる。云々。

俺が部長と對談してゐる中、青年社員達も我々の傍へ寄つて来て、口を揃へていふことには、「日本の工場で作られたものがとかく米國人の氣持を無視する結果に立至ることは實に遺憾に堪へない。伊勢崎・桐生・足利等のこれこれの機屋の製品がこれこれである。」と口角泡を飛ばして説明してくれたのは、俺としても大いに参考になつた。

これを要するに、然るべき設備を有する大會社が、歐米向きの品々を生産して外國製品の中へ割込むことは誠に痛快な話ではあるが、そこにはまた前述の如く幾多の犠牲を拂はねばならず、採算上引合はぬにも拘らず、尙且つ絶倫の努力を要することは、我が國の纖維國策上果して當を得たものかどうか、大いに研究せねばならぬ重大問題であるに相違なから

う。寧ろ日本は、從來執り來つた半開國乃至第二流・第三流の文明國に對し、値段の競争を唯一の武器として英・米・獨・佛と矛を交へ、これをリードすることこそ最善の策ではなからうかとつくづく俺は思ひ知つた次第である。

カリフォルニア州經濟事情と

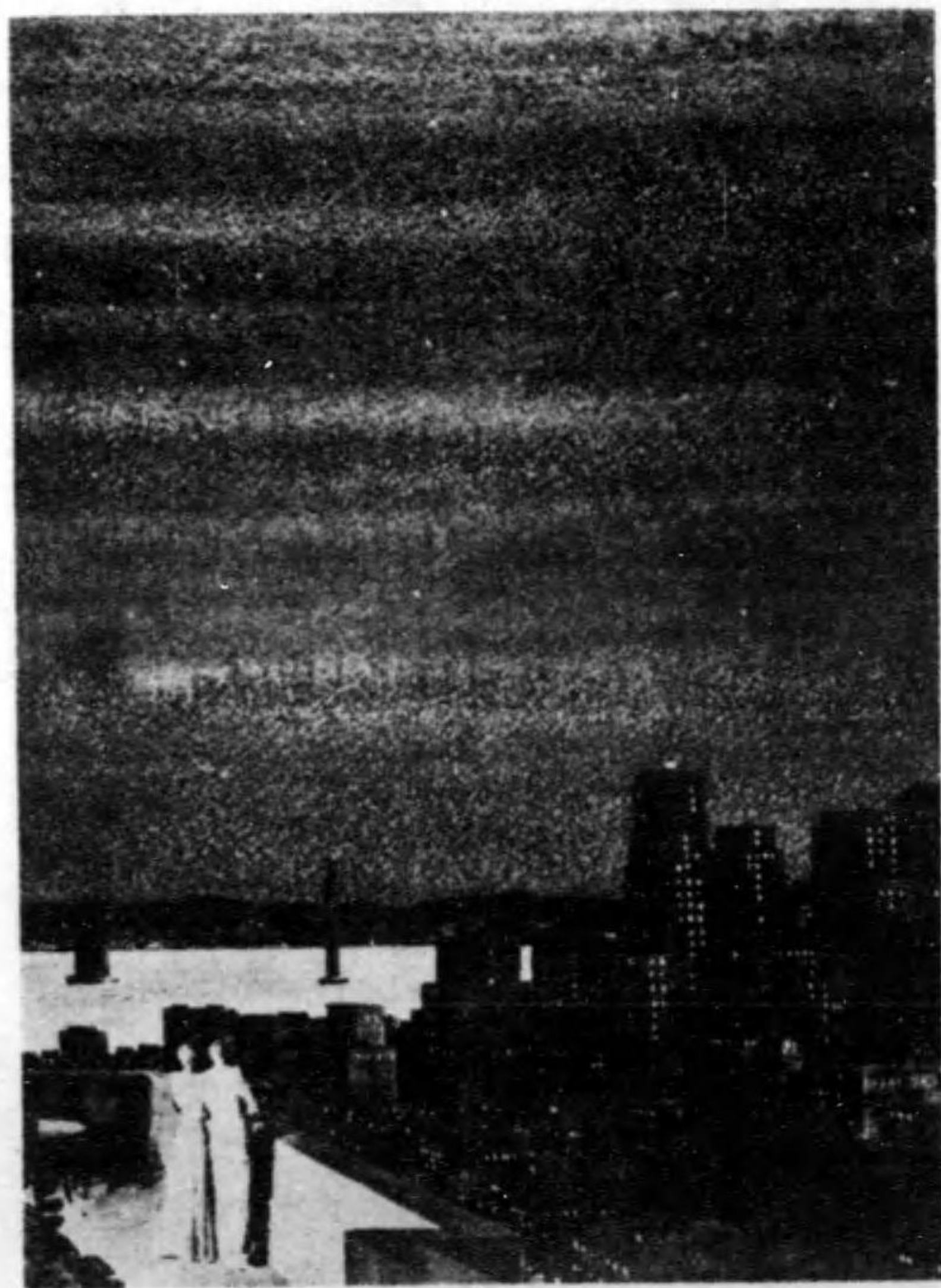
亞米利加景氣の消長

次に附近の三菱商事を訪ねたが、支店長はシヤトル行きで不在、寺尾次長及び竹内・馬場等の諸氏に會ひ、各々の受持部門の輸出入狀況を聽く。寺尾氏は四十歳位の温厚篤實な紳士で、見るからにこの店の圓滿なる調和を計つてゐることが頷けた。同氏及び後に十三日に會つた辻會計課長や竹内氏から聽取した話を綜合するに次の如くである。

「サンフランシスコの景氣は、大體カリフォルニア州の農産物即ち穀物・蔬菜・果實の豐凶とその價格の高下によつて左右される。素より財

界の大勢から來る變動もあるにはあるが、最も直接的なのは農作物の經濟狀態如何である。農業の中心地は南はロスアンゼルス、北はサクラメントで、双方共に邦人は四萬人から移住してゐる。これらの大部分は自營農業に従事してゐるが、

サンフランシスコの夜景



中には米人や伊人の經營する大農組織農場に働く者もある。本年は平年作に比して五分乃至一割以上の豊作で、しかも値段も下らず、農業關係者は皆相當儲けてゐるといつてよい。亞米利加全體の經濟から見ると、一九三〇年以降の數年間には、いふまでもなくあらゆる點における不況沈滞時代で、失業者もまた多かつた。この中一九三一年・三二年が最悪で、これを峠として復興し、その後逐年景氣も上向き、昨三十六年の後半期がその絶頂に達し、財界全般を通じて最も活況を呈した。米國も日本同様に常に前半期よりは後半期の方が相場も活氣づく。本年の前半期は前年の同期より幾分よく、殊に五月は、フーヴァが萬年景氣を謳歌して以來の上景氣であつた。尤も全米の輸出入及び生産品價格は著しい飛躍なく、五月を高値として漸次鈍化して來たが、しかし樂觀論者はやはり後半期を頼みとして、クリスマスから新年にかけて前半以上の好調を見せるべく、目下は中だるみの形勢に過ぎないと解してゐる。そして一九三九年のサンフランシスコ世界博覽會開催の頃まで上昇し、それ以後反動期に入るのでないかといはれてゐるが、果してどういふ結果になるであらう

か。最近のスチール株は、日支事變・歐洲外交の緊迫・地中海の騒動等によつて慘落を重ね、且つ重要商品の相場にも變調を生じてゐる事實から考へると、亞米利加財界も相當神經過敏に陥つてゐることが知れるのである。

日支事變は、東洋一部の問題として簡單に觀てゐる向きもあるが、恐らく、次第に複雑となり、幾多の難關に突當らざるを得なくなるであらう。近來日本から大量の油の注文があり、三井が極力買入れに努めてゐる。また鐵鋼・銅・鉛その他の重工業及び軍事機械工業の資材、それから飛行機・同部品・自動車・タンク材料等の注文も輻輳し、貨物船のみならず客船にも十二分に積込むので、例へば大洋丸でも船脚重くなり、豫定の日數では横濱へ着けなくなつてゐるやうだ。

ガソリンの値段は、米國では大體一ガロン十六仙(邦貨六十錢)といふ小賣相場だ。五六年前の不況時代に松方幸次郎氏が政府の内命によつて露油の大量輸入を斷行し、日本石油その他の採油會社や三井・三菱の米油輸入業者を苦惱させ、反對に自動車業者を狂喜させ、延いては日本の自動車需要量の増加と日本自動車工業の發達を促進させたことがあるが、

この事件の頃には、東京市内のガソリン小賣値段は一ガロンにつき米油三十八九錢、露油三十五六錢であつた。現在では五十八九錢といふところで(俺が故國を出立する時は五十六七錢)、米國の方がいつも上稍である。日本では商人の競争が劇甚で、超過輸入の傾向にあり、従つてガソリンは世界中で日本が一番安いといはれてゐるが、これが量らずも今度の事變に役立つたわけである。日本の常用ガソリンは米國の三等品で、米國の自動車はそれより一段も二段も上の赤印や白印を使つてゐる。長距離のドライブには上質品の方が寧ろ得たさうである。云々。

以上の對談中にも、寺尾氏は事務頗る多忙で、東部やシカゴから幾度も電話がかかつて、石油や飛行機の部分品や民間旅客機買入れに關する商談・交渉の錯綜してゐる様子に見受けられた。

歐米における三井と三菱

序ながら歐米各地における三井・三菱兩會社各支店の比較についてここに一言しておく。

兩社の支店は、歐米の首都及び貿易港十數ヶ所にあり、今回の旅行中俺は機會ある毎にこれらの幹部を訪問して意見を敲き、大いに見聞を廣めることができた。三井物産の名は何といつても世界的で、創立以來六十年といふ沿革は三菱商事よりも古く、仕事の上から見ても、卓然たるものだ。しかし三菱商事も、その名を冠する以前既に商事・貿易に従つてゐたもので、三井物産より數十年も遅れたかのやうに傳へられてゐるのは謬り、實際は僅か十五年か二十年の差あるのみである。地所・鑛山方面では兩社同一勢力、銀行は三井に一日の長あり、三菱は第百十九銀行の名目でやつて來て、二十年前から逐次三井に肉迫し出した。ここ十年來では、資本金・預金・信用共に略々互格の形勢といふところであらう。造船・船舶・ドック等は三菱が優つて、三井これを追ふといふ状態である。商事・貿易に至つてはさすがに三井の天下で、三菱はかなり立遅れの觀があるが、今や財閥の實力を背景にして、大倉・淺野・伊藤忠等を尻目に、ひたむき三井の牙城に迫りつつある。その營業高は、三井は三菱の二倍以上と稱せられ、さういふ關係もあつて、三井は大抵立派なオフィスを構

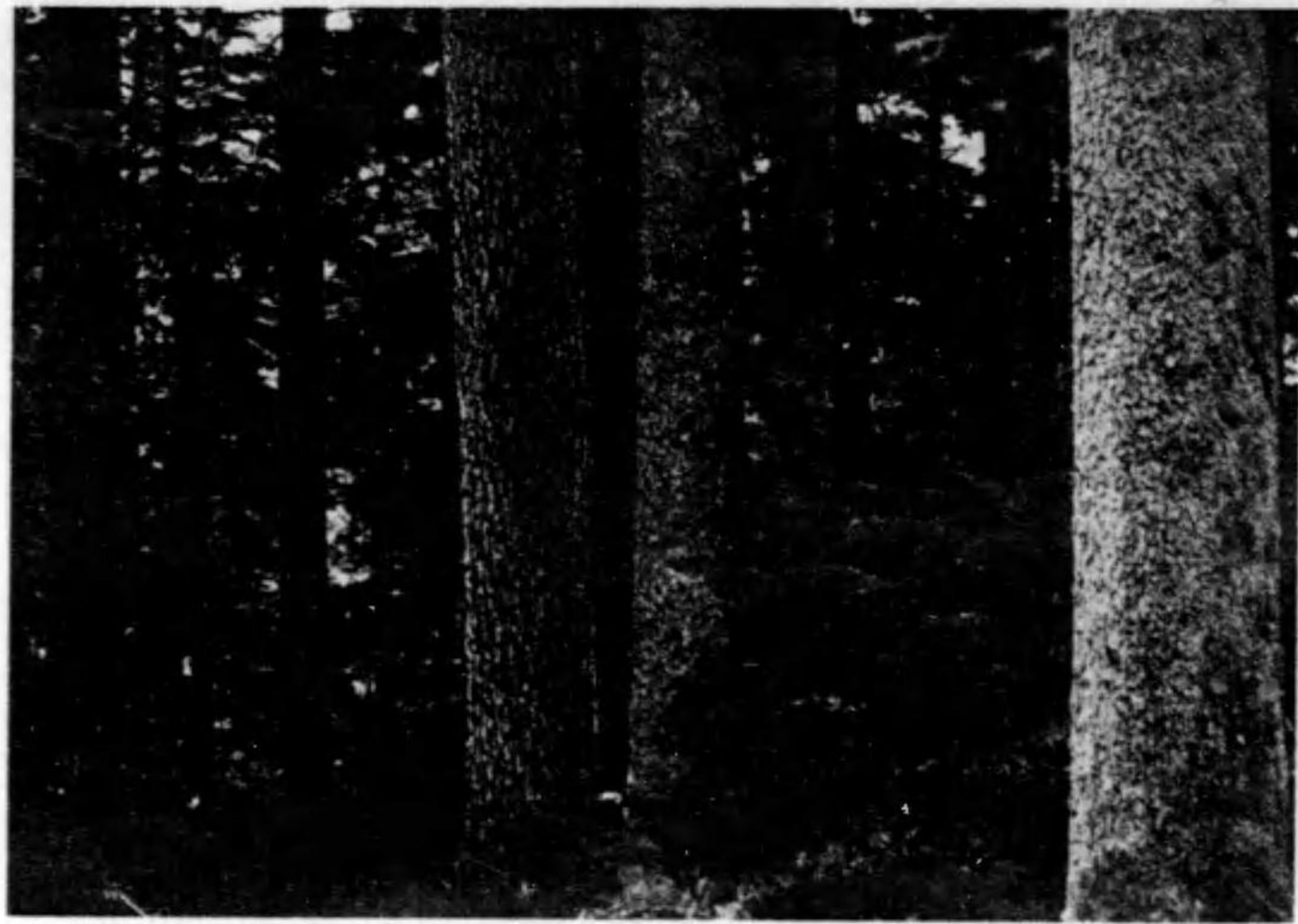
へ、部門も従業員も多く、何となく派手である。これに反して、三菱は飽迄も質実である。

三井では各支店長に人材を選び、重い責任を負はせ、存分に手腕を發揮させ、そして本社が成績を本位にして賞與、拔擢を定める。これは伊藤忠でも實施してゐるが、この主義の反面には、人情味・温か味の缺如といふことが生じ易い。しかし、商事・貿易の進歩した國では皆かういふ傾向を辿るので、いはば亞米利加式であり、科學的經營法でもある。手腕があつて成績さへあげれば、いくらでも重要視されるのだから、支店長は自ら陣頭に立ち、各社員共こせこせ仕事に没頭してゐる。一方三菱の方は、幹部以下すべてがおつとりしてゐる。がつがつせず、忙しがない。支店長は責任を負ふには負ふが、重大な案件は本社に照會し、その指圖を受ける。それだから、支店長は悠然として上品であり、部下に對するいはたり深く、たとひ自分に失策があつても、本社が或程度まで善處してくれるといふゆとりを有つことができる。それから、三菱では大量取引を目指し、近頃米國のガソリン・石油・屑鐵・鐵鋼・銅・亞鉛及び歐米の機械類や日本の罐詰類

の輸出入取引高はかなり多いさうである。政府筋・軍部筋の御用は、勿論三井・三菱兩社が斷然頭角を抜き、他の貿易會社は遠く二社に及ばない。

生絲と織物は、どこへ行つても三井が抑へ、紐育支店の生絲、印度・南洋・濠洲・中南米・亞弗利加における綿絲布・人絹絲布は、あらかた三井の勢力圏内にある。これに次ぐものは斯界の専門業者伊藤忠であらうか。三菱の取引高は微々たるものらしい。

三井は實質主義・用件第一主義で、訪問しても全然話などはしない。こつちの質問には適宜に應ずるが、それは、現實の問題に限られ、例へば日支事變の將來はどうかといふやうな話などには一向觸れたがらない。一方三菱は、如才なく附き合ひ、人間味があり、冗談さへ交へて、ざつとばらんに肚裡を打明けてくれる。訪問者の待遇は、三井の効果主義に對する三菱の社交主義である。一會社の組織・方針として、果してどちらが優つてゐるかは、實にむづかしい問題で簡単に判斷できる筈はないが、俺のやうな漫然たる訪客には三菱の社風の方に好感がもてた。我々一行の人々は大部分各地の有



林森の州ンゴレオ

力支店に紹介状を携へながら往訪せず、握りつぶしにしたやうだが、俺は時間の許す限り紹介状を有意義に用ひ、土地の景況を聴取することを楽しみとした。
ヤマト・ホテルに戻つてシャトル行きの荷物を纏め、夕五時、今・岡田兩氏とサウザン・セントラル驛へタクシーを走らせた。

【第六十二信】ヴァンクーヴァ のホーランド・ホテルにて認む

ホートランド・タコマを経てシャトルに向ふ

十月七日。晴。

昨夜五時過ぎ、今・岡田兩氏と三人連れでサンフランシスコを發す。驛で映畫を利用した食料品の廣告を見たが、亞米利加流の宣傳の巧みに感心した。

渡船でオークランドに渡り、サウザン・パシフィック鐵道の一部シャスター線の急行寢臺車に乗込む。北方ヴァンクー



(山ドーフは景遠) 觀概ドンラトーボ

へ何本もの鐵道によつて積出してゐるといふ。やがて、クレイター・レック國立公園地帯にかかる。森林美を主眼にした幽邃な公園らしい。

午前九時、ユীগーレン驛着。交通の要衝であり、大製材所がある。更に北進して午後零時四十分、ポートルランドに至る。ここはオレゴン州廳の所在地、コロンビヤ河の流域に位置し、河口を距る二百哩の地點だといふ。木材輸出の中心をなすと共に、近來はコロンビヤ河上流山岳地帯に産する種々の鑛石の輸出地となつてゐる。これは日本へも相當來るらしい。

コロンビヤ河は、ポートルランド邊で隅田川の約二倍、但し水量は十倍もあるやうに見える。五六千噸の汽船が樂に通航できる。本流にも支流にも無数の丸太が流され、また川の水を堰き止めた小湖水にも所狭きまで材木が浮んでゐる。

二十分間の停車中、ポートルランドの玄關口を覗いたが、驛附近には木材關係工場や大規模の製油所及びタンクが立つてゐる。この邊では石油は出ないが、製材工業に重油・ガソリンの必要なためかかる設備を要するのであらう。この市から日本への木材の輸出は、大正の初年に始まり、昭和六七年頃

ヴァまで往復五十一弗。前日豫約してあつたので、乗心地のいい三人部屋がとれた。渡船のデッキからも列車の窓からも心ゆくまで黄昏の風景を眺めたが、列車の北へ北へと進むに連れて、やうやく夜の暮は下りた。寢臺車のボーイも食堂車のボーイもニグロだ。純白の服に洒落たネクタイを結び、なかなかサーヴィスがいい。近頃は黑人にも目馴れて來た。

今朝六時に目覺める。窓のカーテンを開くと、オレゴン州の森林地帯に入つてゐた。松・杉・樺・梅などの原始林で、伐採の跡に植林してない原野も多かつた。今氏は午前三時頃から起きてゐたが、森林は既にその時分から續いてゐた由。それが北へ向ふ程大きく深くなつて來たのだ。三百年・五百年の巨木もいくらか目につく。二時間置き・三時間置きに相當の驛に停車するが、そこには必ず製材所があり、大森林の木材を處理してゐた。

サンフランシスコの東北方なるサクラメントから北方加奈陀國境に至る鐵道幹線は三本あるが、この外に森林鐵道は縦横に敷設され、今では太平洋岸の木材集散地たるタコマ・シヤトル・ポートルランドあたりから五六百哩も奥の森林よりさ

採伐材木の方地流上河ヤピンロコ



全盛を極めたが、その後爲替関係や輸入割當制によつて一頓挫を來し、今や殆ど半減した由。——これは車内の黑人ボーイの話である。

やがてコロンビヤ河の本流を眺めたが、この地方は米國でも雨の多い土地だけに水量實に豊かで、利根川下流の銚子港から對岸を望むやうな感があり、一萬噸の汽船も通航するを得るといふ。

午後三時半、ワシントン洲のタコマに近づく。右窓にレーニヤ山、俗にいふタコマ富士が、一萬呎の山嶺に白雪を戴いて聳えてゐる。四時タコマ着。これより先き、オリンピヤにおいて既にタコマ灣が見えたが、タコマ灣は即ちヴァンクーヴァ灣の續きである。ヴァンクーヴァ灣は加奈陀領ヴァンクーヴァ島と加奈陀本土との間に挟まれた南北三百哩の細長い灣で、その沿岸の米領にはタコマ・シヤトルあり、加領にはヴァンクーヴァ・ヴィクトリアあり、東洋・南洋・アラスカ方面への貿易・交通の起點をなしてゐる。

五時半、シヤトルに近づく。先づ大飛行場と競馬場が目に入る。この地方は肥沃な耕作地であり、また樹木多く、野に

米西國北部地方の住宅



シヤトル市の大觀

は秋草咲き亂れ、大樂園といふ印象に打たれた。それにこの日は珍しく暖かな日で、日中二十四五度、夕方でも二度を下げず、これも氣持のよい一因をなし

たのであつた。

列車は一分の誤りもなく、——これは米國としては例が少い、——シヤトルのユニオン驛に着いた。驛頭には三菱商事支配人田中氏・住友銀行支店長西田氏・ホーランドホテルの主人南氏・同令弟で罐詰や魚介の仲買人成功者南氏等の出迎へを受け、ホーランド・ホテルに入る。シヤトルには邦人約九千をり、日本人町さへある位で、日本風旅館もいくつもあるやうだが、ホーランドは純洋式で、主人以外は支配人以下すべて白人、部屋は三四百の小ぢんまりしたホテルだが、經營は巧みで應對は親切、よく白人旅客の信用を獲得してゐる。

この夜、住友の西田氏から晚餐に招かれたが、疲勞のゆゑを以て辭退し、先づ部屋で小憩を執つた。我々の部屋は七階にあり、應接室・バス付きの最上等のものである。

シヤトル概況

それから南主人に來て貰つて、シヤトルの状況を聴く。同氏は五十歳位、和歌山縣出身、三十年前からシヤトルで色々な事業に手を出したが、最後に獨逸人の經營してゐたこのホ

旅券の査閲を終へて一時下船。白人等と混つてバスに乗り、約一時間同市見物。バスの料金一人一弗。
(二)埠頭の風景はすばらしい。税関を出ると間もなく、赤褐色煉瓦のエンブレス・ホテルが目につく。紅葉した蔦が一面にからんでゐる。

(二)銀行・會社街。デパート二三。ヴィクトリヤは人口十五萬で、静岡・濱松位の中都會だが、生産力に富む廣い背景を有ち且つコロンビヤ州廳の所在地でもあり、百貨店などはなかなか盛んのやうである。現在の市勢はヴァンクーヴァに遠く及ばず、船舶の寄港も大いに減じ、日本の汽船は全然寄港せず、在留邦人の數も嘗ての三千人が次第に減少して來たといふ次第であるが、最も早く開けた土地だけに、どこことなく品位あり、政治・學術の中心をなしてゐる。

(三)支那人街へ入つて、久しぶりに漢字の看板を見た。商業會議所や中華會館などあり、五六千人の支那人がゐるらしいが、しかし大分さびれてゐる。

(四)建築美に富む市役所、カーネギー財團寄附の圖書館、それから銀行街。教會多く、五十八もあるとか、蓋し英國人

の信仰を語るもの。住宅地帯には樹木茂り、花園には秋の草花咲き亂れ、芝生の青が物靜かな光を吸つてゐる。

(五)郊外の公園。高臺に知事の官邸。並木路。市の東北端の海岸。ここも美しい眺め。大理石や花崗岩の墓の竝ぶ寂然たる墓地。この地早くも晩秋の氣配だ。

(六)高層建築のコロンビヤ州廳。その近くに富豪ベンドレイの庭園。日本種らしい針葉樹を鳥獸や人間男女の形に刈込んだもの二三あり。主人は親日家の由で、植木藝術も日本趣味のつもりなのであらう。

ヴァンクーヴァ灣内の展望

午後二時ヴィクトリヤ出帆、右手に一萬呎のベーカー山を眺めつつ、夕六時ヴァンクーヴァ到着。今日の航海は、西はワシントン州西部の半島とヴァンクーヴァ島、東は米領・加領の大陸の間に挟まれた島嶼夥しく極めて細長いヴァンクーヴァ灣内のそれであつたが、山海の眺望と風波の靜穩は恰も我が瀬戸内海を行くに酷似し、しかもカスケード・オリンパス兩山嶽及びヴァンクーヴァ島脊梁山脈——そこにはストラ



光風のアヴァンアヴ

スコ
ナ公園
あり
—等の
雪景は
さすが
に壯麗
で、就
中ヴァ
ンクー
ヴァに
近づく
に連れ
て全容
を現し
た一萬
呎のベ
ーカー

山こそは、米國旅行中に目睹した最も見應へのある秀嶺であつた。

船中雜觀

下船に先立ち、事務長に頼んで船内を見物したが、僅か往復一晝夜の航路に用ゐる數千噸の船とはいへ、遊覽客を自當てにするだけに設備はさすがに行届いたもので、一人又は二人室が二百以上あり、社交室・喫煙室・讀書室・食堂等も美しく、バー・カフェー・理髮店・醫務室・雜貨土産物店・菓子果物店・兒童遊戯場等遺憾なく整へられてゐた。

甲板風景をいへば、何よりも若夫婦や新婚旅行者の接吻・抱擁の猛烈さに惱まされたが、さうかと思ふと、二三歳の幼兒の胴體に繩を結びつけて犬か猿のやうな恰好に這ひ廻らせ、兩親は別のところで酒々と遊び歩いてゐるといふやうな光景もあつたが、こんなのは我々人情深き日本人には到底理解し難い遣口で、白人の個人主義や親不孝平然主義も由來するところ淺からぬことを痛感した。日本人が赤ん坊を玩弄物視し、或ひは溺愛に陥つて獨立果敢な精神を失はしめるのも

確かに考へ物ではあるが、白人の如く親は親、子は子といふ態度も決して賞むべきではなからう。尤も彼等の氣持を付度すれば、厳格な取扱ひこそ心身鍛錬の唯一の方法だといふことにならうが、しかし歐米を旅行しつつ、例へば自動車の運轉手に五十歳・六十歳の老人が多く、晩年なほ勞苦するのを見ては、日本流の家族制度を讚美せざるを得なくなる。

北緯五十度のヴァンクーヴァアでは、夕六時半といへば既に眞の闇、東天に五日ばかりの新月清くかかり、港内海上から市街を眺めると、いくつかの教會の尖塔や米國式高層建築群が、或ひはシルエットをなし、または電飾に輝いてゐた。

船中で旅券・荷物の検査型の如くあり、上陸してホテル・チヨルチヤに向ふ。これはシヤトルのホーランド・ホテルの紹介によるもので、室數約四百、この市では二流どころの宿だが、交通の便よく且つボーイ長以下數人の日本人従業員がゐて、我々には好都合である。

ホテルで夕食の後、ベッドにもぐる。今宵の夢も故國に馳せるのであらう。



ヴァンクーヴァア・ホテル
チヨルチヤの封筒マーク



「第六十四信」ヴァンクーヴァア・シヤトル間船中にて認む

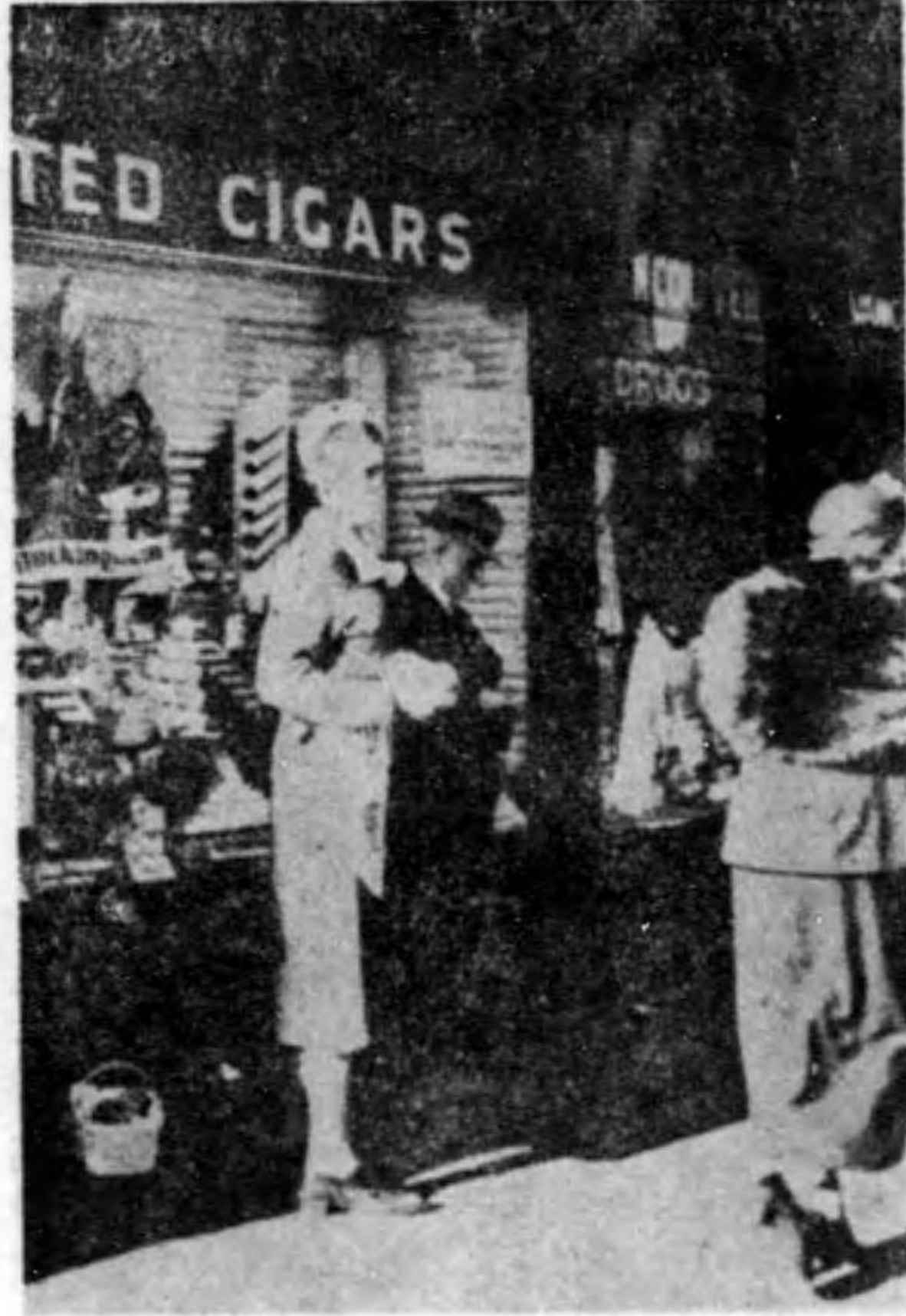
ヴァンクーヴァア見物

十月九日。晴。

引續き快晴。邦人ボーイ長の斡旋により、運轉手兼ガイドのヤマシタ・タクシーの主人を頼み、朝九時ホテルを出てヴァンクーヴァアを視察した。

(一)先づ控訴院・裁判所などを見る。市中を巡りつつ第一に氣づくのは、自動車の數の少いことだ。理由を訊くに、亞米利加から輸入するのに一臺二三百弗の關稅を要することが

ヴァンクーヴァア・林檎を賣る女學生



最大の原因だといふ。

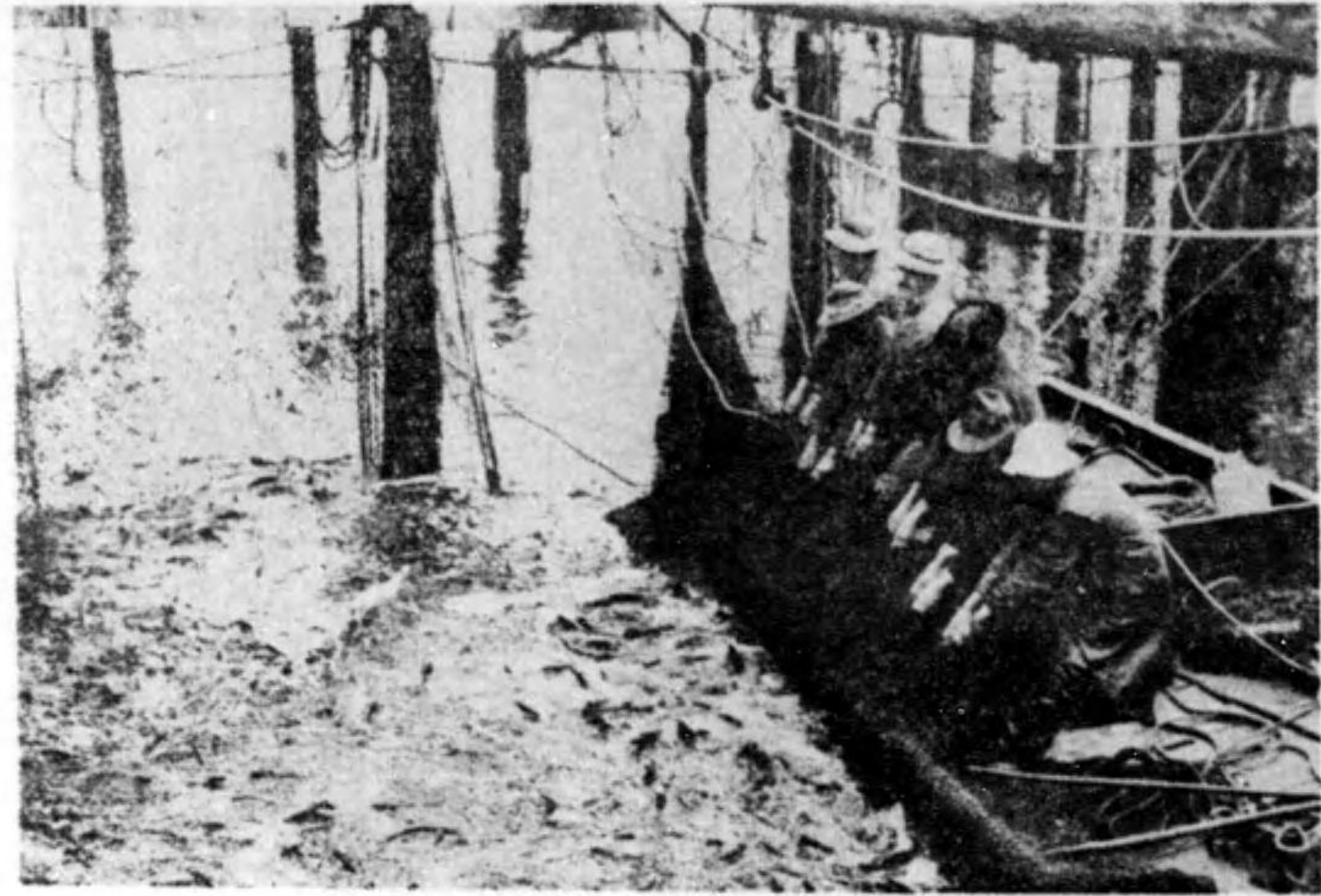
(二)この地方は林檎の名産地だが、今日は恰も一年一回のアツプル・デーで、市内女學生が總出動で街頭に立ち、大きな林檎箱を抱へ、一個五仙(邦價十七錢)で賣つてゐる。利益は慈善事業に寄附するのだといふ。

(三)この市は一八八六年六月十三日の大火により、當時木造家屋が多かつたのですつかり烏有に歸したが、これを機會として不燃燒の煉瓦・石造家屋となつた。

(四)スタンレー公園。一半島全部を占め、森林の美を極度に發揮してゐる。針葉樹の間に黄葉・紅葉を綴り、おのづから秋既に深きを告げてゐた。

(五)公園の近くに日本領事館あり。當市には六千人の邦人居住し、製材・漁獲・罐詰等の諸業に従ひ、廣島縣人・和歌山縣人が最も多いといふ。

(六)公園の一隅に、太平洋航路船エンプレス・オブ・ジャパン號の船飾が記念に保存されてあつた。同名三萬噸の船の先代に當る七千噸のもので、一八九一年進水、一九二二年廢籍と記されてゐた。公園を馬蹄形に廻つて半島の尖端で下



業漁の方地岸海西陀奈加

作 詰 り 造 り 荷 の ま を そ た 捕 して 出 の 船 十 艘 に 數 一 河 一 河 フレ

たりして賣出す。男は漁に女は工場で働き、殊に漁業には専ら邦人が當つてゐる。支配人の有本氏(和歌山縣出身)が案内し、萬端説明してくれたが、河中に網を張つて鮭を捕る技術ばかりは、邦人獨特のもので、白人には眞似しきれないといふ。フレージャー河は利根川河口位の幅あり、水量は數倍もあらうといふ大河で、その埠頭で、漁船から獲物を引上げる實況を見たが、邦人・白人入り混つて立騒ぎ、二尺から四尺、時には二人掛りでないと持てぬ五尺五六寸の鮭——中には鱒もゐたが——をどしどし陸揚げしてゐた。次に罐詰工場を見る。生魚はコンベヤで運ばれて洗滌され、頭と骨が除かれ、腹部の臓物と筋子が取出され、消毒の上蒸気が通され、忽ち罐詰と化して荷造りされる。總て機械作業だが、四五百人の女工が鮭の肉を罐に詰める仕事をやつてゐる。手加減で規定の目方を詰める手際は鮮やかなものだ。聞くところによると、鮭漁にはサシ網を用ゐる、漁船一艘で一日三百尾乃至五百尾、多い日には千尾を捕る由。漁夫は日本人を筆頭に、諾威人・西班牙人もゐるさうである。同行の今氏は北海道余市の漁業組合長で、この方面の専門家である

車、二軒ばかりの海峡を隔てて西ヴァンクーヴァを眺める。そこは郊外住宅地で、目下海峡に架橋工事を急いでゐた。

(七)加奈陀の都市では賣上の六分といふ販賣税を徴収してゐる。合衆國では二分か三分だつたのが、ここでは六分といふ高率で州税と市税を含んでゐる。

(八)コロンビア大學。二哩に三哩程の敷地、石造建築の教室・圖書館・寄宿舎などが數十棟立つてゐる。校内には公園風の植樹もある。新渡戸博士を記念するため日本人會から寄贈した二丈大の石燈籠がある。博士は數年前、平和會議に列席すべく渡米し、歸途ヴィクトリヤで發病して不歸の客となつたのである。この大學には邦人學生約三十人ゐるといふ。

(九)高臺に登つて全市を展望する。海の外に多數の湖水あり、また附近に二三千米の山脈連り、合衆國とは様子の違つた感銘が強い。

(十)市を離れて十五哩彼方なるフレージャー河の畔に、鮭の漁獲及び罐詰の工場を視察することにする。途中の道路は幅員十五米位で完全に舗装されてゐる。兩側には大牧場多く、また競馬場も二ヶ所あつた。

二十 分で工 場着。 インベ リヤル ・キヤ ナリー 會社と いひ、 邦人と 加奈陀 人の共 同經營 に係り 従業員 男女二 千人を 擁し、

望展の園公-レンタス・アヴ-タンアヴ



が、北海道の鮭鱒工場に較べると別に目新しいところはなく、寧ろ日本の方が進歩してゐるといふ。しかし、とも角、俺には興味深い観ものであり、それに邦人の活躍には大いに意を強うした次第であつた。

(十一)水道貯水池の高臺から再び市街を俯瞰した。遠く我々の宿のホテル・デヨルヂヤヤインベリヤル・ホテルやヴァンクラーヴァ・ホテルや四大百貨店等多くのビルディングが指呼され、人口三十五萬の都市としては、日本の廣島・福岡あたりよりも遙かに立派だと思つた。

(十二)この地方で多量に收穫される小麦を押しつぶして荷造りする工場を一見、それから市の中心街グランベルス通りへ出る。百貨店ではハドソン・ベイといふのが最も大きく、純白化粧煉瓦十階建て、延坪約一萬坪、八階以上が事務室、七階までが賣場で販賣面積約七千坪、三十五萬都市の百貨店としては堂々たる風格を示してゐた。この店は元來奥地の田舎町にあり、英國から服飾品・雜貨を輸入し、これに毛皮などを合せ商ひ、小さいながらも一六七〇年來續いた老舗であつたが、ここ半世紀以來のヴァンクラーヴァの異數の躍進ぶり

に目を
つけて
進出、
十餘年
前今の
建物を
造つた
のだと
いふ。
賣場の
品物も
高級品
が主で
傳統的
店風を
語つて
ゐる。
入口に

(車電光観はる走)トーリス・スゲンチスーヘ・アヴーケンアヴ



はユニオン・ジャックが翻つてゐた。

以上で大體の見物を終へ、夕四時半ホテルに戻り、今夜十時の便船で出發する準備を整へ、それから數時間日本人街を散歩し、日の出といふ料亭で食事し、附近の邦人理髮店で久しぶりに散髪した。床屋の親爺の話によると、今日は黃道吉日で日本人街に三組の婚禮あり、中の一つは、田中といふ保険事業關係の成功者の息子の嫁取りで、ヴァンクラーヴァ・ホテルで内外人四五百人の招待宴を張つたといふ。

床屋の近所に最近日本からやつて來た琴の師匠をり、在留日本娘に琴を教へてゐるが、今夜は丁度温習會だから御覽になつたらどうかといはれ、俺は物好きにも覗きに行つてみた。そこには縮緬の晴着に桃割・島田といふ姿の見るもなつかしい娘さん二三十人ばかりが、コロリンシヤンの最中、ああ、日本趣味程いいものは世界中にないなどと勝手な嘆息を洩しつつホテルへ戻り、荷物を受取つて埠頭に急ぎ、旅券の検査を経て乗船、十時半、船は靜かに出帆した。切符は往復を持つてゐるが、この外に一弗五十仙のベッド料金を支拂つて寢に就く。

「第六十五信」シヤスター線歸路列車中にて認む

シヤトル 視察

十月十日。晴。

警笛の聲の喧しきに目を覺まし、船室の窓から外を覗くと、一寸先きも見えぬ乳色の濃霧だ。しかし格別の事故もなくシヤトル着。旅券・荷物の検査を受けて後、八時過ぎ上陸、ホーランド・ホテルへタクシーを驅る。主人南氏に再會して、直ちに當市見物のコースを打合せる。

南氏の意見で、シヤトルは風景絶佳のところゆゑ、二三時間遅れても濃霧の晴れるのを待つた方がよからうとのこと。この間、三菱商事の田中支店長、住友銀行の西田支配人、日本領事館の岡田氏等を往訪しようかとも思つたが、生憎日曜日なのでこれも果さなかつた。シヤトルの日本領事はポートランド・タコマの領事も兼ね、領事館は三井・三菱・郵船・住友等の建物と接して、市の中央部にある。



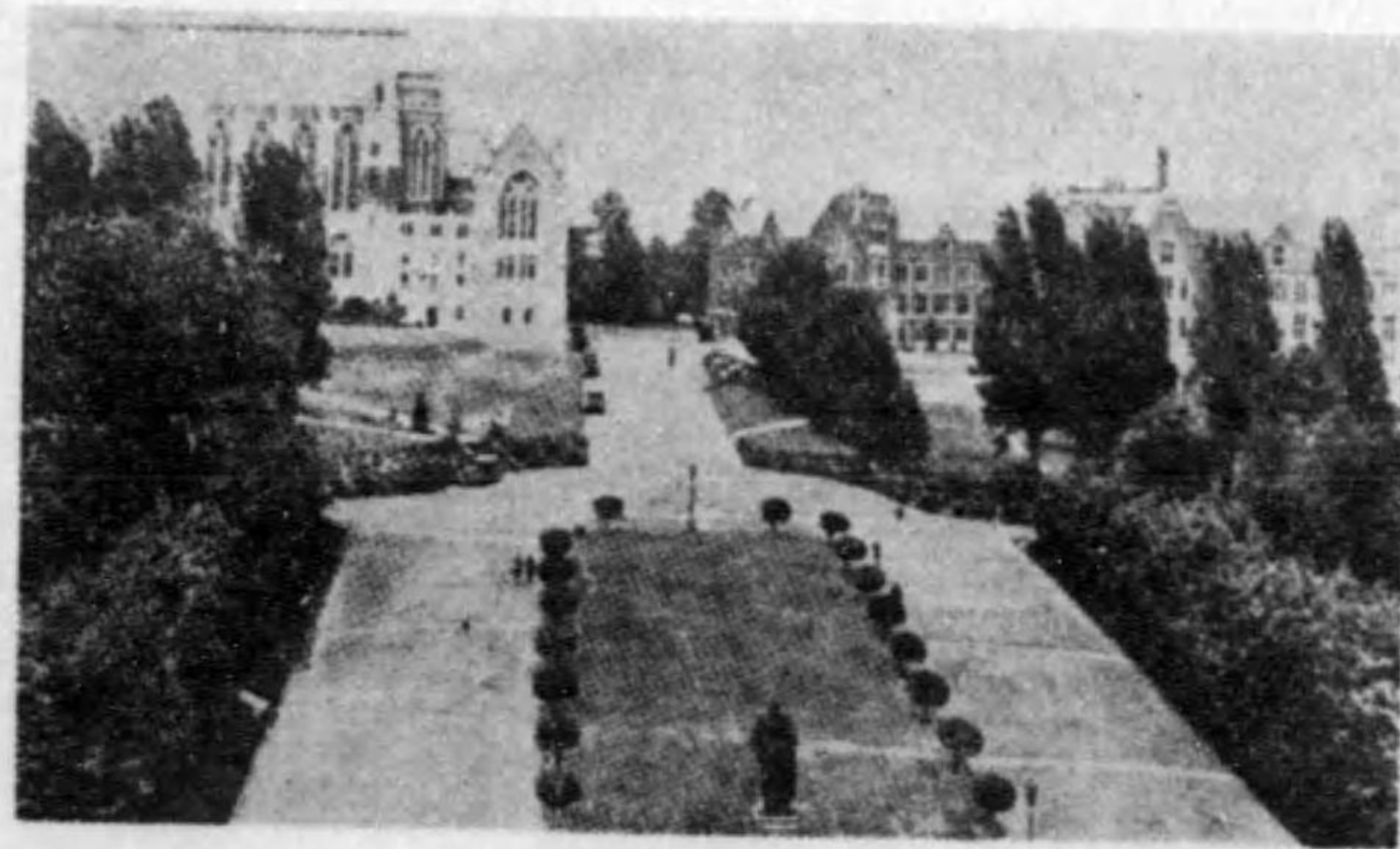
街市ルトヤシ

霧が少し
晴れて来た
ので十一時
から市中見
物に出る。
以下そのノ
ト。

(一)街衢
は海岸の第
一街から始
まつて第八
街に及び、
第四街が中
心をなし、
百貨店や小
賣店が軒を
連ねてゐ
る。人口は

ヴァンクーヴァより十萬近く多い。
(二)中央の高
臺にヴォランテ
ーヤ公園あり。
ここにシヤトル
市建設の記念館
や、一九三二年
竣成の博物・美
術館や、——そ
れは窓一つな
く、光線はすべ
て天井から採つ
てゐる。——シ
ヤトル市開發の
功勞者ウイリヤ
ム・ヘンリーの
銅像等がある。

學大ントシワ・ルトヤシ



(三)ワシントン大學を一瞥。日曜なのでろくに人影もな

い。住宅地にかかる、舗道に花園が作られ、優雅な空氣が
あたりに漂つてゐる。やがてワシントン湖畔に出で、またユ
ニオン湖畔に至る。共に眞水の湖で、海面より十呎も高く、
水門を設けてある。眞水だと船底に牡蠣がつかず、ついてゐ
ても死滅するので、五月から八月までアラスカ方面へ出漁す
る漁船が兩湖上に多數入つてゐた。

(四)シヤトルは一八六〇年の開港で、木材豊富の土地だけ
に最初は木造家屋のみであつたが、ここ數十年來面目を一新
して發展の一路を辿つた。現在、市街の建物は太平洋岸大都
市の貫祿を示してゐる。

(五)市の公會堂は、亞米利加練習艦隊入港の折食堂となる
關係から、五千人を收容し得る巨大な部屋を有つてゐる。

(六)シヤトルは、小麦・木材・漁獲物の集散港で、ヴァン
クーヴァに向ふ途中には炭礦も發見されて石炭の産出も少か
らず、またユニオン湖の周圍には製材工場夥しく、湖面には
無数の丸太が浮んでゐた。

(七)ユニオン湖から海に向つて一哩程の運河がある。これ
には幅員二十米位の開閉橋がいくつも架けられてゐる。前に

もいふ如く、海面と湖面との差十呎もあるので、船の往復に
は、二筋のキヤナルの一方を一旦堰き止めて水を満たし、或
ひは減じて、他の一筋へ送り上げ、又は送り下げる仕掛けに
なつてゐる。この光景が珍しいので見物人集り、この日も七
八十臺の自動車が止まり、我々も四五艘の船の通行を三分
間ばかり眺めた。

(八)グリーン湖の近くに大規模の動物園あり。そのめぐり
に日本人會の寄附による櫻樹三千五百本が植ゑられてゐる。
十年前日本の練習艦隊が上陸した際大歓迎を受け、歓迎費の
殘金を以て櫻の若木を取寄せたのだといふ。

(九)南氏の話によると、シヤトルには代々すぐれた市長輩
出し、時には女性の市長も現れる由。米國では、勞働省の長
官も女性だし、上下兩院にも女性の議員がゐる。それは何故
かといふに、決して女尊男卑の風習のためばかりではない。
智識階級者間の夫婦は、結婚當時こそ男性がリードし、少く
も雙方互格の力量だが、やがて男性は社會的活動に忙殺され
て學問する暇もなく過すうちに、女性は家庭にあつて勉強し
研究する餘裕を有つので、次第に亭主よりは偉くなつてしま



(氏田岡右・氏今央中・者著左てつ向)てに園公ドーフセ・ルトヤシ

ひ、それが原因で離婚を生ずる。かくして妻は家庭から解放され、社会へ飛び出し政治に學問に社会に活躍し

て、遂には大臣や市長などの支配階級に押し上げるのだ。かかる傾向の善悪は甚だ問題だが、とに角米國における事實はこの通りであり、男女同権が完全に行はれてゐるのである。
(十)由來氣候風土のいいところには美人を産するものだが、いふが、シヤトルには非常に美人が多く、確かにこの地の一特色だといふ氣がする。

(十一)ワシントン公園を通過する。大自然林をそのまま公園にしたものだ。川崎造船所々長時代の松方幸次郎氏の寄贈した石造の七重の塔が見える。

(十二)ワシントン湖畔のセワード公園には、純日本趣味の一劃あり、赤い鳥居や花崗岩の燈籠が立つてゐる。やはり日本人會の寄附によるといふ。セワード公園は湖上に突き出た半島にあり、高臺から眺める風光は非凡である。シヤトル市街方面には、海軍病院・ユニオン驛・カナデヤン驛や、四十二階のスミス・タイプライター・ビルやシヤスロバツク百貨店などを指呼することができる。

(十三)世界的なボーイング飛行機製作所を瞥見。二十年前僅か三十人の職工で創立されたが、今日では四五千人の従業

員を擁してゐる。但し内部は視察できず、残念に思つた。
午後二時半、日本人街の日光樓といふ支那料理店で遅い晝飯を食ふ。廣東料理で、非常にうまかつた。

タ コ マ ー 巡

午時三時半、南氏自ら運轉する自動車で南方三十五哩のタコマに向ふ。

シヤトルから數哩来たところに、旅客空輸會社の飛行場あり、ここから各地への飛行所要時間は、

サンフランシスコへ	五時間
ロサンゼルスへ	六時間半
紐育へ	十六時間

だといふ。我々の疾走する道路は、太平洋岸各州を北から南へぶつこ抜いた自動車専用道路即ちパシフィック・ハイ・ウェイで、北はシヤトルから南は墨西哥國境のサンディゴまで千八百哩も續き互つてゐる。この邊での幅員三十米、これが中央の白線で左右に分れ、更に各々三分され、勿論完璧に舗装されてゐる。

道の 兩側 は工 場地 帶續 き、 日本 人經 營の 農耕 地・ 温室 花畑 等も 少く

(土富マコタ稱通)山ヤニールと街市マコタ



ない。ある場所には屑鐵置場あり、廢物の機械や古自動車
山のやうに積まれてあつた。

南氏の車は、道路の完全なせむもあつて、一時間六十哩の
スピードで走る。ガソリン經濟の上からもこの位の速度が最
も理想的だとのことである。東部では自動車をカーといひ、
西部のこの地方ではメシンと呼ぶのを奇異に感じた。やがて
道路は四十米幅となり、中央の白線が二米幅の芝生に變つた。

かくして、四十五分の後タコマに着いた。この市は、米國
西北部都市中最も早く開港されたところで、木材・小麥の輸
出を生命とする。ヴァンクーヴァ灣の最南端に位し、タコマ
港内は全く湖水のやうな静けさである。人口約十五萬人、在
留邦人約千人。以下巡覽のノート。

(一)ユニオン驛を右手に見ながら中心街に近づく。中央商
業區域は二筋あり、各々一軒程の間が一番賑はつてゐる。中
に、古色蒼然たる市役所が目についた。

(二)住宅地を通つて、白樺の林に圍まれたタコマ中央公園
に出る。中に市營の温室あり。

(三)再び繁華街に戻る。ロード百貨店やシヤスロバツク通

信販賣店あり。日本人街も好位置に恵まれてゐる。

(四)木材貯藏所の大建築物を眺め、自動車は海岸工業地帯
に入る。ここにベニヤ板製造會社があるが、日曜のため參觀
するを得なかつた。港内には、日本郵船の日枝丸(一萬二千
噸)が碇泊、これは、十日程前 秩父宮殿下がヴィクトリア
より御乗船遊された氷川丸の姉妹船である。

かくてタコマ見物を終り、夕五時三十五分發の急行列車に
よつてサンフランシスコへの歸路につく。驛では南氏と堅く
握手して、五ひの健康を祈り合つた。

車中、晝飯の廣東料理が遅かつたので空腹を感せず、夕食
はやめにして、黒人ボーイの用意してくれたベッドにもぐり
込んだ。

「第六十六信」サンフランシスコ のヤマト・ホテルにて認む

オレゴン州からカリフォルニア州へ
の歸路雜觀

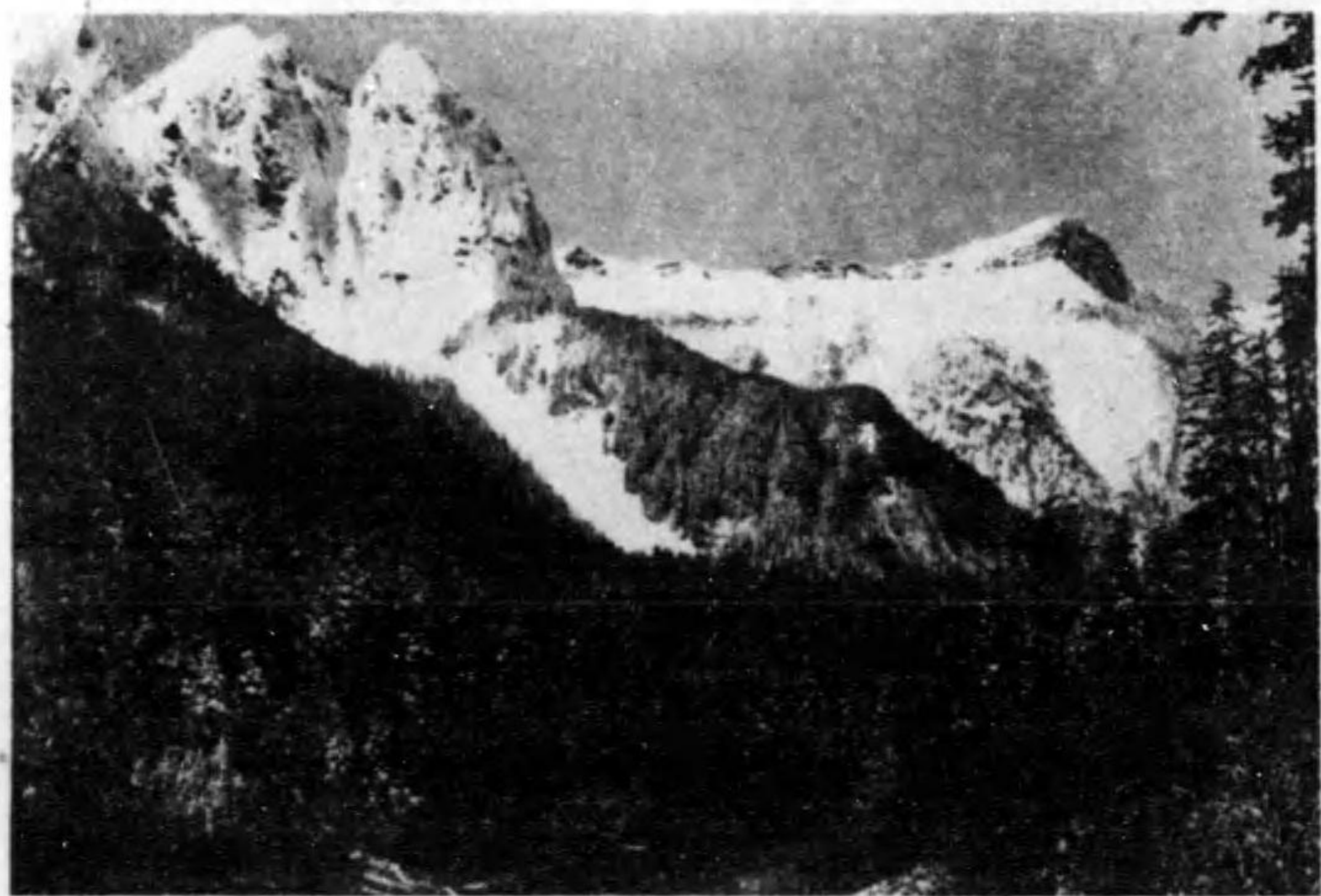
十月十一日。晴。

朝六時半、車中のベッドで目を覚ます。顔を洗つてから最
後尾の展望室で窓外の風光を楽しむ。米國では一等寢臺車と
共に展望車をも統制し、特定の會社(多分これもブルマン)の
經營に委ねられてゐる。室は長さ十數間で凡そ四十坪の大き
さ、中央に煙草・寫眞帖・土産物などをひさぐ賣店あり、左
右に三十脚のアーム・チェア並べあり、これに續いては讀書
室及び物書室備はり、各々四人宛坐れるやうになつてゐる。
すべて豪華なものだ。

オレゴン州の南部には、クラマス湖から流れ出るクラマス
河上流の落差を利用した發電所が多い。クラマス・フォールズ
の町には旅客飛行の發着所がある。

更に列車は南進して、七時半カリフォルニア州に入る。こ
れからサンフランシスコに至る車中は、歸朝直前の一日の清
閑といふべきだ。この邊の緯度は四十二度位で、我が函館あ
たりと同じ。されば展望車内の温度は十四度で、十一月上
旬の涼風身に沁み初める頃である。オレゴン州は一面の森林
地帯だが、カリフォルニア州にはこれが殆どなくなる。東方

シエラネバダ山脈を望み、雪白き一萬四千呎のシヤスタ山の仰ぎやがて北カリフォルニア州





材木の河ヤビンロコ州シゴレオ

フオ 南北四百哩以上、東西百哩乃至百五十哩の小平野で、地味肥沃、西部亞米利加の力量の根柢をなすものだ。何しろ種を播くに飛行機を用ゐるといふのだから、その廣大無邊さを察することができよう。この平野一つだけで、日本本州の平野の總計に匹敵するといふのは本當の話である。しかもまだ半分位しか耕作されてをらず、荒野として草の生えるがままのところがいくらも目につく。カリフォルニア州だけで日本の本州だけの實力があり、しかも同州の人口は僅か七百五十萬で、我が九州のそれよりもすつと少い。ここにおいて我々は日本を始め、獨逸・伊太利等の不満足國が、植民地を要求することのいかに當然であるかをつくづく感ぜずにはゐられぬのだ。

太平洋 洋岸 シヤスター山麓には幾條もの溪流發り、兩岸の奇岩突兀、樹色・奔湍おのづから秋の深きを想はしむ。溪流は相聚つて次第に水量を増し、二百哩を南下してサクラメントの大河となり、サクラメント地方の田園を灌溉する。

間に 午後零時半、一萬呎のラツセン山を東方數十哩の空に墮む。これも中腹以上は雪だ。二時、ガーバー驛。ここは小麥

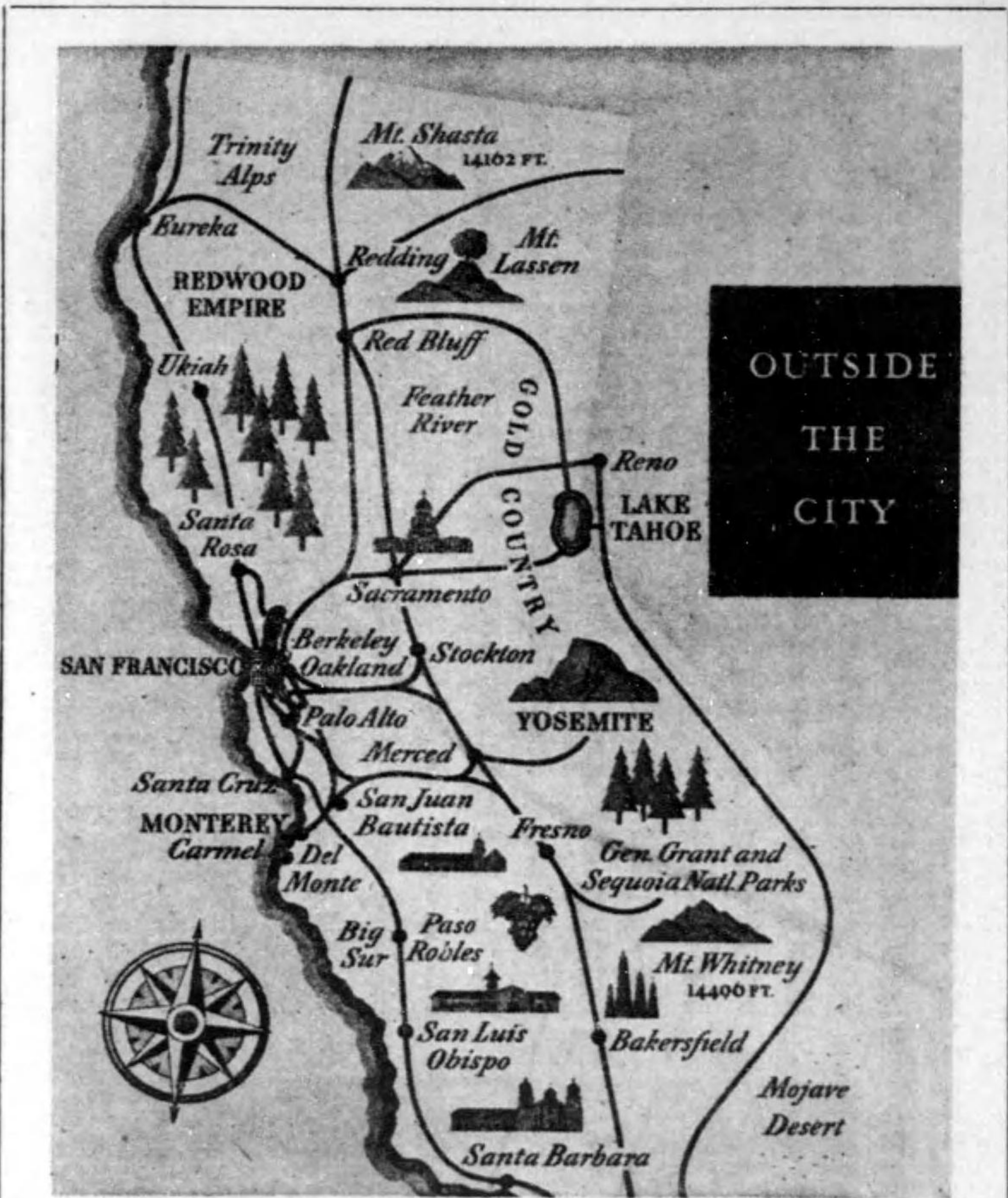
の集散地で、驛前に穀物倉庫見ゆ。このあたりは一區劃何百町歩といふ大農園のみで、農村らしい小家屋などなく、恰も新京・ハルビン間沿道の如くである。四時半、サクラメント。これはカリフォルニア州第三位の都會で、人口三十萬を有し、農産物の集散地として發展したところ。邦人も農場經營に相當活躍してをり、住友銀行の支店が、支店設置禁止の州法成立以後の便法に従ひ加州住友銀行といふ獨立銀行として存在するといふ。

何かを刈取つたあとの廣々とした耕地に數百頭の牛が放たれ、彼等が足や鼻先で切りに土を掘り返しては食物をあさつてゐるのを、同室の旅客に訊ねると、牧草收穫後土中に残つた根——それは牧草より一層滋養分あり——を食はせてゐるので、牛は太る、牛糞によつて土壤は肥える、一石二鳥の妙法だといふ。かうして肉のついた牛は附近の大屠殺場へ廻してどしどし屠つてしまふ由。

五時、サクラメント河口に出づ。ここに大規模の製油所と數十棟のタンク並び、壯觀を呈す。一哩半のサクラメント河鐵橋を渡り、パークレイを程で、六時半、オークランド。例

景夜のコスシンラフンサ





圖要概近附コスシラフンサ

秋の草花が目も綾に咲き
 亂れてゐる。サンフラン
 シスコより西岸添ひに南
 下すれば、こんなところ
 にと思ふやうなところに
 一大飛行場あり、この邊
 の道路は幅三十米で、完
 全に舗装されてゐる。車
 はやがてレッドウッドと
 いふ小都市を過ぎて横道
 へ入つたが、これは高澤
 未亡人がその友人の長男
 で三十歳ばかりになる青
 年の静養してゐるサナト
 リウムを訪ふためであつ
 た。そこで我々は二十分
 間待ちつつ附近を眺めた
 が、雅致ある松林の兩側

の渡船でサンフランシスコ着。時に七時。サンフランシスコ
 ・オークランド・ベイの夜景は、何回眺めても絢爛目をあざ
 むくばかりだ。二大橋の電燈は、どんな霧の深い夜でも、道
 路を鮮明に照らし得るやうな桃色硝子のもを用ゐてゐる
 が、この色硝子こそ日本人の發明品だと聞かされて大いに力
 強く感じた。

かうして北カリフォルニア・オレゴン・ワシントンの諸州
 及び加奈陀のコロンビヤ州の一部の旅を終へた。米國の富力
 としては、シカゴ以東の東部が七割、中部が一割、西部が二
 割と観るべきであらうが、西海岸は最後に開發されたところ
 だけに、七大都市の市容極めて斬新で、紐育を除いては、何
 處にもまさつて近代的な香氣を感ぜしめる。俺は思ふ、
 必ずしも大金を使つて歐洲くんだりを見廻る必要はない、殊
 に外國の商工業を視察するなら、日本に最も近い米國の西海
 岸の面目だけに接しても、どれ位有益かわからない。期間は
 四十日、費用は三千圓で足りる。俺は數年後に、一團の組織
 を首唱して、是非これを實現したいと考へてゐる。
 この夜、ヤマト・ホテルに宿つて旅の疲れを休めた。

「第六十七信」サンフランシスコ コのヤマト・ホテルにて認む

スタンフォード大學とモンテレイの
 海岸

十月十二日。晴。

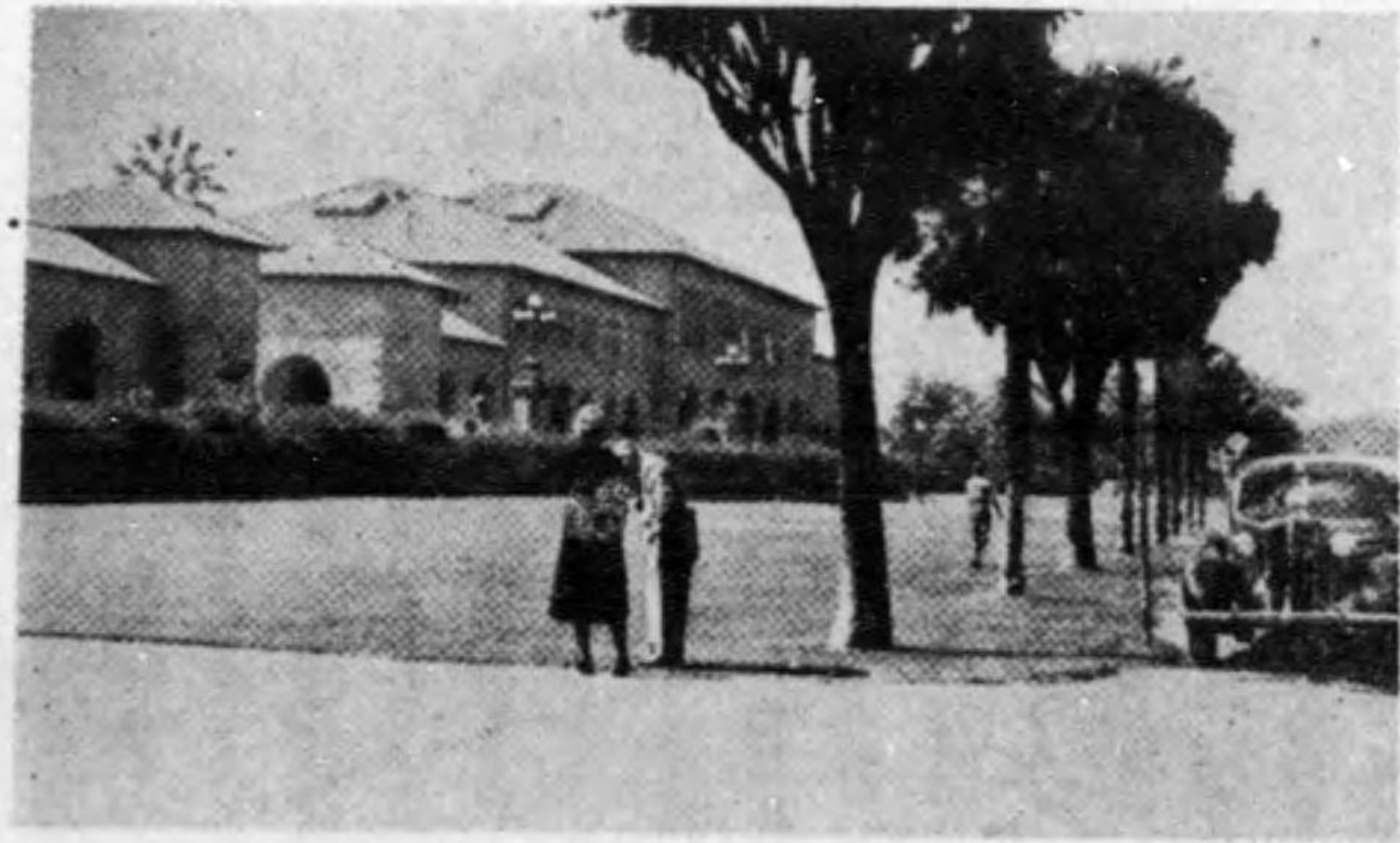
ヴァンクレーヴァ行き我々三人の最年少者岡田一郎氏の取
 引先たる高澤商店女主人の好意により、サンフランシスコか
 ら百四十哩の南方に當るモンテレイへドライブすることにな
 り、朝九時、女主人同車、同店中野支配人の運轉する自動車
 に乗る。中野氏は邦人第二世で、カリフォルニア大學出身の
 由。自動車の遠乗りといふもの、俺は大正十三年朝鮮金剛山
 觀光の際、温井里から東海岸まで一日中乗廻した以來のこと
 で、今日は往復三百哩に近い道程だが、幸ひ天氣快朗のドラ
 イヴ日和、殊に目指すモンテレイは、嘗て 高松宮殿下が御
 探勝にお成り遊された名所と承つては、心躍らざるを得ない。
 サンフランシスコの郊外へ出ると、邦人經營の花畑多く、

に一戸建の療養所が建並び、正面に病院事務所が見え、理想的なサナトリウムであることを直感した。そして見ず知らずの人ながら高澤未亡人の訪ねた病者の全快の速かならんことを心に構った。

それから二十分間で、スタンフォード大學に達し、構内を三十分間観る。スタンフォード氏の遺志により同未亡人の建造したもので、凡そ七平方哩もあらうかと思はれる地域を擁し、樹木繁り、花壇・芝生美しく、宛然一つの公園中に學舎が在るの感深し。舗装道路は縦横に通じ、そこには數百臺の自動車が行り捨ててあつたが、これらは勿論學生の通學用のものだ。州立カリフォルニア大學などに較べると學生數は五分の一の四五千人に過ぎぬが、富豪の子女多く、學術の程度高く、校舎も敷地の廣さも、米國諸大學の水準をかなり抜いてゐるやうだ。

正面に、小さいながらすばらしく立派な教會堂がある。大學に教會堂のあるのは、英國でこそケンブリッジもオックスフォードもさうであつたが、米國では稀なものではなからうか。これはスタンフォード氏の特別の遺志によるものの由で、

氏は元來東部から西部へやつて來て、金鑛その他の鑛山業で巨富を積んだ人だが、天二物を許さず、家庭は不幸続きで、自ら類齢の上に長男の狂死にあひ、また經營鑛山の山崩れで支那人が五百名も惨死した事件などもあり、苦慮懊惱の裡に寂しく死んでいつたが、それだけに一層宗教の力に縋らうと努め、大學の根本精神をも即ち信仰による人格の陶冶に置いたのであ



學大ドーオフンダス

る。教會堂内部には、千五百の座席あり、正面には十字架上のキリスト及び死せるキリストを抱き下す聖母マリヤの油繪が掲げられ、祭壇は金色燦然として敬虔の氣分溢れ、周圍のステンド・グラスや彫刻・壁畫も、念の入つた美しきものであつた。前に、ロサンゼルス滞在中、米國における信仰の現狀について邦人牧師から聞いたところによると、「亞米利加各都市を通じて、日曜日に教會へ出入する信者は、自分が三十前渡米した頃に比較すると、實に十分の一に減じた。今では信心堅固な特殊の人以外には教會へ寄りつかなくなつた。激烈な生存競争に疲れ切つた心の慰安は、映畫とかピクニックとかドライブとかいふ方面にのみ求めるやうになり、宗教は——殊に青年男女にとつては——何の魅力をも持たぬらしい。」云々。この牧師の言葉は、つまりアメリカカニズムへの歎きであるが、またそのまま東洋の宗教界にも當て嵌る感慨だとせねばならない。これらを考へる時、スタンフォード大學の校風は、確かに一刮目事たるを失はない。

講堂・校舎・寄宿舎・圖書館・研究室・スポーツ關係諸室・學生控室・事務室等數十棟の建物は善美を盡され、また校

庭には、氣候温暖のため熱帶植物の椰子・檳榔椰子等が植ゑられ、青芝の原には男女の學生が三々五々寝轉んで話し合つてゐる。學生の服装は、日本のやうに統一されてをらず、シャツ一枚の者もあればジャケツを着た者もあり、その色合もとりどりである。一般に自由潤達の氣風が流れてはゐるが、しかし行儀はよろしくなく、殊に教室や控室における態度はいささか嚴肅を缺いてゐる。これはカリフォルニア大學でも同様の感じを受けたことで、蓋し我々の批判を免れ得ぬところと思ふ。

スタンフォードの附近に、パロアルトといふ人口一萬の町あり、大學のために發達したところだ。街道の兩側に熱帶植物の畑や邦人經營の林檎・葡萄の畑を眺めながら進むと、サン・ジョーズといふ小都會あり、それから更に南下していよいよ太平洋岸に出で、午後二時、やつとモンテレイへ着いた。モンテレイは白砂青松十七哩に亘る海岸で、俗にセヴンティーン・ドライブと稱せられる。鎌倉の稻村ヶ崎から片瀬にかけての氣分にちよつと似てゐるが、あれよりも遙かに雄渾で、且つ變化にも富んでゐる。ドライブの途中、數百年を經



(氏今左・氏田岡右てつ向・者著央中)てにイレテンモ

は、特に殿下をこの地に御案内申し上げて御歓迎会を催し、殿下もこの地の風光をお賞め遊されたと洩れ承つてゐる。

た松の密林があつたが、太平洋の潮風に煽られて幹も枝も皆一方に曲つてゐる。この老松に圍まれた岸壁の上に氣の利いた一軒のホテルあり、展望殊の外すくれてゐるので、嘗て高松宮殿下をサンフランシスコにお迎へし奉つた時、同地の官民

日本では白砂青松に至るところにあるが、米國では餘程珍しく、しかもモンテレイのそれは規模の大を以て名高く、サンフランシスコ附近の贅澤な遊び場となり、夏季には海水浴場として賑はひを呈し、ゴルフ・リンクもいくつかあつて、この日もスマートな男女が盛んにクラブを振つてゐた。

景風イレテンモ



レッドウッドの森

約十哩のドライブ・ウェイを走り(この入園料一弗)、最後に、海岸の巖の上で晝飯を食つた。高澤未亡人の心盡しから、加州米の握飯・壽司・鰻井・紅茶・番茶・メロン・葡萄・林檎・桃・梨等豊富に現はれ、遂に満腹した。歸路は横道へ入り、夕暮れ時サンタクルーズの海濱に着き、長い棧橋の上で生魚の取引などを見た。次にレッドウッドの森林を通過したが、樹齡六七百年の松・杉・檜が密生してゐた。

夜十時半、サンフランシスコ着。日本人街で蕎麥かうどん

の軽いものを食べようとしたが、日支事變による邦商壓迫のデマしきりに飛び、どの店も早仕舞ひのため果さず、支那料理を食つて、十二時ホテルへ戻つた。支那人街では大道でアチ演説行はれ、日本人のボイコットが叫ばれて、かなり険悪な空氣を見せ、深夜の歸路薄氣味が悪い位であつた。高澤未亡人と中野氏には非常な迷惑をかけた。深く感謝するところである。

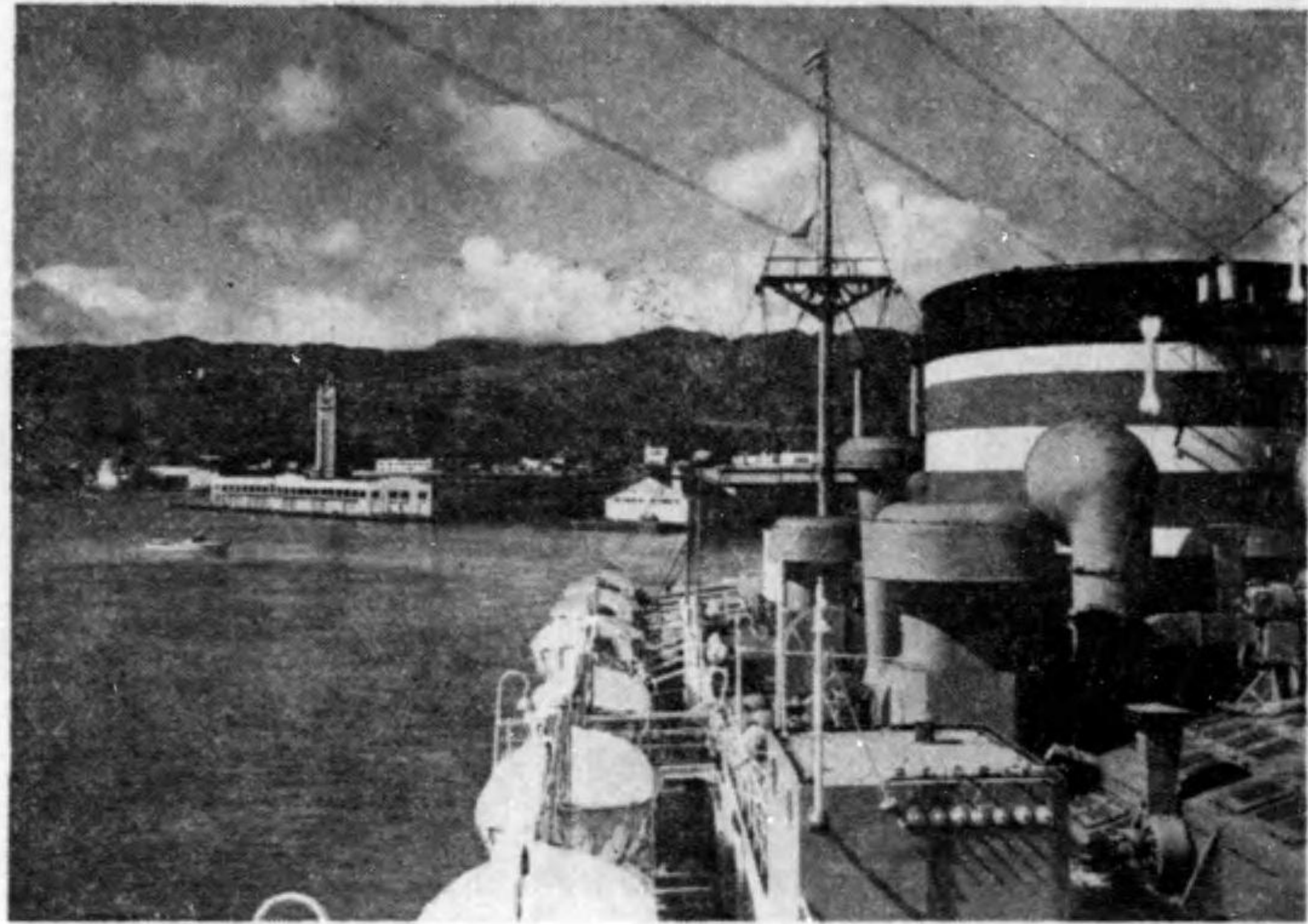
「第六十八信」サンフランシスコのヤマト・ホテルにて認む

再びサンフランシスコ見物

十月十三日。晴。

昨日のモンテレイ行き疲れで、今朝は少しく寝坊。九時朝食の後、昨日の禮を述べたくチャイナ・タウンなる高澤商店を訪ふ。未亡人も中野氏もまだ出勤せず、店の人に感謝の傳言を頼んで辭した。

今日再びサンフランシスコを見物すべく、ホテルの主人に



イベ・ドンラクーオ・コスシンラフンサ

らの展望は、ストックホルムの高臺及び紐育港口からのそれと共に、世界の三大美観ではないかと思ふ。ナボリの海岸やバリエツフェル塔上の眺めと雖も、右の三者には到底及ばぬのである。

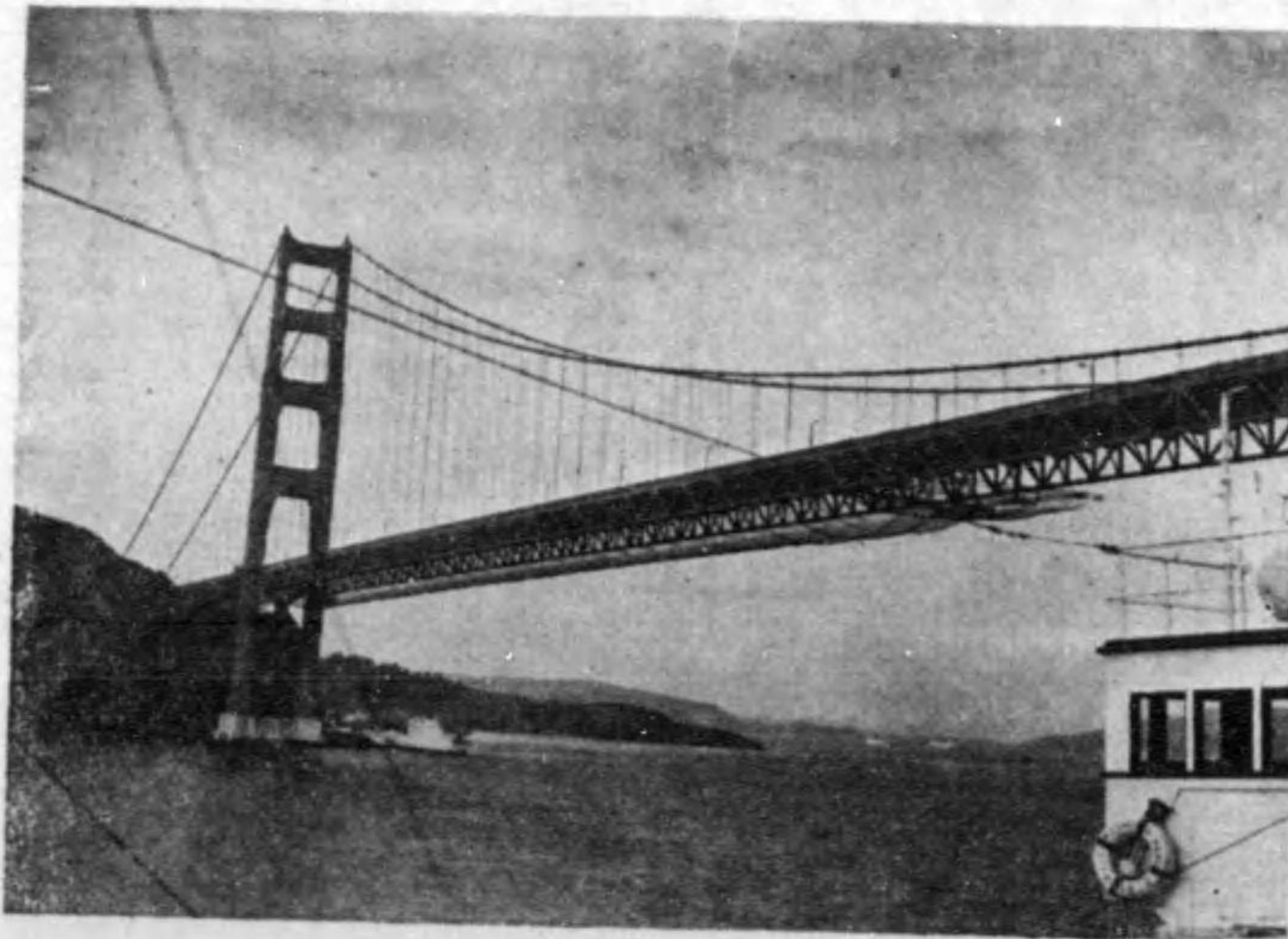
次にオークランドも見たが、この市を中心として東はシカゴを経て紐育へ、南はロサンゼルスを経てサンディエゴへ、北はサクラメントを経てシヤトルへ、それぞれ幅員四五十米の大自動車道路が發してゐる。市中の繁華街ブロード・ウェイには百貨店・小賣店連り、十三階の市廳舎その他高層建築少からず、ロツクフェラー寄附の圖書館などもあつたが、直覺的にいつてサンフランシスコには及ばず、北方のタコマかヴイクトリヤ程度の感じがした。しかし、オークランドの人口は四十萬あり、市の區域八哩四方に及び、これに近接するパークレイは七哩四方で二十萬人といふ。そのパークレイの東端小高いところにカリフォルニア大學がある。これは案内役武田氏の母校だけに、特に隈なく見せてくれたが、大講堂・圖書館・各科分科教室・寄宿舎・俱樂部・食堂等數十棟の建物はいふまでもないとして、運動競技場の完備せる點に最も

ガイドを頼んだが、突然のこととどこへ電話しても適任者なく、止むを得ず、三菱商事へ行つて事情を話すと、支店長は早速當地生れの第二世で今春カリフォルニア大學を出た武田五兵太氏を紹介し、且つ會計主任の辻忠敏氏が夕方五時まで自家用車を貸してくれたのは何より好都合であつた。附近の住友に至つて、支店長に過日のシヤトル方面紹介の勞を謝し、併せて明日秩父丸出帆につき訣別の挨拶を述べた。

かくして十一時、武田氏の自動車操縦及び案内によつて市中見物に出で、先日巡つた名所を更に見直したのであるが、例のサンフランシスコ・オークランド・ベイ・ブリツヂとゴールドデン・ゲート・ブリツヂの二大橋の建設費一億一千餘萬弗といふのは邦貨約四億圓に相當し、つまり三井・三菱の富力と伯中する莫大な數字であるが、かかる大金を僅か二橋のために投じようとするところに亞米利加の亞米利加たる所以があり、關門トンネル五千萬圓の工事でさへなかなか目鼻のつかぬ我が國と、いかに物のありやうが違ふかを深く印象づけられた。

サンフランシスコ・オークランド・ベイ・ブリツヂの上か

ヂツリブ・トーゲ・ンデルーゴ・コスシンラフンサ





景夜のソウタ・ナイヤチ・コスシンラフンサ

料理屋軒を接し、中には支那人商店も混つてゐる。ここに居住する日本人約八千人だといふ。日本人キリスト教會及び佛教青年會あり、後者は八萬弗の寄附を寛めて目下新築中であつたが、敷地三百坪に建物十五間四方、日本なら十五萬圓程度でできるものと見受けられた。それが八萬弗即ち二十八萬圓を要するといふのは彼此物價の相違といふわけである。

邦人の服飾雜貨商や骨董商は、日本人街の外にチャイナ・

タウンにも多い。そこでは邦人・支那人雜居し、立派な商店が竝んでゐる。市の中心街に近いだけに日本人街よりは遙かによく發展し、殊に岩田商店といふのが群を抜いて内外觀共に充實してゐた。支那人の店では、岩田商店以上のものが三四軒あつた。

チャイナ・タウンから北方約一軒の中心街に、ホワイト・ハウス百貨店あり、高級品の販賣ではサンフランシスコ第一と稱せられる。延坪七八千坪、服飾品を始め贅澤な商品を竝べ、客も相當混んでゐた。サンフランシスコは、ロサンゼルス同様に新興都市らしい尖端的流行品が相當賣れるが、更に一般高級品に對する需要は頗る多量に上るといふことだ。

これで大體今日の巡覽を終り、武田氏の厚意を謝し、また辻氏に自動車を返してホテルに戻つた。

なほ、書き洩らした雜事二三を次に記しておく。

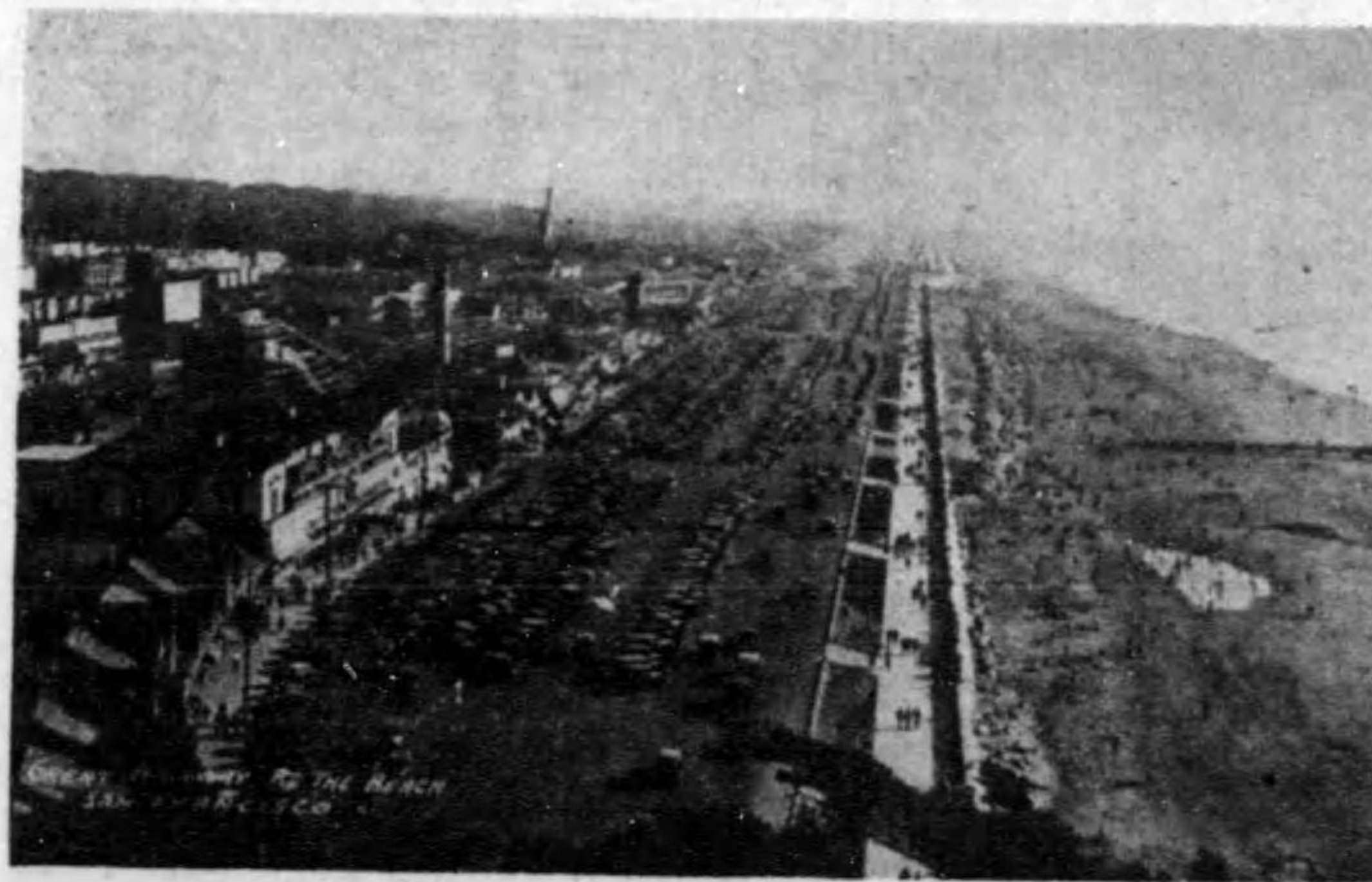
邦人の移民は、最初オークランドの東北百哩なるサクラメント(人口三十萬)を中心として發達したが、その後氣候や地味の關係でロサンゼルス附近が一層盛大に赴いて六七萬人の集團となり、南カリフォルニア州の移民は北カリフォルニ

特色があるかに見受けられた。即ちそこには二十餘種の競技を行ふ設備あり、レスリングとは別に日本の角力まで行はれてゐる。運動競技にかけては、シヤトルのワシントン大學やロサンゼルス、南カリフォルニア大學と共に、東部諸州の諸大學以上の聲譽あり、學生が筋骨隆々たる體軀を以て白熱的猛練習を續ける實況も見たが、その熱烈眞摯な態度には敬意を拂つた。校風の根本は、前日行つたスタンフォード大學などと同じ、體育を本位として學生の健康美を打成し、天真爛漫な童心に還つて、而して學業に精勵させようとするにあるらしい。ただ、學生の服裝が亂服で、言行舉動が粗野である點は、東部の大學に劣り、一長あれば一短ありの感なき能はずだ。學生の數は附近の農科の實習生を加へて二萬人内外もあり、この點米國大學中でも有數の方だといふ。總じていへば、大衆的で、近代的で、健全・明朗で、無邪氣で心親しめるが、一面やや粗雑で品位なく、つまり亞米利加そのものの象徴ともいへようかと思ふ。

再びサンフランシスコに戻り、日本人街を見る。これは中心街から一軒隔り、ロサンゼルスそののやうな好位置に恵ま

れてゐない。
青木大成堂といふ滋賀縣出身者の雜貨商が一番大きく他にも二三の大商店があつた。邦人向きのホテル・小

岸海コスシンラフンサ



ヤ州のそのの二倍に達するに至つた。

サンフランシスコとロサンゼルスと比較するに、前者の方が歴史が古いだけに市にも市民にも品位と落着きがあり、後者は各國の流浪人が入込むために、股賑は即ち股賑だが、また何となく新開地らしい雑駁なところが見える。

西海岸における日本の銀行としては、住友が多數の支店を有ち、爲替・送金・預金の取扱高では、前にも書いたかしらぬが、ロサンゼルス支店がホノルル支店に次ぎ、以下、サンフランシスコ支店・シヤトル支店・サクラメント支店の順となる。移民では廣島縣人が第一で、和歌山・山口・熊本・福岡の順だといふ。昨年十月滿支の旅からの歸途、廣島の住友銀行支店を訪うた時、同行預金の多額なるは移民の送金によると聞かされたことを思ひ出した。

サンフランシスコは一九〇六年(明治三十九年)四月十八日大地震に遭ひ、これに因る大火災は十八日から二十日まで七十二時間燃え續けて十五平方料の地域を灰燼に歸せしめ、死者・行方不明者千人、建造物・水道・瓦斯管・交通機關等の損害二億五千萬弗に上り、政府及び州廳の努力により割合短

日月の間 復興した へ、これ がた めに 同市の 展が の發 阻害 され たこ とも また

トーリス・トツケーマ・コスシンラフンサ



事實である。

對岸のオークランドは、重工業その他の工業を以て榮え、大サンフランシスコの一翼をなしてゐる。ただ、俺の關係する織維工業が全然見當らぬのはいささか淋しかった。

サンフランシスコ最後の夜、亞米利加最後の夜をヤマト・ホテルに過す。

太平洋歸航篇

昭和十二年十月十四日より
十月二十九日まで

「第六十九信」秩父丸船室にて 認む

サンフランシスコに関する昔の憶ひ出

十月十四日。小雨後晴。

昨夜は亞米利加での最後のベッドとて、稍々興奮して熟睡を得ず、今朝は五時に起きて日記の整理と乗船準備に二時間を費した。一風呂浴びて後、附近のカリフォルニア街・チャイナタウンを散歩、高澤商店で未亡人と中野氏に先日のお禮を述べ、ホワイト・ハウス・デパートで買物をし、一旦ホテルに戻つた。

俺は十二歳の幼童の頃、上州富岡小學校で初めて世界地理の概要を教へられたが、同級生の何びとにも増して興味をそそられ、一生に一度歐米の國々を巡り歩くことができた。どんなに愉快だらうと屢々空想に耽つたものであつた。その幼き夢が、はからずもここに實現されたについては、轉た感慨を催さずにはゐられない。その時、教室で先生から承つた

話を今以て忘れないが、サンフランシスコといふところは、横濱から太平洋五千五百哩を隔てた真東にあり、航海には二十五日乃至一ヶ月間を要し、日本から輸出される二千萬圓の生絲の六七割まではそこで陸揚げされ、それから汽車で一週間もかかつて紐育方面の機場へ達するのだし、亞米利加から日本へ輸入する棉花もそこから出荷するのだといふやうなことがあつた。また、當時日本の貨物船は、太平洋を渡るに四五十日を要したので、輸出入品の八割通りまでは、米國或ひは歐洲の船で運搬されるのだといふやうなこともあつた。何しろ五十二年も昔の明治十八九年といふ頃ほひで、未だ憲法も國會も何にもなく、日本の總豫算が今の百分の一たる四五千萬圓、米が一俵一圓八九十錢といふ次第、その後間もなく俺は越後柏崎の小學校へ轉校したが、ここでは米一俵一圓だつたことを覚えてゐる。

なほ今一つ思ひ出すのは、俺が上州高崎で大いに織物問屋業に精を出してゐた明治三十九年のこと、日露戦争後の好景氣の眞最中で、從來百斤六七百圓の生絲が千百圓まで高騰したのが、突如一二百圓の大暴落を演じ、その原因がちよつと



丸父秩

不明であつたが、やがて、四月十日、サンフランシスコに大震災起り、生絲が立會中止になつたためと判明した。尤もこ

れは一時的の現象で、サンフランシスコの復興は意外に早く緒につき、生絲の實際の消費地は東部にあるのだし、且つサンフランシスコ埠頭で多量の生絲・絹織物が焼失した關係から、夏秋の間、生絲再び盛り返し、しかも千三四百圓といふ未曾有の高値をさへ唱へられ、上州・信州邊に生絲成金が續出したものであつた。こんな昔の追憶に耽り、而してホテルの窓外に、今立去らんとするサンフランシスコ市街を眺望すれば、萬感洵に胸にせきあぐるのであつた。

秩父丸日記 A

九時五十分、四泊のヤマト・ホテルに別れを告げ、タクシーで埠頭に向ひ、直ちに秩父丸に乗込む。三井・三菱・住友各支店の支店長又は次長や高澤未亡人・ホテルのマネージャー等多数に見送られつつ、十時出帆。しばし甲板の上から、漸く遠ざかりゆくサンフランシスコに名残りを惜しみ、邦人移民諸氏の健康と奮闘を祈つた。やがてゴールデン・ゲート・ブリッジを通過、この橋はつい渡つてみずにしまつたが、僅か二本の橋脚を以て長さ一哩四分の三の釣橋を支へ、いか

なる大船をも通行させ得るやうに作りなされてゐるのに感服した。この時、朝來の小雨も全く晴れ、二週間の航海の前途を祝福するかの如くに青空に白鳥が舞つてゐた。
一等船室は、間口一間、奥行三間の六疊敷といふ狭さながら、一人部屋の氣安さが何よりの値打ち、ここで荷物の整理や室内の裝飾をして、再び甲板に出づれば、日本商工會議所會頭・大倉組副社長門野重九郎氏の一行に逢ふ。門野氏は日本經濟使節として約半年間歐米諸國を巡り、途中日支事變の發生するあつて、愈々親善事業の邁進に努め、殊に英・佛・米では空氣の悪化を緩和すべく異常の勞苦を積まれたらしいが、大した疲れも見せぬ例のさつぱりした白髪の子顏で、今春名古屋で催された日滿聯合協會及び日本商工會議所議員大會で講演された當時と少しも變らぬ元氣な様子をしてをられた。

外に三井・三菱・住友等の社員諸氏にも遭つたが、それにも増して嬉しかつたのは團員西山老との逢會であつた。老は途中一行と別れて、井上氏父子と共に再び獨逸に入り、亞米利加では紐育で井上氏父子とも別れ、それからシカゴ・グラ

(老山西央中・者著端右てつ向)てにシロ丸父秩



ンドキヤニヨン・ロサンゼルスを経てサンフランシスコに來り、次の便船龍田丸に乗込む筈だつたのを、この秩父丸に變更したのだといふ。晝食には、西山老と我々今氏・岡田氏・俺と、水入らずの四人で一卓を圍んだ。

午後、鬚剃り。甲板散歩。七時夕食。一般料理は普通に食へるが、米國産玉蜀黍・西瓜などは、大味でうまからず。お互ひの健康のためにビールの祝杯をあげる。西山老更にウキスキーをあふる。旅中節酒してゐたのが、我々と別れて以來忽ちよりが戻り、大酒家の面目を發揮し出したといふ。

夜、Bデツキのサロンで會談。入浴。十日位の月出づ。太平洋上の十三夜の明月も近づいたことを知る。

ベッドに就くと、家のこと・店のことが切りに思ひ出される。

晝の氣温二十二度、夕方二十度に降る。

秩父丸の船長は富岡彌太郎氏、事務長は立花盛枝氏。

十月十五日。晴後曇。

船は西南へ向ひ、北緯三十五六度のところを進む。殆ど一

刻毎に暖氣を加へ、サンフランシスコ乗船の際着た冬服では暑くてゐられない。昨日ブレッツィングに出した夏服が仕上がつて來たら、早速着替へよう。

昨夜から毎日三十分づつ時計を遅らせる筈になつてゐたのが、今朝寢呆けて三十分進ませ、そのため甲板の散歩がひどく早くなつてしまつた。甲板の掃除人が俺の靴音高き散歩ぶりを見て、あきれ顔だつたのも道理だ。

十一時、船内新聞の配附あり。無線時事と海上版の二部に分けて印刷されてあるが、シャルンホルスト號やアキニヤ號のそれに比して、内容・體裁共に劣るのは、いかにも彼我文化の相違を見せつけられたやうな氣がして遺憾に堪へない。

秩父丸は、いふまでもなく日本郵船の持船で、一萬七千五百噸の優秀船であり、龍田丸や淺間丸より船内裝飾などに多額の費用を投じた豪華船ではあるが、一般外國船に倣ひ、社交室・喫煙室・食堂・讀書室・酒場等が比較的廣く且つ華美にできてゐる一方、船室が甚だ狭く、或ひは狭からずとも相客でなければならぬのは、非社交的でとかく自室にのみ籠りたがる日本人や船に弱い者にはかなり不向きの如く感じられ

るが、どういふものであらうか。尤も船に強く、人見しりをしていない俺のやうな人間には、船室は夜寝られれば澤山で、晝間は大抵室外で暮らしてゐるのだから、結局一般外部設備のいい方が好ましいが。秩父丸の最上甲板艙尾には、三十餘坪の展望用社交室あり、次のAデツキには、社交室・讀書室・ライテングルーム・酒場等、三四十坪か七八十坪もあらうかと思はれるもの五六室あり、満員の一等船客が十分利用してもまだまだいくらも餘裕がありさうだ。秩父丸の進水は昭和五年の由で、まだ船齡の若いだけに、かの大西洋航路のアキタニヤ號などより、ずつと改良進歩されてはゐるが、しかしかの歐洲航路のシャルンホルスト號に比すればかなり遜色あることを否めない。不思議に思ふのは、シャルンホルスト號は秩父丸より噸數で千噸しか増えてゐないのに、長さにおいて凡そ三四割も大きく、ちよつと二萬五千噸もありさうに感じられることで、ひよつとすると、一旦緩急の際補助軍艦に改装できるやうに構造されてゐるのではなからうか、噸數なども祕密にされてゐるのではなからうか、とさへ疑つて疑へぬこともない。

午後、風波強く、湿度降る。

晚餐、刺身や吸物の日本食。正宗一本飲み陶然となる。

夜八時から映畫を見る。その後、ハワイやホルルに關する豫備智識吸收のため讀書し、十時、ベッドに就く。

十月十六日。曇。

秩父丸の船脚鈍る。理由を訊くに、鐵鋼・銅・鉛・石油・機械等の積込量従前に比なき多量のためだとのこと。ホルル入港は三四時間、横濱入港は一日遅れるらしい。しかし、これも暴支膺懲の軍需品運輸のためと思へば何でもなく、ただこれらの品々が目的通り邦家のお役に立つ日のことを祈るのみだ。

今日正午の船の位置及び條件は、北緯三十二度十四、西經百三十七度二十七、サンフランシスコよりの距離八百八哩、ホルルまでの距離千二百八十五哩、天候曇、氣温大氣二十二度、海水二十一度。——無聊のままこんなことを手帖に記してゐたら、ボーイが通りかかつて、かういふ記録が必要ならサンフランシスコ・横濱間のを纏めて書いてあげませ

うといふ。別に必要なわけではない。

夕方、Aデツキの艦尾でトラップ・シューティングといつて、平らな弾を海中に弾き飛ばす競技あり、蜂須賀侯爵が最もうまくつた。侯爵は長兄逝去の報を得て歸朝するところの由で、腕に喪布を巻いてをられる。この船尾部は平常立入禁止の網が張られてゐるのでこれまで氣づかずみだが、今見るに、長い長い麻のロープが海中へ流れてゐて、これに何かの仕掛けがあつて時速何哩の速力かを計量するのだといふ。秩父丸の時速は、最高二十三四哩、普通二十一二哩、今回は二十哩以下で、現に八百八哩に二晝夜を要したのだから、時速平均十七哩弱にしか當つてゐない。假に時速十七哩の計算によると、サンフランシスコ・横濱間の五千五百二十哩を行くには三百二十五時間、これにホノルルの寄港を十時間として、三百三十五時間、この中時差の七時間と百八十度の位置での一日が消えてなくなるのとを差引くと三百四時間、即ち十二日間と十六時間で太平洋を渡るといふことになる。若し將來我が海運界がシャルンホルスト號位の快足船を建造し得たならば、ホノルル寄港を加算しても十日間にして足るやう

になるであらう。

Aデツキで秩父丸住友出張所長の二木氏から、次のやうな話を聞く。——「テキサス州の油田は大したもので、米國の石油の半ば以上を産し、ガルヴェストンをその輸出港とする。テキサスには昔から不燃性瓦斯が出たが、それと同質のものを獨逸で水素瓦斯代用に精製することに成功したのに刺戟されて、米國でもまた優秀なベリウム瓦斯を採取できるやうになつた。從來捨てて省みなかつた廢物が新たに生かされ、タンクに貯藏の上飛行船などに利用してゐるが、その大量な點、テキサスが世界第一である。」云々。

二木氏は、更に、ポートランド邊の高山に登つて物凄いい河を見た話や、亞米利加のホテルは外見は立派でも大抵銀行の擔保に入つてゐるものだといふ話や、日本のホテルは經營方法によつては相當利益が多いといふ話や、新大阪ホテルは大倉・住友兩財閥の經營だといふ話などをしてくれた。

夜、サロンでダンスのために盛んに音楽を奏したが、船客は時局の重大なるを認識してか、一人も踊らず、一人も唄はず、バンドの方が拍子抜けの態であつた。

「文藝春秋」を讀むに、巻頭服部宇之吉氏の隨筆に、先日我々の訪うたボストン博物館のことが出てゐて興味深かつた。晚餐に鰻出づ。タレ甘すぎてうまからず。十時ベッド。今日は少し午睡したので、なかなか寝つかれず。

十月十七日。曇後晴。

祖國、神嘗祭の日。早起して遙かに宮城を拜す。

甲板上で猛烈に散歩す。

讀書・午睡・映畫等。生活單調。俺のやうな動的な人間は實に無爲に苦しむ。

晚餐の時ビール飲む。

星明りの太平洋。秩父丸はひたすら西南方へ航走。

在支第一線の兵隊さんの勞苦を偲び、感激に身體の硬直するを覺ゆ。

十月十八日。晴。

氣温、船室内三十度、甲板上二十七度。かなり暑い。船は

北緯二十五度の邊にあり、太陽の位置と緯度との關係からいふと、日本における七月下旬か八月月上旬頃に相當するから、暑いのも當然である。船首の讀書室などは、西日が射してゐたたまらない。一番風通しのいい甲板で、純夏服でやつと凌げる。浴衣がけが戀しい。

今日は専ら手紙書きに努める。紐育三井物産の吉田氏を始め、三井・三菱・住友各支店・社員に宛てての禮狀を十餘通と、内地の知人・得意先きへ歐米旅行の感想を述べたもの十五通を認め、更に佐多氏以下二三の團員にも秩父丸の繪葉書を出す。

讀書室に、華盛頓の National Geographic Society の發行する「The National Geographic Magazine」といふ雜誌あり、全部上質アートで、どの頁にも寫眞掲載、殊に色刷寫眞の美しさは類稀なるもの。然るに住友の出張所長の二木氏は、二十年來これが愛讀者だといふので、俺も意動き、會員になることにする。一冊五十仙だが、年極めなら三弗半、二木氏に頼んで早速送金する。

日記の整理に骨折る。また、「文藝春秋」「改造」「中央公

論」などによつて日本文字への飢餓を醫す。宮島幹之助氏の「歐米百面相」といふ本を読んで、その洒脱味に屢々破顔す。一等船客は皆タキシードを着て食堂へ出る。隣室の今・岡田兩氏も一昨日あたりからタキシードになつた。西山老も着出した。では俺もタキシードかと、今朝大トランクを取出したが、カラーとネクタイがない。倫敦から不要品を送つた荷物の中へ入れたらしい。道具が揃はなくて實は却てありがたい。この暑さにタキシードでは到底物を食ふ氣になれない。明日のホノルル見物も、ただその暑さのみ思ひやられる。

ホノルル見物

十月十九日。晴。
氣温二十八度で、暑がり屋の俺にはやはりこたへる。午後一時ホノルル着。ハワイ諸島、一名サンドウキツチ諸島は、凡そ十二の島が西北から東南に向つて連つたもので、総面積は一萬七千六百平方軒といふ。ホノルルはオアフ島の南端、北緯二十一度強の位置にあり、西南に港口を展き、前面に平らな沙洲の島あり、これが防波堤代りとなつてゐる。

ハワイ全島の人口三十八萬人の中、オアフ島には十八萬人の居住者あり、その半數はホノルル及びその附近に集つてゐる。秩父丸が豫定通り朝のうちにホノルルへ入港すれば、有名な日本料亭の望月で一風呂浴び、浴衣がけて一杯やるのが定石らしいが、午後一時入港、六時出帆、正味にすると四時間しか餘裕がなくてはどうにも仕方がない。そこで我々親しい仲間六人、十二弗で一臺のタクシーを備ひ、一通り見物することになる。

先づ股賑街のビショップ・キング・フォード等の通りを過ぎ、帝國總領事館やハワイ王朝時代の墓地を見、それから次第に登り坂となつてホノルルの東北七哩なるヌヤヌ・パリといふ峠に達する。ここは海拔千八百呎の高地で、オアフ島及び近海の大觀を撞にすることができる。濃緑の海が紺碧の空に續き、密樹の間に特色ある人家が点在し、正に太平洋上の一樂園といふ氣分である。ここはまた、往昔カメハメハ一世が、ハワイ統一のための最後の戦に勝利を得た古戰場だといふ。元來「ハワイ」の語は、ポリネシヤ語で故郷・家庭を意味し、ポリネシヤ族の原住地であらうと推定される由である。



スندا・ラフの性女カナカ・チービキキイワ

が、一七七八年英國船長クックが発見、當時の英國海軍總裁サンドウキツチ伯の名をとつてサンドウキツチ島と命名した。その後、西班牙人・葡萄牙人等來住、島内内訌絶えず、遂に一八九〇年革命を生じ、カメハメハ王朝は八代目のリリオカラニ女王の世において顛覆、一八九八年米國に合併されたのである。峠を下つて西本願寺別院・日本語學校を見、ポンチポール死火山

に登り、そこからホノルル市街を瞰下し、遠くパール・ハーバー軍港や甘蔗畑・バナナ畑・パインアップル畑・製糖工場等を望んだ。ホノルルの東南麓に、ハワイ大學とオアフ大學のカレッジあり。大學の學生數三四千人、校庭で巨大なソーセイチの如き實を鈴生りにぶら下げたソーセイチ・トウリーの珍樹を見た。



女のイワハる賣をイレ

更にワイキキ・ビーチに至つて、土人の波乗りの妙技や水族館・海水浴場・プール等を見巡り、カナカ女性のハワイヤン・ダンスを楽しみ、埠頭附近の白人街に下車して、リバーテイ・ハウスといふデパートを視察。これは、間口二十間、奥行十二三間の四階（一部三階）建て、延坪千坪ばかり、かなり充實した店である。

土人の婦女が首飾りのレイや果物を賣る雑沓の中を通り抜け、五時半歸船。何しろ流汗淋漓で、おもしろさより苦しさが先立ち、へとへとになつてしまつた。しかし、ワイキキ・ビーチだけは、さすがにすがすがしい好印象を得た。

タクシーの運転手、廣島生れの五十がらみの男だつたが、スピードを出しすぎて、體軀偉大なる土人巡査にふんづかまり、五弗の罰金を掻きあげられた。十二弗の車賃から五弗引かれては、さぞつらかつたらう。

ホノルルも亞米利加同様に勞銀の高いところで、左官・屋根などは一日八時間労働で五弗乃至七弗、大工は四弗乃至五弗、失業救済の官業労働者でも三弗乃至四弗を支給されてゐる由。生活費もまた最低一日三弗はかかるらしい。

ハワイ住友銀行（これは支店でなく獨立のもの）の支配人小野義八氏・同次席兒玉寛氏等邦人多數に見送られ、土人バンドの奏樂裡に、夕六時出航。
夜の食事、日本のひもかはうどん。汁加減よく、近頃の傑作。日本酒二合。

Aデツキで月を眺める。朧ではあるが、十三夜の明月。これを眺めながら、ハワイ領事館宛に届いてゐた新聞や便りを讀む。

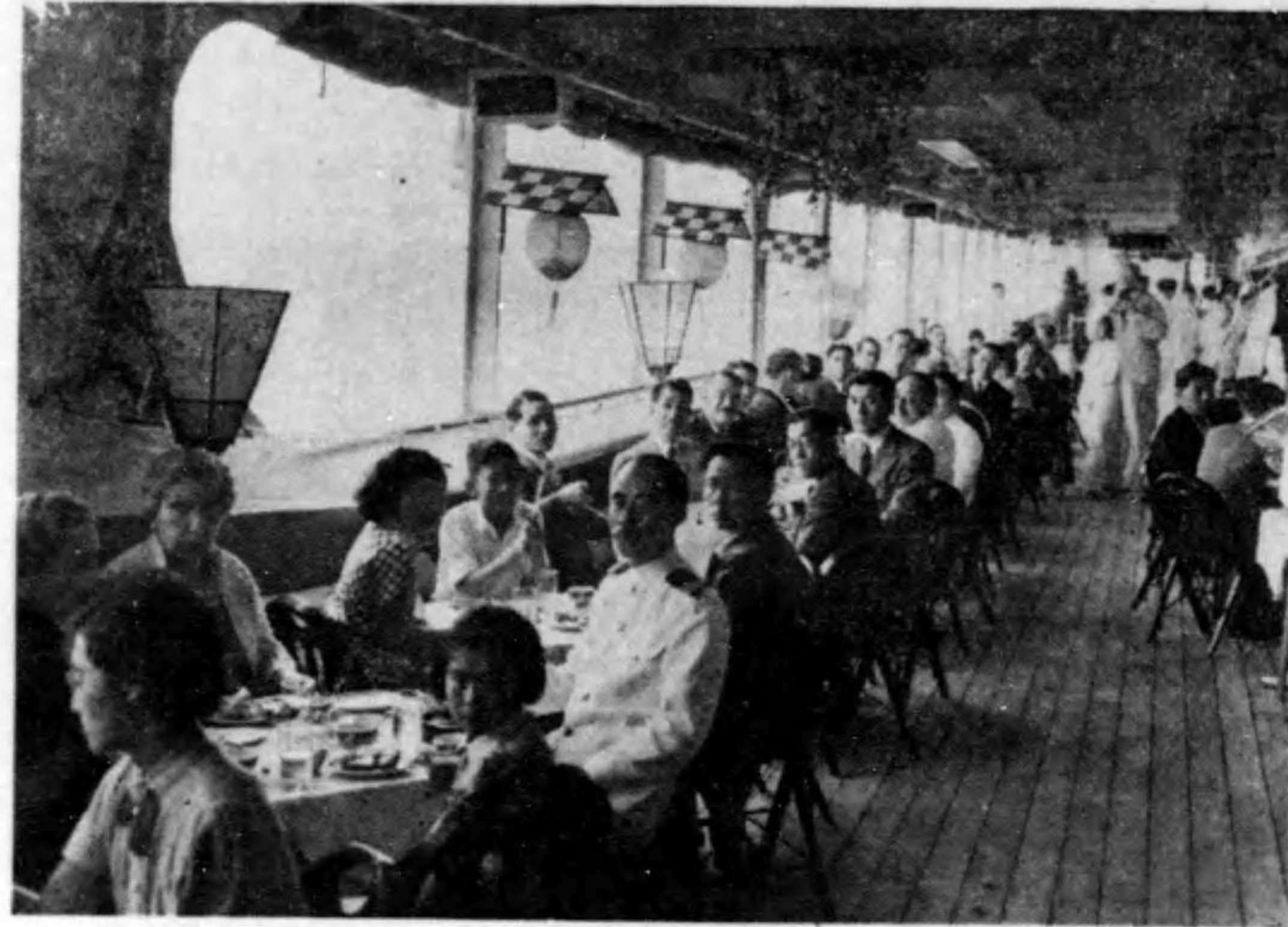
十時、就寢。

秩父丸日記 B

十月二十日。晴。

早晚驟雨、海上荒氣味、氣温二十七度でいたく蒸暑し。

北歐から佛英と涼しいところを歩き、亞米利加も初秋・中秋の爽氣に恵まれつつ旅を續けて來たあとでは、北緯二十度の暑さでも身にこたへる。往路は、覺悟のよかつたせゐか印度洋・アラビヤ海・紅海から伊太利へかけての三十度以上の暑熱にも耐へられたのに、昨今それ以下の氣候にかくも惱む



秩父丸の午膳

のはちよつと變だ。さすがに若干の疲勞が加はつてゐるのであらう。

理髮して氣分の轉換をはかる。床屋は二室を占め、親爺は刈込に、細君は美容やパーマメントに働いてゐる。料金七十仙（邦貨二圓四十錢）。

正午、Aデツキ右側の廊下で一等船客だけの懇親會開かる。航海中必ず一回催すらしい。守護神秩父神社の祠の前には鳥居や賽銭箱まで備へられてあるが、これに竝んで食卓・椅子、反對側に、天麩羅・蕎麥・洋食・おでん・しるこ・果物・アイスクリーム等の模擬店、ビール・日本酒・洋酒も好むに任せて飲むといふ寸法。飲食時分よき頃、金棒引いた手古舞の行列あり、社前の廣場で獅子舞ひやひよつとこ踊り演ぜられ、盛會裡に終了。一等船客六十人中には十五六人の白人も混つてゐた。因に、一・二・三等を問はず、船客は餘程少く、ホノルルから乗つた約百人を合せても、平時の三分の一位らしい。これは亞米利加政府が支那への旅行券を出さぬためだといふ。しかし、積荷量はいつもの二倍に達してゐる由だ。

夕方、いくら涼しくなる。

五時前から、西方二十哩の彼方に一黒點現はる。退屈の餘り、デッキの舳先へ陣取つてこれを眺めてみると、五時二十分、黒點は正に船の形となる。見る見るうちに相近寄る。龍田丸だ。向うの甲板には數百人の人影が見える。手を舉げたり、ハンケチを振つたりしてゐる。兩船互ひに數發の煙花を打揚げ、やがて擦れ違ふ。その時、五色のテープを投げ合つたがこれは届かなかつた。二十分の後、龍田丸は東方の水平線に没し去つた。明夕、ホノルルへ入港するのであらう。

今夜は、遂に我を折つてタキシードを着て食堂に出た。カラーやネクタイはいい加減に間に合せておいた。思へば、七月十七日、ゼノア到着の二日前の夜、シャルンホルスト號船長スタイン氏招待の宴會が開かれた時以來のことだ。それから、大公使館の招宴も大抵晝のティー・パーティーとて略装で間に合せ、太平洋上の暑氣にあてられては我慢にも着る氣になれなかつたのだ。ところで、この夜タキシードで正宗一本ひっかけたら、忽ち汗みどろ。誰がきめたか、何といふ息苦しき服装であらうぞ。

會親懇のキツデ丸父秩



(者著央中目列三・氏郎九重野門央中目列二りよ前)影撮念記客船等一九父秩

食後の映畫に、東京日日新聞社撮影の日支事變ニュースあり、派遣將兵の勞苦を偲び、熱血の湧き立つを覺えた。歸朝の上は、一意實業報國に邁進し、銃後の任務をしつかりと果さねばならぬことを自ら誓ふ。

十時半、就寢。時計を三十分遅らせること例の如し。

十月二十一日。曇。

朝來、時化。西方は眞暗の空合。氣温、朝二十五度・晝二十六度・夕二十度。

波濤高く、船體の動搖はサンフランシスコ出帆以來最も甚しい。船室に籠つて日記の整理をしようとしたが、身邊ぐらついで不可能となる。

午後氣温急降下、北風吹いて夏服では堪へられなくなる。二時の船の位置、西經百七十度・北緯二十七度、恰もサンフランシスコ・横濱間の丁度眞ん中である。

終日、新聞・雜誌を讀んで過す。夕方、天候恢復の徴か、黒雲の間に一條の陽光輝く。夜、日本映畫を見る。

十月二十二日。晴。

亡父の命日。室内に、出發の際家妻のくれた如來像の寫眞を飾り、コップに水を張つて供へ、念佛を唱へる。

天候全く恢復し、氣温、朝二十四度・晝二十七度。暑さは盛返したが、暑さ以上に濕氣を嫌ふ俺には、今日など餘程快適の方だ。

午後四時、一等船客六十名、甲板上で記念撮影。今日は、夜十時頃米領ミッドウェイ島の西南方で百八十度の經線を越え、以後、これまで西經百七十何度といつてゐたのが、東經百七十何度といふことになる筈。これを以て太平洋航海の一記念日としてゐる。百八十度は即ち日附變更線で、日本から東へ向へば、ここで同日が二日續き、亞米利加から西へ向へば、ここで空日が一日生ずるのだ。

今朝九時、東京店宛に、二十九日横濱入港の旨打電。料金は一番信八十錢。この時、日本では二十三日の午前五時半頃か、八時には店へ電報が配達されるといふ。今、日本に比して二十一時分遅れてゐるわけだが、明日の空日で二十四時間とり戻し、あとの差は毎日三十分づつ時計を調節して遂に

(著者がるて持をアツコ方の奥)會きやきすの丸父秩



一致することになるのである。

今日は大體讀書室で讀書。夏服で稍と汗ばむ程度だ。「中央公論」十月號で尾崎秀實氏の「支那に於ける英國の勢力」な



(著者目人三リよ左てつ向)會きやきすの丸父秩

る論文には特に興味を惹かれ、統計の數字などを手帖に寫しとつておいた。俺は老いてなほ智識慾少しも衰へない。

七時、航海記念日の祝宴。Aデツキに日本壘を敷いて食卓十數個を配し、一卓に四人づ

つ陣取る。入口のアーチに「鋤焼會」とある如く、馳走はすき焼にビールだ。宴酣の頃、レコードが東京音頭を奏できれば、門野重九郎氏夫妻眞先に踊り出す。次に我々の食卓か

ら今氏が出て得意の安來節を踊れば、これが實に堂に入つた珍藝で大喝采を博した。八時、終宴。

續いてポート・デツキの廣場で十二發の煙花を打揚げる。大空から大海へ散りゆく火華の美しさ。かくして、秩父丸は西經・東經の分岐點百八十度のところを越えたのだ。世界一廣い海、太平洋！ その東半は靜穩でも、我々の西半は、今や日支事變をめぐつて、漸く波浪騒ぎ立たんとしてゐる。この夜眺める煙火も、或ひは太平洋上將來の危機を暗示するものではなからうか！ 美しく、しかも物思はせる煙花ではあつた。

その後、ダンスが始まつたが、白人の客は少いし、日本人は時局を認識して踊る者稀。俺はかかるものを目にするにすら好まない。

十一時、亡父のことを思ひながら眠りに就く。

十月二十三日。

既述の通り、この日は空白。